

TrueCopy

ユーザガイド

Hitachi Virtual Storage Platform E390, E590, E790, E990, E1090

Hitachi Virtual Storage Platform E390H, E590H, E790H, E1090H

Hitachi Virtual Storage Platform F350, F370, F700, F900

Hitachi Virtual Storage Platform G150, G350, G370, G700, G900

4060-1J-U14-D5

Storage Navigator を使ってストレージシステムを操作する場合は、必ずこのマニュアルを読み、操作手順、および指示事項をよく理解してから操作してください。また、このマニュアルをいつでも利用できるよう、Storage Navigator を使用するコンピュータの近くに保管してください。

著作権

All Rights Reserved, Copyright (C) 2020, 2025, Hitachi, Ltd.

免責事項

このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製することはできません。

このマニュアルの内容については、将来予告なしに変更することがあります。

このマニュアルに基づいてソフトウェアを操作した結果、たとえ当該ソフトウェアがインストールされているお客様所有のコンピュータに何らかの障害が発生しても、当社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。このマニュアルの当該ソフトウェアご購入後のサポートサービスに関する詳細は、弊社営業担当にお問い合わせください。

商標類

Ethernet は、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

IBM, AIX は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

発行

2025 年 3 月 (4060-1J-U14-D5)

目次

はじめに.....	11
対象ストレージシステム.....	12
マニュアルの参照と適合ファームウェアバージョン.....	13
対象読者.....	13
マニュアルで使用する記号について.....	13
マニュアルに掲載されている画面図について.....	14
「Thin Image」の表記について.....	14
Storage Navigator に表示される「Thin Image」「TI」について.....	14
操作対象リソースについて.....	15
発行履歴.....	15
 1.TrueCopy の概要.....	25
1.1 TrueCopy とは.....	26
1.2 TrueCopy ペアを作成するまでの流れ.....	26
1.3 TrueCopy の構成要素.....	26
1.4 TrueCopy 操作に必要なストレージシステム.....	28
1.5 TrueCopy のペアボリューム.....	28
1.6 TrueCopy で使用する物理パス.....	29
1.7 TrueCopy のコンシステンシーグループ.....	29
1.8 TrueCopy 操作のインターフェース.....	29
1.9 TrueCopy のエラー報告通信（ERC）.....	30
1.10 TrueCopy リモートコピー.....	30
1.10.1 TrueCopy の形成コピー.....	30
1.10.2 TrueCopy の更新コピー.....	31
1.11 TrueCopy のペア状態.....	31
 2.TrueCopy の要件.....	33
2.1 TrueCopy のシステム要件.....	34
 3.TrueCopy の計画.....	41
3.1 TrueCopy を使用するためのストレージシステムの準備.....	42
3.1.1 キャッシュメモリとシェアドメモリの増設および減設.....	42
(1) キャッシュメモリの増設の流れ.....	42

(2) キャッシュメモリの減設の流れ.....	43
(3) シェアドメモリの増設の流れ.....	43
(4) シェアドメモリの減設の流れ.....	43
3.1.2 TrueCopy のシステムオプションモード.....	43
3.1.3 システム詳細設定.....	46
3.2 TrueCopy のシステム性能の計画.....	46
3.3 TrueCopy のペアボリュームの計画.....	47
3.3.1 TrueCopy のペアボリュームの要件.....	47
3.3.2 TrueCopy で複数のペアを同時に作成するときの注意事項.....	48
3.3.3 OS と TrueCopy ペアボリュームに関する注意事項.....	48
3.3.4 TrueCopy のセカンダリボリュームへの I/O.....	49
3.3.5 TrueCopy の差分データの管理.....	49
3.3.6 最大ペア数の制限.....	50
(1) TrueCopy のシリンダ数の算出方法.....	50
(2) TrueCopy のビットマップエリアの算出方法.....	50
(3) TrueCopy の最大ペア数の算出方法.....	51
3.3.7 TrueCopy ペアの形成コピー操作に設定した優先度と実行順序.....	52
3.3.8 VSP 5000 シリーズと接続する場合の注意事項.....	54
3.4 TrueCopy の物理パスの計画.....	55
3.4.1 TrueCopy に必要な帯域量.....	56
3.4.2 TrueCopy のファイバチャネル接続.....	56
3.4.3 TrueCopy の接続形態.....	57
(1) 直結の接続形態.....	57
(2) スイッチを使用した接続形態.....	58
(3) チャネルエクステンダを使用した接続形態.....	59
3.4.4 iSCSI を使用するときの注意事項.....	60
(1) リモートパスに関する注意事項 (iSCSI を使用するとき)	60
(2) 物理パスに関する注意事項 (iSCSI を使用するとき)	60
(3) ポートに関する注意事項 (iSCSI を使用するとき)	61
(4) ネットワークの設定に関する注意事項 (iSCSI を使用するとき)	62
3.4.5 ファイバチャネルを使用するときの注意事項.....	62
(1) リモートパスに関する注意事項 (ファイバチャネルを使用するとき)	62
(2) リモートパスを接続するスイッチのゾーニング設定.....	63
3.4.6 FC-NVMe を使用するときの注意事項.....	63
(1) リモートパスに関する注意事項 (FC-NVMe を使用するとき)	63
(2) ホストとストレージシステムの物理パスに関する注意事項 (FC-NVMe を使用するとき)	63
(3) ファイバチャネルまたは iSCSI の LU パス定義との混在に関する注意事項.....	63
(4) 3 データセンタ (3DC) 構成に関する注意事項.....	64
(5) 他ストレージシステムとの接続構成に関する注意事項.....	64
(6) RAID Manager によるペア操作に関する注意事項.....	64
3.5 TrueCopy で使用するポートの計画.....	64
3.6 コンシステンシーグループの計画.....	64
3.6.1 コンシステンシーグループの動作 (1 組のストレージシステムで構成される場合)	65
3.6.2 コンシステンシーグループの動作 (複数組のストレージシステムで構成される場合)	65
(1) コンシステンシーグループで保障されるシステム構成.....	66
(2) 新規のコンシステンシーグループにペアを登録する.....	67
(3) 既存のコンシステンシーグループにペアを登録する.....	67
3.6.3 コンシステンシーグループの要件.....	68
3.6.4 分割の動作.....	69
(1) I/O 処理中に分割コマンドが発行されたときの動作 (TrueCopy の場合)	69
(2) 分割コマンドの処理中に I/O 要求があったときの動作.....	70
(3) 分割後のホストアクセス.....	70

3.7 TrueCopy とホストフェイルオーバーソフトウェア	71
4.TrueCopy と他のプログラムプロダクトとの併用.....	73
4.1 TrueCopy と共用可能なボリューム.....	74
4.2 TrueCopy と Universal Replicator との共用.....	77
4.3 TrueCopy と ShadowImage との共用.....	77
4.3.1 ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy プライマリボリュームの共有.....	78
4.3.2 ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy セカンダリボリュームの共有.....	79
4.3.3 ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy ボリュームの共有.....	80
4.3.4 ShadowImage セカンダリボリュームと TrueCopy プライマリボリュームの共有.....	81
4.3.5 TrueCopy と ShadowImage との共用ボリュームの状態報告.....	82
4.4 TrueCopy と Thin Image (CAW/CoW)の併用.....	83
4.4.1 Thin Image (CAW/CoW)プライマリボリュームと TrueCopy/Universal Replicator プライマリボリ ューム共有時の TrueCopy/Universal Replicator の操作.....	83
4.4.2 Thin Image (CAW/CoW)プライマリボリュームと TrueCopy/Universal Replicator セカンダリボリ ューム共有時の TrueCopy/Universal Replicator の操作.....	84
4.4.3 Thin Image (CAW/CoW)プライマリボリュームと TrueCopy/Universal Replicator プライマリボリ ューム共有時の Thin Image (CAW/CoW)の操作.....	84
4.4.4 Thin Image (CAW/CoW)プライマリボリュームと TrueCopy/Universal Replicator セカンダリボリ ューム共有時の Thin Image (CAW/CoW)の操作.....	85
4.5 TrueCopy と Thin Image Advanced の併用.....	85
4.5.1 Thin Image Advanced プライマリボリュームと TrueCopy プライマリボリューム共有時の TrueCopy の操作.....	85
4.5.2 Thin Image Advanced プライマリボリュームと TrueCopy セカンダリボリューム共有時の TrueCopy の操作.....	86
4.5.3 Thin Image Advanced プライマリボリュームと TrueCopy プライマリボリューム共有時の Thin Image Advanced の操作.....	86
4.5.4 Thin Image Advanced プライマリボリュームと TrueCopy セカンダリボリューム共有時の Thin Image Advanced の操作.....	87
4.6 TrueCopy と Virtual LUN (VLL) との共用.....	88
4.7 TrueCopy と LUN Manager との共用.....	88
4.8 TrueCopy と Dynamic Provisioning との共用.....	88
4.8.1 DP-VOL を TrueCopy ペアのボリュームとして使用するときの作業の流れ.....	88
4.8.2 割り当て済みのページがある Dynamic Provisioning の仮想ボリュームを TrueCopy ペアのセカンダリ ボリュームに指定する場合の注意事項.....	89
4.8.3 TrueCopy で DP-VOL 使用時のページ容量とライセンス容量.....	90
4.8.4 TrueCopy ペアで使用している DP-VOL の容量拡張.....	91
4.9 TrueCopy と Performance Monitor との共用.....	91
4.10 TrueCopy と Volume Migration との共用.....	91
4.10.1 TrueCopy と Volume Migration との共用に関する注意事項と制限事項.....	92
4.11 TrueCopy と Data Retention Utility との共用.....	92
4.12 TrueCopy と global storage virtualization との共用.....	94
5.TrueCopy の構成操作.....	95
5.1 TrueCopy の構成操作の流れ.....	96
5.2 TrueCopy 操作のためにリモート接続を追加する.....	96
5.2.1 往復応答時間とは.....	99
(1) 形成コピー応答時間とは.....	100

5.3 リモートレプリカオプションを変更する.....	101
6.TrueCopy のペア操作.....	103
6.1 TrueCopy のペア操作の流れ.....	104
6.2 TrueCopy のペア操作時の注意事項.....	104
6.3 TrueCopy のペア状態の確認.....	105
6.4 TrueCopy ペアの作成.....	105
6.4.1 TrueCopy のフェンスレベルとは.....	105
6.4.2 TrueCopy ペアを作成する.....	106
6.5 TrueCopy ペアの分割.....	108
6.5.1 TrueCopy ペアを分割する.....	109
6.6 TrueCopy ペアの再同期.....	110
6.6.1 TrueCopy ペアを再同期する.....	110
6.7 TrueCopy ペアの削除.....	112
6.7.1 TrueCopy ペアを削除する.....	112
7.TrueCopy の状態表示と保守.....	115
7.1 TrueCopy の状態表示.....	116
7.1.1 TrueCopy ペアの確認とは.....	116
(1) TrueCopy ペアの状態を確認する.....	116
7.1.2 TrueCopy ペア状態の定義.....	117
(1) TrueCopy の分割タイプ.....	119
(2) 分割された TrueCopy ペアの動作の注意点.....	120
7.1.3 TrueCopy ペアの一致率を確認する.....	120
7.1.4 TrueCopy ペアの操作履歴を確認する.....	120
(1) TrueCopy 操作で「操作履歴」画面の「説明」に表示される文言.....	121
7.1.5 TrueCopy のライセンス容量を確認する.....	122
7.1.6 TrueCopy ペアの情報を出力する.....	122
7.1.7 TrueCopy のコピー操作と I/O 統計データのモニタリング.....	122
7.1.8 TrueCopy のリモート接続とパスの状態を確認する.....	123
7.1.9 TrueCopy のリモート接続とパスの状態の詳細を確認する.....	123
7.2 TrueCopy の保守.....	124
7.2.1 TrueCopy のフェンスレベルを変更する.....	124
7.2.2 TrueCopy ペアを強制的に削除する.....	125
7.2.3 TrueCopy のリモート接続オプションを変更する.....	126
7.2.4 TrueCopy のリモートパスを追加する.....	127
7.2.5 TrueCopy のリモートパスを削除する.....	128
7.2.6 TrueCopy のリモート接続を削除する.....	129
7.3 TrueCopy 操作に関わるストレージシステムとネットワークデバイスの電源の管理.....	130
7.3.1 不測の事態によるストレージシステムの停止時の TrueCopy への影響.....	130
7.3.2 計画的な正サイトのストレージシステムの停止時の TrueCopy への影響.....	131
7.3.3 計画的に TrueCopy の副サイトのストレージシステムまたはリモート接続を停止する流れ.....	131
7.3.4 計画的に TrueCopy の正サイトと副サイトのストレージシステムを停止する流れ.....	131
7.4 ペアを維持した DP-VOL の容量拡張.....	132
7.4.1 TrueCopy ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する.....	132
7.4.2 プログラムプロダクトを連携した状態での DP-VOL の容量拡張.....	136
(1) プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序の考え方.....	136
(2) ローカルコピーの S-VOL にリモートコピーの P-VOL を連携する構成での容量拡張順序の考え方.....	138

(3) リモートコピーの 3DC カスケード構成、3DC マルチターゲット構成、3DC デルタリシンク構成での拡張順序の考え方.....	139
(4) 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件.....	141
(5) TrueCopy ペアと Universal Replicator を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する.....	143
(6) TrueCopy ペアと ShadowImage を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する.....	144
(7) TrueCopy ペアと Thin Image を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する.....	147
7.4.3 DP-VOL 容量拡張時のトラブルシューティング.....	150
(1) TrueCopy ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順.....	150
(2) TrueCopy ペアの片方のボリュームが容量拡張済みで障害が発生した場合のリカバリ.....	151
8.TrueCopy を使ったデータの移行.....	153
8.1 TrueCopy を使用したデータの移行とは.....	154
8.2 TrueCopy を使用したデータを別ボリュームに移行する流れ.....	154
9.TrueCopy の災害リカバリ.....	157
9.1 TrueCopy の災害リカバリの流れ.....	158
9.1.1 TrueCopy のサイト間のセンス情報転送.....	158
9.1.2 TrueCopy のサイト間のファイルおよびデータベース復旧手順.....	158
9.2 TrueCopy の副サイトへ操作を切り替える作業.....	159
9.2.1 TrueCopy ペアを削除してから副サイトへ操作を切り替える流れ.....	159
9.2.2 TrueCopy ペアを削除しないで副サイトへ操作を切り替える流れ.....	159
9.3 TrueCopy のセカンダリボリュームデータが保証されているかどうかの判断方法.....	160
9.4 TrueCopy の正サイトに操作を戻す作業.....	162
9.4.1 TrueCopy ペアを削除してから正サイトに操作を戻す流れ.....	162
9.4.2 TrueCopy ペアを削除しないで正サイトに操作を戻す流れ.....	163
10.TrueCopy のトラブルシューティング.....	165
10.1 TrueCopy のトラブルシューティング概要.....	166
10.1.1 TrueCopy 操作に関する SIM のトラブルシューティング.....	166
10.1.2 TrueCopy の一般的なトラブルシューティング.....	166
10.1.3 TrueCopy のリモートパスの状態に関するトラブルシューティング.....	169
10.1.4 分割された TrueCopy ペアのトラブルシューティング.....	172
10.2 Storage Navigator 操作時のエラーコードとメッセージ.....	173
10.3 RAID Manager 操作時のトラブルシューティング.....	173
10.3.1 RAID Manager 操作時のエラーコードと内容.....	174
10.4 TrueCopy ボリュームのピントラック回復手順.....	184
10.5 お問い合わせ先.....	185
付録 A RAID Manager コマンドリファレンス.....	187
A.1 Storage Navigator のアクション名と RAID Manager コマンドの対応表.....	188
A.2 RAID Manager のオプションのパラメータの設定範囲.....	191
付録 B TrueCopy GUI リファレンス.....	193
B.1 [レプリケーション] 画面.....	195
B.2 [リモートレプリケーション] 画面.....	197
B.3 [リモート接続] 画面.....	213

B.4	〔ペア一致率参照〕画面	218
B.5	〔ペアプロパティ参照〕画面	220
B.6	〔リモート接続プロパティ参照〕画面	223
B.7	〔操作履歴〕画面	225
B.8	リモート接続追加ウィザード	227
B.8.1	〔リモート接続追加〕画面	228
B.8.2	〔設定確認〕画面	231
B.9	リモートレプリカオプション編集ウィザード	232
B.9.1	〔リモートレプリカオプション編集〕画面	232
B.9.2	〔CU オプション変更〕画面	234
B.9.3	〔設定確認〕画面	234
B.10	ペア作成ウィザード	235
B.10.1	〔TC ペア作成〕画面または〔UR ペア作成〕画面	236
B.10.2	〔設定変更〕画面	243
B.10.3	〔設定確認〕画面	245
B.11	ペア分割ウィザード	247
B.11.1	〔ペア分割〕画面	247
B.11.2	〔設定確認〕画面	249
B.12	ペア再同期ウィザード	250
B.12.1	〔ペア再同期〕画面	250
B.12.2	〔設定確認〕画面	252
B.13	ペア削除ウィザード	253
B.13.1	〔ペア削除〕画面	253
B.13.2	〔設定確認〕画面	254
B.14	ペアオプション編集ウィザード	255
B.14.1	〔ペアオプション編集〕画面	256
B.14.2	〔設定確認〕画面	257
B.15	リモートパス追加ウィザード	257
B.15.1	〔リモートパス追加〕画面	258
B.15.2	〔設定確認〕画面	260
B.16	リモートパス削除ウィザード	261
B.16.1	〔リモートパス削除〕画面	261
B.16.2	〔設定確認〕画面	263
B.17	リモート接続オプション編集ウィザード	264
B.17.1	〔リモート接続オプション編集〕画面	264
B.17.2	〔設定確認〕画面	265
B.18	〔リモート接続削除〕画面	266
B.19	〔ペア強制削除(TC ペア)〕画面	267
付録 C このマニュアルの参考情報		269
C.1	操作対象リソースについて	270
C.2	このマニュアルでの表記	270
C.3	このマニュアルで使用している略語	272
C.4	KB（キロバイト）などの単位表記について	273
用語解説		275

索引.....	291
---------	-----



はじめに

このマニュアルでは、TrueCopy の概要と操作について説明しています。

- 対象ストレージシステム
- マニュアルの参照と適合ファームウェアバージョン
- 対象読者
- マニュアルで使用する記号について
- マニュアルに掲載されている画面図について
- 「Thin Image」の表記について
- Storage Navigator に表示される「Thin Image」「TI」について
- 操作対象リソースについて
- 発行履歴

対象ストレージシステム

このマニュアルでは、次に示すストレージシステムに対応する製品（プログラムプロダクト）を対象として記述しています。

- Virtual Storage Platform G150
- Virtual Storage Platform G350
- Virtual Storage Platform G370
- Virtual Storage Platform G700
- Virtual Storage Platform G900
- Virtual Storage Platform F350
- Virtual Storage Platform F370
- Virtual Storage Platform F700
- Virtual Storage Platform F900
- Virtual Storage Platform E390 (VSP E シリーズ)
- Virtual Storage Platform E590 (VSP E シリーズ)
- Virtual Storage Platform E790 (VSP E シリーズ)
- Virtual Storage Platform E990 (VSP E シリーズ)
- Virtual Storage Platform E1090 (VSP E シリーズ)
- Virtual Storage Platform E390H (VSP E シリーズ)
- Virtual Storage Platform E590H (VSP E シリーズ)
- Virtual Storage Platform E790H (VSP E シリーズ)
- Virtual Storage Platform E1090H (VSP E シリーズ)

このマニュアルでは特に断りのない限り、上記モデルのストレージシステムを単に「ストレージシステム」または「本ストレージシステム」と称することがあります。

サポートするハードウェアやソフトウェアは、ストレージシステムによって異なります。このマニュアルに記載している Storage Navigator の設定項目や表示項目が、お使いのストレージシステム製品では表示されない場合があります。

次に例を示します。

- VSP E990（ファームウェアバージョン 93-02-01-XX/XX 未満）では、Encryption License Key をサポートしていません。このため、格納データ暗号化に関する情報（例：[暗号化]、[プール暗号化]、[Encryption]）は表示されません。

VSP E シリーズの、VSP E390H、VSP E590H、VSP E790H、VSP E1090H は、ハイブリッドフラッシュアレイモデルです。オールフラッシュアレイモデルとハイブリッドフラッシュアレイモデルの対応関係を次の表に示します。両方のモデルで、設定可能値や操作は基本的に同じです。このため、このマニュアルでは、両方のモデルを代表して、オールフラッシュアレイモデルの名称を使って説明します。オールフラッシュアレイモデルとハイブリッドフラッシュアレイモデルで、設定可能値や操作が異なる場合にのみ、それぞれのモデルの名称を使って説明します。

オールフラッシュアレイモデル	ハイブリッドフラッシュアレイモデル
VSP E390	VSP E390H

オールフラッシュアレイモデル	ハイブリッドフラッシュアレイモデル
VSP E590	VSP E590H
VSP E790	VSP E790H
VSP E1090	VSP E1090H

VSP E990 は、オールフラッシュアレイモデルのみです。

本ストレージシステムと接続する VSP 5000 シリーズには、オールフラッシュアレイモデルとハイブリッドフラッシュアレイモデルがあります。このマニュアルでは、オールフラッシュアレイモデルとハイブリッドフラッシュアレイモデルで接続条件等の差異がない場合は、オールフラッシュアレイモデルの名称を使って説明します。

オールフラッシュアレイモデル	ハイブリッドフラッシュアレイモデル
VSP 5100, 5500	VSP 5100H, 5500H
VSP 5200, 5600	VSP 5200H, 5600H

マニュアルの参照と適合ファームウェアバージョン

このマニュアルは、次の DKCMAIN ファームウェアバージョンに適合しています。

- VSP E シリーズの場合
93-07-26-XX
- VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900 の場合
88-08-16-XX



メモ

- このマニュアルは、上記バージョンのファームウェアをご利用の場合に最も使いやすくなるよう作成されていますが、上記バージョン未満のファームウェアをご利用の場合にもお使いいただけます。
- 各バージョンによるサポート機能については、別冊の『バージョン別追加サポート項目一覧』を参照ください。
- 88-04-01-XX 未満のファームウェアをご利用の場合には、そのファームウェアに同梱されたマニュアルメディアをご使用ください。

対象読者

このマニュアルは、次の方を対象読者として記述しています。

- ストレージシステムを運用管理する方
- UNIX[®] コンピュータまたは Windows[®] コンピュータを使い慣れている方
- Web ブラウザを使い慣れている方

使用する OS および Web ブラウザの種類については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

マニュアルで使用する記号について

このマニュアルでは、注意書きや補足情報を、次のとおり記載しています。



注意

データの消失・破壊のおそれや、データの整合性がなくなるおそれがある場合などの注意を示します。



メモ

解説、補足説明、付加情報などを示します。



ヒント

より効率的にストレージシステムを利用するのに役立つ情報を示します。

マニュアルに掲載されている画面図について

このマニュアルに掲載されている画面図はサンプルであり、実際に表示される画面と若干異なる場合があります。また画面に表示される項目名はご利用環境により異なる場合があります。

このマニュアルでは、Windows コンピュータ上の画面を掲載しています。UNIX コンピュータ上での使用の Storage Navigator の画面は、マニュアルに掲載されている画面の表示と異なる場合があります。Storage Navigator の画面や基本操作に関する注意事項については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

「Thin Image」の表記について

このマニュアルでの「Thin Image」の表記について説明します。

表記	説明
Thin Image (CAW/CoW) TI (CAW/CoW)	プログラムプロダクト「Thin Image」「Thin Image Advanced」を区別するために、プログラムプロダクト「Thin Image」に関する機能、操作を説明する際に使用する表記です。
Thin Image Advanced TI Advanced	プログラムプロダクト「Thin Image Advanced」※に関する機能、操作を説明する際に使用する表記です。
Thin Image TI	プログラムプロダクト「Thin Image」「Thin Image Advanced」の両方に関する機能、操作を説明する際に使用する表記です。 例えば、「Thin Image ペア」は、プログラムプロダクト「Thin Image」のペアとプログラムプロダクト「Thin Image Advanced」のペアの両方を示します。

注※

Thin Image Advanced は、VSP E シリーズでのみサポートしています。

Storage Navigator に表示される「Thin Image」「TI」について

Storage Navigator に表示される「Thin Image」「TI」は、プログラムプロダクト「Thin Image」「Thin Image Advanced」の両方を示す総称※です。例を示します。

ローカルレプリケーション

最終更新日時: 2022/05/30 11:06

VSP E series (9/10/2020/21) > レプリケーション > ローカルレプリケーション

ペア数	ShadowImage	0	ペアグループ数	52/Volume Migration	0 (最大: 32760)
	Thin Image	0		TI	0 (最大: 1049575)
	合計	0	異分グループ数		0 (最大: 419200)
コンシステンシーグループ数		0 (最大: 2048)	スナップショット管理可能容量		4505.59 Tb
スナップショットグループ数		0 (最大: 2048)			

- ・ [Thin Image] に表示されるペア数は、プログラムプロダクト「Thin Image」「Thin Image Advanced」の合計ペア数です。
- ・ [TI] に表示されるペアテーブル数は、プログラムプロダクト「Thin Image」「Thin Image Advanced」の合計ペアテーブル数です。

ただし、プログラムプロダクト「Thin Image」「Thin Image Advanced」を区別する必要がある場合は、別々の名称で表示されます。例を示します。



ローカルレプリケーション		リモートレプリケーション	
レプリケーション	ライセンス容量 (使用量/ライセンス容量)	レプリケーション	ライセンス容量 (使用量/ライセンス容量)
SI	0.00 MB / 無制限	TC	1.00 GB / 無制限
TI	0.00 MB / 無制限	UR	1.00 GB / 無制限
TI Advanced	0.00 MB / 無制限	GAD	1.00 GB / 無制限

レプリカLDEV数: 0 (最大: 26176)

- ・ [TI] に表示されるライセンス容量は、プログラムプロダクト「Thin Image」のライセンス容量です。
- ・ [TI Advanced] に表示されるライセンス容量は、プログラムプロダクト「Thin Image Advanced」のライセンス容量です。

注※

[Thin Image] [TI] が、プログラムプロダクト「Thin Image」だけを示すことがあります。この場合には、本マニュアルの該当箇所に、Thin Image (CAW/CoW)だけであることを記載しています。

操作対象リソースについて

Storage Navigator のメイン画面には、ログインしているユーザ自身に割り当てられているリソースだけが表示されます。ただし、割り当てられているリソースの管理に必要とされる関連のリソースも表示される場合があります。また、このマニュアルで説明している機能を使用するときには、各操作対象のリソースが特定の条件を満たしている必要があります。

各操作対象のリソースの条件については『システム構築ガイド』を参照してください。

発行履歴

この発行履歴では、次の略記を使用します。

- ・ VSP G/F シリーズ: VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900 の略記

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
4060-1J-U14-D5	2025 年 3 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ: 88-08-16-XX VSP E シリーズ: 93-07-26-XX - VSP One SDS Block との連携をサポートした。 4.1 TrueCopy と共用可能なボリューム 10.3.1 RAID Manager 操作時のエラーコードと内容 B.2 [リモートレプリケーション] 画面 B.8.1 [リモート接続追加] 画面

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
		◦ B.10.1 [TC ペア作成] 画面または [UR ペア作成] 画面 ◦ C.2 このマニュアルでの表記 • DKC 間の物理パスに、複数の iSCSI のパスを使用する際の注意事項を修正した。 ◦ (2) 物理パスに関する注意事項 (iSCSI を使用する時) • レプリケーションリンクにゾーニングが必要なことの記載を追加した。 ◦ (2) リモートパスを接続するスイッチのゾーニング設定 • Universal Replicator と TrueCopy の併用における、3DC 構成サポートについて記載を変更および追加した。 ◦ (4) 3 データセンタ (3DC) 構成に関する注意事項 ◦ 4.1 TrueCopy と共用可能なボリューム
4060-1J-U14-D4	2024 年 11 月	• 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-08-15-XX VSP E シリーズ : 93-07-25-XX • VSP E1090 で VSP G600 および VSP F600 との接続をサポートした。 ◦ 2.1 TrueCopy のシステム要件 • 対応するホストプラットフォームの記載を修正した。 ◦ 2.1 TrueCopy のシステム要件 • DP-VOL の容量を拡張の前提条件を修正した。 ◦ 7.4.1 TrueCopy ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する ◦ (4)各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件
4060-1J-U14-D3	2024 年 7 月	• 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-08-14-XX VSP E シリーズ : 93-07-24-XX • VSP One B20 との接続をサポートした。 ◦ 2.1 TrueCopy のシステム要件 ◦ 3.3.8 VSP 5000 シリーズと接続する場合の注意事項 ◦ (1)リモートパスに関する注意事項 (ファイバチャネルを使用するとき) ◦ 4.2 TrueCopy と Universal Replicator との共用 ◦ B.8.1 [リモート接続追加] 画面 ◦ B.10.1 [TC ペア作成] 画面または [UR ペア作成] 画面 ◦ C.2 このマニュアルでの表記 • 参照先の記載を修正した。 ◦ 7.1.4 TrueCop ペアの操作履歴を確認する • DKC 間の物理パスに複数の iSCSI のパスを使用する際の注意事項を追加した。 ◦ (2)物理パスに関する注意事項 (iSCSI を使用する時) • 表に RAID Manager で表示されるエラーコードを追加した。 ◦ 10.1.3 TrueCopy のリモートパスの状態に関するトラブルシューティング

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
4060-1J-U14-D2	2024 年 2 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-08-13-XX VSP E シリーズ : 93-07-23-XX - 仮想ボリュームに対するゼロデータページ破棄の仕様について説明を追加した。 4.8.1 DP-VOL を TrueCopy ペアのボリュームとして使用するときの作業の流れ - 正サイトまたは副サイトのストレージシステムでのコントローラボードが閉塞した場合のペア操作失敗に関する記載を追記した。 6.2 TrueCopy のペア操作時の注意事項 10.1.2 TrueCopy の一般的なトラブルシューティング
4060-1J-U14-D1	2023 年 10 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-08-12-XX VSP E シリーズ : 93-07-22-XX - システムオプションモードの説明を修正した。 3.1.2 TrueCopy のシステムオプションモード
4060-1J-U14-D0	2023 年 6 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-08-11-XX VSP E シリーズ : 93-07-21-XX - VSP 5000 シリーズと VSP E1090 で、FC-NVMe でホストに接続されたボリュームを使用した TrueCopy ペアの作成をサポートした。 2.1 TrueCopy のシステム要件 3.3.8 VSP 5000 シリーズと接続する場合の注意事項 10.3.1 RAID Manager 操作時のエラーコードと内容 - VSP E シリーズで、Thin Image Advanced をサポートした。 4.1 TrueCopy と共用可能なボリューム 4.5 TrueCopy と Thin Image Advanced の併用 - プログラムプロダクト「Thin Image Advanced」の追加に伴い、マニュアル内の「Thin Image」について、Thin Image Advanced と Thin Image を区別できるように表記を変更した。
4060-1J-U14-C0	2023 年 3 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-08-10-XX VSP E シリーズ : 93-07-01-XX - ストレージシステム間の接続で、25Gbps iSCSI チャネルボード非サポートの注意書きおよび、25Gbps iSCSI チャネルボードのポートでホストに接続されたボリュームをペアボリュームとしてサポートする記載を追加した。 1.3 TrueCopy の構成要素 1.6 TrueCopy で使用する物理バス 2.1 TrueCopy のシステム要件 3.4 TrueCopy の物理バスの計画 (2) 物理バスに関する注意事項 (iSCSI を使用するとき) - Thin Image のボリュームを修正した。

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
		◦ 4.1 TrueCopy と共用可能なボリューム • SSB エラーコード (CBDE、CBDF) の説明を修正した。 ◦ 10.3.1 RAID Manager 操作時のエラーコードと内容 • Initialization Failed 初期化エラーと Invalid Port 無効ポートに、未サポートのプロトコルでパス作成した場合の説明と対策を追加した。 ◦ 10.1.3 TrueCopy のリモートパスの状態に関するトラブルシューティング
4060-1J-U14-B0	2022 年 12 月	• 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-08-09-XX VSP E シリーズ : 93-06-81-XX • 容量削減機能の回復時の SSB エラーコードの説明を修正した。 ◦ 10.3.1 RAID Manager 操作時のエラーコードと内容 • VSP G700 および VSP F700、VSP G900 および VSP F900 と、VSP E1090 および VSP 5200, 5600 との接続をサポートした。 ◦ 2.1 TrueCopy のシステム要件 • SSB エラーコード (C37B) の説明を追加した。 ◦ 10.3.1 RAID Manager 操作時のエラーコードと内容
4060-1J-U14-A0	2022 年 7 月	• 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-08-08-XX VSP E シリーズ : 93-06-61-XX • VSP E1090 で、ホストとストレージシステム間の FC-NVMe による接続環境での TrueCopy ペア作成をサポートした。 ◦ 1.3 TrueCopy の構成要素 ◦ 1.6 TrueCopy で使用する物理バス ◦ 1.8 TrueCopy 操作のインタフェース ◦ 2.1 TrueCopy のシステム要件 ◦ 3.3.8 VSP 5000 シリーズと接続する場合の注意事項 ◦ 3.4 TrueCopy の物理バスの計画 ◦ 3.4.6 FC-NVMe を使用するときの注意事項 ◦ 4.1 TrueCopy と共用可能なボリューム ◦ 4.6 TrueCopy と LUN Manager との共用 ◦ 6.2 TrueCopy のペア操作時の注意事項 ◦ 10.3.1 RAID Manager 操作時のエラーコードと内容 ◦ A.1 Storage Navigator のアクション名と RAID Manager コマンドの対応表 ◦ B.2 [リモートレプリケーション] 画 • TrueCopy と Thin Image の併用について追記した。 ◦ 4.4 TrueCopy と Thin Image の併用 ◦ 4.4.1 Thin Image プライマリボリュームと TrueCopy/Universal Replicator プライマリボリューム共有時の TrueCopy/Universal Replicator の操作 ◦ 4.4.2 Thin Image プライマリボリュームと TrueCopy/Universal Replicator セカンダリボリューム共有時の TrueCopy/Universal Replicator の操作

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
		4.4.3 Thin Image プライマリボリュームと TrueCopy/Universal Replicator プライマリボリューム共有時の Thin Image の操作 4.4.4 Thin Image プライマリボリュームと TrueCopy/Universal Replicator セカンダリボリューム共有時の Thin Image の操作
4060-1J-U14-91	2022 年 5 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-08-07-XX VSP E シリーズ : 93-06-42-XX - 同一パスグループにリモートパスを追加する場合の注意事項を追加した。 (1) リモートパスに関する注意事項 (iSCSI を使用するとき) (2) 物理パスに関する注意事項 (iSCSI を使用するとき) - 物理パスの要件を修正した。 2.1 TrueCopy のシステム要件
4060-1J-U14-90	2022 年 4 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-08-06-XX VSP E シリーズ : 93-06-41-XX - 既存ペアの差分管理方式が変更される記載を修正した。 3.1.3 システム詳細設定 - コピーしきい値オプション (システムオプションモード 1254、1260) の注意事項の記載を変更した。 3.1.2 TrueCopy のシステムオプションモード - VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900 と HUS VM のリモート接続のサポートバージョンを変更した。 2.1 TrueCopy のシステム要件 - 大きな作業負荷が原因でペア操作が失敗したときのトラブルシューティングの記載を変更した。 10.1.2 TrueCopy の一般的なトラブルシューティング - ペア作成、ペア再同期操作時にペア状態が変化しないエラーの対策を修正した。 10.1.2 TrueCopy の一般的なトラブルシューティング
4060-1J-U14-81	2022 年 2 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-08-05-XX VSP E シリーズ : 93-06-22-XX - PSUS 時の状態説明に、スワップサスペンド後にホスト I/O がなかった場合の記載を追加した。 7.1.2 TrueCopy ペア状態の定義 - TrueCopy で設定できるシステム詳細設定の説明を追加した。 3.1.3 システム詳細設定 - TrueCopy コピー中の削除失敗時の手順を追記した。 7.2.2 TrueCopy ペアを強制的に削除する 10.1.2 TrueCopy の一般的なトラブルシューティング

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
		- ShadowImage ペアのセカンダリボリュームの状態に応じた TrueCopy ペアの再同期時の操作可否を変更した。 4.3.4 ShadowImage セカンダリボリュームと TrueCopy プライマリボリュームの共有 - VSP E1090 で、Universal Replicator と連携した 3DC マルチターゲット構成および 3DC カスケード構成をサポートした。 4.2 TrueCopy と Universal Replicator との共有 - シリンダサイズ情報の記載を削除した。 - C.4 KB（キロバイト）などの単位表記について
4060-1J-U14-80	2021 年 12 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ：88-08-04-XX VSP E シリーズ：93-06-21-XX - ストレージシステムの新しいモデルとして VSP E1090 および VSP E1090H を追加した。 - VSP E1090 と VSP E1090H で、圧縮アクセラレータ機能サポートした。 - B.2 [リモートレプリケーション] 画面 - B.10.1 [TC ペア作成] 画面または [UR ペア作成] 画面 - B.10.3 [設定確認] 画面 - ペア状態が COPY で進捗率が 0%から進まない場合の対策を追加した。 10.1.2 TrueCopy の一般的なトラブルシューティング
4060-1J-U14-61	2021 年 10 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ：88-08-04-XX VSP E シリーズ：93-05-22-XX - VSP 5000 シリーズとの接続に関する記載を変更した。 2.1 TrueCopy のシステム要件 3.3.8 VSP 5000 シリーズと接続する場合の注意事項 3.6.3 コンシステンシーグループの要件 5.2 TrueCopy 操作のためにリモート接続を追加する - システムオプションモード 1254 および 1260 をサポートした。 3.1.2 TrueCopy のシステムオプションモード [リモート接続] 画面のローカルストレージシステム（MCU）の情報表示に関する記載を変更した。 - B.3 [リモート接続] 画面 - プログラムプロダクトのライセンス容量不足時の制限に関する記載を変更した。 2.1 TrueCopy のシステム要件
4060-1J-U14-60	2021 年 9 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ：88-08-03-XX VSP E シリーズ：93-05-21-XX - ストレージシステムの新しいモデルとして VSP E390 および VSP E390H を追加した。
4060-1J-U14-51	2021 年 7 月	適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ：88-08-03-XX

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
		VSP E シリーズ : 93-05-03-XX - 対象マイクロバージョンの注意書きを変更した。 4.6.2 割り当て済みのページがある Dynamic Provisioning の仮想ボリュームを TrueCopy ペアのセカンダリボリュームに指定する場合の注意事項
4060-1J-U14-50	2021 年 6 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-08-03-XX VSP E シリーズ : 93-05-02-XX - ストレージシステムの新しいモデルとして VSP E590H と VSP E790H を追加した。 - ファームウェアの交換処理中のペア操作可否について追記した。 5.2 TrueCopy 操作のためにリモート接続を追加する 6.2 TrueCopy のペア操作時の注意事項 - VSP E590, E790 に SAS 拡張筐体をサポートした。 - 対象ストレージシステム
4060-1J-U14-41	2021 年 4 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-08-02-XX VSP E シリーズ : 93-04-02-XX - ShadowImage 連携時のペア操作可否表にスワップサスペンド・スワップリシンクの記載を追加した。 4.3.1 ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy プライマリボリュームの共有 4.3.2 ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy セカンダリボリュームの共有 4.3.3 ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy ボリュームの共有 4.3.4 ShadowImage セカンダリボリュームと TrueCopy プライマリボリュームの共有 - 割り当て済みのページがある容量削減機能が有効なボリュームをセカンダリボリュームとして、ペア作成する際の推奨手順を追加した。 4.6.2 割り当て済みのページがある Dynamic Provisioning の仮想ボリュームを TrueCopy ペアのセカンダリボリュームに指定する場合の注意事項
4060-1J-U14-40	2021 年 1 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-08-01-XX VSP E シリーズ : 93-04-01-XX - VSP E590 または VSP E790 とのリモート接続で、VSP G150, G350, G370, G700, G900、VSP F350, F370, F700, F900 および VSP E990 側の Storage Navigator からのリモートパス操作をサポートした。 2.1 TrueCopy のシステム要件 5.2 TrueCopy 操作のためにリモート接続を追加する - A.1 Storage Navigator のアクション名と RAID Manager コマンドの対応表 - B.8.1 [リモート接続追加] 画面

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
4060-1J-U14-31	2020 年 11 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-07-02-XX VSP E シリーズ : 93-03-22-XX - VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900 と、VSP E590 および VSP E790 との接続をサポートした。 2.1 TrueCopy のシステム要件 5.2 TrueCopy 操作のためにリモート接続を追加する - A.1 Storage Navigator のアクション名と RAID Manager コマンドの対応表 - B.8.1 [リモート接続追加] 画面
4060-1J-U14-30	2020 年 10 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-07-01-XX VSP E シリーズ : 93-03-21-XX - ストレージシステムの新しいモデルとして VSP E590 と VSP E790 を追加した。
4060-1J-U14-20	2020 年 9 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-07-01-XX VSP E990 : 93-03-01-XX - リモートパスの状態が Path Blockade 時の対策に、自動回復についての記載を追記した。 10.1.3 TrueCopy のリモートパスの状態に関するトラブルシューティング
4060-1J-U14-11	2020 年 7 月	- 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-06-02-XX VSP E990 : 93-02-03-XX - VVOL Replication 機能に関する一部エンハンスを行った。 - B.2 [リモートレプリケーション] 画面 - ペアを維持したまま DP-VOL の容量を拡張できるようにした。 3.1.2 TrueCopy のシステムオプションモード 4.6.4 TrueCopy ペアで使用している DP-VOL の容量拡張 7.4 ペアを維持した DP-VOL の容量拡張 9.2.2 TrueCopy ペアを削除しないで副サイトへ操作を切り替える流れ 9.4.1 TrueCopy ペアを削除してから正サイトに操作を戻す流れ 9.4.2 TrueCopy ペアを削除しないで正サイトに操作を戻す流れ 10.3.1 RAID Manager 操作時のエラーコードと内容 - B.2 [リモートレプリケーション] 画面 - B.5 [ペアプロパティ参照] 画面 - シリアル番号入力形式の説明を追記した。 5.2 TrueCopy 操作のためにリモート接続を追加する
4060-1J-U14-10	2020 年 4 月	適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-06-01-XX

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
		VSP E990 : 93-02-01-XX 3DC マルチターゲット構成および 3DC カスケード構成に関する記載を変更した。 4.2 TrueCopy と Universal Replicator との共用 - Quality of Service (QoS) 機能をサポートした。 4.7 TrueCopy と Performance Monitor との共用 7.1.7 TrueCopy のコピー操作と I/O 統計データのモニタリング 10.1.2 TrueCopy の一般的なトラブルシューティング
4060-1J-U14-00	2020 年 1 月	初版 (4046-1J-U14-40 から改訂、VSP E990 を追加。) 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン VSP G/F シリーズ : 88-04-03-XX VSP E990 : 93-01-01-XX

TrueCopy の概要

TrueCopy の概要について説明します

- 1.1 TrueCopy とは
- 1.2 TrueCopy ペアを作成するまでの流れ
- 1.3 TrueCopy の構成要素
- 1.4 TrueCopy 操作に必要なストレージシステム
- 1.5 TrueCopy のペアボリューム
- 1.6 TrueCopy で使用する物理パス
- 1.7 TrueCopy のコンシステンシーグループ
- 1.8 TrueCopy 操作のインターフェース
- 1.9 TrueCopy のエラー報告通信 (ERC)
- 1.10 TrueCopy リモートコピー
- 1.11 TrueCopy のペア状態

1.1 TrueCopy とは

TrueCopy を使用すると、遠隔地にボリュームの複製を作成、保持できます。TrueCopy では正サイトのストレージシステムのデータと同期して、副サイトのストレージシステムへデータをコピーします。正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへは、ファイバチャネルインタフェースまたは iSCSI インタフェースでのリモート接続を経由してデータをコピーします。ホストからの書き込み命令は、正サイトのストレージシステムへ書き込み後、副サイトのストレージシステムへのコピーが終わってから、ホストへ完了応答が返されます。

TrueCopy は正サイトまたは副サイトのストレージシステムのどちらか一方、または両方で、ShadowImage または Universal Replicator と組み合わせることができます。これら複数のコピー系プログラムプロダクトを組み合わせることで、重要なデータをさまざまな障害から回復できます。

ローカルストレージシステムは、管理クライアントまたは RAID Manager を接続しているストレージシステムを指します。また、リモートストレージシステムは、ローカルストレージシステムと接続しているストレージシステムを指します。このマニュアルでは、特に記載がないかぎり、正サイトにプライマリボリュームがあり、副サイトにセカンダリボリュームがある構成を前提に説明しています。

TrueCopy では、正サイトのストレージシステムのボリューム（プライマリボリューム）に書き込まれるすべてのデータが、副サイトのストレージシステムのボリューム（セカンダリボリューム）にコピーされるため、セカンダリボリュームが完全なバックアップであることが保証されます。

本ストレージシステムは、1 回の書き込み操作で、トラック内の連続して更新されたデータ用の制御パラメータと FBA (CKD ではない) 形式のレコードセットを転送します。これによって FBA から CKD への変換、および CKD から FBA への変換に必要なオーバーヘッドがなくなります。



メモ

Virtual Storage Platform G130 では TrueCopy を使用できません。

1.2 TrueCopy ペアを作成するまでの流れ

TrueCopy を使用して遠隔地にボリュームの複製を作成、保持するためには、TrueCopy ペアを作成します。TrueCopy ペアは次の順序で作成します。

操作手順

1. コピーしたい正サイトのストレージシステムのボリュームを選択します。
2. コピー先となる副サイトのストレージシステムで、ボリュームを作成するか、作成済みのボリュームを指定します。
3. 正サイトと副サイトのストレージシステムをファイバチャネルインタフェースまたは iSCSI インタフェースでリモート接続します。
4. 正サイトのストレージシステムのボリューム（プライマリボリューム）のすべてのデータを、副サイトのストレージシステムのボリューム（セカンダリボリューム）にコピーします。

1.3 TrueCopy の構成要素

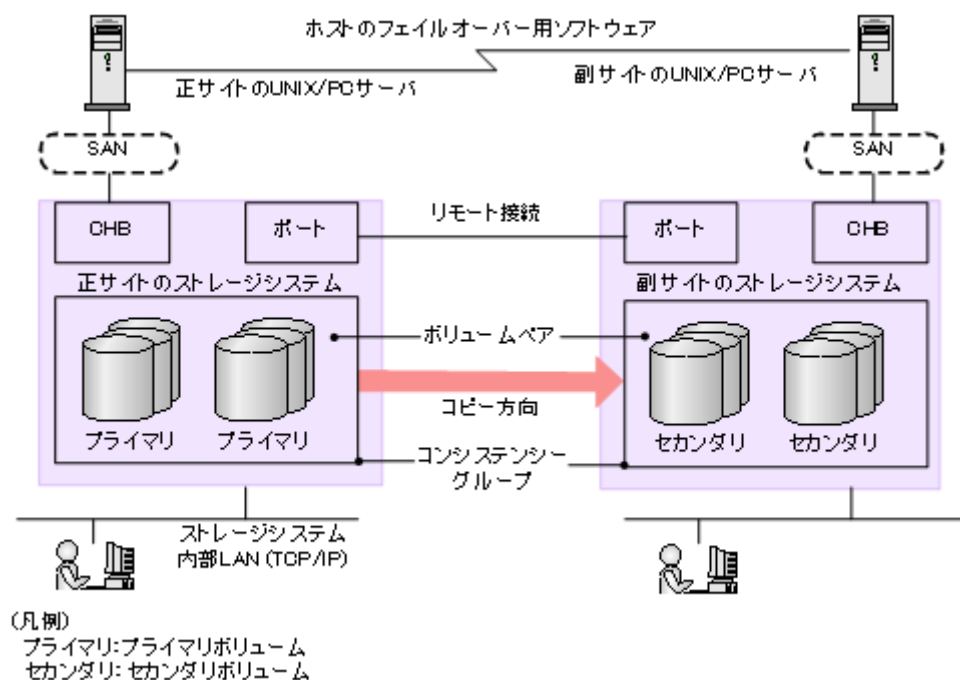
TrueCopy システムは、次の要素で構成されます。

- ストレージシステム

正サイト、または正サイトに接続された副サイトに必要です。副サイトのストレージシステムはファイバチャネルインタフェースまたは iSCSI インタフェースでリモート接続を経由して正サイトのストレージシステムに接続します。

- 副サイトのストレージシステムに接続するホスト
災害リカバリ時に使用するため、副サイトのストレージシステムにもホストを接続することを推奨します。副サイトのストレージシステムにホストを接続できない場合は、正サイトのホストと副サイトのストレージシステムを通信させます。
- プライマリボリュームおよびセカンダリボリューム
- 正サイトと副サイトのストレージシステム間のデータを転送するための、ファイバチャネルインタフェースまたは iSCSI インタフェースのリモート接続
iSCSI インタフェースを使用する場合は、10Gbps iSCSI チャネルボードのポートを使用してください。25Gbps iSCSI チャネルボードは、ストレージシステム間の接続に使用できません。
- ファイバチャネルインタフェースまたは iSCSI インタフェース用ポート
- ホスト接続用のポート
 - ファイバチャネルインタフェース用ポート
 - iSCSI インタフェース用ポート
 - FC-NVMe インタフェース用ポート
FC-NVMe インタフェースをサポートしている、ストレージシステムおよびファームウェアバージョンについては、「[2.1 TrueCopy のシステム要件](#)」を参照してください
- TrueCopy 構成およびペア動作実行のために使用する管理クライアント
- RAID Manager
運用に必要な操作と災害リカバリに使用できます。

次に基本的な TrueCopy の構成要素を示します。



注意

ホストフェイルオーバーソフトウェアは、正サイトと副サイトのホスト間で情報を転送するために使用します。これは、災害リカバリ処理の重要なコンポーネントです。

- TrueCopy を災害リカバリに使用する場合は、リカバリ処理を確実にするためにホストフェイルオーバ機能が必要です。
- TrueCopy をデータの移動手段として使用する場合は、ホストフェイルオーバの利用を推奨しますが、必須ではありません。

TrueCopy は、ホストフェイルオーバ機能を提供しません。プラットフォームに適用するフェイルオーバーソフトウェアをご使用ください。

1.4 TrueCopy 操作に必要なストレージシステム

TrueCopy の操作には、正サイトと副サイトの両方にストレージシステムが必要です。

正サイトのストレージシステムは専用のリモート接続を経由して副サイトのストレージシステムと通信します。

正サイトのストレージシステムはプライマリボリュームおよび次の動作を管理します。

- プライマリボリュームへのホスト I/O 操作
- 形成コピーと更新コピー
- ペア状態と構成情報

副サイトのストレージシステムはセカンダリボリュームおよび次の動作を管理します。

- 正サイトのストレージシステムから発行したセカンダリボリュームへのコピー動作
- ペア状態と構成情報の管理を支援

1.5 TrueCopy のペアボリューム

TrueCopy は、ユーザが設定したペアのリモートコピー操作を実行します。各 TrueCopy ペアは 1 つのプライマリボリュームと 1 つのセカンダリボリュームから構成されます。TrueCopy のプライマリボリュームはオリジナルデータが入ったボリューム (LU) で、TrueCopy のセカンダリボリュームはバックアップまたは複製データが入ったミラーボリューム (LU) です。

TrueCopy ペアは分割、再同期したり、ペアを組んでいない状態に戻したりできます。

- ペアを作成すると、プライマリボリュームとセカンダリボリュームが同期します。
- ペアを分割すると、プライマリボリュームへの書き込みは続きますが、セカンダリボリュームへのコピーは行われなくなり、そのペアは同期ではなくなります。
 - セカンダリボリュームの **Write** オプションを有効にすると、副サイトのホストアプリケーションからセカンダリボリュームへ書き込みできるようになります。そうでない場合は、ペアを分割した時点の状態を保持します。
 - プライマリボリュームとセカンダリボリュームが同期していないときは、プライマリボリュームとセカンダリボリュームが再同期するまで、差分データがビットマップとして記憶されます。
 - ペアを再同期すると、同期していないデータだけが転送されるので、コピー時間を削減できます。
- ペアを再同期すると、プライマリボリュームで変更されたデータがセカンダリボリュームにコピーされます。
- 必要であれば、セカンダリボリュームのデータをプライマリボリュームにコピーすることもできます。

通常、すべてのホストは **Read** と **Write** の I/O 操作にプライマリボリュームを使用できます。また副サイトのストレージシステムは、セカンダリボリュームに対するホストからの **Write I/O** を拒否します。セカンダリボリュームの **Write** オプションを設定すると、ペアが分割している間はセカンダリボリュームへ書き込みできるようになります。この場合、ペアの再同期にはセカンダリボリュームとプライマリボリュームの差分データを使用します。

1.6 TrueCopy で使用する物理パス

物理パスはリモートコピー接続とも呼ばれ、正サイトのストレージシステムのポートと副サイトのストレージシステムのポートを接続します。物理パスとして使用できるインタフェースは、ファイバチャネルまたは iSCSI です (FC-NVMe は未サポートです)。iSCSI インタフェースを使用する場合は、10Gbps iSCSI チャネルボードのポートを使用してください。25Gbps iSCSI チャネルボードは、ストレージシステム間の接続に使用できません。

TrueCopy は 1 つの物理パスだけでも使用できますが、2 つ以上のパスを独立して接続し、冗長化することを推奨します。

1.7 TrueCopy のコンシステンシーグループ

コンシステンシーグループは、ストレージシステムに割り当てられる複数の TrueCopy ペアから構成されるグループです。コンシステンシーグループを指定すると、コンシステンシーグループ単位でコマンドを発行できるため、同じグループ内ペアのセカンダリボリューム間でデータの一貫性を保持できます。

コンシステンシーグループには、グループ単位、またはボリューム単位に TrueCopy のコマンドを発行できます。グループ単位でコマンドを発行した場合、グループ内のすべてのペアでコマンドが実行され、グループ内のペアの状態を一括して変更できます。

1.8 TrueCopy 操作のインタフェース

TrueCopy の操作は、次のうちどれかのインタフェースを使って実行します。

Storage Navigator

- Storage Navigator は、TrueCopy のセットアップ、操作、およびモニタリングができるブラウザベースのインタフェースです。GUI によって操作方法がわかりやすくなっているため、特別な操作知識を必要としません。
 - 正サイトのストレージシステムに、管理クライアントを接続します。
 - 副サイトにも管理クライアントを準備すると、正サイトが利用できない場合に、副サイトでもより効率的に TrueCopy の操作を実行できます。
- 仮想ストレージマシン内のボリュームを使用する場合、Storage Navigator には、本ストレージシステムの次の情報が表示されます。
 - シリアル番号および仮想情報
 - 仮想情報しかし、仮想ストレージマシンのシリアル番号を指定してリモート接続を追加したり、仮想 LDEV ID を指定してペアを作成したりはできません。Storage Navigator で TrueCopy を操作するときには本ストレージシステムの LDEV ID やシリアル番号を指定します。

RAID Manager

- RAID Manager は、すべてのコピー操作およびペア管理操作を実行するために使用するコマンドラインインタフェースです。スクリプトファイルを使用すれば、コピー操作を自動化できます。RAID Manager はフェイルオーバー動作実行のために必要です。
- 仮想ストレージマシン内のボリュームを使用する場合、RAID Manager では、構成定義ファイルに本ストレージシステムの情報のほかに仮想情報も指定できます。ただし、正サイトのストレージシステムが HUS VM のときには、構成定義ファイルに VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900 の情報を指定します。
- FC-NVMe でホストに接続されたボリュームを使用する場合は、RAID Manager でのみ TrueCopy ペアを作成できます。ペア作成以外の操作は、Storage Navigator でも実行できます。

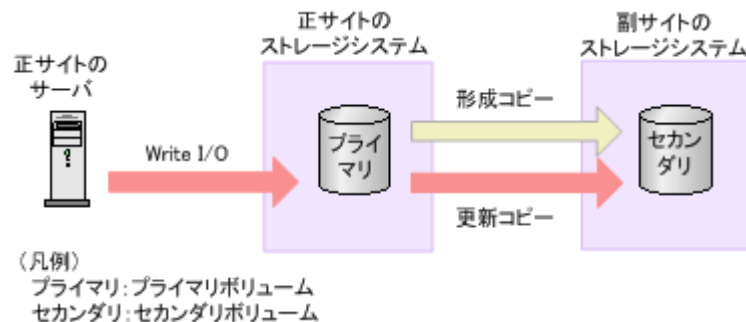
1.9 TrueCopy のエラー報告通信（ERC）

エラー報告通信（ERC）は、正サイトと副サイトのホストプロセッサ間で情報を転送します。災害リカバリ処理の重要なコンポーネントです。

1.10 TrueCopy リモートコピー

形成コピーを実行すると、プライマリボリューム内のすべてのデータをセカンダリボリュームにコピーします。その後、正サイトのストレージシステムはホストから書き込み命令を受領すると更新コピーを実行します。更新コピーでは、ホストの更新がプライマリボリュームへコピーされると同時に、それらをセカンダリボリュームへコピーします。

次の図で形成コピーと更新コピーの動作を説明します。



関連概念

- [1.10.1 TrueCopy の形成コピー](#)
- [1.10.2 TrueCopy の更新コピー](#)

1.10.1 TrueCopy の形成コピー

新しい TrueCopy ペアを作成する場合は、プライマリボリュームの全内容をトラック単位でセカンダリボリュームにコピーします（この中には診断トラックや割り当てられていない交替トラックは含まれません）。形成コピーは、ホスト I/O プロセスとは別にプライマリボリュームとセカンダリボリュームを同期させます。形成コピーでは、すでにプライマリボリュームとセカンダリボリュームが完全に同一であることが確実な場合は、データを一切コピーしないという選択ができます。データ転送速度とシステム性能の間の柔軟性を向上させるオプションも指定できます。

- ・ [コピー速度] では、TrueCopy ペアを作成／再同期する際の TrueCopy 形成コピーで、同時にコピーされるトラック数 (1-15) を指定できます。コピーするトラック数が多いほど、動作は速く完了します。コピーするトラック数が少ないほど、維持される性能レベルは高くなります。コピー速度の値と、1RIO 単位での転送サイズとの関係を次の表に示します。

コピー速度	転送サイズ
1	256KB (256KB×1)
2	512KB (256KB×2)
3	768KB (256KB×3)
4 以上	1,024KB (256KB×4)

- ・ [形成コピー優先度] では、TrueCopy ペアの作成や再同期を実行する際の、形成コピーの実行順序を指定できます。最大形成コピー数を超える数のペアを作成する場合に使用します。RAID Manager を使用する場合は、構成定義ファイル内にある LU や LDEV の記載順を並べ替えることで、同様に形成コピーの実行順序を指定できます。
- ・ [最大形成コピー数] では、正サイトのストレージシステムが同時に実行できる形成コピーの最大ペア数を指定できます。RAID Manager を使用する場合は、`raidcom modify remote_replica_opt -copy_activity` で同様に形成コピーの最大ペア数を指定できます。
- ・ [往復応答時間] では、プライマリボリュームからセカンダリボリュームへデータをコピーするときの往復応答時間を指定できます。この設定値を基に、更新 I/O に対する更新コピーの応答時間に影響を与えないように形成コピーの速度を自動調整します。RAID Manager を使用する場合は、`raidcom modify rcu` で同様に往復応答時間を指定できます。

関連概念

- ・ [1.10 TrueCopy リモートコピー](#)

1.10.2 TrueCopy の更新コピー

形成コピー完了後にホストがプライマリボリュームへの Write I/O 操作を出すと、データはプライマリボリュームに書き込まれ、セカンダリボリュームにコピーされます。両方のボリュームへの書き込み完了後に、Write I/O に対する完了応答がホストへ返されます。これによってペアの同期を維持します。

更新コピーは形成コピーより高い優先順位を持ちます。しかし更新がホストによって送られた時点で形成コピーが進行中の場合は、形成コピーのコピー操作が完了するまで、更新コピーが待機します。例えばコピー速度が 15 トラックなら、更新コピーは最大 15 トラックまで待機できます (1 シリンダ)。

関連概念

- ・ [1.10 TrueCopy リモートコピー](#)

1.11 TrueCopy のペア状態

ペア状態は、正サイトのストレージシステム (プライマリボリュームがあるストレージシステム) が管理します。

- ・ 正サイトのストレージシステムはプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペアの状態を変更できます。

- 副サイトのストレージシステムはセカンダリボリュームのペアの状態は変更できますが、プライマリボリュームのペアの状態は変更できません。正サイトのストレージシステムはセカンダリボリュームのペア状態が変わったことを検出して、それに従ってプライマリボリュームの状態を変更します。
- ペアの状態は主に次のように変化します。
 - **SMPL** : ボリュームが **TrueCopy** ペアに割り当てられていない場合、そのボリュームは **SMPL** (単一ボリューム) です。正サイトのストレージシステムからペアを削除すると、正サイトのストレージシステムは両方のボリュームを **SMPL** に変更します。
 - **COPY** : 形成コピーがペアを作成し始めると、正サイトのストレージシステムは両方のボリュームの状態を **COPY** (コピー中のボリューム) に変更します。
 - **PAIR** : 形成コピー操作が完了すると、正サイトのストレージシステムは両方のボリュームの状態を **PAIR** (ペアボリューム) に変更します。
 - **PSUS** : 正サイトまたは副サイトのストレージシステムからペアを分割すると、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの状態は **PSUS** (**pair suspended-split** : コマンドによる分割) に変更されます。
副サイトのストレージシステムからペアを削除すると、副サイトのストレージシステムはセカンダリボリュームを **SMPL** に変更し、正サイトのストレージシステムはそのペアが副サイトのストレージシステムから削除されたことを検出 (パスが正常な場合) して、プライマリボリュームの状態を **PSUS** に変更します。
 - **PSUE** : エラーなど何かの理由で、正サイトのストレージシステムがプライマリボリュームとセカンダリボリュームの同期を保持できない場合、正サイトのストレージシステムはプライマリボリュームとセカンダリボリューム (可能な場合) の状態を **PSUE** (**pair suspended-error** : エラーによる分割) に変更します。

TrueCopy の要件

この章では、基本的なシステム要件と仕様について説明します。

この章のほか、「[3 TrueCopy の計画](#)」でも、TrueCopy のセットアップと使用前に注意が必要な TrueCopy の要素について、多くの仕様、推奨事項、および要件について説明しています。

□ 2.1 TrueCopy のシステム要件

2.1 TrueCopy のシステム要件

項目	要件
対応デバイス エミュレーションタイプ	Open-V
VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900 と接続できるストレージシステム	下記のバージョンのストレージシステムと相互に接続できます。本製品と新しいモデルとのサポート接続可否については、新しいモデル側のユーザガイドを参照してください。 • VSP E590, VSP E790, VSP E990 (全バージョン) • VSP G150, G350, G370, G700, G900 (全バージョン) • VSP F350, F370, F700, F900 (全バージョン) • VSP G800 (83-01-21-60/00 以降) • VSP G400/VSP G600 (83-01-01-40/00 以降) • VSP G100/VSP G200 (83-01-01-20/00 以降) • VSP F400/VSP F600/VSP F800 (83-02-0X-XX/XX 以降) • VSP 5100, 5500 (90-01-4X-XX/XX 以降) • VSP G1000 (80-04-XX-XX/XX 以降) • VSP G1500 および VSP F1500 (80-05-0X-00/00 以降) • HUS VM (73-03-58-X0/00 以降 (X は 0 または 1)) 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 88-08-08-XX/XX 以降の VSP G700 および VSP F700、VSP G900 および VSP F900 は、次のストレージシステムと接続できます。 • VSP E1090 (93-06-61-XX/XX 以降) • VSP 5200, 5600 (90-08-61-XX/XX 以降) 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 88-08-13-XX/XX 以降の VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900 は、次のストレージシステムと接続できます。 • VSP One B20 (全バージョン) ただし、データダイレクトマップ属性の Dynamic Provisioning の仮想ボリュームを使用する場合は、次のバージョンのストレージシステムとだけ接続できます。 • VSP G100, G200, G400, G600, G800 および VSP F400, F600, F800 (83-02-0X-XX/XX 以降) • VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900 (88-00-0X-XX/XX 以降) 災害リカバリのときには、副サイトのストレージシステムで業務を運用するため、正サイトと副サイトの両方で同じモデルのストレージシステム（例：VSP G900 同士）を使用することをお勧めします。 ご不明な点は、お問い合わせください。
VSP E390 と接続できるストレージシステム	下記のバージョンのストレージシステムと相互に接続できます。本製品と新しいモデルとのサポート接続可否については、新しいモデル側のユーザガイドを参照してください。 • VSP E シリーズ (93-05-21-XX/00 以降) 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 93-07-22-XX/XX 以降の VSP E390 は、次のストレージシステムと接続できます。 • VSP One B20 (全バージョン)

項目	要件
	災害リカバリのときには、副サイトのストレージシステムで業務を運用するため、正サイトと副サイトの両方で同じモデルのストレージシステム（例：VSP E390 同士）を使用することをお勧めします。 ご不明な点は、お問い合わせください。
VSP E590、VSP E790 と接続できるストレージシステム	下記のバージョンのストレージシステムと相互に接続できます。本製品と新しいモデルとのサポート接続可否については、新しいモデル側のユーザガイドを参照してください。 • VSP E590、VSP E790、VSP E990（93-03-22-X0/00 以降） • VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900（88-07-01-X0/00 以降） • VSP G100, G200, G400, G600, G800 および VSP F400, F600, F800（83-06-10-X0/00 以降） • VSP 5100, 5500（90-05-01-00/00 以降） 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 93-05-03-XX/XX 以降の VSP E590、VSP E790 は、次のストレージシステムと接続できます。 • VSP 5200, 5600（全バージョン） 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 93-05-21-XX/XX 以降の VSP E590、VSP E790 は、次のストレージシステムと接続できます。 • VSP E390（全バージョン） 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 93-06-01-XX/XX 以降の VSP E590、VSP E790 は、次のストレージシステムと接続できます。 • VSP E1090（全バージョン） 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 93-07-22-XX/XX 以降の VSP E590、VSP E790 は、次のストレージシステムと接続できます。 • VSP One B20（全バージョン） 災害リカバリのときには、副サイトのストレージシステムで業務を運用するため、正サイトと副サイトの両方で同じモデルのストレージシステム（例：VSP E790 同士）を使用することをお勧めします。 ご不明な点は、お問い合わせください。
VSP E990 と接続できるストレージシステム	下記のバージョンのストレージシステムと相互に接続できます。本製品と新しいモデルとのサポート接続可否については、新しいモデル側のユーザガイドを参照してください。 • VSP E590、VSP E790、VSP E990（全バージョン） • VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900（88-04-03-X0/00 以降） • VSP G100, G200, G400, G600, G800 および VSP F400, F600, F800（83-06-06-X0/00 以降） • VSP 5100, 5500（90-02-01-00/00 以降） 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 93-05-03-XX/XX 以降の VSP E990 は、次のストレージシステムと接続できます。 • VSP 5200, 5600（全バージョン） 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 93-05-21-XX/XX 以降の VSP E990 は、次のストレージシステムと接続できます。 • VSP E390（全バージョン） 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 93-06-01-XX/XX 以降の VSP E990 は、次のストレージシステムと接続できます。 • VSP E1090（全バージョン） 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 93-07-22-XX/XX 以降の VSP E990 は、次のストレージシステムと接続できます。

項目	要件
	VSP One B20（全バージョン） 災害リカバリのときには、副サイトのストレージシステムで業務を運用するため、正サイトと副サイトの両方で同じモデルのストレージシステム（例：VSP E990 同士）を使用することをお勧めします。 ご不明な点は、お問い合わせください。
VSP E1090 と接続できるストレージシステム	下記のバージョンのストレージシステムと相互に接続できます。本製品と新しいモデルとのサポート接続可否については、新しいモデル側のユーザガイドを参照してください。 - VSP E590、VSP E790、VSP E990、VSP E1090（93-06-01-XX/XX 以降） - VSP 5000 シリーズ（90-08-02-XX/XX 以降） 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 93-06-61-XX/XX 以降の VSP E1090 は、次のストレージシステムと接続できます。 - VSP G700 および VSP F700、VSP G900 および VSP F900（88-08-08-XX/XX 以降） 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 93-07-22-XX/XX 以降の VSP E1090 は、次のストレージシステムと接続できます。 - VSP One B20（全バージョン） 上記に加えて、データ移行用途でのみ、DKCMAIN バージョンが 93-07-21-XX/XX 以降の VSP E1090 は、下記のバージョンの VSP G600 および VSP F600 と接続できます。データ移行元として使用可能なボリュームは、VSP G600 および VSP F600 上のボリュームです。データ移行先として使用可能なボリュームは、VSP E1090 上のボリュームです。データ移行手順については「8 TrueCopy を使ったデータの移行」を参照してください。データ移行以外の用途では VSP E1090 と VSP G600 および VSP F600 との接続は未サポートです。 - VSP G600 および VSP F600（83-05-43-XX/XX 以降） 災害リカバリのときには、副サイトのストレージシステムで業務を運用するため、正サイトと副サイトの両方で同じモデルのストレージシステム（例：VSP E1090 同士）を使用することをお勧めします。 ご不明な点は、お問い合わせください。
RAID レベル	TrueCopy は RAID1、RAID5、RAID6 構成をサポートします。
TrueCopy	- システムごとにライセンスキーが必要です。 - 正サイトおよび副サイトのストレージシステムにインストールします。 - 利用可能なライセンス容量を超過するペア作成はできません。
必要な他のライセンス	なし。 ただし TrueCopy のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームに Dynamic Provisioning の仮想ボリュームを使用している場合は、次のライセンス容量制限が適用されます。 - TrueCopy のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームに Dynamic Provisioning の仮想ボリュームを使うと、仮想ボリュームに割り当てられるページの容量が TrueCopy のライセンス容量としてカウントされます。ただし、容量削減機能が有効なボリュームの場合は、削減前の容量が TrueCopy ライセンス容量の対象になります。 - 実際のライセンス容量が利用可能なライセンス容量を超えると、通常ボリューム、Dynamic Provisioning の仮想ボリュームのどちらを使用するかに関わらず、ペア作成ができなくなります。さらに、ライセンス容量を超えてから 30 日を過ぎると、通常ボリューム、Dynamic Provisioning の仮想ボリュームのどちらを使用するかに関わらず、実行できるペア操作は、ペア分割とペア削除だけになります。

項目	要件
シェアドメモリの増設	本ストレージシステムの場合 TrueCopy は、基本部のシェアドメモリだけで使用できます。シェアドメモリを増設すると、ペアを作成できる容量が拡張されます。
対応ホスト プラットフォーム (ホストとストレージシステム の接続にファイバチャネルま たは iSCSI を使用する場合)	- AIX - HP-UX - OpenVMS - Red Hat Enterprise Linux - Solaris - SuSE Linux - VMware ESX - Windows Server など 対応するホストプラットフォームについては、「10.5 お問い合わせ先」に示す連絡先にお問い合わせください。
対応ホスト プラットフォーム (ホストとストレージシステム の接続に FC-NVMe を使用する 場合)	FC-NVMe でホストに接続されたボリュームを使用した TrueCopy ペアは、次のバージョンのストレージシステムでサポートします。 - VSP E1090 (DKCMAIN バージョン 93-06-61-XX/XX 以降) - VSP One B20 (全バージョン) 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 93-07-21-XX/XX 以降の VSP E1090 は、次のストレージシステムと接続できます。 - VSP 5000 シリーズ (90-09-21-XX/XX 以降) 対応するホストプラットフォームについては、「10.5 お問い合わせ先」に示す連絡先にお問い合わせください。
物理パス	正サイトと副サイトのストレージシステムを接続する物理パスが必要です。次の 2 種類のインタフェースを使用できます。 - ファイバチャネルインタフェース - iSCSI インタフェース 直結、スイッチ、またはチャネルエクステンダによる接続があります。「3.4 TrueCopy の物理パスの計画」を参照してください。 なお、FC-NVMe インタフェースの物理パスは未サポートです。
リモートパス	リモートパスは、正サイトと副サイトのストレージシステムのパスグループごとに確立します。パスグループごとに最大 8 本のパスが使用できます。パスグループは最大 64 個使用できます。同じストレージシステムの組み合わせで、複数のパスグループを使用することもできます。
副サイトのストレージシステム の最大数	1 台のストレージシステムに 64 台まで設定できます。ただし、この数は Universal Replicator で指定するシステム単位の副サイトのストレージシステムの数を含んだ数です。 - システム単位に副サイトのストレージシステムを登録するためには、パスグループ ID を指定します。0～255 まで指定できます。デフォルトは 0 です。Universal Replicator で使用する副サイトのストレージシステムのパスグループ ID と同じパスグループ ID を指定すると、Universal Replicator で使用する副サイトのストレージシステムと同じパスを使用することになります。別の物理パスを用意し、別のパスグループ ID を指定して副サイトのストレージシステムを登録すると、パスを分けられます。 - RAID Manager を使用して、パスグループの作成およびペア作成時のパスグループの指定ができます。詳細については、『RAID Manager コマンドリファレンス』の構成定義コマンドおよび『RAID Manager インストール・設定ガイド』の構成定義ファイルを参照してください。

項目	要件
ペアボリューム	・ プライマリボリュームとセカンダリボリュームを同じ容量にしてください。 ・ プライマリボリュームとセカンダリボリュームの最大容量は次のとおりです。 ◦ Dynamic Provisioning の仮想ボリューム（DP-VOL）の場合：DP-VOL の最大容量と同じです。詳細は、『システム構築ガイド』を参照してください。 ◦ 内部ボリュームの場合：3,145,663MB（6,442,317,824block）です。 ◦ 外部ボリュームの場合：4,194,304MB（8,589,934,592block）です。 ・ プライマリボリュームとセカンダリボリュームの最小容量は、46.875MB（96,000block）です。 ・ 1つのプライマリボリュームは1つのセカンダリボリュームにだけコピーできます。 ・ プライマリボリュームとセカンダリボリュームは他のプログラムプロダクトボリュームと共用できます。「4.1 TrueCopy と共用可能なボリューム」を参照してください。 ・ プライマリボリュームの T10 PI 属性とセカンダリボリュームの T10 PI 属性には、同じ値を設定する必要があります。 ・ 容量拡張設定が有効なパリティグループに属するボリュームは、ペアボリュームとして使用できません。 ・ プライマリボリュームとセカンダリボリュームは、LUN パスが定義されたボリューム同士か、または、NVM サブシステムポートが追加された NVM サブシステムの Namespace が定義されたボリューム同士である必要があります。 ・ FC-NVMe インタフェースでホストに接続されたボリューム（Namespace）をペアボリュームとして使う TrueCopy 構成は、次に示すストレージシステムでサポートします。 ◦ VSP E1090（DKCMAIN バージョン 93-06-61-XX/XX 以降） ただし、上記の TrueCopy 構成は、正サイトと副サイトの両方が VSP E1090 の構成でのみサポートしています。 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 93-07-21-XX/XX 以降の VSP E1090 は、次のストレージシステムと接続できます。 ◦ VSP 5000 シリーズ（90-09-21-XX/XX 以降） 上記に加えて、DKCMAIN バージョンが 93-07-22-XX/XX 以降の VSP E1090 は、次のストレージシステムと接続できます。 ◦ VSP One B20（全バージョン） ・ 25Gbps iSCSI チャンネルボードのポートでホストに接続されたボリュームをペアボリュームとして使う TrueCopy 構成は、93-07-01-XX/XX 以降の DKCMAIN プログラムが必要です。 詳細については、「3.3 TrueCopy のペアボリュームの計画」を参照してください。
ペア数	・ VSP G150、VSP G350、および VSP F350：16,384 個 ・ VSP G370 および VSP F370：32,768 個 ・ VSP G700 および VSP F700：49,152 個 ・ VSP G900 および VSP F900：65,280 個 ・ VSP E390：16,384 個 ・ VSP E590：32,768 個

項目	要件
	• VSP E790 : 49,152 個 • VSP E990 および VSP E1090 : 65,280 個 RAID Manager を使用している場合は、コマンドデバイスを定義する必要があります。この場合、最大ペア数は、上記の値から 1 を差し引いた値になります。 最大ペア数の算出方法は、「3.3.6 最大ペア数の制限」を参照してください。
コンシステンシーグループ	• VSP G150 の場合 最大 32 個 (0~31) • VSP G350、VSP F350、VSP G370、VSP F370、VSP G700、および VSP F700 の場合 最大 128 個 (0~127) • VSP G900 および VSP F900 の場合 最大 256 個 (0~255) • VSP E390、VSP E590、および VSP E790 の場合 最大 128 個 (0~127) • VSP E990 および VSP E1090 の場合 最大 256 個 (0~255)
ミラー	ミラー ID は 0 だけ指定できます。なお、ミラー ID の指定は省略できます。
ホストフェイルオーバーソフトウェア	• 災害リカバリに必要です。 • データの移動手段として使用する場合は、ホストフェイルオーバーの利用を推奨しますが、必須ではありません。 詳細情報は、「3.7 TrueCopy とホストフェイルオーバーソフトウェア」を参照してください。
TrueCopy インタフェース	• Storage Navigator ストレージ管理者（リモートバックアップ管理）ロールが必要です。 正サイトと副サイトのストレージシステムは、別々の LAN を使用して管理クライアントを接続します。 • RAID Manager RAID Manager のセットアップと RAID Manager の使用についての情報は、『RAID Manager ユーザガイド』を参照してください。

TrueCopy の計画

ストレージシステム、ペアボリューム、物理パス、その他 TrueCopy をセットアップして使用が可能になる前に注意する必要がある点について説明します。

- 3.1 TrueCopy を使用するためのストレージシステムの準備
- 3.2 TrueCopy のシステム性能の計画
- 3.3 TrueCopy のペアボリュームの計画
- 3.4 TrueCopy の物理パスの計画
- 3.5 TrueCopy で使用するポートの計画
- 3.6 コンシステンシーグループの計画
- 3.7 TrueCopy とホストフェイルオーバーソフトウェア

3.1 TrueCopy を使用するためのストレージシステムの準備

TrueCopy を使用するストレージシステムには、次の準備が必要です。

- Storage Navigator を使用する場合は、正サイトと副サイトのストレージシステムに、LAN を使用して管理クライアントを接続します。管理クライアントのセットアップについては、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。
- システムを構築するときに、ストレージシステムとホストを接続して、ストレージシステムからのセンサ情報が報告できるようにします。正サイトおよび副サイトのストレージシステムに、それぞれホストを接続する必要があります。副サイトのストレージシステムに専用のホストが接続できない場合、副サイトのストレージシステムと正サイトのホストを接続してください。
- 正サイトと副サイトのストレージシステムの間に、リモート接続パスを設置します。各ストレージクラスとチャネルエクステンダまたはスイッチ間のリモート接続パスを分散して、柔軟性と可用性を最大にします。正サイトと副サイトのストレージシステムの間のリモートパスは、ホストと副サイトのストレージシステムの間の論理パスと異なります。

関連概念

- [3.1.1 キャッシュメモリとシェアドメモリの増設および減設](#)
- [3.4 TrueCopy の物理パスの計画](#)

3.1.1 キャッシュメモリとシェアドメモリの増設および減設

キャッシュメモリは TrueCopy ペアの正サイトと副サイトのストレージシステムの両方で動作できるようにしてください。もし動作できなければ、TrueCopy のペア作成操作は失敗します。ローカル作業による負荷だけでなく、リモートコピーによる作業負荷も十分にサポートできるように、副サイトのストレージシステムのキャッシュメモリを用意してください。

- 本ストレージシステムの場合
TrueCopy は、基本部のシェアドメモリだけで使用できます。シェアドメモリを増設すると、ペアを作成できる容量が拡張されます。

なお、不要になったキャッシュメモリやシェアドメモリは減設できます。

TrueCopy ペアを使用している場合、キャッシュメモリとシェアドメモリの増設および減設に必要な手順を説明します。

(1) キャッシュメモリの増設の流れ

キャッシュメモリを増設する手順の流れを次に示します。

操作手順

1. ストレージシステム内のボリュームの状態を確認します。
2. ストレージシステム内のボリュームが、COPY 状態の TrueCopy ペアで使用しているボリュームの場合は、PAIR 状態へ遷移するのを待つか、TrueCopy ペアを分割します。
3. キャッシュメモリを増設します。
キャッシュメモリの増設は、保守員が実施します。
4. 手順 2 で TrueCopy ペアを分割した場合は、TrueCopy ペアを再同期します。

(2) キャッシュメモリの減設の流れ

キャッシュメモリを減設する手順の流れを次に示します。

操作手順

1. ストレージシステム内のボリュームの状態を確認します。
2. ストレージシステム内のボリュームが、COPY 状態の TrueCopy ペアで使用しているボリュームの場合は、PAIR 状態へ遷移するのを待つか、TrueCopy ペアを分割します。
3. キャッシュメモリを減設します。
キャッシュメモリの減設は、保守員が実施します。
4. 手順 2 で TrueCopy ペアを分割した場合は、TrueCopy ペアを再同期します。

(3) シェアドメモリの増設の流れ

シェアドメモリを増設する手順の流れを次に示します。

操作手順

1. ストレージシステム内のボリュームの状態を確認します。
2. ストレージシステム内のボリュームが、COPY 状態の TrueCopy ペアで使用しているボリュームの場合は、PAIR 状態へ遷移するのを待つか、TrueCopy ペアを分割します。
3. シェアドメモリを増設します。
シェアドメモリの増設は、保守員が実施します。
4. 手順 2 で TrueCopy ペアを分割した場合は、TrueCopy ペアを再同期します。

(4) シェアドメモリの減設の流れ

シェアドメモリを減設する手順の流れを次に示します。

操作手順

1. ストレージシステム内のボリュームの状態を確認します。
2. ストレージシステム内のボリュームが、TrueCopy ペアで使用しているボリュームの場合は、TrueCopy ペアを削除します。
3. シェアドメモリを減設します。
シェアドメモリの減設は、保守員が実施します。

3.1.2 TrueCopy のシステムオプションモード

TrueCopy では、ユーザ個々のニーズに対応するために、次の表に示すシステムオプションモードを用意しています。インストール時のストレージシステムでは OFF に設定されています。設定の変更については、お問い合わせください。

モード	説明
689	副サイトのストレージシステムでセカンダリボリュームの MP ユニットの Write ペンディング率が 60%以上のとき、形成コピー動作を抑止するかどうかを選択できます。 ・ ON: 副サイトのストレージシステムでセカンダリボリュームの MP ユニットの Write ペンディング率が 60%以上のとき、形成コピー動作を抑止し、形成コピー動作による副サイトのストレージシステムの Write ペンディング率の増加を抑止します。 ・ OFF: 副サイトのストレージシステムでセカンダリボリュームの MP ユニットの Write ペンディング率が 60%以上となっても、形成コピー動作を抑止しません。

モード

説明

784

RIO の MIH 時間を 5 秒に短縮します。このシステムオプションモードによる RIO の MIH 時間の短縮は、正サイトと副サイトの両方のストレージシステムでシステムオプションモードを ON に設定されている状態で、TrueCopy ペアの作成、または再同期をすると、TrueCopy ペア単位に有効となります。正サイトと副サイトのストレージシステムの間のリモートパスに障害を検出したときは、10 秒経過すると、交替パスで RIO をリトライします。

- ON : RIO の MIH 時間を 5 秒に短縮します。
RIO のタイムアウト時間と ABTS (Abort Sequence) のタイムアウト時間がそれぞれ 5 秒に短縮され、合わせて 10 秒経過すると、交替パスで RIO をリトライします。また、ペア作成および再同期時のデータコピーにおいて、5 秒以上の遅延が発生した場合は、ホスト I/O のレスポンス遅延を回避するため TrueCopy ペアの障害サスペンドが発生します。
- OFF : RIO の MIH 時間は副サイトのストレージシステムを登録したときに設定した時間です。デフォルトは 15 秒です。
RIO のタイムアウト時間と ABTS のタイムアウト時間が経過すると、交替パスで RIO をリトライします。

システムオプションモード 784 が ON の状態で、TrueCopy ペアのペア作成および再同期中に障害サスペンドが発生した場合は、リモートパスの状態やストレージシステムの負荷状態を確認してください。問題があれば取り除いた上で、再度、再同期してください。

システムオプションモード 784 は、1 つのリモート接続内にあるすべてのリモートパスのポートタイプが Fibre の場合だけサポートしています。1 つのリモート接続内にあるリモートパスのポートタイプがすべて iSCSI、または iSCSI と Fibre が混在している場合はサポートしていません。

1198

TrueCopy ペアの容量拡張操作時に、差分管理方式を、シェアドメモリ差分から階層差分に切り替えるために使用します。

このシステムオプションが ON の場合、システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定値に依存せず動作します。

SOM1198	SOM1199	機能概要	備考
OFF	OFF	差分管理方式を切り替えません。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定値で動作します。
ON	OFF	4TB 以下の TrueCopy、Universal Replicator、または GAD ペアの差分管理方式をシェアドメモリ差分から階層差分に切り替えます。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式を階層差分に切り替えます。
OFF	ON	4TB 以下の TrueCopy、Universal Replicator、または GAD ペアの差分管理方式を階層差分からシェアドメモリ差分に切り替えます。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式をシェアドメモリ差分に切り替えます。
ON	ON	4TB 以下の TrueCopy、Universal Replicator、または GAD ペアの差分管理方式をシェアドメモリ差分から階層差分に切り替えます。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式を階層差分に切り替えます。

モード	説明
1199	TrueCopy ペアの容量拡張操作時に、差分管理方式を、階層差分からシェアドメモリ差分に切り替えるために使用します。 このシステムオプションが ON の場合、システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定値に依存せず動作します。
1254	コピー先のボリュームの CLPR の MP ユニットの Write ペンディング率が 35%以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑止するかどうかを選択できます。 このオプションは、ストレージシステム内のすべての CLPR に一律機能を適用したいときに使います。CLPR 単位で機能の適用を変えたいときは、システムオプションモード 1260 を使ってください。 - ON : コピー先のボリュームの CLPR の MP ユニットの Write ペンディング率が 35%以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑止し、コピー先のストレージシステムの Write ペンディング率の増加を抑止します。 - OFF : システムオプションモード 689 の設定に従います。 [注意事項] - コピーしきい値オプションの適用フローを含む詳細については、『システム構築ガイド』のコピーしきい値オプションに関する項目を参照してください。 - このオプションは、次の DKCMAIN プログラムのバージョンで使えます。 - VSP E シリーズ 93-05-22-XX/XX 以降 93-05-04-XX/XX 以降、93-05-21-XX/XX 未満 93-04-04-XX/XX 以降、93-05-00-XX/XX 未満 - VSP G130, G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900 88-08-04-XX/XX 以降
1260	コピー先のボリュームの CLPR の MP ユニットの Write ペンディング率が 35%以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑止するかどうかを選択できます。 このオプションは、コピー先の CLPR ごとに機能の適用を変えたいときに使います。ストレージシステム内のすべての CLPR に一律機能を適用したいときはシステムオプションモード 1254 を使ってください。 - ON : コピー先のボリュームの CLPR の MP ユニットの Write ペンディング率が 35%以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑止し、コピー先のストレージシステムの Write ペンディング率の増加を抑止します。 - OFF : システムオプションモード 689 の設定に従います。 [注意事項] - コピーしきい値オプションの適用フローを含む詳細については、『システム構築ガイド』のコピーしきい値オプションに関する項目を参照してください。 - このオプションは、次の DKCMAIN プログラムのバージョンで使えます。 - VSP E シリーズ 93-05-22-XX/XX 以降 93-05-04-XX/XX 以降、93-05-21-XX/XX 未満 93-04-04-XX/XX 以降、93-05-00-XX/XX 未満 - VSP G130, G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900 88-08-04-XX/XX 以降

関連タスク

- [5.2 TrueCopy 操作のためにリモート接続を追加する](#)
- [7.2.4 TrueCopy のリモートパスを追加する](#)

- 7.3.3 計画的に TrueCopy の副サイトのストレージシステムまたはリモート接続を停止する流れ

3.1.3 システム詳細設定

TrueCopy で設定できるシステム詳細設定を次の表に示します。システム詳細設定は、[システム詳細設定編集] 画面で設定できます。設定方法については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

システム詳細設定 No.	デフォルト	説明																																			
5、6	OFF	システム詳細設定 No.5 と No.6 の設定を変更すると、TrueCopy、Universal Replicator、または global-active device の新規ペアおよび既存ペアの差分管理方式を変更できます。																																			
		システム詳細設定の No.5 と No.6 との組み合わせによる動作の違いは次のとおりです。																																			
		<table><tr><th colspan="2">システム詳細設定</th><th colspan="2">新規ペアの差分管理方式</th><th colspan="2">既存ペアの差分管理方式</th></tr><tr><th>No.5</th><th>No.6</th><th>シェアドメモリ差分</th><th>階層差分</th><th>階層差分からシェアドメモリ差分へ変更</th><th>シェアドメモリ差分から階層差分へ変更</th></tr><tr><td>OFF</td><td>OFF</td><td>○</td><td></td><td>○¹</td><td></td></tr><tr><td>ON</td><td>OFF</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○¹</td></tr><tr><td>OFF</td><td>ON</td><td></td><td>○</td><td>—²</td><td>—²</td></tr></table>						システム詳細設定		新規ペアの差分管理方式		既存ペアの差分管理方式		No.5	No.6	シェアドメモリ差分	階層差分	階層差分からシェアドメモリ差分へ変更	シェアドメモリ差分から階層差分へ変更	OFF	OFF	○		○ ¹		ON	OFF		○		○ ¹	OFF	ON		○	— ²	— ²
		システム詳細設定		新規ペアの差分管理方式		既存ペアの差分管理方式																															
		No.5	No.6	シェアドメモリ差分	階層差分	階層差分からシェアドメモリ差分へ変更	シェアドメモリ差分から階層差分へ変更																														
		OFF	OFF	○		○ ¹																															
		ON	OFF		○		○ ¹																														
		OFF	ON		○	— ²	— ²																														
		注																																			
		1. システム詳細設定を設定後に再同期操作を行い、PAIR 状態に遷移する際に既存ペアの差分管理方式が変更されます。																																			
2. 既存ペアの差分管理方式は変更されません。シェアドメモリ差分のペアの場合は、再同期後もシェアドメモリ差分を、階層差分のペアの場合は、再同期後も階層差分を維持します。																																					
[注意事項]																																					
・ ユーザ容量が 4,194,304MB より大きい DP-VOL を用いたペアに関しては、No.5 と No.6 の設定に関係なく、新規ペア作成時に、階層差分が適用されます。																																					
・ 正サイトと副サイトのストレージシステムで、システム詳細 No.5 と No.6 を同じ設定にしてください。																																					
・ システムオプションモード 1198、1199 を設定している場合は、システムオプションモード 1198、1199 の動作仕様が優先されます。「 3.1.2 TrueCopy のシステムオプションモード 」を参照してください。																																					

3.2 TrueCopy のシステム性能の計画

リモートコピー操作はホスト、ならびに正サイトと副サイトのストレージシステムの I/O 性能に影響を与えるおそれがあります。TrueCopy は同期操作が性能に与える影響を最小化、コピー操作の効果を最大化しつつ、バックアップデータの整合性を最高レベルにするために、次のオプションを提供しています。

- 副サイトのストレージシステムのオプション
- 形成コピーに関するシステム全体および CU 全体のオプション
- ペアオプション

日立のサービスプロバイダが次のようにコピー動作最適化を支援することもできます。

- **Write** 作業負荷を分析。収集する作業負荷データ (MB/s and IOPS) を参考に以下の主要要素を決定できます。正確にサイズを測定すると、すべての作業負荷レベル以下でデータボトルネックなしに動作するリモート接続パスを作成します (ボトルネックは性能に深刻な影響を与えます)。
 - 帯域量
 - リモート接続パス数
 - ホストインタフェースパス数
 - 正サイトと副サイトのストレージシステムの TrueCopy 専用ポート数
- 災害リカバリのために **TrueCopy** をセットアップする場合、必ず副サイトのストレージシステムをホストに接続してください。これによってセンス情報の報告とホストフェイルオーバ情報の転送が可能になります。副サイトのストレージシステムを副サイトのホストに接続していない場合、システム管理者が副サイトの状況をモニタリングできるよう、副サイトのストレージシステムを正サイトのホストに接続してください。

関連タスク

- [5.3 リモートレプリカオプションを変更する](#)
- [7.2.1 TrueCopy のフェンスレベルを変更する](#)
- [7.2.3 TrueCopy のリモート接続オプションを変更する](#)

3.3 TrueCopy のペアボリュームの計画

TrueCopy ペアボリュームを計画するため、次の項目を実行してください。

- 正サイトのストレージシステムではバックアップする必要がある重要なデータを含むボリュームを識別する
- 副サイトのストレージシステムではコピーされたデータを保持するボリュームをセットアップする

関連概念

- [3.3.1 TrueCopy のペアボリュームの要件](#)
- [3.3.2 TrueCopy で複数のペアを同時に作成するときの注意事項](#)
- [3.3.3 OS と TrueCopy ペアボリュームに関する注意事項](#)
- [3.3.4 TrueCopy のセカンダリボリュームへの I/O](#)
- [3.3.5 TrueCopy の差分データの管理](#)
- [3.3.6 最大ペア数の制限](#)
- [3.3.7 TrueCopy ペアの形成コピー操作に設定した優先度と実行順序](#)

3.3.1 TrueCopy のペアボリュームの要件

TrueCopy ボリュームの要件を示します。

- TrueCopy ペア 1 つにつき 1 ボリュームだけ割り当てられます。
- セカンダリボリュームはプライマリボリュームと同じサイズであること。
- TrueCopy ではプライマリボリュームとセカンダリボリュームの間に 1 対 1 の関係が必要です。1 個のプライマリボリュームを複数のセカンダリボリュームにコピーすることはできません。また、複数のプライマリボリュームを 1 個のセカンダリボリュームにコピーすることもできません。
- 論理ユニット (LU) タイプ
 - TrueCopy は OPEN-V をサポートします。
 - TrueCopy のペアボリュームは同じタイプと容量を持つ LU で構成すること。プライマリボリュームとセカンダリボリュームの LU タイプは Storage Navigator または RAID Manager で確認できます。
- プライマリボリュームとセカンダリボリュームは、LUN パスが定義されたボリューム同士か、または、NVM サブシステムポートが追加された NVM サブシステムの Namespace が定義されたボリューム同士である必要があります。
- TrueCopy はファイル単位ではなくボリューム単位でコピーするため、マルチボリュームのファイルには特に注意してください。マルチボリュームのファイル（例：複数のボリュームにわたる大容量のデータベース）をコピーしたり回復したりする場合は、ボリュームのすべてのファイルが TrueCopy のセカンダリボリュームにコピーされたことを確認してください。
- TrueCopy のペアボリュームは TrueCopy 以外のプログラムプロダクトとも共用できます。
- TrueCopy は Virtual LUN (VLL) もサポートします。これによって標準 LU より小さい LU を構成できます。VLL ボリュームを TrueCopy ペアに割り当てる場合は、プライマリボリュームと同じ容量のセカンダリボリュームを指定してください。プライマリボリュームとセカンダリボリュームの LU は Storage Navigator または RAID Manager で確認できます。

3.3.2 TrueCopy で複数のペアを同時に作成するときの注意事項

複数のペアを同時に作成するときは、セットアップしたセカンダリボリュームがシステム内で正確に、選択したプライマリボリュームと一致するようにしてください。

Storage Navigator でのペア作成時に複数のボリュームをプライマリボリュームとして選択した場合、ダイアログボックスにはそれらのうち 1 つ、LUN が最小のものしか表示されません。このため指定できるセカンダリボリュームは 1 つだけです。システムは LUN に従い、選択したほかのプライマリボリュームに対するセカンダリボリュームとして、副サイトのストレージシステムの LUN を自動的に割り当てます。

例えば、副サイトのストレージシステムにセカンダリボリュームとしてセットアップした LUN001、LUN002、LUN003 という 3 個の LU がある場合、ペア作成時に 3 個のボリュームをプライマリボリュームとして選択し、その後 LUN001 をセカンダリボリュームとして選択します。システムはその後、ほかの 2 個のプライマリボリュームにセカンダリボリュームとして LUN002 と LUN003 を割り当てます。このため、適切な順序でセカンダリボリュームが選択できるように、LUN を割り当ててください。

3.3.3 OS と TrueCopy ペアボリュームに関する注意事項

1 つの TrueCopy ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの内容は同一のため、セカンダリボリュームはプライマリボリュームの複製と考えられます。ホストのオペレーティングシステム (OS) は、ボリュームの重複を許可しないため、複製ボリュームが原因で問題が起きないように、ホストのシステム管理者は注意してください。プライマリボリュームと同時に同じホストに自

動的にマウントされたりオンラインにされたりしないように TrueCopy セカンダリボリュームを定義してください。

TrueCopy セカンダリボリュームと TrueCopy プライマリボリュームが物理的に同じホストのサーバに接続している場合、次の問題が発生することがあります。

- TrueCopy ペアを削除すると、古いセカンダリボリュームは通常オフラインになります。ホストを再起動すると、システムはプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両者を提示して、システム管理者にどちらをオフラインにしておくか問い合わせます。これは混乱を招き、エラーの要因となるおそれがあります。

このような問題を防ぐために、TrueCopy セカンダリボリュームとプライマリボリュームが同じホストに接続している場合、セカンダリボリュームは常にオフラインになるよう定義しておくことを強くお勧めします。

3.3.4 TrueCopy のセカンダリボリュームへの I/O

セカンダリボリュームの読み取り（Read）オプションを指定すると、ペアが分割されている間、TrueCopy ペアを副サイトのストレージシステムから削除しないで、ホストから TrueCopy のセカンダリボリュームを読み取れます。

[セカンダリボリューム書き込み] (RAID Manager の場合は `pairsplit -rw`) を指定してペアを分割すると、セカンダリボリュームへの書き込みができるようになります。この場合、セカンダリボリュームとプライマリボリュームに書き込まれたデータは、トラック単位のビットマップで差分管理され、ペアを再同期するときに使用されます。

- ペアを分割すると、セカンダリボリュームへ書き込みできるようになります。
- セカンダリボリュームへの書き込みが可能になっているペアを再同期すると、副サイトのストレージシステムはセカンダリボリュームの差分データを正サイトのストレージシステムに送信します。このデータがプライマリボリュームの差分データとマージされ、両方のシステムで同期していないトラックが判別・更新されます。これによって再同期が保証されます。

3.3.5 TrueCopy の差分データの管理

差分データはトラック単位のビットマップで管理されます。ペア分割中に書き込み命令を受領したトラックが差分ビットマップとして管理されます。

RAID Manager を使用する場合、差分データの管理単位としてはトラックまたはシリンダを指定できますが、本ストレージシステムはトラックだけをサポートしているため、どちらを指定しても、あるいは何も指定しなくても、管理単位にはトラックが適用されます。

ボリュームの容量が 4,194,304MB (8,589,934,592block) より大きい DP-VOL を使用して TrueCopy ペアを作成した場合、TrueCopy ペアのボリュームが関連づけられているプールで差分データが管理されます。この場合、ボリュームの容量 4,123,168,604,160 バイトごとに、プログラムプロダクトの構成に応じた差分管理データ用のプール容量（最大 4 ページ）が必要です。



メモ

プールで管理されている差分データ（ページ）は、次の手順で解放します。

1. ページを解放したい仮想ボリュームを使用しているすべてのペアを削除します。
2. システムオプションモード 755 を OFF にします。
システムオプションモード 755 を OFF にすると、ゼロデータページを破棄できるようになります。
3. 閉塞しているプールを回復します。
4. 仮想ボリュームのページを解放します。

Storage Navigator では [ゼロデータページ破棄] 画面を、RAID Manager では `raidcom modify ldev` コマンドを使用します。

ページの解放には時間が掛かることがあります。また、4,194,304MB より大きい DP-VOL の TrueCopy ペア作成をサポートしていないファームウェアバージョンへダウングレードするときにも、ページの解放が必要です。

なお、ボリュームの容量が 4,194,304MB (8,589,934,592block) より大きい DP-VOL を使用して TrueCopy ペアを作成したあとで、プールの容量不足によってプールで差分データを管理できないことがあります。この場合、TrueCopy ペアを再同期するときには、プライマリボリュームのすべてのデータがトラック単位でセカンダリボリュームにコピーされます。

3.3.6 最大ペア数の制限

装置内のペアの最大数は、システム要件に記載されているモデルごとの値になります。しかし、ユーザの環境（ボリュームのサイズ）に応じて、ビットマップエリアの使用量が変わるため、最大ペア数がシステム要件に記載したモデルごとの値を下回る場合があります。ボリュームサイズから作成できる最大ペア数の算出する計算式について、説明します。

なお、ボリュームの容量が 4,194,304MB (8,589,934,592block) より大きい DP-VOL は、ビットマップエリアを使用しません。そのため、ボリュームの容量が 4,194,304MB (8,589,934,592block) より大きい DP-VOL を使用して TrueCopy ペアを作成する場合、最大ペア数は算出不要です。

関連概念

- [2.1 TrueCopy のシステム要件](#)
- [\(1\) TrueCopy のシリンダ数の算出方法](#)
- [\(2\) TrueCopy のビットマップエリアの算出方法](#)
- [\(3\) TrueCopy の最大ペア数の算出方法](#)

(1) TrueCopy のシリンダ数の算出方法

最初に、論理ブロック数を算出します。論理ブロック数はボリュームの容量で単位はブロックです。

論理ブロック数 = ボリューム容量 (バイト) ÷ 512

シリンダ数は、次の計算式を使って求めます。

シリンダ数 = (↑ ((↑ (論理ブロック数 ÷ 512) ↑) ÷ 15) ↑)

計算式で「↑ (計算式) ↑」は切り上げを意味します。

関連概念

- [\(2\) TrueCopy のビットマップエリアの算出方法](#)

(2) TrueCopy のビットマップエリアの算出方法

シリンダ数からビットマップエリア数を算出します。

ビットマップエリア数 = (↑ ((シリンダ数 × 15) ÷ 122,752) ↑)

計算式で「↑ (計算式) ↑」は切り上げを意味します。

122,752 は、ビットマップエリア 1 つ当たりの差分量です。差分量の単位はビットです。



メモ

必要ビットマップエリア数は、ボリュームごとに計算してください。複数ボリュームのシリンダ数を足した値を使用して必要ビットマップエリア数を算出した場合、正しい算出結果が得られないおそれがあります。例として 10,017 シリンダと 32,760 シリンダの 2 つのボリュームを使用する場合を示します。以下の正しい計算方法で計算してください。

- 正しい計算方法
 $(\uparrow ((10,017 \times 15) \div 122,752) \uparrow) = 2$
 $(\uparrow ((32,760 \times 15) \div 122,752) \uparrow) = 5$
合計 7 ビットマップエリア
- 誤った計算方法
 $10,017 + 32,760 = 42,777$ シリンダ
 $(\uparrow ((42,777 \times 15) \div 122,752) \uparrow) = 6$
合計 6 ビットマップエリア

関連概念

- (1) [TrueCopy のシリンダ数の算出方法](#)
- (3) [TrueCopy の最大ペア数の算出方法](#)

(3) TrueCopy の最大ペア数の算出方法

作成できる最大ペア数は次の値から算出します。

- ペア作成に必要なビットマップエリア数
- ストレージシステムで使用できるビットマップエリアの総数
 - ビットマップエリアの総数を次に示します。
VSP G150 : 3,712 個
VSP G350 および VSP F350 : 36,000 個
VSP G370、VSP F370、VSP G700、VSP F700、VSP G900、および VSP F900 : 65,536 個
VSP E シリーズ : 65,536 個
 - 使用するビットマップエリア数は、TrueCopy、Universal Replicator、および global-active device で共用です。そのため、これらのプロダクトを混在して運用する場合は、ストレージシステムのビットマップエリア総数から、それぞれのプロダクトの必要ビットマップエリア数を減算した後で、次の計算式で TrueCopy 作成可能最大ペア数を算出してください。なお、それぞれのプロダクトの必要ビットマップエリア数の算出方法は、対応するユーザガイドを参照ください。
 - 同じボリュームを TrueCopy と Universal Replicator で共用する場合も、共用するボリュームが正副どちらであっても、ストレージシステムのビットマップエリア総数から、Universal Replicator の必要ビットマップエリア数を減算したあとで、次の計算式で TrueCopy 作成可能最大ペア数を算出してください。なお、Universal Replicator の必要ビットマップエリア数の算出方法は、対応するユーザガイドを参照ください。

作成可能な最大ペア数は、ストレージシステムのビットマップエリア総数と必要ビットマップエリア数を使用して、次の計算式で求めます。

作成可能最大ペア数 = (↓ (ストレージシステムのビットマップエリア総数 ÷ 必要ビットマップエリア数) ↓)

計算式で「↓ (計算式) ↓」は切り下げを意味します。

TrueCopy の最大ペア数は、次のとおりです。

- VSP G150、VSP G350、および VSP F350 : 16,384 個
- VSP G370 および VSP F370 : 32,768 個
- VSP G700 および VSP F700 : 49,152 個
- VSP G900 および VSP F900 : 65,280 個
- VSP E390 : 16,384 個
- VSP E590 : 32,768 個
- VSP E790 : 49,152 個
- VSP E990 および VSP E1090 : 65,280 個

RAID Manager を使用している場合は、コマンドデバイスまたは仮想コマンドデバイスを定義する必要があります。したがって、最大ペア数は次のとおりです。

- VSP G150、VSP G350、および VSP F350 : 16,383 個
- VSP G370 および VSP F370 : 32,767 個
- VSP G700 および VSP F700 : 49,151 個
- VSP G900 および VSP F900 : 65,279 個
- VSP E390 : 16,383 個
- VSP E590 : 32,767 個
- VSP E790 : 49,151 個
- VSP E990 および VSP E1090 : 65,279 個

すでに求めた必要ビットマップエリア数と、次の表に示すストレージシステムのビットマップエリア数で計算します。ストレージシステムのビットマップエリア数は、TrueCopy 用に増設したシェアドメモリの有無とモデルによって決定されます。

TrueCopy 用のシェアドメモリの増設状況	ストレージシステムのビットマップエリア数							
	VSP G150	VSP G350 および VSP F350	VSP G370 および VSP F370	VSP G700 および VSP F700	VSP G900 および VSP F900	VSP E390	VSP E590 および VSP E790	VSP E990 および VSP E1090
Base (増設シェアドメモリなし)	3,712 個	3,712 個	36,000 個	36,000 個	65,536 個	65,536 個	65,536 個	65,536 個
増設あり	-	36,000 個	65,536 個	65,536 個	65,536 個	-	65,536 個	65,536 個

関連概念

- (2) [TrueCopy のビットマップエリアの算出方法](#)

3.3.7 TrueCopy ペアの形成コピー操作に設定した優先度と実行順序

[リモートレプリカオプション編集] 画面 (RAID Manager の場合は raidcom modify remote_replica_opt -copy_activity) で設定した最大形成コピー数の設定値を超えた数の形成コピー操作を実行する場合、実行する形成コピー操作に対して実行順序 (優先度) を設定できます。ここでは、優先度を設定した複数の形成コピー操作を 2 回実行した場合、形成コピー操作の実行順序の割り当てについて説明します。

最大形成コピー数の設定値が 2 の場合、同時に 4 個の TrueCopy ペアを作成する例について説明します。TrueCopy ペアのプライマリボリュームに設定した優先度を次の表に示します。

プライマリボリューム	【形成コピー優先度】に設定した値
LUN 00	2
LUN 01	3
LUN 02	1
LUN 03	4

形成コピーの開始順序とプライマリボリュームに設定した優先度を次の表に示します。

形成コピーの開始順序	プライマリボリューム	【形成コピー優先度】に設定した値
1	LUN 02	1
2	LUN 00	2
3	LUN 01	3
4	LUN 03	4

この場合、【最大形成コピー数】の設定値が 2 のため、LUN 02 と LUN 00 の形成コピーが開始されます。LUN 02 または LUN 00 の形成コピーのどちらかが完了すると、LUN 01 の形成コピーが開始されます。

さらに、新たに 2 つの TrueCopy ペアを追加する場合の、形成コピーが実行される順番の割り当てについて説明します。新たに追加する TrueCopy ペアのプライマリボリュームおよび優先度を次の表に示します。

プライマリボリューム	【形成コピー優先度】に設定した値
LUN 10	2
LUN 11	1

ある形成コピーを実行中に、新たに形成コピーを追加する場合、先に実行した形成コピーが完了したあとで追加分の形成コピーが実行されます。実行中のすべての形成コピーの優先度を次の表に示します。

形成コピーの開始順序	プライマリボリューム	【形成コピー優先度】に設定した値	備考
1	LUN 02	1	すでに形成コピーの実行が指示されている TrueCopy ペア
2	LUN 00	2	すでに形成コピーの実行が指示されている TrueCopy ペア
3	LUN 01	3	すでに形成コピーの実行が指示されている TrueCopy ペア
4	LUN 03	4	すでに形成コピーの実行が指示されている TrueCopy ペア
5	LUN 11	1	新たに形成コピーの実行が指示された TrueCopy ペア
6	LUN 10	2	新たに形成コピーの実行が指示された TrueCopy ペア

〔リモートレプリカオプション編集〕画面で設定する〔形成コピー優先度〕は、同時に実行した形成コピー操作の数の範囲内で決定されます。このため、最初の形成コピー操作で優先度の順番に従った形成コピー操作が完了するまで、追加分の形成コピー操作は開始されません。

3.3.8 VSP 5000 シリーズと接続する場合の注意事項

本ストレージシステムと VSP 5000 シリーズを接続する場合、ペアを作成する際に、LU 番号および Namespace ID について次に示す制約があります。

ペア作成時の LU 番号の制約

DKCMAIN プログラムバージョン 90-02-0X-XX/XX 以降の VSP 5000 シリーズは、LU 番号を 0～4095 まで割り当てることができます。ただし接続元を DKCMAIN プログラムバージョン 90-02-0X-XX/XX 以降の VSP 5000 シリーズとした場合、LU 番号が 2048～4095 の LU と、本ストレージシステムの LU で、ペアを作成しないでください。本ストレージシステムに、ペアのサスペンドなどの障害が発生する可能性があります。



メモ

- 本ストレージシステムでは、次に示すとおり最大 2048 の LU パスを設定できます。
 - ファイバチャネルのポートにホストグループを設定する場合、1 つのホストグループに 2048 までの LU パスを設定できます。また、ホストグループを介して 1 つのポートに設定できる LU パス数も 2048 までです。
 - iSCSI のポートに iSCSI ターゲットを設定する場合、1 つの iSCSI ターゲットに 2048 までの LU パスを設定できます。また、iSCSI ターゲットを介して 1 つのポートに設定できる LU パス数も 2048 までです。

接続元が本ストレージシステム、接続先が VSP 5000 シリーズで、ペアを作成する場合の LU 番号の制約を示します。

表 1 ペア作成時の LU 番号の制約

接続元の ストレージシステム	接続先のストレージシステム		制約	
	シリーズ	DKCMAIN プログラムバージョン	ペアを作成できる LU 番号	1 つのポートに設定できる LU パス数
90-02-0X-XX/XX 以降の VSP 5100, 5500	VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900	88-04-0X-XX/XX 以降	0～2047	0～2048
	VSP E590, VSP E790, VSP E990	全バージョン	0～2047	0～2048
90-08-02-XX/XX 以降の VSP 5100, 5500	VSP E1090	全バージョン	0～2047	0～2048
VSP 5200, 5600 (全バージョン)	VSP E590, VSP E790, VSP E990	93-05-03-XX/XX 以降	0～2047	0～2048
90-08-02-XX/XX 以降の VSP 5200, 5600	VSP E1090	全バージョン	0～2047	0～2048
VSP One B20 (全バージョン)	VSP G150, G350, G370, G700, G900 お	88-08-13-XX/XX 以降	0～2047	0～2048

接続元の ストレージシステム	接続先のストレージシステム		制約	
	シリーズ	DKCMAIN プログラムバージョン	ペアを作成できる LU 番号	1つのポートに設定できる LU パス数
	よび VSP F350, F370, F700, F900			
	VSP E590、VSP E790、VSP E990	93-07-22-XX/XX 以降	0～2047	0～2048
	VSP E1090	93-07-22-XX/XX 以降	0～2047	0～2048

ペア作成時の Namespace ID の制約

VSP 5000 シリーズは、Namespace ID を 1～4096 まで割り当てることができます。ただし、VSP 5000 シリーズと VSP E1090 を接続する場合、Namespace ID が 2049～4096 の Namespace を使ってペアを作成しないでください。本ストレージシステムに、ペアのサスペンドなどの障害が発生する可能性があります。

本ストレージシステムと VSP 5000 シリーズを接続し、ペアを作成する場合の Namespace ID の制約を次の表に示します。

表 2 ペア作成時の Namespace ID の制約

接続元のストレージシステム	接続先のストレージシステム		制約	
	シリーズ	DKCMAIN プログラムのバージョン	ペアを作成できる Namespace ID	NVM サブシステムに作成できる Namespace 数
90-09-21-XX/XX 以降の VSP 5000 シリーズ	VSP 5000 シリーズ	90-09-21-XX/XX 以降	1～4096	4096
	VSP E1090	93-07-21-XX/XX 以降	1～2048	2048

3.4 TrueCopy の物理パスの計画

正サイトと副サイトのストレージシステムを接続する物理パスは、プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームに送信される可能性のあるデータの総量を十分に管理できるようにしてください。

なお、物理パスに使用できるインタフェースは、ファイバチャネルまたは iSCSI です（FC-NVMe は未サポートです）。iSCSI インタフェースを使用する場合は、10Gbps iSCSI チャネルボードのポートを使用してください。25Gbps iSCSI チャネルボードは、ストレージシステム間の接続に使用できません。

関連概念

- [3.4.1 TrueCopy に必要な帯域量](#)
- [3.4.2 TrueCopy のファイバチャネル接続](#)
- [3.4.3 TrueCopy の接続形態](#)

- [3.4.4 iSCSI を使用するときの注意事項](#)
- [3.4.5 ファイバチャネルを使用するときの注意事項](#)

3.4.1 TrueCopy に必要な帯域量

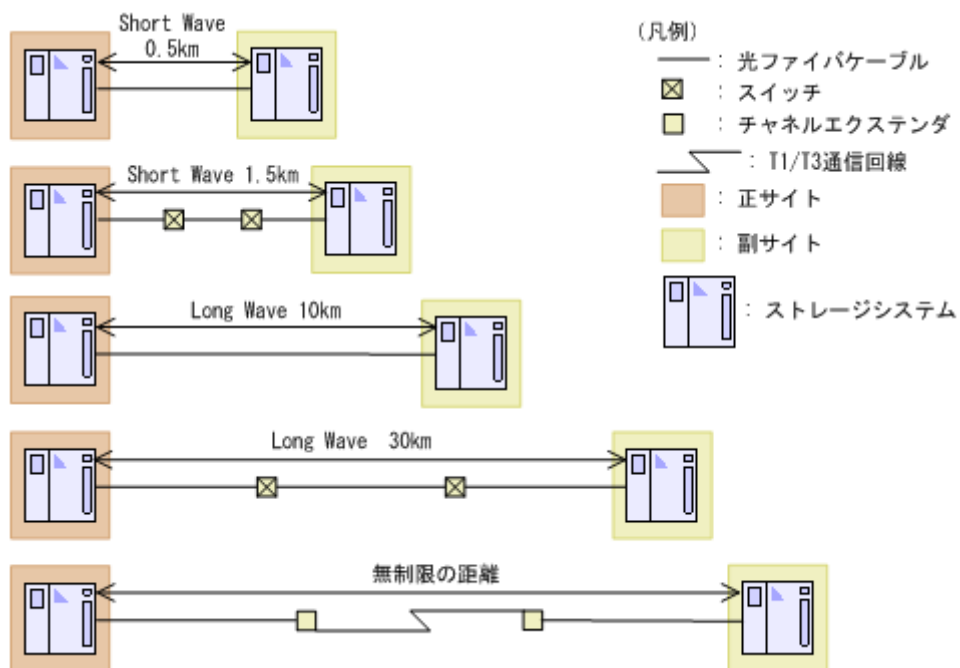
すべての作業負荷レベルのデータ転送に対処するため、十分な帯域が必要です。TrueCopy システムに必要な帯域量は、サーバからプライマリボリュームに送信される I/O 量に基づいています。Write 作業負荷を測定して必要な帯域を決定してください。作業負荷データは、性能モニタリングソフトウェアを使って収集できます。

関連概念

- [3.4 TrueCopy の物理パスの計画](#)

3.4.2 TrueCopy のファイバチャネル接続

Short Wave (オプティカルマルチモード) または Long Wave (オプティカルシングルモード) の光ファイバケーブルを使って、正サイトと副サイトのストレージシステムを接続します。正サイトと副サイトのストレージシステム間の距離によって、次のとおり必要なケーブルおよびネットワーク中継機器が異なります。



ストレージシステム間の距離	ケーブルの種類	ネットワーク中継機器
～1.5km	Short Wave (オプティカルマルチモード)	0.5km～1.5km の場合は、スイッチが必要
1.5km～10km	Long Wave (オプティカルシングルモード)	特になし
10km～30km	Long Wave (オプティカルシングルモード)	スイッチが必要
30km 以上	通信回線	認可されたサードパーティー製のチャンネルエクステンダが必要

ファイバチャネル接続でスイッチを使用する場合、本ストレージシステム用の特別な設定は不要です。

Long Wave では、10km まで直接接続（直結）をサポートしています。ただし、最高性能を発揮できる最大距離はリンクスピードによって異なります。リンクスピードと最高性能を発揮できる最大距離との関係を次の表に示します。

リンクスピード	最高性能を発揮できる最大距離
4Gbps	3km
8Gbps	2km
16Gbps	1km
32Gbps	0.6km

シリアルチャネルによる TrueCopy 接続の可用性に関する最新情報は、お問い合わせください。

関連概念

- [3.4 TrueCopy の物理パスの計画](#)

3.4.3 TrueCopy の接続形態

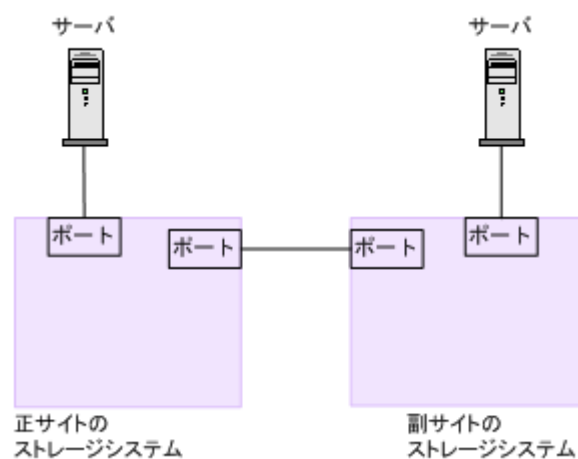
TrueCopy では、3 種類の接続形態がサポートされています。ポートおよびトポロジの設定には LUN Manager または RAID Manager のコマンドを使用します。

関連概念

- [3.4 TrueCopy の物理パスの計画](#)
- (1) [直結の接続形態](#)
- (2) [スイッチを使用した接続形態](#)
- (3) [チャンネルエクステンダを使用した接続形態](#)

(1) 直結の接続形態

2 個のデバイスを直結します。



正サイトと副サイトのストレージシステムの間にオープンパッケージを使用している環境で、長距離（10km 以下の Long Wave）で直結構成の場合、次のホストモードオプションを設定すると、ストレージシステム間の I/O 応答時間が改善され、ホスト I/O の応答時間を改善できます。

- ホストモードオプション 51（Round Trip Set Up Option）



メモ

iSCSI で接続する場合、ホストモードオプションの設定は無効になります。

各ホストモードオプションについては、『システム構築ガイド』を参照してください。

なお、ストレージシステム間の接続に使用するパッケージ、プロトコル、およびホストモードオプション 51 の設定によって、Fabric やトポロジの設定が次のとおり異なります。また、設定できるリンクスピードも異なります。

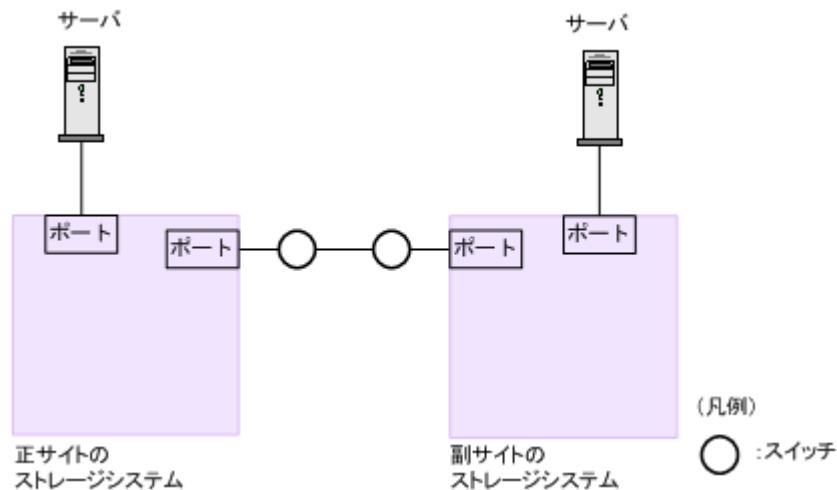
パッケージ名	プロトコル	ホストモード オプション 51 の設定	Fabric の設定	トポロジ	設定できるリ ンクスピード
CHB(FC32G)	32GbpsFC	OFF	OFF	FC-AL	4Gbps 8Gbps
		ON	OFF	FC-AL	4Gbps 8Gbps
		OFF	OFF	Point-to-Point	16Gbps 32Gbps
		ON	OFF	Point-to-Point	16Gbps 32Gbps

関連概念

- 3.4.3 TrueCopy の接続形態

(2) スイッチを使用した接続形態

スイッチを使用して接続します。



一部のスイッチベンダーでは F ポートが必要です (例 : McData ED5000)。

正サイトと副サイトのストレージシステムの間にオープンパッケージを使用している環境で、長距離 (100km 程度) でスイッチ構成の場合、次のホストモードオプションを設定すると、ストレージシステム間の I/O 応答時間が改善され、ホスト I/O の応答時間を改善できます。

- ホストモードオプション 51 (Round Trip Set Up Option)



メモ

iSCSI で接続する場合、ホストモードオプションの設定は無効になります。

各ホストモードオプションについては、『システム構築ガイド』を参照してください。

なお、ストレージシステム間の接続に使用するパッケージ、プロトコル、およびホストモードオプション 51 の設定によって、Fabric やトポロジの設定が次のとおり異なります。また、設定できるリンクスピードも異なります。

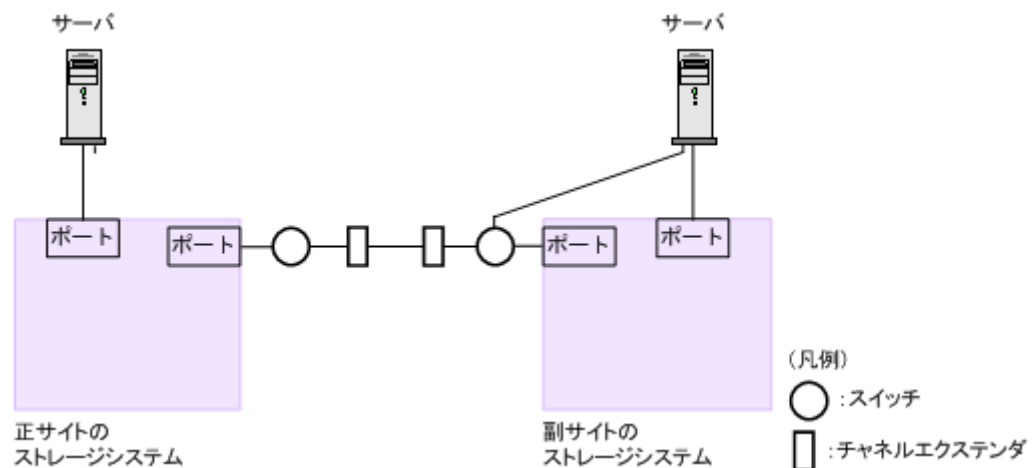
パッケージ名	プロトコル	ホストモード オプション 51 の設定	Fabric の設定	トポロジ	設定できる リンクスピード
CHB(FC32G)	32GbpsFC	OFF	ON	Point-to-Point	4Gbps 8Gbps 16Gbps 32Gbps
		ON	ON	Point-to-Point	4Gbps 8Gbps 16Gbps 32Gbps

関連概念

- 3.4.3 TrueCopy の接続形態

(3) チャネルエクステンダを使用した接続形態

長距離にわたってデバイスを接続するためには、チャネルエクステンダとスイッチを使用します。



Fabric を ON、トポロジを Point-to-Point に設定してください。



注意

正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムをスイッチ経由でチャネルエクステンダ接続した状態で、複数のリモートコピーのパスを 1 か所にまとめた場合、構成およびスイッチのルーティングの設定によっては、特定のスイッチにデータ転送量が集中するおそれがあります。弊社のスイッチを使用する場合の構成およびルーティングの設定については、お問い合わせください。



注意

チャンネルエクステンダがリモート I/O をサポートできることを確認してください。詳細についてはお問い合わせください。



メモ

- ・ 正サイトと副サイトの各ストレージシステムの間には、少なくとも 2 つの独立した物理パス（クラスタごとに 1 つ）を設定して、この重要な通信パスにハードウェア的な冗長性を持たせてください。
- ・ 4,000 個以上のペアを使用する場合は、物理パスへの負荷を分散するために、1 本の物理パスを使用するペアが 4,000 個以下となるように物理パスを分けてペアを作成することを推奨します。
- ・ 災害リカバリ時には、同じ Write 作業負荷が逆方向でも使用されます。したがって、災害リカバリのために TrueCopy の導入を計画する場合は、通常動作時の正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへの物理パスと同じ数の副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスを設置してください。正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへの物理パスとは別に、逆方向の物理パスを設置してください。
- ・ 災害リカバリ用に副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへのリモート接続を追加するときは、正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへのリモート接続を追加したときに指定したものと同一パスグループ ID を、指定してください。

関連概念

- ・ [3.4.3 TrueCopy の接続形態](#)

3.4.4 iSCSI を使用するときの注意事項

iSCSI を使用してシステムを構築するときには、次に示す注意が必要です。

iSCSI に関する説明は、『システム構築ガイド』を参照してください。

関連概念

- ・ [3.4 TrueCopy の物理パスの計画](#)
- ・ [3.4.3 TrueCopy の接続形態](#)

(1) リモートパスに関する注意事項（iSCSI を使用するとき）

リモートパスに iSCSI を使用する場合、[パス閉塞監視] (RAID Manager の場合は `raidcom modify remote_replica_opt`) はデフォルトの 40 (秒) のままにしてください。[パス閉塞監視] を短くした場合、スイッチのスパニングツリーなどネットワーク上の遅延要因によって、パスが閉塞するおそれがあります。

(2) 物理パスに関する注意事項（iSCSI を使用するとき）

- ・ 同一パスグループにリモートパスを追加する場合、同一プロトコルでリモートパスを構成することを推奨します。ファイバチャネルと iSCSI が混在する構成は、性能に影響を与えることがあります。
- ・ ホストとストレージシステム間の物理パス、およびストレージシステム間の物理パスでは、同一プロトコルを使用することを推奨します。
次の例のように、使用するプロトコルが混在する場合、ホストとストレージシステム間のコマンドのタイムアウト時間には、ストレージシステム間のコマンドのタイムアウト時間以上の値を設定してください。
 - ホストとストレージシステム間の物理パス：ファイバチャネル
 - ストレージシステム間の物理パス：iSCSI

- DKC 間の物理パスに、複数の iSCSI のパスを使用すると、それぞれの物理パスの間で、レスポンスタイムに差が発生する場合があります。レスポンスタイムの差を抑えたい場合は、データ転送時間を短縮させることでコマンド多重数の偏りを軽減する必要があります。このため、物理パスのポート (MCU/RCU の両方) に対して、以下を設定してください。
 - Window Size の拡張 (1,024KB)
 - HMO104 の設定
 - HMO127 の設定
 上記の設定で改善されない場合は、物理パスの構成について、回線帯域の拡張や物理パスの追加を検討してください。
- 10Gbps iSCSI チャンネルボードのポートを使用して、ストレージシステム間を接続してください。25Gbps iSCSI チャンネルボードは、ストレージシステム間の接続に使用できません。

(3) ポートに関する注意事項 (iSCSI を使用するとき)

- iSCSI ポートのパラメータの設定を変更するときは、一時的に iSCSI の接続が切断され、その後再接続されます。システムへ影響がないように、I/O 負荷の低い時間帯にパラメータの設定を変更してください。
- ホストと接続している iSCSI ポートの設定を変更すると、ホストでログが出力されることがありますが、問題ありません。システムログを監視しているシステムでは、アラートが出力されるおそれがあります。アラートが出力された場合は、iSCSI ポートの設定を変更したあと、ホストが再接続されているかどうかを確認してください。
- ストレージシステム間の接続に iSCSI を使用している場合、同一のポートを使用してホストと接続しているときでも、[ポート編集] 画面で [遅延 ACK] を [無効] (RAID Manager の場合は `raidcom modify port -delayed_ack_mode disable`) にしてください。
 ポートの [遅延 ACK] が [有効] (RAID Manager の場合は `raidcom modify port -delayed_ack_mode enable`) の場合、ホストから TrueCopy ペアで使用しているボリュームの認識に時間が掛かることがあります。ボリュームが 2,048 個のときは、8 分掛かります。なお、[遅延 ACK] のデフォルトは [有効] です。
- ポートの [選択型 ACK] は [有効] (デフォルト) のままにしてください。
- 長距離での接続など、ストレージシステム間の回線で遅延が発生する環境では、正サイトと副サイトのストレージシステムの両方で、iSCSI ポートのウィンドウサイズを 1,024KB まで変更できます。なお、iSCSI ポートのウィンドウサイズのデフォルトは 64KB です。
- iSCSI ポートはフラグメント処理 (パケットの分割処理) をサポートしていません。スイッチの最大送信単位 (MTU) の値が、iSCSI ポートの MTU の値より小さい場合、パケットが消失し、正常に通信できないおそれがあります。スイッチの MTU の値は iSCSI ポートの MTU 値以上の値を設定してください。MTU の設定および値に関しては、スイッチのマニュアルを参照してください。
 なお、iSCSI ポートの MTU の値は 1500 以下に設定できません。MTU の値が 1500 未満の WAN 環境では、フラグメント処理によって分割されたデータを送受信できません。この場合、WAN 環境に合わせて WAN ルータの最大セグメントサイズ (MSS) を小さくしてから、iSCSI ポートに接続してください。または、MTU の値が 1500 以上の WAN 環境で使用してください。
- 仮想ポートモードを有効にした iSCSI ポートでリモートパスを使用する場合、iSCSI ポートの仮想ポート ID (0) のポート情報を使用してください。0 以外の仮想ポート ID を仮想ポートとして使用できません。
- 1 つのポートを、ホストとの接続 (Target 属性) とストレージシステムとの接続 (Initiator 属性) の両方に使用できます。ただし、ホストとストレージシステムのどちらかで障害が発生し

たときに、システムへの影響の範囲を軽減するには、ホストと接続するポートとストレージシステムと接続するポートを、別々の CHB に接続することを推奨します。

(4) ネットワークの設定に関する注意事項 (iSCSI を使用するとき)

- iSCSI ポートに接続しているスイッチのポートでは、スパニングツリーの設定を無効にしてください。スイッチでスパニングツリー機能を有効にすると、リンクがアップまたはダウンするときに、ネットワーク上でパケットがループしなくなります。このときに、パケットが約 30 秒間遮断されるおそれがあります。スパニングツリーの設定を有効にする必要がある場合は、スイッチの Port Fast 機能を有効にしてください。
- ストレージシステム間のネットワーク経路で、iSCSI ポートの転送速度よりも転送速度が低い回線を使用した場合、パケットが消失し、回線品質が低下します。iSCSI ポートの転送速度と回線が、同一の転送速度となるシステム環境を構築してください。
- ストレージシステム間の回線の遅延はシステム環境によって異なるため、事前にシステムを検証して、最適な iSCSI ポートのウィンドウサイズの設定を確認してください。回線の遅延の影響が大きいと判断した場合は、WAN 最適化・高速化の装置の適用を検討してください。
- iSCSI を使用する場合、TCP/IP でパケットを送受信します。このため、パケットの量が通信回線の許容量を超えてしまったり、パケットの再送が発生することがあり、性能に大きく影響を与えるおそれがあります。性能を重視する重要なシステムの場合は、ファイバチャネルを使用してください。

3.4.5 ファイバチャネルを使用するときの注意事項

ファイバチャネルを使用してシステムを構築するときには、次に示す注意が必要です。

ファイバチャネルに関する説明は、『システム構築ガイド』を参照してください。

関連概念

- [3.4 TrueCopy の物理パスの計画](#)
- [3.4.2 TrueCopy のファイバチャネル接続](#)
- (1) [リモートパスに関する注意事項 \(ファイバチャネルを使用するとき\)](#)

(1) リモートパスに関する注意事項 (ファイバチャネルを使用するとき)

- リモートパスにファイバチャネルを使用して [ポートスピード] を [Auto] に指定する場合、[パス閉塞監視] を 10 (秒) 以上に指定してください。[パス閉塞監視] を 9 (秒) 以内に指定する場合は、[ポートスピード] を [Auto] 以外に指定してください。
- [パス閉塞監視] で指定した時間が短い場合、ネットワーク上の遅延やスピードネゴシエーションの時間の超過によって、パスが閉塞するおそれがあります。
- リモートパスで使用中のポートの [Fabric] または [接続形態] の設定を変更した場合、相手装置とのトポロジ (Fabric, FC-AL, Point-to-point) が不一致となり、リモートパスが閉塞するおそれがあります。
そのため、リモートパスを削除したあとに [Fabric] または [接続形態] の設定を変更してください。
- 接続するストレージシステムが 64Gbps のファイバチャネルを使用する場合は、接続するストレージシステムの『TrueCopy ユーザガイド』も参照してください。

(2) リモートパスを接続するスイッチのゾーニング設定

1 つの FC-SAN (Fibre Channel Storage Area Network) に、リモートパスのファイバチャネルポートを接続する場合、スイッチのゾーニング設定を検討してください。

ゾーニング設定のメリット

- ・ リモートパスのファイバチャネルポート (Initiator ポートおよび RCU Target ポート) のアクセス範囲と、ほかのリモートパスやほかのファイバチャネルポートとのアクセス範囲を、切り離して運用できます。
- ・ ファイバチャネルポートや通信経路に障害が発生した場合、または保守作業を行う場合に、RSCN (Registered state change notification) の通信負荷をゾーンの内部に限定できます。

ゾーニング設定に関する注意事項

- ・ リモートパスの運用以外の目的でゾーニングを設定している場合は、そのゾーニング設定に影響を与えないように注意してください。
- ・ 1 つリモートパスに対して、1 つのゾーンを設定して運用することを推奨します。
- ・ 1 つの FC-SAN に、リモートパスのファイバチャネルポートが 16 個以上接続される場合は、必ずゾーニングを設定してください。
- ・ リモートストレージシステムの運用中に、ゾーニング設定を変更する場合は、リモート I/O への影響を考慮してください。また、ゾーニング設定を誤ると、リモートパス間の通信ができなくなるなどの不具合が発生します。



メモ

ゾーニングの設定方法および機能の詳細については、使用するスイッチのユーザマニュアルを参照してください。

3.4.6 FC-NVMe を使用するときの注意事項

ホストとストレージシステムの接続に FC-NVMe を使用してシステムを構築するときには、次に示す注意が必要です。FC-NVMe を使用する場合はサポートストレージシステム、サポートファームウェアバージョンは、[「2.1 TrueCopy のシステム要件」](#)を参照してください。

FC-NVMe に関する説明は、『システム構築ガイド』を参照してください。

(1) リモートパスに関する注意事項 (FC-NVMe を使用するとき)

リモートパスに FC-NVMe を使用する構成は未サポートです。

(2) ホストとストレージシステムの物理パスに関する注意事項 (FC-NVMe を使用するとき)

ホストとストレージシステム間のコマンドのタイムアウト時間には、ストレージシステム間のコマンドのタイムアウト時間以上の値を設定してください。

(3) ファイバチャネルまたは iSCSI の LU パス定義との混在に関する注意事項

FC-NVMe のボリューム (NVM サブシステムポートが追加された NVM サブシステムの Namespace が設定されているボリューム) とファイバチャネルまたは iSCSI のボリューム (LU パスが設定されているボリューム) を組み合わせたペアは作成できません。組み合わせによるペア作成可否を示します。

プライマリボリューム	セカンダリボリューム	ペア作成可否
FC-NVMe	FC-NVMe	○
FC-NVMe	ファイバチャネルまたは iSCSI	×
ファイバチャネルまたは iSCSI	FC-NVMe	×
ファイバチャネルまたは iSCSI	ファイバチャネルまたは iSCSI	○

(凡例)

- ：ペア作成できる
- ×

(4) 3 データセンタ（3DC）構成に関する注意事項

FC-NVMe でホストに接続されているボリュームを使用した、3 データセンタ（3DC）構成のサポート状況は、『Universal Replicator ユーザガイド』の Universal Replicator の概要を参照してください。

(5) 他ストレージシステムとの接続構成に関する注意事項

FC-NVMe でホストに接続されているプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームについて、サポートしているストレージシステムの組み合わせは、お問い合わせください。

(6) RAID Manager によるペア操作に関する注意事項

FC-NVMe でホストに接続されているボリュームを使用する場合は、ダミー LU でペアボリュームを指定します。詳細は、『RAID Manager ユーザガイド』の、FC-NVMe の Namespace ペア操作に関するトピックを参照してください。

3.5 TrueCopy で使用するポートの計画

データは、正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへ、リモート接続パスに沿って転送されます。

それぞれのポートが送受信できるデータ量には制限があります。ピーク期間中に転送予定のデータ量（Write 作業負荷）を把握してください。これによって帯域をデータ転送要件に合致させられるだけでなく、すべての作業負荷レベルに対応するのに十分なポート数を各システムで算出できます。



注意

ファイバチャネルインタフェースに対して、リモート接続追加、リモートパス追加、またはリモート接続削除操作と、LUN Manager の SCSI パス定義機能を同時に使用しないでください。

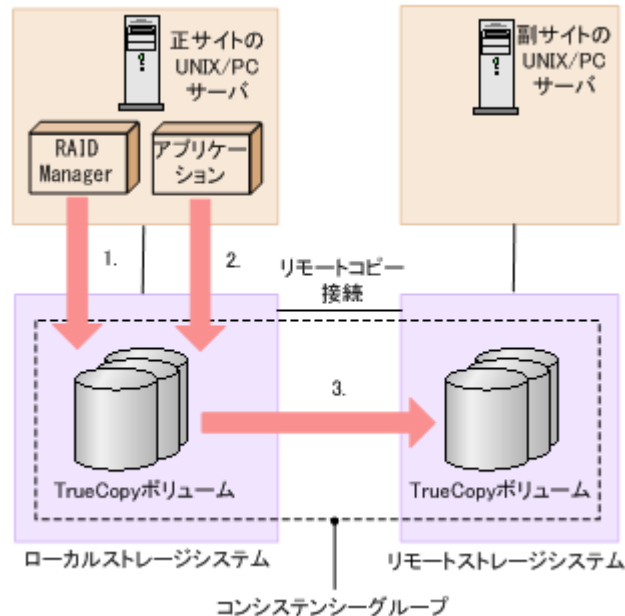
3.6 コンシステンシーグループの計画

コンシステンシーグループによって、最大 4 組のストレージシステムのペアのグループに対して、同時に 1 つのペア操作を実行できます。コンシステンシーグループによって、同じグループ内ペアがある最大 4 台の副サイトのストレージシステムに格納されたセカンダリボリューム間で、データの一貫性を保持できます。

どのペアをコンシステンシーグループに登録するかを決定してください。これは特定のグループのペア全体の状態を一致させるため、また、それらのペアに対して特定の操作を同時に実行するために、運用上の基準に基づいて決定してください。

3.6.1 コンシステンシーグループの動作（1組のストレージシステムで構成される場合）

1組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループに、TrueCopy ペアを作成、更新、コピーする場合の概要を示します。



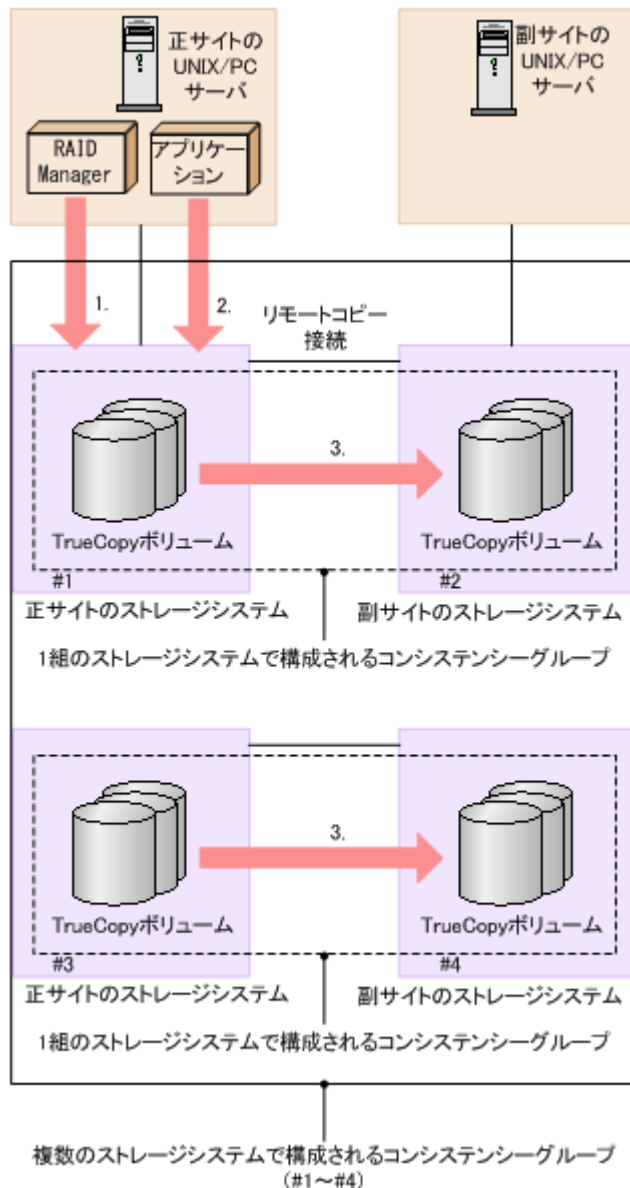
操作手順

1. RAID Manager から指定したコンシステンシーグループに TrueCopy ペアが作成される。
2. オープンシステム用サーバのアプリケーションから I/O 要求を受け付け、ボリュームのデータを更新する。
3. コンシステンシーグループ内で TrueCopy のコピーが実行される。

TrueCopy ペアを作成し、それらを RAID Manager を使ってコンシステンシーグループに割り当てる操作については、『RAID Manager ユーザガイド』および『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

3.6.2 コンシステンシーグループの動作（複数組のストレージシステムで構成される場合）

複数組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループに、TrueCopy ペアを作成、更新、コピーする場合の概要を示します。



操作手順

1. RAID Manager から複数組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループを運用
2. オープンシステム用サーバのアプリケーションから I/O 要求を受け付け、ボリュームのデータを更新する。
3. コンシステンシーグループ内で TrueCopy のコピーが実行される。

ペア作成時にペアをコンシステンシーグループに割り当てられます。複数組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループの構成の作成、コンシステンシーグループへの TrueCopy ペア、および操作については、『RAID Manager ユーザガイド』および『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

(1) コンシステンシーグループで保障されるシステム構成

次の表に、複数組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループのセカンダリボリューム間のデータ一貫性の保証の対象となるシステム構成を示します。

上位システムのデータの更新 順序性※	セカンダリボリューム間のデータ一貫性の保証範囲
OPEN サーバ間でデータ更新 の順序性の保証あり	副サイトの複数のストレージシステム内の TC セカンダリボリューム

注※

上位システムでデータの更新順序が保証されていない（データ更新の順序性が不要な）場合は、セカンダリボリューム間でのデータ一貫性は保証されません。

(2) 新規のコンシステンシーグループにペアを登録する

新規に複数組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループを構成し、TrueCopy ペアを登録する手順を次に示します。

新規に TrueCopy ペアを作成する場合

1. RAID Manager 用の構成定義ファイル C を複数組のストレージシステムの構成で作成する。
2. RAID Manager から、コンシステンシーグループへの登録を指定して、TrueCopy ペア作成操作を実施する（構成定義ファイル C に対して操作する）。

既存の TrueCopy ペアを使用する場合

1. 既存の TrueCopy ペアを RAID Manager から操作するために、RAID Manager 用の構成定義ファイル（構成定義ファイル A）を作成する。
2. RAID Manager から、ペア分割操作を実施する（構成定義ファイル A に対して操作する）。
3. RAID Manager から、コンシステンシーグループを指定しないで、ペア再開操作を実施する（構成定義ファイル A に対して操作する）。
4. RAID Manager から、ペア分割操作を実施する（構成定義ファイル A に対して操作する）。
5. 新規に RAID Manager 用の構成定義ファイル（構成定義ファイル C）を複数組のストレージシステムの構成で作成する。
6. RAID Manager から、コンシステンシーグループへの登録を指定して、ペア再開操作を実施する（構成定義ファイル C に対して実施する）。



ヒント

既存の TrueCopy ペアを削除したあとに、「新規に TrueCopy ペアを作成する場合」の手順を実施できます。

(3) 既存のコンシステンシーグループにペアを登録する

既存の複数組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループに、TrueCopy ペアを登録する手順を次に示します。

新規に TrueCopy ペアを作成する場合

1. 既存の RAID Manager 用の構成定義ファイル（構成定義ファイル B）に追加したい TrueCopy ペアの情報を追加して、構成定義ファイル（構成定義ファイル C）を作成する。
2. RAID Manager から、TrueCopy ペア作成操作を実施する（構成定義ファイル C に対して操作する）。

既存の TrueCopy ペアを使用する場合

1. 既存の TrueCopy ペアを RAID Manager から操作するために、RAID Manager 用の構成定義ファイル（構成定義ファイル A）を作成する。
2. RAID Manager から、ペア分割操作を実施する（構成定義ファイル A に対して操作する）。
3. RAID Manager から、コンシステンシーグループを指定しないで、ペア再開操作を実施する（構成定義ファイル A に対して操作する）。
4. RAID Manager から、ペア分割操作を実施する（構成定義ファイル A に対して操作する）。
5. 既存の複数組のストレージシステムの構成の構成定義ファイル（構成定義ファイル B）にペア分割操作を実施する（構成定義ファイル B に対して操作する）。
6. 既存の複数組のストレージシステムの構成の構成定義ファイル（構成定義ファイル B）に、追加したい TrueCopy ペアの情報を追加して、構成定義ファイル（構成定義ファイル C）を作成する。
7. RAID Manager から、TrueCopy ペア作成操作を実施する（構成定義ファイル C に対して操作する）。



ヒント

既存の TrueCopy ペアを削除したあとに、「新規に TrueCopy ペアを作成する場合」の手順を実施できます。

3.6.3 コンシステンシーグループの要件

1 組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループは、次の要件を満たしている必要があります。

- TrueCopy ペアは、1 つのコンシステンシーグループにだけ割り当ててください（割り当てられるのは 1 つのコンシステンシーグループだけです）。
- 新しく登録するコンシステンシーグループには、未使用のコンシステンシーグループ ID を割り当ててください。
- コンシステンシーグループの最大数、および作成できる TrueCopy ペアの最大数については、関連項目を参照してください。

複数組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループは、前述の要件に加えて、次の要件を満たしている必要があります。

- 正サイトと副サイトのストレージシステムの両方に、本ストレージシステム、VSP G100, G200, G400, G600, G800 および VSP F400, F600, F800、VSP G1000, VSP G1500, VSP F1500、VSP 5100, 5500、または HUS VM を使用してください。
- 正サイトと副サイトのストレージシステムは、それぞれ最大 4 台使用できます。
- 正サイトと副サイトのストレージシステムの両方で、複数組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループ機能をサポートするファームウェアプログラムを使用してください。
 - 正サイトのストレージシステムが、複数組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループ機能をサポートしていない場合、1 組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループのペアが作成されます。
 - 副サイトのストレージシステムが、複数組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループ機能をサポートしていない場合、ペアを作成できません。
- 複数組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループの操作に対応した RAID Manager を使用してください。

- ペア操作は RAID Manager からだけサポートされます。Storage Navigator からのペア操作は、サポートされていません。
- Universal Replicator との連携によるカスケード構成は、サポートされていません。

仮想ストレージマシン内のボリュームを使用する場合、1 組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループを作成したいときには、同じ仮想ストレージマシン内のボリュームを使用してペアを作成してください。異なる仮想ストレージマシンのボリュームを使用して作成したペアをコンシステンシーグループに登録すると、そのコンシステンシーグループは、複数組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループとして扱われます。

関連概念

- [2.1 TrueCopy のシステム要件](#)
- [3.3.6 最大ペア数の制限](#)

3.6.4 分割の動作

次に I/O 処理中に分割コマンドが発行されたときと、分割コマンド実行中に I/O 処理が要求されたときに、どのように同じグループ内ペアのセカンダリボリューム間でデータの一貫性を保持するかを示します。

次のすべての条件が成立するときはグループ内ペアのセカンダリボリューム間でデータの一貫性を保持できません。

- 分割コマンドを実行中
- ホストから I/O 要求
- I/O 要求の接続先ポートのマイクロプロセッサが閉塞

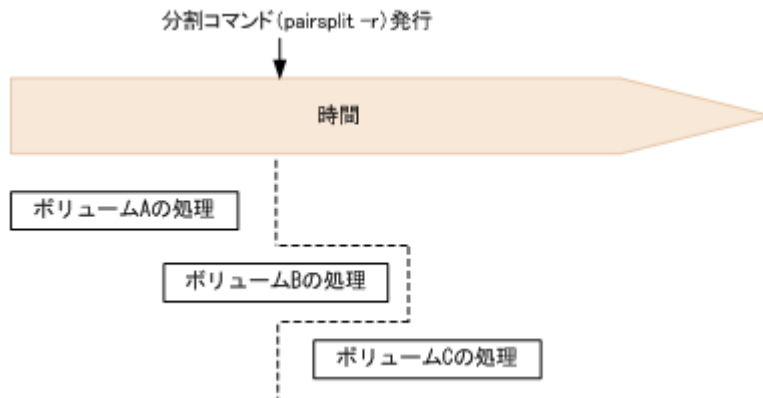
このような場合は、該当コンシステンシーグループを再同期した後で、再度分割コマンドを実行してください。

(1) I/O 処理中に分割コマンドが発行されたときの動作（TrueCopy の場合）

次の図は、I/O 処理中に分割コマンドが発行されたときに、どのように同じグループ内ペアのセカンダリボリューム間でデータの一貫性を保持するかを示します。

TrueCopy ボリュームの場合、コンシステンシーグループに分割コマンド (**pairsplit -r**) が発行されたときに I/O 処理中のボリュームがあると、データの整合性を保持するために、そのボリュームは I/O 処理とセカンダリボリュームへのデータ転送が終了した後に分割します。

次の図は、分割コマンドが発行された時点で、ボリューム B が I/O 処理中だったため、ボリューム B は I/O 処理とセカンダリボリュームへのデータ転送が終了した後に、分割操作が実行されることを示します。



(2) 分割コマンドの処理中に I/O 要求があったときの動作

分割コマンド処理中のコンシステンシーグループ内のペアにオープンシステム用のサーバから I/O 要求があった場合、該当するペアの分割処理が完了していないときは、ほかのペアより優先して分割処理を完了します。I/O 要求は、ペアが分割されてから受け付けられます。グループ内のペアに障害による分割が発生した場合の分割処理も同様に動作します。このため、該当するグループ内ペアのセカンダリボリューム間でデータの一貫性を保持できます。

(3) 分割後のホストアクセス

RAID Manager では、分割コマンドによるペア分割時に、ペア分割後のプライマリボリュームとセカンダリボリュームに対するホストからのアクセス制限に関するオプションを指定できます。オプション指定時のアクセス可否について、RAID Manager ではオプションを指定しないという選択ができます。

TrueCopy ボリュームは Read アクセスを禁止した状態にできないので、どのオプションを指定しても Read アクセスを禁止することはできません。各オプションの詳細については、『RAID Manager ユーザガイド』および『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

表 3 ホストからのアクセス制限に関するオプションを指定したときのアクセス可否 (プライマリボリューム)

操作元	オプション	プライマリボリュームアクセス可否	
		Read	Write
RAID Manager※ (pairsplit コマンド)	プライマリボリューム Write 禁止 (-p オプション)	○	×
	プライマリボリューム用 オプションなし	○	○

(凡例)

- : アクセスできる
- × : アクセスできない

注※

操作元が RAID Manager のアクセス可否は、RAID Manager から TrueCopy プライマリボリュームを操作したときの状態です。

表 4 ホストからのアクセス制限に関するオプションを指定したときのアクセス可否 (セカンダリボリューム)

操作元	オプション	セカンダリボリュームへのアクセス可否	
		Read	Write
RAID Manager※ (pairsplit コマンド)	セカンダリボリューム Read 許可 (-r オプション)	○	×
	セカンダリボリューム Read/Write 許可 (-rw オプション)	○	○
	セカンダリボリューム用 オプションなし	○	×

(凡例)

- : アクセスできる
- × : アクセスできない

注※

操作元が RAID Manager のアクセス可否は、RAID Manager から TrueCopy セカンダリボリュームを操作したときの状態です。

3.7 TrueCopy とホストフェイルオーバーソフトウェア

ホストフェイルオーバーソフトウェアは、正サイトおよび副サイトのホスト間で情報を転送する、災害リカバリ処理の重要なコンポーネントです。

- TrueCopy を災害リカバリに使用する場合は、リカバリ処理を確実にするためにホストフェイルオーバー機能が必要です。
- TrueCopy をデータの移動手段として使用する場合は、ホストフェイルオーバーの利用を推奨します。

TrueCopy は、ホストフェイルオーバー機能を提供しません。プラットフォームに適用するフェイルオーバーソフトウェアをご使用ください。

TrueCopy と他のプログラムプロダクトとの併用

TrueCopy 以外の機能で使われているボリュームの中には、TrueCopy のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームとして利用できるものと、利用できないものがあります。この章では、他のプログラムプロダクトとの併用について説明します。

- ❑ 4.1 TrueCopy と 共用可能なボリューム
- ❑ 4.2 TrueCopy と Universal Replicator との共用
- ❑ 4.3 TrueCopy と ShadowImage との共用
- ❑ 4.4 TrueCopy と Thin Image (CAW/CoW)の併用
- ❑ 4.5 TrueCopy と Thin Image Advanced の併用
- ❑ 4.6 TrueCopy と Virtual LUN (VLL) との共用
- ❑ 4.7 TrueCopy と LUN Manager との共用
- ❑ 4.8 TrueCopy と Dynamic Provisioning との共用
- ❑ 4.9 TrueCopy と Performance Monitor との共用
- ❑ 4.10 TrueCopy と Volume Migration との共用
- ❑ 4.11 TrueCopy と Data Retention Utility との共用
- ❑ 4.12 TrueCopy と global storage virtualization との共用

4.1 TrueCopy と共用可能なボリューム

TrueCopy 以外の機能で使われているボリュームを TrueCopy のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームとして利用できるかどうかを次の表に示します。

機能・ボリューム	状態	TrueCopy プライマリボリュームとして利用できるか？	TrueCopy セカンダリボリュームとして利用できるか？
ShadowImage			
プライマリボリューム	PSUS	○	○※1
	COPY(RS-R)/RCPY	×	×
	Universal Replicator のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームとして兼用	×	×
	上記以外	○	○※1
セカンダリボリューム	PSUS	○	×
	PSUS 以外	×	×
Thin Image (CAW/CoW)※2			
プライマリボリューム	RCPY	×	×
プライマリボリューム	RCPY 以外	○	○
セカンダリボリューム		×	×
プールボリューム		×	×
Thin Image Advanced※2			
プライマリボリューム	RCPY	×	×
プライマリボリューム	RCPY 以外	○	○
セカンダリボリューム		×	×
Volume Migration			
ソースボリューム	ボリューム移動中	○ (ただし、ボリューム移動が中断します)	○ (ただし、ボリューム移動が中断します) ※3
	ボリューム移動の終了後	○	○
ターゲットボリューム		×	×
Universal Replicator※8			
プライマリボリューム	COPY	×	×
	PAIR	○※4、※6	×
	PSUS	○※4、※6	×
	PSUE	○※4、※6	×
セカンダリボリューム	COPY	×	×
	PAIR	×	×
	PSUS	○※4、※6	×
	SSWS	○※4、※6	×

機能・ボリューム	状態	TrueCopy プライマリボリュームとして利用できるか？	TrueCopy セカンダリボリュームとして利用できるか？
	PSUE	○※4	×
ジャーナルボリューム		×	×
Data Retention Utility			
Read/Write 属性のボリューム		○	○
Read Only 属性のボリューム		○	○
Protect 属性のボリューム		○	○
セカンダリボリューム拒否(S-VOL Disable)が設定されているボリューム		○	×
Virtual LUN			
Virtual LUN ボリューム		○	○
LUN Manager			
LU パス定義されているボリューム		○	○
NVMe の Namespace に設定されているボリューム		○※7	○※7
LU パス定義されていないボリューム、または NVMe の Namespace に設定されていないボリューム		×	×
LUN セキュリティが適用されているボリューム		○	○
NVMe の Namespace セキュリティが設定されているボリューム		○※7	○※7
Dynamic Provisioning			
仮想ボリューム (DP-VOL)		○	○
プールボリューム		×	×
容量削減機能が有効な仮想ボリューム		○	○
重複排除用システムデータボリューム		×	×
Dynamic Tiering			
仮想ボリューム (DP-VOL)		○	○
プールボリューム		×	×
active flash			
仮想ボリューム (DP-VOL)		○	○
プールボリューム		×	×
Universal Volume Manager			
マッピングした外部ボリューム		○	○
Virtual Partition Manager			
Virtual Partition Manager を利用して作成した CLPR に属しているボリューム		○	○
global storage virtualization			
仮想ストレージマシン内のボリューム※5		○	○
global-active device			
プライマリボリューム		×	×

機能・ボリューム	状態	TrueCopy プライマリボリュームとして利用できるか？	TrueCopy セカンダリボリュームとして利用できるか？
セカンダリボリューム		×	×
Quorum ディスク		×	×
仮想属性が GAD 予約のボリューム		×	×
容量削減機能が有効な仮想ボリューム		○	○
重複排除システムデータボリューム		×	×

(凡例)

- ：利用できる
- ×

注※1

TrueCopy ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームがどちらも Dynamic Provisioning の仮想ボリューム (DP-VOL) の場合、TrueCopy ペアのセカンダリボリュームは ShadowImage ペアのプライマリボリュームにできません。

注※2

Thin Image (CAW/CoW) または Thin Image Advanced のノードボリュームおよびリーフボリュームについては、「プライマリボリューム」ではなく「セカンダリボリューム」の内容を参照してください。

注※3

TrueCopy のセカンダリボリュームが Dynamic Provisioning の仮想ボリュームの場合、TrueCopy のペアを作成できません。ボリューム移動が完了したあと、または Volume Migration の操作を中止してから、TrueCopy のペアを作成してください。

注※4

TrueCopy で使用しているボリュームを、2 つの Universal Replicator ペアが共有するボリュームとして使用できません。

注※5

仮想 LDEV ID を削除しているボリュームは TrueCopy のペアボリュームとして使用できません。

注※6

FC-NVMe でホストに接続されているボリュームを使用した、3 データセンタ (3DC) 構成のサポート状況は、『Universal Replicator ユーザガイド』の Universal Replicator の概要を参照してください。

注※7

NVMe の Namespace に設定されているボリュームは、DKCMAIN バージョン 93-06-61-XX-XX/XX 以降で、TrueCopy のペアボリュームに利用できます。

注※8

VSP One SDS Block のボリュームと、本ストレージシステムのボリュームで構成される Universal Replicator のペアボリュームは、TrueCopy のペアボリュームとして使用できません。

4.2 TrueCopy と Universal Replicator との共用

TrueCopy と同様に、Universal Replicator も遠隔地にデータをバックアップできます。TrueCopy は正サイトと副サイトの間で同期してコピーしますが、Universal Replicator はデータを非同期にコピーします。このため、Universal Replicator では副サイトのデータが正サイトのデータより遅れて更新されるのに対して、TrueCopy は正サイトのデータと副サイトのデータが一致することを保証します。ただし、TrueCopy はサイト間の距離の影響を受けやすいため、TrueCopy の副サイトは Universal Replicator の副サイトよりも近い場所に設置する必要があります。

Universal Replicator と TrueCopy を組み合わせることで、それぞれの特長を生かした構成で、障害や災害の発生に対応できます。



メモ

TrueCopy と Universal Replicator を組み合わせた 3DC マルチターゲット構成および 3DC カスケード構成は、次のストレージシステムだけでサポートしています。

- VSP G900 および VSP F900
- VSP E590、VSP E590H、VSP E790、VSP E790H、VSP E990、VSP E1090、VSP One B26、および VSP One B28

Universal Replicator と TrueCopy を組み合わせた構成については、『Universal Replicator ユーザガイド』を参照してください。

4.3 TrueCopy と ShadowImage との共用

ShadowImage ボリュームは TrueCopy ペアとして割り当てられ、TrueCopy ボリュームも ShadowImage ペアとして割り当てられます。

TrueCopy と ShadowImage を同一のストレージシステムと一緒に機能させると、重要なデータのストレージシステム内のバックアップとリモートバックアップを実現できます。

ShadowImage はストレージシステム内のコピーに使用することをお勧めします。ShadowImage がインストールされていない場合は、同ストレージシステム内のコピー操作に TrueCopy を使用することもできます。この場合、最低 1 個のファイバチャネルケーブルループまたは iSCSI ケーブルループが必要です。

TrueCopy のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームは ShadowImage のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームと共用できます。

ShadowImage の Quick Restore 操作は、TrueCopy ペアが分割されているとき、ShadowImage ペアに対して実行できます。Quick Restore 操作の詳細については、『ShadowImage ユーザガイド』を参照してください。

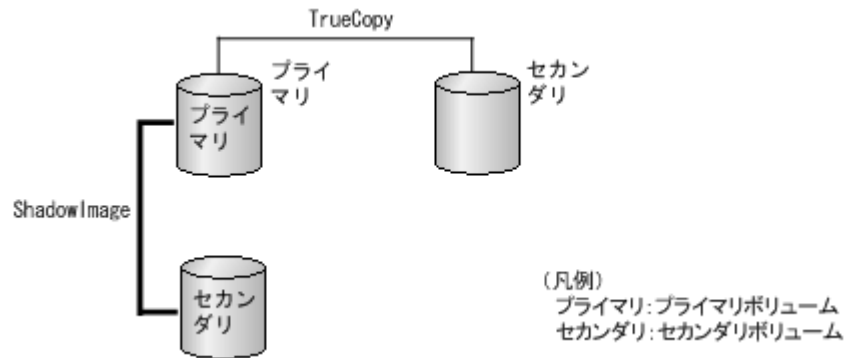
関連概念

- [4.3.1 ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy プライマリボリュームの共有](#)
- [4.3.2 ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy セカンダリボリュームの共有](#)
- [4.3.3 ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy ボリュームの共有](#)
- [4.3.4 ShadowImage セカンダリボリュームと TrueCopy プライマリボリュームの共有](#)
- [4.3.5 TrueCopy と ShadowImage との共用ボリュームの状態報告](#)

4.3.1 ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy プライマリボリュームの共有

ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy プライマリボリュームを共有できます。この構成では、TrueCopy ペアに障害が発生した場合、オンサイトデータバックアップ用に ShadowImage を使用できます。また、ShadowImage ペアに障害が発生した場合は、TrueCopy を使用して ShadowImage プライマリボリュームのリモートバックアップを提供できます。

ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy プライマリボリュームの共有を次の図に示します。



この構成では、ShadowImage ペアのプライマリボリュームの状態が RCPY のときは、TrueCopy ペアを削除する操作しかできません。ShadowImage ペアのプライマリボリュームの状態に応じた TrueCopy ペアの操作可否を次の表に示します。

ShadowImage ペアのプライマリボリュームの状態	TrueCopy ペアの操作						
	作成	分割		再同期		削除	正サイトと副サイト間での業務ボリュームの切り替え (horctakeover)
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定	S-VOL 指定		
COPY(PD)/COPY COPY(SP)/COPY COPY(RS)/COPY	○	○	○	○	○	○	○
PAIR	○	○	○	○	○	○	○
PSUS(SP)/PSUS	○	○	○	○	○	○	○
PSUS PSUE	○	○	○	○	○	○	○
COPY(RS-R)/RCPY	×	×	×	×	×	○	×

(凡例)

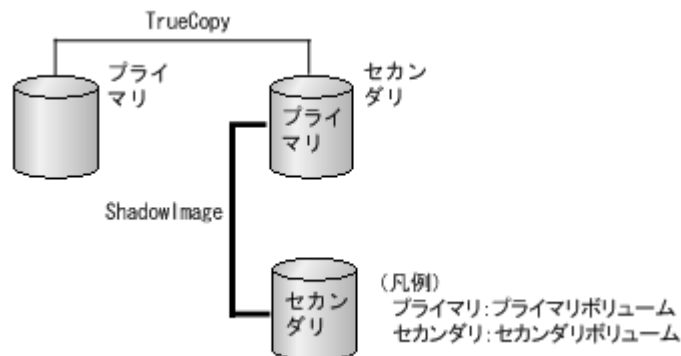
- : TrueCopy ペアを操作できる。
- ×

4.3.2 ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy セカンダリボリュームの共有

ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy セカンダリボリュームを共有できます。この構成によって、ShadowImage を使用して 1 つの TrueCopy プライマリボリュームの複数のバックアップコピーを提供できます。

TrueCopy セカンダリボリュームと ShadowImage プライマリボリュームを共有する場合、TrueCopy プライマリボリュームに対する書き込み処理に時間が掛かります。特に ShadowImage ペアが PSUS(SP)/PSUS 状態のときは、ShadowImage ペアのコピー処理の分だけ余計に時間が掛かることがあります。

ShadowImage のプライマリボリュームと TrueCopy セカンダリボリュームの共有を次の図に示します。



ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy セカンダリボリュームを共有しているときに、ShadowImage セカンダリボリュームのデータが保証されているかを次に示します。

TrueCopy ペアの状態	ShadowImage ペアの状態					
	COPY (PD) / COPY	PAIR	COPY (SP) / COPY	PSUS	COPY (RS) / COPY (RS-R) / RCPY	PSUE
COPY	×	×	×	○	×	×
PAIR	×	×	×	○	×	×
PSUS/PSUE	×	○	○	○	○	×

(凡例)

- : ShadowImage セカンダリボリュームのデータが保証されている。
- ×

この構成では、ShadowImage ペアのプライマリボリュームの状態が RCPY のときは、TrueCopy ペアを削除する操作しかできません。ShadowImage ペアのプライマリボリュームの状態に応じた TrueCopy ペアの操作可否を次の表に示します。

ShadowImage ペアのプライマリボリュームの状態	TrueCopy ペアの操作						
	作成	分割		再同期		削除	正サイトと副サイト間での業務ボリュームの切り替え (horctakeover)
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定	S-VOL 指定		
COPY(PD)/COPY COPY(SP)/COPY COPY(RS)/COPY	○*	○	○	○	○	○	○
PAIR	○*	○	○	○	○	○	○
PSUS(SP)/PSUS	○*	○	○	○	○	○	○
PSUS PSUE	○*	○	○	○	○	○	○
COPY(RS-R)/RCPY	×	×	×	×	×	○	×

(凡例)

- : TrueCopy ペアを操作できる。
- × : TrueCopy ペアを操作できない。

注※

TrueCopy ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを Dynamic Provisioning の DP-VOL として使用している場合、TrueCopy ペアのセカンダリボリュームと ShadowImage ペアのプライマリボリュームを共有するときは、TrueCopy ペアを作成する前に、ShadowImage ペアを削除する必要があります。

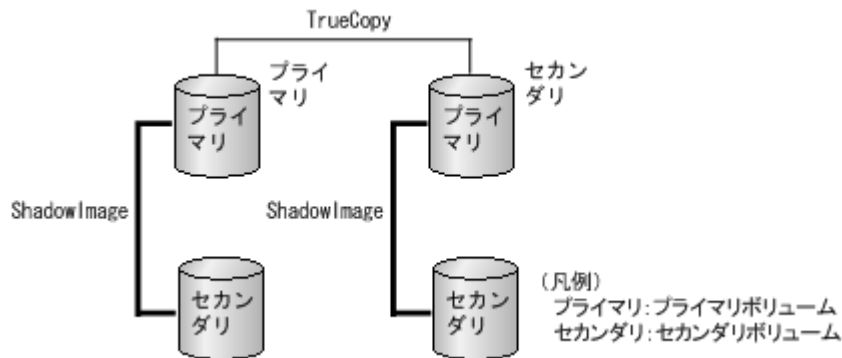
関連タスク

- [4.8.1 DP-VOL を TrueCopy ペアのボリュームとして使用するときの作業の流れ](#)

4.3.3 ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy ボリュームの共有

TrueCopy のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方が、ShadowImage プライマリボリュームと共有できます。この構成では、正副両サイトでマルチコピーを提供します。

ShadowImage プライマリボリュームと TrueCopy ボリュームの共有を次の図に示します。



この構成では、ShadowImage ペアのプライマリボリュームの状態が RCPY のときは、TrueCopy ペアを削除する操作しかできません。ShadowImage ペアのプライマリボリュームの状態に応じた TrueCopy ペアの操作可否を次の表に示します。

ShadowImage ペアのプライマリボリュームの状態	TrueCopy ペアの操作						
	作成	分割		再同期		削除	正サイトと副サイト間での業務ボリュームの切り替え (horctakeover)
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定	S-VOL 指定		
COPY(PD)/ COPY COPY(SP)/ COPY COPY(RS)/ COPY	○*	○	○	○	○	○	○
PAIR	○*	○	○	○	○	○	○
PSUS(SP)/ PSUS	○*	○	○	○	○	○	○
PSUS PSUE	○*	○	○	○	○	○	○
COPY(RS-R)/ RCPY	×	×	×	×	×	○	×

(凡例)

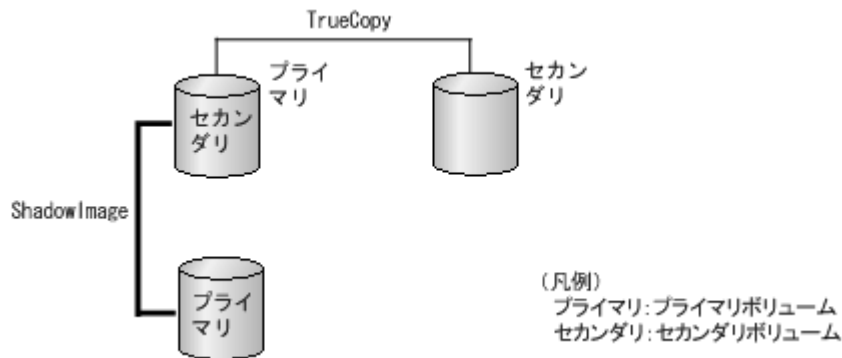
- : TrueCopy ペアを操作できる。
- × : TrueCopy ペアを操作できない。

注※

TrueCopy ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームがどちらも Dynamic Provisioning の仮想ボリューム (DP-VOL) の場合、TrueCopy ペアのセカンダリボリュームは ShadowImage ペアのプライマリボリュームにできません。

4.3.4 ShadowImage セカンダリボリュームと TrueCopy プライマリボリュームの共有

ShadowImage セカンダリボリュームと TrueCopy プライマリボリュームを共有できます。



この構成では、TrueCopy ペアを作成する前に、ShadowImage ペアを PAIR 状態にしたあと分割して、PSUS 状態にする必要があります。ShadowImage ペアのセカンダリボリュームの状態に応じた TrueCopy ペアの操作可否を次の表に示します。

ShadowImage ペアのセカンダリボリュームの状態	TrueCopy ペアの操作						
	作成	分割		再同期		削除	正サイトと副サイト間での業務ボリュームの切り替え (horctakeover)
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定	S-VOL 指定		
COPY(PD)/ COPY COPY(SP)/ COPY COPY(RS)/ COPY	×	×	×	×	×	○	×
PAIR	×	×	×	×	×	○	×
PSUS(SP)/ PSUS	×	×	×	×	×	○	×
PSUS	○	○	○	○	×	○	×
PSUE	○	○	○	×※	×	○	×
COPY(RS-R)/ RCPY	×	×	×	×	×	○	×

(凡例)

- : TrueCopy ペアを操作できる。
- × : TrueCopy ペアを操作できない。

注※

ShadowImage のセカンダリボリュームの内容が保証されていない状態のため、TrueCopy の再同期はできません。

4.3.5 TrueCopy と ShadowImage との共用ボリュームの状態報告

共用ボリュームの組み合わせによって、どのペア状態を報告するかを次に示します。

- TrueCopy のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームについて照会すると、TrueCopy ペアの状態がホストに報告されます。ShadowImage ペアの状態を得るためには、ShadowImage ペアのプライマリボリュームの状態を確認してください。
- ShadowImage のプライマリボリュームの状態について確認すると、1 組の ShadowImage ペアの状態だけがホストに報告されます（セカンダリボリュームの LUN が 1 番小さいペア）。すべてのセカンダリボリュームのペアの状態を得るには、Storage Navigator でセカンダリボリュームの LUN を指定して確認してください。ShadowImage は、プライマリボリュームのすべてのセカンダリボリュームについてポート、ホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID、LUN、LDEV ID、および ShadowImage ペアの状態を表示します。

Storage Navigator に表示される TrueCopy/ShadowImage 共用ペアの状態を次の表に示します。

TrueCopy のペア数	ShadowImage のセカンダリボリューム数	Storage Navigator に表示されるペア状態
0	0	ペアの一覧には表示されない
0	1	ShadowImage ペアの状態
0	2 以上	セカンダリボリュームの LUN が 1 番小さい ShadowImage ペアの ShadowImage 状態
1	0	TrueCopy ペアの状態
1	1	TrueCopy ペアの状態
1	2 以上	TrueCopy ペアの状態

4.4 TrueCopy と Thin Image (CAW/CoW)の併用

TrueCopy ペアのボリュームと Thin Image (CAW/CoW)ペアのプライマリボリュームを共有した場合について説明します。

4.4.1 Thin Image (CAW/CoW)プライマリボリュームと TrueCopy／Universal Replicator プライマリボリューム共有時の TrueCopy／Universal Replicator の操作

TrueCopy／ Universal Replicator の操作	Thin Image (CAW/CoW)ペアの状態				
	COPY	PAIR、PFUL	PSUS、PFUS	RCPY	PSUE
ペアを作成する	○	○	○	×	○
ペアを分割する	○	○	○	-	○
ペアを再同期する	○	○	○	×	○
ペアを削除する	○	○	○	○	○
副サイトのストレージシステムに切り替える	○	○	○	×	○

(凡例)

リモートストレージ：リモートストレージシステム

○：操作できます

×：操作できません（コマンド拒否）

-：該当なし

4.4.2 Thin Image (CAW/CoW)プライマリボリュームと TrueCopy／Universal Replicator セカンダリボリューム共有時の TrueCopy／Universal Replicator の操作

TrueCopy／ Universal Replicator の操作	Thin Image (CAW/CoW)ペアの状態				
	COPY	PAIR、PFUL	PSUS、PFUS	RCPY	PSUE
ペアを作成する※	×	×	×	×	×
ペアを分割する	○	○	○	-	○
ペアを再同期する	○	○	○	-	○
ペアを削除する	○	○	○	-	○
副サイトのストレージシステムに切り替える	○	○	○	-	○

（凡例）

リモートストレージ：リモートストレージシステム

○：操作できます

×：操作できません（コマンド拒否）

-：該当なし

注※

TrueCopy／Universal Replicator のセカンダリボリュームを Thin Image (CAW/CoW)のプライマリボリュームとする場合、TrueCopy／Universal Replicator のペアを作成後にペアを作成する必要があります。

TrueCopy のペア状態および操作の詳細については『TrueCopy ユーザガイド』を、Universal Replicator のペア状態および操作の詳細については『Universal Replicator ユーザガイド』を参照してください。

4.4.3 Thin Image (CAW/CoW)プライマリボリュームと TrueCopy／Universal Replicator プライマリボリューム共有時の Thin Image (CAW/CoW)の操作

Thin Image (CAW/CoW)の 操作	TrueCopy／Universal Replicator ペアの状態					
	COPY	PAIR	PSUS	PSUE	Suspending	Deleting
ペアを作成する	○	○	○	○	○	○
スナップショットデータを 取得する	○	○	○	○	○	○
ペアを回復する	×	×	○	○	×	×
スナップショットデータを 削除する	○	○	○	○	○	○
ペアを削除する	○	○	○	○	○	○

(凡例)

○：操作できます

×：操作できません（コマンド拒否）

4.4.4 Thin Image (CAW/CoW)プライマリボリュームと TrueCopy／Universal Replicator セカンダリボリューム共有時の Thin Image (CAW/CoW)の操作

Thin Image (CAW/CoW)の 操作	TrueCopy／Universal Replicator ペアの状態						
	COPY	PAIR	PSUS	PSUE	SSWS	Suspending	Deleting
ペアを作成する	○	○	○	○	○	○	○
スナップショットデータを 取得する	×	○	○	○	○	○	○
ペアを回復する※	×	×	×	×	×	×	×
スナップショットデータを 削除する	○	○	○	○	○	○	○
ペアを削除する	○	○	○	○	○	○	○

(凡例)

○：操作できます

×：操作できません（コマンド拒否）

注※

TrueCopy／Universal Replicator セカンダリボリュームと Thin Image (CAW/CoW)プライマリボリュームを共有しているペアを回復する場合は、あらかじめ horctakeover コマンドを実行して、正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへの切り替えをしてください。

4.5 TrueCopy と Thin Image Advanced の併用

TrueCopy ペアのボリュームと Thin Image Advanced ペアのプライマリボリュームを共有した場合について説明します。

4.5.1 Thin Image Advanced プライマリボリュームと TrueCopy プライマリボリューム共有時の TrueCopy の操作

TrueCopy の 操作	Thin Image Advanced ペアの状態								
	COPY(PD)	PAIR	PSUS(SP)	COPY(SP)	PSUS	COPY(RS)	COPY(RS-R)	SMPL(PD)	PSUE
ペアを作成する	○	○	○	○	○	○	×	○	○
ペアを分割する	○	○	○	○	○	○	-	○	○
ペアを再同期する	○	○	○	○	○	○	×	○	○
ペアを削除する	○	○	○	○	○	○	○	○	○

TrueCopy の 操作	Thin Image Advanced ペアの状態								
	COPY(PD)	PAIR	PSUS(SP)	COPY(SP)	PSUS	COPY(RS)	COPY(RS-R)	SMPL(PD)	PSUE
副サイトのストレージシステムに切り替える	○	○	×	○	○	○	×	○	○

(凡例)

○：操作できます

×

-：該当なし

4.5.2 Thin Image Advanced プライマリボリュームと TrueCopy セカンダリボリューム共有時の TrueCopy の操作

TrueCopy の 操作	Thin Image Advanced ペアの状態								
	COPY(PD)	PAIR	PSUS(SP)	COPY(SP)	PSUS	COPY(RS)	COPY(RS-R)	SMPL(PD)	PSUE
ペアを作成する※	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ペアを分割する	○	○	○	○	○	○	-	○	○
ペアを再同期する	○	○	×	○	○	○	-	○	○
ペアを削除する	○	○	○	○	○	○	-	○	○
副サイトのストレージシステムに切り替える	○	○	×	○	○	○	-	○	○

(凡例)

○：操作できます

×

-：該当なし

注※

TrueCopy のセカンダリボリュームを Thin Image Advanced のプライマリボリュームとする場合、TrueCopy のペアを作成後に Thin Image Advanced ペアを作成する必要があります。

4.5.3 Thin Image Advanced プライマリボリュームと TrueCopy プライマリボリューム共有時の Thin Image Advanced の操作

Thin Image Advanced の 操作	TrueCopy ペアの状態						
	COPY	PAIR	PSUS	PSUE	SSWS	Suspending	Deleting
ペアを作成する	○	○	○	○	○	○	○
スナップショットデータを取得する	×	○	○	○	○	○	○

Thin Image Advanced の 操作	TrueCopy ペアの状態						
	COPY	PAIR	PSUS	PSUE	SSWS	Suspending	Deleting
ペアを回復する	×	×	×	×	×	×	×
スナップショットデータを 削除する	○	○	○	○	○	○	○
ペアを削除する	○	○	○	○	○	○	○
S-VOL を割り当てる	○	○	○	○	○	○	○
S-VOL の割り当てを解除す る	○	○	○	○	○	○	○

(凡例)

- : 操作できます
- ×
- : 該当なし
- S-VOL : セカンダリボリューム

4.5.4 Thin Image Advanced プライマリボリュームと TrueCopy セカンダリボリューム共有時の Thin Image Advanced の操作

Thin Image Advanced の 操作	TrueCopy ペアの状態						
	COPY	PAIR	PSUS	PSUE	SSWS	Suspending	Deleting
ペアを作成する	○	○	○	○	○	○	○
スナップショットデータを 取得する	×	○	○	○	○	○	○
ペアを回復する※	×	×	×	×	×	×	×
スナップショットデータを 削除する	○	○	○	○	○	○	○
ペアを削除する	○	○	○	○	○	○	○
S-VOL を割り当てる	○	○	○	○	○	○	○
S-VOL の割り当てを解除す る	○	○	○	○	○	○	○

(凡例)

- : 操作できます
- ×
- S-VOL : セカンダリボリューム

注※

TrueCopy セカンダリボリュームと Thin Image Advanced プライマリボリュームを共有しているペアを回復する場合は、あらかじめ horctakeover コマンドを実行して、正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへの切り替えをしてください。

4.6 TrueCopy と Virtual LUN (VLL) との共用

VLL ボリュームを TrueCopy ペアに割り当てる場合は、次の点に留意してください。

- プライマリボリュームと同じ容量のセカンダリボリュームを指定してください。
- 既存の TrueCopy ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームに VLL 操作を実行する場合は、事前にペアを削除して各ボリュームを SMPL 状態にしてください。

Virtual LUN (VLL) の詳細については、『システム構築ガイド』を参照してください。

4.7 TrueCopy と LUN Manager との共用

- LUN Manager 操作は、TrueCopy 操作に影響を与えません。
- セキュアポートのもとにあるか、ホストグループまたは iSCSI ターゲットに割り当てられているボリュームおよび、FC-NVMe の NVM サブシステムポートが追加された NVM サブシステムの Namespace が設定されたボリュームは、TrueCopy ペアにも割り当てられます。
- ホストグループまたは iSCSI ターゲットに割り当てられて保護されているポートのボリュームおよび、FC-NVMe の Namespace セキュリティで保護されているボリュームも TrueCopy ペアとして割り当てられます。また、TrueCopy ペアのボリュームを LUN Manager によって保護することもできます。
- TrueCopy セカンダリボリュームはペアが分割されないかぎり UNIX/PC サーバホストからアクセスできません。

LUN Manager の詳細については、『システム構築ガイド』を参照してください。

4.8 TrueCopy と Dynamic Provisioning との共用

Dynamic Provisioning の仮想ボリューム (DP-VOL) は、TrueCopy ペアとして割り当てられます。

関連概念

- [4.8.2 割り当て済みのページがある Dynamic Provisioning の仮想ボリュームを TrueCopy ペアのセカンダリボリュームに指定する場合の注意事項](#)
- [4.8.3 TrueCopy で DP-VOL 使用時のページ容量とライセンス容量](#)

関連タスク

- [4.8.1 DP-VOL を TrueCopy ペアのボリュームとして使用するときの作業の流れ](#)

4.8.1 DP-VOL を TrueCopy ペアのボリュームとして使用するときの作業の流れ

プライマリボリューム=DP-VOL、セカンダリボリューム=DP-VOL で TrueCopy ペアを構成するときに、セカンダリボリュームが ShadowImage、Volume Migration の移動プランでも使用されている場合は、次の流れで TrueCopy のペア作成を実行してください。



メモ

容量削減機能が有効な仮想ボリュームは、TrueCopy ペアのプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームとして使用できます。ただし、重複排除用システムデータボリュームは、TrueCopy ペアのプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームとして使用できません。

操作手順

1. ShadowImage、Volume Migration の移動プランの設定を解除します。
2. TrueCopy ペアを作成します。
3. 必要に応じて ShadowImage、Volume Migration の移動プランを再設定します。

Dynamic Provisioning の詳細については、『システム構築ガイド』を参照してください。

容量削減機能を使用する場合の注意事項を次に示します。

- 容量削減機能によって圧縮または重複排除されたコピー元のボリュームのデータは、圧縮または重複排除を解消してから、コピー先のボリュームへコピーされます。また、容量削減機能は、コピーしたデータに対してすぐには実行されません。TrueCopy ペアを作成したり再同期したりする前に、コピー先のボリュームの空き容量が、コピー元のボリュームに格納されている容量削減前の使用容量よりも多いことを確認してください。詳細は、『システム構築ガイド』を参照してください。
- 容量削減機能を使用したボリュームを使用して TrueCopy ペアを作成すると、圧縮または重複排除されたデータをコピーするため、コピーの性能やホストの I/O 性能が低下する場合があります。
- 容量削減機能を使用すると、管理情報がプールに格納されるため、プライマリボリュームとセカンダリボリュームで、ページの使用量やライセンス容量に差があることがあります。
- セカンダリボリュームに容量削減機能が無効な仮想ボリュームを使用している場合、形成コピー中に Write Same/UNMAP コマンドを受領してもセカンダリボリュームのページは破棄されない場合があります。
- 容量削減機能が無効な仮想ボリュームで Write Same/UNMAP コマンドによるページ破棄が行われず、プライマリボリュームに存在しないセカンダリボリュームのページを削除する場合は、DP-VOL のゼロデータページ破棄機能を使用してください。

4.8.2 割り当て済みのページがある Dynamic Provisioning の仮想ボリュームを TrueCopy ペアのセカンダリボリュームに指定する場合の注意事項

割り当て済みのページがある DP-VOL を TrueCopy ペアのセカンダリボリュームに指定すると、ページの再割り当てが発生します。一時的に DP-VOL のプール使用量が実際の使用量よりも増加するため、次の点に留意してください。

- TrueCopy ペアを作成する前に DP-VOL のプール残容量が十分にあることを確認してください。
- TrueCopy ペアを作成する前に、プールに登録したプールボリュームが閉塞していないことを確認してください。
プールボリュームが閉塞している場合は、プールボリュームの状態を回復してからペアを作成してください。

割り当て済みのページがある、容量削減機能が有効なボリュームをセカンダリボリュームとして、TrueCopy ペアを作成する際の推奨手順

TrueCopy ペアを作成する際に、割り当て済みのページがある、容量削減機能が有効なボリュームをセカンダリボリュームとして使用する場合は、ペアを作成する前に、次に示す操作をしてください。

1. セカンダリボリュームにするボリュームを LDEV フォーマットします。



注意

LDEV フォーマットせずにペア作成すると、初期化しながらコピーされるため、コピー時間が長くなったり、プロセッサの稼働率が上昇したりする可能性があります。

2. 次に示すユーザ要件に応じて、インラインモード/ポストプロセスモードを、セカンダリボリュームにするボリュームに対して設定します。

- ・ ユーザ要件: I/O 性能への影響を抑えたい

設定内容	注意事項
ポストプロセスモード	ペアが作成されてから容量削減されるため、セカンダリボリューム用に、プライマリボリュームと同じ容量のプール容量の確保が必要です。

- ・ ユーザ要件: 必要なプール容量を抑えたい

設定内容	注意事項
インラインモード	ポストプロセスモードと比較して、コピー時間が長くなったり、プロセッサの稼働率が上昇したりする可能性があります。これらを抑えたい場合は、ポストプロセスモードの適用を検討してください。 注意: 以下の DKCMAIN バージョンで、LDEV フォーマットせずにペアを作成すると、インラインモードを設定していても、ポストプロセスモードで動作します。このため、プライマリボリュームと同じ容量のプール容量の確保が必要です。 ・ VSP E シリーズ 93-04-02-XX/XX 未満 ・ VSP G150, G350, G370, G700, G900, VSP F350, F370, F700, F900 88-08-03-XX/XX 未満

4.8.3 TrueCopy で DP-VOL 使用時のページ容量とライセンス容量

DP-VOL 以外の TrueCopy ペアでは、ボリューム容量が TrueCopy のライセンス容量としてカウントされます。一方、DP-VOL では、ボリューム容量のうち、割り当てられているページ容量だけが TrueCopy のライセンス容量としてカウントされます。したがって、DP-VOL と DP-VOL 以外のボリュームで TrueCopy ペアを構成すると、プライマリボリュームとセカンダリボリュームでカウントされるページ容量またはライセンス容量が異なる場合があります。また、容量削減機能が有効なボリュームの場合は、削減前の容量が TrueCopy ライセンス容量の対象になります。

ただし、データダイレクトマップ属性の DP-VOL では、ボリューム容量が TrueCopy のライセンス容量としてカウントされます。

また、プライマリボリュームとセカンダリボリュームがともに、DP-VOL の TrueCopy ペアであっても、プールの再配置やページ解放などの操作を実施することで、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームのページ容量が変化し、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの間でカウントされるページ容量またはライセンス容量が異なる場合があります。

4.8.4 TrueCopy ペアで使用している DP-VOL の容量拡張

正サイトと副サイトの両方のストレージシステムのマイクロコードバージョンが次に示すバージョン以降の場合、TrueCopy ペアのボリュームとして使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

- VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900 :
88-06-02-XX/XX 以降
- VSP E シリーズ :
93-02-03-XX/XX 以降

DP-VOL の容量拡張の詳細については、「[7.4 ペアを維持した DP-VOL の容量拡張](#)」を参照してください。

4.9 TrueCopy と Performance Monitor との共用

Performance Monitor を使用すると、ストレージシステムの I/O 動作と性能の詳細情報を確認できます。Performance Monitor は、TrueCopy 操作をこれから実行する（またはすでに実行している）ストレージシステムの監視に使用できます。Performance Monitor によって収集および表示されるストレージシステムの使用状況と性能データによって、次のことができるようになります。

- TrueCopy データを二重化する最適なタイミングを判断する（例：システムの I/O 動作が少ない期間中）。
- TrueCopy セカンダリボリュームの最適なロケーションを決定する（例：バックエンド動作のボトルネックを避けるためにアクセス頻度の低いボリュームを持つパリティグループ内）。
- TrueCopy 操作中、およびテスト動作中のストレージシステムのパフォーマンスを監視する。

Performance Monitor の詳細については、『Performance Manager ユーザガイド(Performance Monitor, Server Priority Manager, QoS)』を参照してください。

4.10 TrueCopy と Volume Migration との共用

TrueCopy のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームとして使われているボリュームが、Volume Migration のボリュームとして利用できるかどうかを次の表に示します。

機能・ボリューム	Volume Migration のボリュームとして利用できるか？
プライマリボリューム、セカンダリボリューム（COPY 状態）	×
プライマリボリューム、セカンダリボリューム（PAIR 状態）	○
プライマリボリューム、セカンダリボリューム（PSUS 状態）	○

（凡例）

- ：利用できる。
- ×：利用できない。

関連概念

- [4.10.1 TrueCopy と Volume Migration との共用に関する注意事項と制限事項](#)

4.10.1 TrueCopy と Volume Migration との共用に関する注意事項と制限事項

PAIR 状態のときに、TrueCopy のボリュームを Volume Migration のボリュームとして利用する場合の注意事項と制限事項を次に示します。

注意事項

- ボリューム移動中は I/O レートを 50IOPS 未満にしてください。I/O レートが 50IOPS 以上だとボリュームを移動できない場合があります。
- 正サイトと副サイトのストレージシステム間の接続に回線障害などが発生している場合は、回線障害を取り除いてからボリュームを移動してください。
- プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームの両方を、同時に移動させないでください。プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームの両方を同時に移動させると、ホスト I/O がタイムアウトになる場合があります。
- ボリューム移動中にボリュームの状態を変更しないでください。ボリュームの移動中は、ボリュームの状態を変更できない場合があります。

制限事項

- 外部ボリュームまたは DP-VOL を使用している場合、ペアを組んでいる副サイトのストレージシステムの Storage Navigator の画面にはボリュームを移動する前の情報が表示されます。ボリュームの移動が完了し、TrueCopy ペアを分割および再同期するとボリュームの情報が更新されます。

4.11 TrueCopy と Data Retention Utility との共用

TrueCopy は、Data Retention Utility でアクセス属性を設定したボリュームを使用してペアを作成できます。ただし、Data Retention Utility でセカンダリボリューム拒否が設定されているボリュームをセカンダリボリュームとする TrueCopy ペアは作成できません。

TrueCopy のペア状態によって、Data Retention Utility で変更できるアクセス属性が異なります。次の表に詳細を示します。

TrueCopy ペア状態と Storage Navigator からの Data Retention Utility 操作の関係を次の表に示します

ボリューム	ペア状態	Data Retention Utility 操作				
		アクセス属性変更				アクセス属性参照
		Read/Write	Read Only	Protect	副 VOL 拒否	
プライマリボリューム	SMPL	○	○	○	○	○
	COPY	○	○	○	○	○
	PAIR	○	○	○	○	○
	PSUS	○	○	○	○	○
	PSUE	○	○	○	○	○
セカンダリボリューム	SMPL	○	○	○	○	○

ボリューム	ペア 状態	Data Retention Utility 操作				
		アクセス属性変更				アクセス属 性 参照
		Read/Write	Read Only	Protect	副 VOL 拒否	
	COPY	×	×	×	×	○
	PAIR	×	×	×	×	○
	PSUS	○	○	○	○	○
	PSUE	○	○	○	○	○

(凡例)

○：操作できる。

×

TrueCopy ペア状態と RAID Manager からの Data Retention Utility 操作の関係を次の表に示します。

ボリューム	ペア 状態	Data Retention Utility 操作				
		アクセス属性変更				アクセス属 性 参照
		Read/Write	Read Only	Protect	副 VOL 拒否	
プライマリボ リューム	SMPL	○	○	○	○	○
	COPY	○	○	○	○	○
	PAIR	○	○	○	○	○
	PSUS	○	○	○	○	○
	PSUE	○	○	○	○	○
セカンダリボ リューム	SMPL	○	○	○	○	○
	COPY	○	○	○	×	○
	PAIR	○	○	○	×	○
	PSUS	○	○	○	○	○
	PSUE	○	○	○	○	○

(凡例)

○：操作できる。

×

次の表に、Data Retention Utility でアクセス属性を設定したボリュームを TrueCopy ペアのボリュームに指定できるかどうかを、アクセス属性ごとに示します。

アクセス属性	TrueCopy ペアのボリューム指定	
	プライマリボリューム	セカンダリボリューム
Read/Write	○	○
Read Only	○	○
Protect	○	○
副 VOL 拒否	○	×

アクセス属性	TrueCopy ペアのボリューム指定	
	プライマリボリューム	セカンダリボリューム
Read Only + 副 VOL 拒否	○	×
Protect + 副 VOL 拒否	○	×

(凡例)

○：操作できる。

×：操作できない。

4.12 TrueCopy と global storage virtualization との共用

仮想ストレージマシン内のボリュームを使用して、TrueCopy ペアを作成できます。ただし、Storage Navigator の場合、仮想 LDEV ID は Storage Navigator に表示されますが、仮想 LDEV ID を指定してペア操作することはできません。TrueCopy ペアを操作するときには、本ストレージシステムの LDEV ID を指定してください。また、TrueCopy で使用しているボリュームの仮想 LDEV ID は、削除できません。

TrueCopy の構成操作

TrueCopy ペアを操作するシステムをセットアップするための構成操作について説明します。

- 5.1 TrueCopy の構成操作の流れ
- 5.2 TrueCopy 操作のためにリモート接続を追加する
- 5.3 リモートレプリカオプションを変更する

5.1 TrueCopy の構成操作の流れ

構成のためのタスクは次の項目から成ります。

操作手順

1. ストレージシステムで TrueCopy プライマリボリュームとなるボリュームを決定します。リモートバックアップシステムでセカンダリボリュームとなるボリュームを作成します。
2. 正サイトと副サイトのストレージシステムを接続する物理パスを設定します。
3. 正サイトのストレージシステムと、セカンダリボリュームを配置したい副サイトのストレージシステムの間にリモート接続を追加します。リモート接続を追加すると、リモートパスも追加されます。

このマニュアルでは、正サイトのストレージシステムのボリュームをプライマリボリュームに、副サイトのストレージシステムのボリュームをセカンダリボリュームに指定してペアを作成する構成を前提に、説明を記載しています。また、管理クライアントまたは RAID Manager を接続しているストレージシステムを、ローカルストレージシステムと呼び、ローカルストレージシステムと接続しているストレージシステムのことを、リモートストレージシステムと呼んでいます。

関連タスク

- [5.2 TrueCopy 操作のためにリモート接続を追加する](#)
- [5.3 リモートレプリカオプションを変更する](#)

5.2 TrueCopy 操作のためにリモート接続を追加する

正サイトのストレージシステムに副サイトのストレージシステムを登録して、TrueCopy 用のローカルストレージシステムおよびリモートストレージシステムを構成します。これによって両方のストレージシステムで TrueCopy を操作するための準備が整います。この手順の間に、システム間にリモートパスも設定できます。この手順は正サイトのストレージシステムで実行します。



メモ

ファームウェアの交換処理中は、リモートパスの操作ができません。ファームウェアの交換処理が完了していることを確認してからリモートパスの操作をしてください。ただし、RAID Manager からは、ファームウェアの交換処理中でも、ペア操作ができます。



メモ

エラーが発生した、または [キャンセル] をクリックしたなどの理由によって、ファームウェアの交換処理が中断されていると、リモートパスの操作ができません。ファームウェアの交換処理が正常に完了していることを確認してから、リモートパスの操作をしてください。ただし、RAID Manager からは、ファームウェアの交換処理中でも、ペア操作ができます。



メモ

VSP E590 または VSP E790 と、次のストレージシステムを相互に接続する構成では、VSP E590 および VSP E790 を除いて、Storage Navigator でリモートパス操作をできません。RAID Manager で操作してください。

- VSP G150, G350, G370, G700, G900 または VSP F350, F370, F700, F900 (88-08-01-XX/XX 未満)
- VSP E990 (93-04-01-XX/XX 未満)

次のストレージシステムを相互に接続する構成では、VSP 5000 シリーズの Storage Navigator からリモートパス操作ができません。RAID Manager を使用してください。

- VSP E1090 と VSP 5000 シリーズ

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（リモートバックアップ管理）ロール
- リモート接続パス（物理パス）がセットアップ済みであること。
- リモートストレージシステムのモデル、シリアル番号、パスグループ ID がわかっていること。
- RAID Manager の場合は、raidcom add rcu と raidcom modify rcu コマンドを使用すること。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[リモート接続] 画面を表示します。

Hitachi Command Suite を使用する場合：

- [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[リモート接続] を選択します。

Storage Navigator を使用する場合：

- [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] - [リモート接続] を選択します。

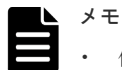
2. [接続(To)] タブを選択します。

3. 次のどちらかの方法で、[リモート接続追加] 画面を表示します。

- [リモート接続追加] をクリックします。
- [アクション] メニューから [リモート接続] - [リモート接続追加] を選択します。

4. [リモートストレージシステム] の [モデル] を設定します。

5. [リモートストレージシステム] の [シリアル番号] を設定します。



メモ

- 仮想ストレージマシン内のボリュームを使用するときも、本ストレージシステムのシリアル番号を指定してください。仮想ストレージマシンのシリアル番号は指定できません。
- VSP G1000, G1500 および VSP F1500 に接続する場合は、接続先ストレージシステムの 5 桁のシリアル番号を指定してください。RAID Manager では、“3”+シリアル番号の 6 桁で指定しますが、Storage Navigator では先頭の“3”がない 5 桁のシリアル番号を指定します。
- VSP 5000 シリーズに接続する場合は、接続先ストレージシステムの 5 桁のシリアル番号を指定してください。RAID Manager では、“5”+シリアル番号の 6 桁で指定しますが、Storage Navigator では先頭の“5”がない 5 桁のシリアル番号を指定します。

6. [リモートパス] の [パスグループ ID] を選択します。

7. [リモートパス] の [最小パス数] を指定します。

現在のローカルストレージシステムに接続した各リモートストレージシステムに必要な最小パス数を指定します。正常なパスが [最小パス数] で設定した数より少なくなると、ローカルストレージシステムは影響を受ける TrueCopy ペアをすべて分割して、パス数の不足によってホストの性能に悪影響を与えないようにします。デフォルトは 1 です。



メモ

ローカルストレージシステムに、災害リカバリ用の重要なデータを含む TrueCopy ペアがある場合は、最小パス数を 1 に設定し、リモートストレージシステムへのパスが 1 つだけの場合でも TrueCopy 操作を続行できるようにしてください。



メモ

ローカルストレージシステムで高性能を保持したい場合は、ローカルストレージシステムが管理するペア数によって、最小パス数を 2 以上（パスグループ当たりの最高パス数は 8）に設定します。

パス数がこの設定値を下回ったために TrueCopy ペアが分割されると、プライマリボリュームフェンスレベルの設定によって、TrueCopy のプライマリボリュームをフェンスする（すべての Write を拒否する）かどうかが決まります。

8. [選択タイプ] でポートタイプを選択します。
9. ローカルストレージシステムとリモートストレージシステムで使用するポートを選択します。
[選択タイプ] で [iSCSI] を選択したときは、リモートストレージシステムのポートの [IP アドレス] および [TCP ポート番号] を入力します。パスを追加する場合は、[パス追加] をクリックします。必要な場合は、あとで [リモートパス追加] 画面を使ってパスを追加したり削除したりできます。
10. 必要に応じて、オプションの [RIO MIH 時間] を入力します。
RIO MIH は Remote I/O Missing Interrupt Handler の略で、ストレージシステム間でのデータコピーの要求があったスロットに対して、コピーが開始されてから完了するまでの待ち時間を意味します。
11. 必要に応じて、オプションの [往復応答時間] をミリ秒単位で入力します。
12. [完了] をクリックします。
13. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
14. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。
設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

15. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。
実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連概念

- [3.1 TrueCopy を使用するためのストレージシステムの準備](#)
- [3.4 TrueCopy の物理パスの計画](#)
- [5.2.1 往復応答時間とは](#)
- [6.4.1 TrueCopy のフェンスレベルとは](#)

関連タスク

- [7.2.3 TrueCopy のリモート接続オプションを変更する](#)
- [7.2.4 TrueCopy のリモートパスを追加する](#)

関連参照

- [付録 B.8 リモート接続追加ウィザード](#)

5.2.1 往復応答時間とは

往復応答時間とは、プライマリボリュームからセカンダリボリュームへデータをコピーするときの制限時間です。この値は、形成コピーを実行するとき、形成コピーのコピー速度を自動調整し、更新 I/O に対するリモート I/O の応答時間に影響を与えにくくするための基準値です。

往復応答時間のデフォルトは 1 ミリ秒です。正サイトと副サイトのストレージシステム間の距離が長かったり、回線機器による遅延があったりする場合は、往復応答時間に適切な値を設定してください。往復応答時間に適切な値を設定しないでデフォルトのままの形成コピーを実行した場合、形成コピーの完了に不当に時間が掛かるおそれがあります。

例えばリモート I/O の応答時間と [往復応答時間] (RAID Manager の場合は `raidcom modify rcu -rcu_option`) の値の差が大きい場合 (例: リモート I/O の応答時間が 500 ミリ秒、[往復応答時間] の値が 1 ミリ秒)、回線の帯域すべてを形成コピーで独占しないように、コピー速度を落としたり一時的に形成コピーを停止したりします。

逆に、リモート I/O の応答時間と [往復応答時間] の値との差が小さい場合 (例: リモート I/O の応答時間が 5 ミリ秒、[往復応答時間] の値が 1 ミリ秒)、設定されたコピー速度で形成コピーを実施します。

[往復応答時間] には 1 ミリ秒から 500 ミリ秒まで設定できます。[往復応答時間] の値は下記の式で求められます。

[往復応答時間] の値 (ミリ秒) = 正サイトと副サイトのストレージシステム間の往復遅延時間 (Round Trip Time) × [応答回数] ※+ 形成コピー応答時間 (ミリ秒)

注※

正サイトと副サイトのストレージシステム間の物理パスをファイバチャネルで接続している場合、ホストモードオプション 51 (Round Trip Set Up Option) の設定によって応答回数が異なります。

ホストモードオプション 51 の設定	応答回数
OFF	2
ON	1

データ転送時には 1 コマンド当たり 2 回の応答シーケンスとなるため、応答回数は 2 です。ただし、ホストモードオプション 51 が有効の場合は、1 コマンド当たり 1 回の応答シーケンスとなるため、応答回数は 1 です。

正サイトと副サイトのストレージシステム間の物理パスを iSCSI で接続している場合、データ転送時に 64KB 単位で分割して転送するため、形成コピー速度に比例して応答回数が決まります。

形成コピー速度	応答回数
1	6
2	10
3	14
4	18

正サイトと副サイトのストレージシステム間の往復遅延時間 (Round Trip Time) については、回線業者にお問い合わせいただくか、ping コマンドを使用して測定するなどの方法で、決定してください。

さい。なお、正サイトと副サイトのストレージシステム間で回線を使用せずに接続する場合は、1としてください。

関連概念

- ・ (1) 形成コピー応答時間とは

関連タスク

- ・ 5.2 TrueCopy 操作のためにリモート接続を追加する

(1) 形成コピー応答時間とは

形成コピー応答時間は形成コピーの多重動作に伴う応答時間のことです。形成コピー応答時間については、形成コピー速度、最大形成コピーボリューム数、正サイトと副サイトのストレージシステム間の回線速度、および回線数を下記の計算式に適用して、算出できます。

形成コピー応答時間(ミリ秒) = (1[MB] / “正サイトと副サイトのストレージシステム間の回線速度 [MB/ミリ秒]”^{※1}) × (“コピー速度”^{※2} / 4) × (“最大形成コピー数”^{※3} / “正サイトと副サイトのストレージシステム間の回線数”^{※4})

注※1

正サイトと副サイトのストレージシステム間でチャネルエクステンダを使用しないで接続する場合は、リンクスピードによって、“正サイトと副サイトのストレージシステム間の回線速度”をそれぞれ次に示すとおりに設定してください。

- ・ リンクスピードが 2Gbps のケーブルの場合：0.17MB/ミリ秒
- ・ リンクスピードが 4Gbps のケーブルの場合：0.34MB/ミリ秒
- ・ リンクスピードが 8Gbps のケーブルの場合：0.68MB/ミリ秒
- ・ リンクスピードが 16Gbps のケーブルの場合：1.36MB/ミリ秒
- ・ リンクスピードが 32Gbps のケーブルの場合：2.72MB/ミリ秒

注※2

計算式のコピー速度には、次の値を代入してください。なお、Storage Navigator を使用するときも、RAID Manager を使用するときも、代入する値は同じです。

形成コピーだけを実施する場合

- ・ ペア作成時に指定するコピー速度が 1～4 の場合：ペア作成時に指定するコピー速度
- ・ ペア作成時に指定するコピー速度が 5～15 の場合：4

形成コピーと更新コピーを同時に実施する場合

- ・ ペア作成時に指定するコピー速度が 1 または 2 の場合：ペア作成時に指定するコピー速度
- ・ ペア作成時に指定するコピー速度が 3～15 の場合：2

注※3

最大形成コピー数は、ストレージシステム単位の設定を使用します。デフォルトは、64 です。

注※4

“最大形成コピー数” / “正サイトと副サイトのストレージシステム間の回線数”が 16 以上になる場合でも、“最大形成コピー数” / “正サイトと副サイトのストレージシステム間の回線数”は、16 としてください。

設定例を次の表に示します。

往復遅延時間 (Round Trip Time) [ミリ秒]	正サイトと 副サイトの ストレージ システム間 の回線速度 [MB/ミリ秒]	正サイトと 副サイトの ストレージ システム間 の回線本数	コピー速度	最大形成コピ ー数	[往復応答時間] の値 [ミリ秒]
0	0.1	4	4	64	160
30	0.1	4	4	64	220
100	0.1	4	4	64	360

関連概念

- ・ [5.2.1 往復応答時間とは](#)

関連タスク

- ・ [5.2 TrueCopy 操作のためにリモート接続を追加する](#)

5.3 リモートレプリカオプションを変更する

[リモートレプリカオプション編集] 画面で、次のオプション設定を変更できます。

- ・ 1 回の形成コピー操作で、同時にコピーできるボリュームの数
- ・ 1 回の形成コピー操作で同時にコピーできるボリューム数の設定（CU 単位）の有効／無効
- ・ パスの閉塞を監視する時間
- ・ パスの閉塞によって報告される SIM を監視する時間

前提条件

- ・ 必要なロール：ストレージ管理者（リモートバックアップ管理）ロール
- ・ RAID Manager の場合は、`raidcom modify remote_replica_opt` コマンドを使用すること。

操作手順

- 次のどちらかの方法で、[レプリケーション] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - ・ [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[レプリケーションダッシュボード] を選択します。
Storage Navigator を使用する場合：
 - ・ [ストレージシステム] ツリーの [レプリケーション] を選択します。
- 次のどちらかの方法で、[リモートレプリカオプション編集] 画面を表示します。
 - ・ [オプション編集] - [リモートレプリケーション] を選択します。
 - ・ [アクション] メニューから [リモートレプリケーション] - [リモートレプリカオプション編集] を選択します。
- [コピータイプ] で、[TC] を選択します。
- [最大形成コピー数] で、1 回の形成コピー操作で同時にコピーできるボリューム数を入力します。

- TrueCopy の形成コピーの動作数は、I/O 動作の量、および同時に登録するペア数によっては、ローカルストレージシステムの性能に影響を及ぼすことがあります。
 - この値が大き過ぎると、リモートストレージシステムに保留中の処理が増え、更新 I/O に対するリモート I/O の応答時間に影響を及ぼすことがあります。例えば、[最大形成コピー数] を 64 ボリュームに設定し、同時に 65 個の TrueCopy ペアを登録すると、ローカルストレージシステムは最初 64 ペアの作成を開始し、そのうちの 1 つが同期するまで、65 番目のペアを開始しません。
5. [パス閉塞監視] で、パスの閉塞を監視する時間を入力します。
 6. [パス閉塞 SIM 監視]、パスの閉塞によって報告される SIM を監視する時間を入力します。
 7. CU 単位で最大形成コピー数を設定するときには、[最大形成コピー数] を [有効] にします。
 8. オプションを変更したい CU のチェックボックスを選択し、[CU オプション変更] をクリックします。
 9. [CU オプション変更] 画面の [最大形成コピー数] で、CU 単位の 1 回の形成コピー操作で同時にコピーできるボリューム数を入力します。
 10. [OK] をクリックします。
 11. [リモートレプリカオプション編集] 画面で [完了] をクリックします。
 12. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
 13. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。
設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

14. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。
実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連参照

- [付録 B.9 リモートレプリカオプション編集ウィザード](#)

TrueCopy のペア操作

TrueCopy を操作するための前提条件と操作方法について説明します。

- 6.1 TrueCopy のペア操作の流れ
- 6.2 TrueCopy のペア操作時の注意事項
- 6.3 TrueCopy のペア状態の確認
- 6.4 TrueCopy ペアの作成
- 6.5 TrueCopy ペアの分割
- 6.6 TrueCopy ペアの再同期
- 6.7 TrueCopy ペアの削除

6.1 TrueCopy のペア操作の流れ

TrueCopy の基本操作は次の項目で構成されます。



1. ペアの状態の確認
TrueCopy ペアを操作する前に、ペアを各操作に必要な状態にしておく必要があります。
2. ペアの作成
プライマリボリュームを二重化してセカンダリボリュームにします。
3. ペアの分割
プライマリボリュームとセカンダリボリュームに分け、必要であればセカンダリボリュームへの Read/Write アクセスを許可します。
4. ペアの再同期
セカンダリボリュームに、プライマリボリューム内の更新されたデータを再度反映します。
5. ペアの削除

6.2 TrueCopy のペア操作時の注意事項

ペア操作に関する注意事項を次に示します。

- ホストとストレージシステムをファイバチャネルまたは iSCSI で接続する場合は、操作対象またはペア状態の確認対象のボリュームに、LU パスを設定してください。LU パスの設定を解除したボリュームは、ペア操作およびペア状態の確認ができません。
- ホストとストレージシステムを FC-NVMe で接続する場合は、操作対象またはペア状態の確認対象のボリュームに、Namespace を設定しホストから認識できる状態にしてください。NVM サブシステムポートが追加された NVM サブシステムの Namespace が設定されていないボリュームは、ペア操作およびペア状態の確認ができません。
- ファームウェアの交換処理中は、ペア操作ができません。ファームウェアの交換処理が完了していることを確認してからペア操作をしてください。ただし、RAID Manager からは、ファームウェアの交換処理中でも、ペア操作ができます。
- エラーが発生した、または「キャンセル」をクリックしたなどの理由によって、ファームウェアの交換処理が中断されていると、ペア操作ができません。ファームウェアの交換処理が正常に完了していることを確認してから、ペア操作をしてください。ただし、RAID Manager からは、ファームウェアの交換処理中でも、ペア操作ができます。

- FC-NVMe でホストに接続されているボリュームを使用する場合は、RAID Manager でのみペア作成が可能です。RAID Manager でのペア操作については、『RAID Manager ユーザガイド』の、FC-NVMe の Namespace ペア操作に関するトピックを参照してください。なお、ペア作成以外のペア操作（分割、再同期、削除など）には、Storage Navigator、RAID Manager の両方を使用できます。
- TrueCopy ペアの二重化中に次の状態が継続すると、TrueCopy ペアの二重化よりも更新 I/O を優先させるため、ホストが TrueCopy ペアを分割することがあります。
 - 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームが属する MP ユニット内のプロセッサの稼働率が 70%以上
 - 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームに対する更新 I/O の転送量が多い
 - 副サイトのストレージシステムで、セカンダリボリュームが属する MP ユニットの Write ペンディング率が 65%以上TrueCopy ペアを作成または再同期する場合は、正サイトおよび副サイトそれぞれのストレージシステムの負荷の状況を確認してから実施してください。
- TrueCopy ペアを作成または再同期する場合、正サイトまたは副サイトのストレージシステムでコントローラボードが閉塞していると、ペア操作が失敗する可能性があります。閉塞している場合には、コントローラボードを回復してからペア操作を実施してください。

6.3 TrueCopy のペア状態の確認

TrueCopy ペアの操作では、必ずペアが特定の状態であることが必要です。操作を実行する前にペアの状態を確認してください。各操作の前提条件に書かれているペア状態であることを確認してください。

関連タスク

- (1) [TrueCopy ペアの状態を確認する](#)

6.4 TrueCopy ペアの作成

ペアを作成すると、正サイトのストレージシステムのプライマリボリューム内のすべてのデータが副サイトのストレージシステムのセカンダリボリューム内へコピーされます。このとき、プライマリボリュームは I/O 動作のため、ホストが利用できる状態を保持します。

関連概念

- [6.4.1 TrueCopy のフェンスレベルとは](#)

関連タスク

- [6.4.2 TrueCopy ペアを作成する](#)

6.4.1 TrueCopy のフェンスレベルとは

プライマリボリュームのフェンスレベルの設定は、ペアの作成または追加操作時に指定するもので、TrueCopy がエラーで分割した場合にホストのアクセスを拒否するか、プライマリボリュームへのアクセスを続けるかを決定します。次のフェンスレベルのうち 1 つを選択します。

[セカンダリボリュームデータ]

[セカンダリボリュームデータ]を設定すると、更新コピーが失敗したときに、プライマリボリュームにアクセスできなくなります。このようにプライマリボリュームのフェンスレベルを設定することで、TrueCopy リモートコピーに失敗した場合は、更新のためにプライマリボリュームにアクセスできなくなります。このフェンスレベルは、最も重要なボリュームの災害リカバリに設定することを検討してください。この設定によって、災害リカバリ作業中にセカンダリボリュームのデータが保証されているかを判断するための時間を短縮できます。

[セカンダリボリューム状態]

[セカンダリボリューム状態]を設定すると、正サイトのストレージシステムがセカンダリボリュームのペアの状態を PSUE に変更できない場合にだけ、プライマリボリュームがフェンスされます。正サイトのストレージシステムがセカンダリボリュームのペアの状態を正常に PSUE に変更すると、以降のプライマリボリュームへの Write I/O は受け付けられ、正サイトのストレージシステムはプライマリボリュームへの更新を記録します。したがって、ペア再同期操作でペアを迅速に再同期できます（同期していないトラックだけ）。また、この設定によって、災害リカバリ作業中にセカンダリボリュームのデータが保証されているかを判断するための時間を短縮できます。

[なし]

[なし]を設定すると、ペアが分割されてもプライマリボリュームはフェンスされません。この設定は、TrueCopy コピー操作がすべて失敗しても、更新のためにアプリケーションでプライマリボリュームを使用できるようにします。このため、セカンダリボリュームはプライマリボリュームと同期していないことがあります。このペアが分割している間、正サイトのストレージシステムはプライマリボリュームへの更新を記録します。この設定を使用する場合は、ホストフェイルオーバー機能が不可欠です。災害リカバリ時にセカンダリボリュームのデータが保証されているかは、ホストフェイルオーバーを経由して転送されたセンス情報を使用して判断するか、すでにセカンダリボリュームのデータが保証されているかを確認した他のファイルとセカンダリボリュームの内容を比較して判断します。

6.4.2 TrueCopy ペアを作成する

1 つまたは複数の新しい TrueCopy ペアを作成する手順を次に示します。形成コピーは正サイトのストレージシステムから実行します。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（リモートバックアップ管理）ロール
- セカンダリボリュームがすべてのホストからオフラインであること。
- プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームのポート ID、ホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID、および LUN がわかっていること。
- ペアを作成する前に、正サイトと副サイトのストレージシステムの論理ユニット（LU）を定義、初期化済みであること。
- ペアを作成する前に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が、ブロック単位で同じであること。



メモ

「論理デバイス」画面の「オプション」で「容量単位」を「block」にして、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が同じであることを確認してください。「容量単位」を「GB」などのバイト単位で表示すると、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量に僅かな差があった場合に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量の差異が表れないことがあります。

- TrueCopy 用にポートを構成してあること。
- TrueCopy 用に正サイトと副サイトのストレージシステムを構成済みであること。
- TCP/IP ネットワークの過剰トラフィックを避けるため、形成コピー実行前に Performance Monitor を停止していること。
- RAID Manager の場合は、paircreate コマンドを使用すること。

操作手順

1. 次のどれかの方法で、「TC ペア作成」画面を表示します。

Hitachi Command Suite を使用する場合：

- 「リソース」タブで「ストレージシステム」ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、「リモートレプリケーション」を選択します。「TC ペア」タブで「TC ペア作成」をクリックします。

Storage Navigator のよく使うタスクを使用する場合：

- 「よく使うタスク」から「TC ペア作成」を選択します。

Storage Navigator の「リモートレプリケーション」画面を使用する場合：

- 「ストレージシステム」ツリーから「レプリケーション」 - 「リモートレプリケーション」を選択します。「TC ペア」タブで「TC ペア作成」をクリックします。
- 「ストレージシステム」ツリーから「レプリケーション」 - 「リモートレプリケーション」を選択します。「アクション」メニューから「リモートレプリケーション」 - 「TC ペア作成」を選択します。

2. 「リモートストレージシステム」の「モデル/シリアル番号」で、モデルとシリアル番号を選択します。
3. 「リモートストレージシステム」の「パスグループ ID」で、パスグループの ID を選択します。
4. 「プライマリボリューム選択」の「選択項目」で、ローカルストレージシステムのポートタイプを選択します。
5. 「プライマリボリューム選択」の「LU 選択」で、ローカルストレージシステムのポート名とホストグループ名または iSCSI ターゲットエイリアスを選択します。
プライマリボリュームとして使用できるボリュームが「利用可能な LDEV」テーブルに表示されます。
6. 「プライマリボリューム選択」の「利用可能な LDEV」テーブルで、プライマリボリュームのチェックボックスを選択します。



メモ

仮想ストレージマシン内のボリュームを使用するときも、本ストレージシステムの LDEV ID を指定してください。仮想 LDEV ID は指定できません。

7. 「セカンダリボリューム選択」の「ベースセカンダリボリューム」 - 「ポート名」でポートを選択します。
8. 「セカンダリボリューム選択」の「ベースセカンダリボリューム」 - 「ホストグループ ID/iSCSI ターゲット ID」で、ホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID を選択します。

9. [セカンダリボリューム選択] の [ベースセカンダリボリューム] - [LUN ID] で LUN ID を選択します。
10. [セカンダリボリューム選択] の [ベースセカンダリボリューム] - [選択タイプ] でセカンダリボリュームを割り当てる間隔を選択します。
11. 必要に応じて、[オプション] をクリックします。
12. [プライマリボリュームフェンスレベル] を選択します。
13. [形成コピータイプ] を選択します。
14. [コピー速度] で、1 回のリモート I/O でコピーする最大トラックの数を指定します。
デフォルトは 15 です。
15. [形成コピー優先度] で、形成コピー操作の優先順位（スケジューリング順位）を入力します。



注意

TrueCopy ペアの作成中にタイムアウトが発生した場合、指定した優先順位のとおりにコピー処理が実行されないことがあります。タイムアウトの原因には CU の構成やリモート接続パスの不具合などがあるため、原因を確認して改善してください。ペアをいったん削除してから、再度ペアを作成してください。

16. [追加] をクリックします。
作成したペアが、[選択したペア] テーブルに追加されます。ペアを [選択したペア] テーブルから削除したい場合は、そのペアのチェックボックスを選択して [削除] をクリックします。
ペアのチェックボックスを選択して [設定変更] をクリックすると、[設定変更] 画面が表示され、そのペアの設定を変更できます。
17. [完了] をクリックします。
18. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
19. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。
設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

20. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。
実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連概念

- [6.4.1 TrueCopy のフェンスレベルとは](#)

関連タスク

- [5.2 TrueCopy 操作のためにリモート接続を追加する](#)

関連参照

- [付録 B.10 ペア作成ウィザード](#)

6.5 TrueCopy ペアの分割

TrueCopy ペアは分割できます。これによってセカンダリボリュームへのコピーが中断されます。ペアを分割すると、次のことが発生します。

- ホストからの I/O 書き込みはプライマリボリュームに対しては継続しますが、セカンダリボリュームに対しては停止します。

- 現在の更新コピー動作はセカンダリボリュームに対しては最後まで行われるので、分割操作をした時点までのデータの一貫性は保証されます。
- ペア状態は PSUS に変わります。
- 正サイトのストレージシステムはペアの分割後に更新されたプライマリボリュームのトラックを差分データとして記録します。このデータはペアの再同期の際にセカンダリボリュームへコピーされます。
- セカンダリボリューム (Write 許可オプションが有効なセカンダリボリューム) にアクセスするためには、ペアを分割しなければなりません。
- ペアを分割する際、正サイトのストレージシステムはペアの状態を変更する前に、保留中の更新コピー操作を完了します。これによって確実にペアを同期化します。

ペアの分割中はプライマリボリュームへの更新を遮断するオプションを設定できます。これによってプライマリボリュームとセカンダリボリュームの同期が維持されます。

他のオプションとして、ホストからセカンダリボリュームへの書き込みを可能にすることもできます。副サイトのストレージシステムはペアの分割中に更新されたセカンダリボリュームのトラックを差分ビットマップとして記録します。ペアを再同期すると、副サイトのストレージシステムは正サイトのストレージシステムにセカンダリボリュームの差分ビットマップを転送します。正サイトのストレージシステムはプライマリボリュームとセカンダリボリュームの差分ビットマップをマージし、同期していないトラックを特定します。

関連タスク

- [6.5.1 TrueCopy ペアを分割する](#)

6.5.1 TrueCopy ペアを分割する

TrueCopy の分割方法について説明します。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（リモートバックアップ管理）ロール
- ペア状態が COPY または PAIR であること。
- RAID Manager の場合は、pairsplit コマンドを使用すること。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[リモートレプリケーション] 画面を表示します。

Hitachi Command Suite を使用する場合：

- [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[リモートレプリケーション] を選択します。

Storage Navigator を使用する場合：

- [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] - [リモートレプリケーション] を選択します。

2. [TC ペア] タブで分割したいペアのチェックボックスを選択し、次のどちらかの方法で [ペア分割] 画面を表示します。

- [ペア分割] をクリックします。
- [アクション] メニューから [リモートレプリケーション] - [ペア分割] を選択します。

3. [選択したペア] テーブルに分割したいペアが表示されていることを確認します。

4. [セカンダリボリューム書き込み] で、セカンダリボリュームへの書き込みを有効にするかどうかを選択します。



注意

ペアを分割する必要があつて、そのプライマリボリュームがシステム操作に必要な場合は、[プライマリボリューム書き込み] で、必ず [プライマリボリュームフェンスレベルによる] を選択して、プライマリボリュームが I/O を引き続き受け付けられるようにしてください。

5. [プライマリボリューム書き込み] で、プライマリボリュームへの書き込みを有効にするかどうかを選択します。



注意

ペアを分割する必要があつて、そのプライマリボリュームがシステム操作に必要な場合は、必ず [プライマリボリュームフェンスレベルによる] を選択して、プライマリボリュームが I/O を引き続き受け付けられるようにしてください。

6. [完了] をクリックします。
7. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
8. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。
設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

9. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。
実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

ペアを分割したら、[リモートレプリケーション] 画面で、TrueCopy ペアが正しく (PSUS 状態に) 表示されていることを確認します。

ペア分割操作の状況を確認するには、Storage Navigator メイン画面の右上にある更新ボタンをクリックして [リモートレプリケーション] 画面の情報を更新するか、[ペアプロパティ参照] 画面で詳細な状態情報を表示してください。

関連参照

- [付録 B.11 ペア分割ウィザード](#)

6.6 TrueCopy ペアの再同期

TrueCopy ペアを分割している間、正サイトのストレージシステムはセカンダリボリュームに対する更新コピー操作を実行しません。ペアを再同期すれば、分割以降に蓄積された差分データの分だけセカンダリボリュームが更新され、データを再びプライマリボリュームのデータと同一にできます。その後、セカンダリボリュームに対して更新コピー動作が再度始まります。

関連タスク

- [6.6.1 TrueCopy ペアを再同期する](#)

6.6.1 TrueCopy ペアを再同期する

ペア再同期は、正サイトのストレージシステムでだけ実行できます。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（リモートバックアップ管理）ロール
- ペア状態が PSUS または PSUE であること。
- RAID Manager の場合は、pairresync コマンドを使用すること。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[リモートレプリケーション] 画面を表示します。

Hitachi Command Suite を使用する場合：

- [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[リモートレプリケーション] を選択します。

Storage Navigator を使用する場合：

- [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] - [リモートレプリケーション] を選択します。
2. [TC ペア] タブで再同期したいペアのチェックボックスを選択し、次のどちらかの方法で [ペア再同期] 画面を表示します。
 - [ペア再同期] をクリックします。
 - [アクション] メニューから [リモートレプリケーション] - [ペア再同期] を選択します。
 3. [選択したペア] テーブルに再同期したいペアが表示されていることを確認します。
 4. [プライマリボリュームフェンスレベル] を選択します。
 5. コピー優先度を変更したいペアを選択して、[コピー優先度] で再同期の優先順位（スケジューリング順位）を指定します。
 6. [コピー速度] で、1 回のリモート I/O でコピーする最大トラックの数を指定します。
 7. [完了] をクリックします。
 8. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
 9. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。
設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

10. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。

実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

ペアを再同期したら、[リモートレプリケーション] 画面で、TrueCopy ペアが正しく（PAIR 状態に）表示されていることを確認します。

ペア再同期操作の状況を確認するには、Storage Navigator メイン画面の右上にある更新ボタンをクリックして [リモートレプリケーション] 画面の情報を更新するか、[ペアプロパティ参照] 画面で詳細な状態情報を表示してください。

関連概念

- [6.4.1 TrueCopy のフェンスレベルとは](#)
- [6.6 TrueCopy ペアの再同期](#)

関連参照

- [付録 B.12 ペア再同期ウィザード](#)

6.7 TrueCopy ペアの削除

TrueCopy ペアは削除できます。これによって TrueCopy ペアの関係は削除されますが、ボリュームやそれらのデータは削除されません。

プライマリボリュームのリモートコピーを保持する必要がなくなった場合だけ、正サイトのストレージシステムから TrueCopy ペアを削除します。正サイトのストレージシステムから TrueCopy ペアを削除すると、正サイトのストレージシステムはそのペアについての全 TrueCopy コピー操作を停止してプライマリボリュームとセカンダリボリュームを単一のボリュームへと変更します。

TrueCopy ペアを削除したら、正サイトのストレージシステムはプライマリボリュームに対する以降の Write I/O 操作をすべて受け付け続けますが、プライマリボリュームの更新は差分ビットマップに記録しません。

副サイトのストレージシステムから TrueCopy ペアを削除するのは、災害リカバリの場合だけにしてください。副サイトのストレージシステムから TrueCopy ペアを削除すると、副サイトのストレージシステムはセカンダリボリュームを単一のボリュームへと変更します。正サイトのストレージシステムはセカンダリボリュームのペアの状態が変化したことを検出して、プライマリボリュームのペアの状態を PSUS（タイプは Delete pair to Remote Storage System）に変更します。

副サイトのストレージシステムから削除したペアを再同期するには、まず正サイトのストレージシステムからペアを削除し、適切な [形成コピータイプ] ([全てコピー] または [なし]) で正サイトのストレージシステムからペアを作成し、ペアを再同期します。

関連タスク

- [6.7.1 TrueCopy ペアを削除する](#)

6.7.1 TrueCopy ペアを削除する

TrueCopy ペアを削除する手順を次に示します。



注意

副サイトのストレージシステムから TrueCopy ペアを削除する場合、セカンダリボリュームとプライマリボリュームが同一（例えば、同じボリュームラベル）であることを確認し、ボリュームの重複によるシステムの問題を発生させないように注意してください。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（リモートバックアップ管理）ロール
- RAID Manager の場合は、pairsplit -S コマンドを使用すること。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[リモートレプリケーション] 画面を表示します。

Hitachi Command Suite を使用する場合：

- [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[リモートレプリケーション] を選択します。

Storage Navigator を使用する場合：

- [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] - [リモートレプリケーション] を選択します。

2. [TC ペア] タブで削除したいペアのチェックボックスを選択し、次のどちらかの方法で [ペア削除] 画面を表示します。
 - ・ [他のタスク] - [ペア削除] をクリックします。
 - ・ [アクション] メニューから [リモートレプリケーション] - [ペア削除] を選択します。
3. [選択したペア] テーブルに削除したいペアが表示されていることを確認します。
4. [削除モード] を選択します。
5. [完了] をクリックします。
6. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
7. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。
設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

8. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。
実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

ペアを削除したら、[リモートレプリケーション] 画面で、削除した **TrueCopy** ペアが表示されないことを確認します。

ペア削除操作の状況を確認するには、**Storage Navigator** メイン画面の右上にある更新ボタンをクリックして [リモートレプリケーション] 画面の情報を更新するか、[ペアプロパティ参照] 画面で詳細な状態情報を表示してください。

関連概念

- ・ [6.7 TrueCopy ペアの削除](#)

関連参照

- ・ [付録 B.13 ペア削除ウィザード](#)

TrueCopy の状態表示と保守

TrueCopy の状態表示と保守について説明します。

- 7.1 TrueCopy の状態表示
- 7.2 TrueCopy の保守
- 7.3 TrueCopy 操作に関わるストレージシステムとネットワークデバイスの電源の管理
- 7.4 ペアを維持した DP-VOL の容量拡張

7.1 TrueCopy の状態表示

関連概念

- [7.1.1 TrueCopy ペアの確認とは](#)
- [7.1.2 TrueCopy ペア状態の定義](#)
- [7.1.5 TrueCopy のライセンス容量を確認する](#)
- [7.1.7 TrueCopy のコピー操作と I/O 統計データのモニタリング](#)

関連タスク

- [7.1.3 TrueCopy ペアの一致率を確認する](#)
- [7.1.4 TrueCopy ペアの操作履歴を確認する](#)
- [7.1.6 TrueCopy ペアの情報を出力する](#)
- [7.1.8 TrueCopy のリモート接続とパスの状態を確認する](#)
- [7.1.9 TrueCopy のリモート接続とパスの状態の詳細を確認する](#)

7.1.1 TrueCopy ペアの確認とは

TrueCopy ペアの動作を記録・保守するためには継続的なモニタリングが必要です。

- ペア操作を実行したい場合、まずペアの状態を確認してください。操作によっては特定の状態または特定の状態が組み合わされていることが必要です。
- 操作を実行するとペアの状態が変化します。ペアの状態を確認して、ペアが正しく動作していること、PAIR 状態の場合はプライマリボリュームからセカンダリボリュームへデータが正しく更新されていること、分割されている場合は差分データの管理が実行されていることを確認します。

Storage Navigator または RAID Manager で TrueCopy のペア状態を確認できます。継続してペア状態を確認してください。Storage Navigator または Maintenance Utility を使用すると、問題が発生したときにメールで通知するように設定できます。

関連タスク

- [\(1\) TrueCopy ペアの状態を確認する](#)

(1) TrueCopy ペアの状態を確認する

TrueCopy ペアの状態を確認する手順を次に示します。

前提条件

- RAID Manager の場合は、`pairstat` または `pairstatwait` コマンドを使用すること。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[リモートレプリケーション] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[リモートレプリケーション] を選択します。

Storage Navigator を使用する場合：

- ・ [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] - [リモートレプリケーション] を選択します。
2. [TC ペア] タブでペア状態を確認したい TrueCopy ペアの [状態] を確認します。
- さらに詳細な状態情報を確認するには、TrueCopy ペアのチェックボックスを選択して、次のどちらかの方法で [ペアプロパティ参照] 画面を表示します。
- ・ [他のタスク] - [ペアプロパティ参照] をクリックします。
 - ・ [アクション] メニューから [リモートレプリケーション] - [ペアプロパティ参照] を選択します。

関連概念

- ・ [7.1.1 TrueCopy ペアの確認とは](#)

関連参照

- ・ [付録 B.2 \[リモートレプリケーション\] 画面](#)
- ・ [付録 B.5 \[ペアプロパティ参照\] 画面](#)

7.1.2 TrueCopy ペア状態の定義

TrueCopy ペアの状態を次の表に示します。最新のペア状態を知りたい場合は、更新ボタンをクリックしてデータが最新であることを確認してください。

Storage Navigator の画面では、ペア状態は「Storage Navigator でのペア状態/RAID Manager でのペア状態」という形式で表示されます。Storage Navigator でのペア状態と RAID Manager でのペア状態が同じ場合は、RAID Manager でのペア状態は表示されません。

Storage Navigator でのペア状態を次の表に示します。

ペア状態	説明	プライマリボリュームへのアクセス	セカンダリボリュームへのアクセス
 COPY	このペアの TrueCopy の形成コピー操作が進行中です。TrueCopy ペアは、まだ同期していません。	Read / Write	Read Only
 PAIR	・ この TrueCopy ペアは同期状態です。 ・ ホストからプライマリボリュームへの更新情報はセカンダリボリュームで複製されます。	Read / Write	Read Only
 PSUS (pair suspended-split)	・ ユーザによって TrueCopy ペアが分割または副サイトのストレージシステムから削除されました。 ・ このペアは同期していません。 ・ 正サイトのストレージシステムでペアを分割すると、正サイトのストレージシステムがプライマリボリュームとセカンダリボリュームの状態を PSUS に変えます。 ・ 副サイトのストレージシステムでペアを分割すると、副サイトのストレージシステムがセカンダリボリュームの状態を PSUS に変えます。パスの状態が正常であれば正サイトのストレージシステムはこの変化を検出し、プライマリボリューム	Read / Write	・ セカンダリボリューム書き込みオプションが無効の場合は Read Only ・ セカンダリボリューム書き込みオプションが有効の場合は Read / Write

ペア状態	説明	プライマリボリュームへのアクセス	セカンダリボリュームへのアクセス
	ムの状態を PSUS に変えます。ただし、ホストからの I/O がない場合、プライマリボリュームの状態が PAIR のままになることがあります。 副サイトのストレージシステムでペアを削除すると、副サイトのストレージシステムがセカンダリボリュームを単一のボリュームに変えます。パスの状態が正常であれば正サイトのストレージシステムはこの変化を検出し、プライマリボリュームの状態を PSUS に変えます。プライマリボリュームを単一のボリュームにするには、正サイトのストレージシステムでペアを削除してください。		
 PSUE (pair suspended-error)	- エラーによって正サイトまたは副サイトのストレージシステムがペアを分割しています。 - この TrueCopy ペアは同期していません。 - 何らかの理由で正サイトのストレージシステムがペアの同期を保てなくなった場合、正サイトのストレージシステムはプライマリボリュームとセカンダリボリューム（変更できるときだけ）の状態を PSUE に変えます。 - ユーザが副サイトのストレージシステムからペアを削除した。 - 副サイトのストレージシステム、セカンダリボリューム、または TrueCopy の更新コピーについてエラーが発生した。 - 副サイトのストレージシステムとの通信が不能になった。	Read / Write : [プライマリボリュームフェンスレベル]が「セカンダリボリュームデータ」の場合は、Read Only。	Read Only

RAID Manager でのペア状態を次の表に示します。

ペア状態	説明
SMPL	このボリュームは現在 TrueCopy ペアに割り当てられていません。
COPY	このペアの TrueCopy の形成コピー操作が進行中です。このペアはまだ同期していません。
PAIR	形成コピーが完了し、この TrueCopy ペアは同期状態です。
PSUS	ペアの状態は維持していますが、ユーザによって TrueCopy ペアが分割され、セカンダリボリュームの更新は中止されています。この状態はプライマリボリュームで表示されます。ペアが分割されている間、ストレージシステムはプライマリボリュームへの更新を差分ビットマップに記録します。
SSUS	ペアの状態は維持していますが、ユーザによって TrueCopy ペアが分割され、セカンダリボリュームの更新は中止されています。この状態はセカンダリボリュームで表示されます。セカンダリボリュームへの更新を許可するオプションを指定してペアを分割している場合、ストレージシステムはセカンダリボリュームへの更新を差分ビットマップに記録します。
PSUE	ペアの状態は維持していますが、エラー状態によってセカンダリボリュームの更新は中止されています。PSUE は内部エラーが原因の PSUS (SSUS) です。

ペア状態	説明
SSWS	ペアの状態は維持しています。プライマリボリュームとセカンダリボリュームの位置づけを入れ替えて再同期する処理 (horctakeover) 中のペア状態です。

Universal Replicator のペア状態については、『Universal Replicator ユーザガイド』を参照してください。

関連概念

- (1) [TrueCopy の分割タイプ](#)
- (2) [分割された TrueCopy ペアの動作の注意点](#)

(1) TrueCopy の分割タイプ

ユーザは、形成コピー操作の完了後なら、いつでもペアを分割できます。

分割タイプは [ペアプロパティ参照] 画面の [状態] に表示されます。分割タイプの一覧と説明を次の表に示します。

分割タイプ	適用対象	説明
Primary Volume by Operator	プライマリ	ユーザが [プライマリボリューム書き込み] オプションで「無効」を選択して正サイトのストレージシステムからペアを分割しました。セカンダリボリュームの分割タイプは「by MCU」です。
Secondary Volume by Operator	プライマリ、セカンダリ	ユーザが [プライマリボリューム書き込み] オプションで「無効」を選択して、正サイトまたは副サイトのストレージシステムからペアを分割しました。
by MCU	セカンダリ	副サイトのストレージシステムが正サイトのストレージシステムから、ペアを分割する要求を受け取りました。プライマリボリュームの分割タイプは、Primary Volume by Operator または Secondary Volume by Operator です。
Delete pair to RCU	プライマリ	正サイトのストレージシステムは、ユーザが副サイトのストレージシステムからペアを削除したためにセカンダリボリュームが単一のボリュームに変わったことを検出しました。セカンダリボリュームが PSUS または PSUE 状態でないため、ペアを再同期できません。
by RCU	プライマリ	正サイトのストレージシステムが、TrueCopy ペアを分割させる原因となった副サイトのストレージシステムのエラーを検出しました。該当するセカンダリボリュームの分割タイプは、Secondary Volume Failure です。
Secondary Volume Failure	プライマリ、セカンダリ	正サイトのストレージシステムが、副サイトのストレージシステムとの通信中にエラーを、または更新コピー中に I/O エラーを検出しました。この場合、該当するセカンダリボリュームの分割タイプは通常 Secondary Volume Failure です。 この分割タイプは、パスの数が [リモート接続追加] 画面で設定したパス数の下限を下回った場合にも表示されます。
MCU IMPL	プライマリ、セカンダリ	正サイトのストレージシステムが、IMPL 中に正サイトのストレージシステムの不揮発性メモリ内に有効な制御情報を見つけれませんでした。このような状況は、正サイトのストレージシステムに 48 時間以上電源が入らなかった場合にだけ起こります (例：電源障害やバックアップバッテリーの放電)。
Initial Copy Failed	プライマリ、セカンダリ	形成コピーが完了する前に正サイトのストレージシステムがペアを分割しました。セカンダリボリュームとプライマリボリュームのデータは一致していません。

(凡例)

プライマリ：プライマリボリューム

セカンダリ：セカンダリボリューム

(2) 分割された TrueCopy ペアの動作の注意点

分割されたペアに対するシステム動作について、注意事項を次に示します。

- ペアが分割されると、正サイトのストレージシステムはセカンダリボリュームに対する更新コピーを停止し、プライマリボリュームのフェンスレベルによってプライマリボリュームに対する Write I/O を受け付けない場合があります。
- 更新コピーが失敗すると、正サイトのストレージシステムはユニットチェックを通知し、Write が失敗したことをホストに通知します。したがって、ホストおよびアプリケーションプログラムは、プライマリボリュームへの Write に失敗したと見なします。
- 正サイトのストレージシステムが分割されたプライマリボリュームに対する Write を受け付けると、正サイトのストレージシステムはペアの分割中に更新されたプライマリボリュームのトラックを差分データとして記録します。分割された TrueCopy ペアが再同期されると、正サイトのストレージシステムは同期していないプライマリボリュームトラックを差分データとしてセカンダリボリュームにコピーします。

7.1.3 TrueCopy ペアの一致率を確認する

ペアの一致率を確認する方法について説明します。

前提条件

- RAID Manager の場合は、pairedisplay コマンドを使用すること。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[リモートレプリケーション] 画面を表示します。

Hitachi Command Suite を使用する場合：

- [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[リモートレプリケーション] を選択します。

Storage Navigator を使用する場合：

- [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] - [リモートレプリケーション] を選択します。
2. [TC ペア] タブで一致率を確認したいペアのチェックボックスを選択して、次のどちらかの方法で [ペア一致率参照] 画面を表示します。
 - [他のタスク] - [ペア一致率参照] をクリックします。
 - [アクション] メニューから [リモートレプリケーション] - [ペア一致率参照] を選択します。

関連参照

- [付録 B.4 \[ペア一致率参照\] 画面](#)

7.1.4 TrueCopy ペアの操作履歴を確認する

Storage Navigator で、TrueCopy ペアの操作履歴を確認できます。



メモ

- ・ [操作履歴] テーブルは、必ずしも時系列で降順に表示されるとは限りません。
- ・ 最新の操作履歴を最大で 8,192 件表示します。
- ・ 1 度に複数の LDEV で障害分割が起きた場合、表示される「Pair Suspend (Failure)」は、障害分割が起きた LDEV の数と一致しない場合があります。
- ・ 仮想ストレージマシン内のボリュームに対して、RAID Manager で TrueCopy ペアを操作した場合でも、[LDEV ID] には本ストレージシステムの LDEV ID が表示されます。
- ・ 一度に 1,000 ペア以上を操作した場合は、操作履歴の一部が記録されないことがあります。



メモ

- ・ 監査ログを使用して、TrueCopy ペアの操作履歴を確認することもできます。詳細は、『監査ログ リファレンスガイド』を参照してください。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[レプリケーション] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - ・ [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[レプリケーションダッシュボード] を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - ・ [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] を選択します。
2. 次のどちらかの方法で [操作履歴] 画面を表示します。
 - ・ [操作履歴参照] - [リモートレプリケーション] をクリックします。
 - ・ [アクション] メニューから [リモートレプリケーション] - [操作履歴参照] を選択します。
3. [コピータイプ] で [TC] を選択します。
TrueCopy ペアの操作履歴が表示されます。

関連概念

- ・ (1) TrueCopy 操作で [操作履歴] 画面の [説明] に表示される文言

関連参照

- ・ 付録 B.7 [操作履歴] 画面

(1) TrueCopy 操作で [操作履歴] 画面の [説明] に表示される文言

[操作履歴] 画面の [説明] に表示される文言の説明を次に示します。

【説明】 に表示される文言	説明
Pair Add Start	ペアの作成が始まりました。
Pair Add Complete	ペアの作成が終わりました。
Pair Delete	ペアが削除されました。
Pair Suspend (Operation)	ペアが分割されました。
Pair Suspend (Failure)	障害が発生したため、ペアが分割されました。
Pair Resync. Start	ペアの再同期が始まりました。
Pair Resync. Complete	ペアの再同期が終わりました。

関連タスク

- [7.1.4 TrueCopy ペアの操作履歴を確認する](#)

7.1.5 TrueCopy のライセンス容量を確認する

[レプリケーション] 画面でライセンス容量を確認できます。

前提条件

- RAID Manager の場合は、`raidcom get license` コマンドを使用すること。

操作手順

次のどちらかの方法で、[リモートレプリケーション] 画面を表示します。

Hitachi Command Suite を使用する場合：

- [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[レプリケーションダッシュボード] を選択します。

Storage Navigator を使用する場合：

- [ストレージシステム] ツリーの [レプリケーション] を選択します。

関連参照

- [付録 B.1 \[レプリケーション\] 画面](#)

7.1.6 TrueCopy ペアの情報を出力する

Storage Navigator で、TrueCopy のペア情報を TSV ファイルに保存できます。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[リモートレプリケーション] 画面を表示します。

Hitachi Command Suite を使用する場合：

- [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[リモートレプリケーション] を選択します。

Storage Navigator を使用する場合：

- [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] - [リモートレプリケーション] を選択します。

2. [他のタスク] - [テーブル情報出力] をクリックします。

関連参照

- [付録 B.2 \[リモートレプリケーション\] 画面](#)

7.1.7 TrueCopy のコピー操作と I/O 統計データのモニタリング

コピー操作や I/O 統計データを Storage Navigator でモニタリングできます。詳細は、『Performance Manager ユーザガイド(Performance Monitor, Server Priority Manager, QoS)』を参照してください。

7.1.8 TrueCopy のリモート接続とパスの状態を確認する

リモート接続の状態をチェックして、リモートパスを維持します。

前提条件

- RAID Manager の場合は、`raidcom get rcu` コマンドを使用すること。

操作手順

- 次のどちらかの方法で、[リモート接続] 画面を表示します。

Hitachi Command Suite を使用する場合：

- [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[リモート接続] を選択します。

Storage Navigator を使用する場合：

- [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] - [リモート接続] を選択します。

- 状態を確認したいリモート接続の [状態] を確認します。

関連概念

- [10.1.3 TrueCopy のリモートパスの状態に関するトラブルシューティング](#)

関連タスク

- [7.1.9 TrueCopy のリモート接続とパスの状態の詳細を確認する](#)

関連参照

- [付録 B.3 \[リモート接続\] 画面](#)

7.1.9 TrueCopy のリモート接続とパスの状態の詳細を確認する

リモート接続とパスの状態の詳細を確認する方法を説明します。

前提条件

- RAID Manager の場合は、`raidcom get rcu` コマンドを使用すること。

操作手順

- 次のどちらかの方法で、[リモート接続] 画面を表示します。

Hitachi Command Suite を使用する場合：

- [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[リモート接続] を選択します。

Storage Navigator を使用する場合：

- [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] - [リモート接続] を選択します。

- リモート接続のチェックボックスを選択して、次のどちらかの方法で [リモート接続プロパティ参照] 画面を表示します。

- [リモート接続プロパティ参照] をクリックします。
- [アクション] メニューから [リモート接続] - [リモート接続プロパティ参照] を選択します。

関連概念

- [10.1.3 TrueCopy のリモートパスの状態に関するトラブルシューティング](#)

関連タスク

- [7.1.8 TrueCopy のリモート接続とパスの状態を確認する](#)

関連参照

- [付録 B.6 \[リモート接続プロパティ参照\] 画面](#)

7.2 TrueCopy の保守

関連タスク

- [7.2.1 TrueCopy のフェンスレベルを変更する](#)
- [7.2.2 TrueCopy ペアを強制的に削除する](#)
- [7.2.3 TrueCopy のリモート接続オプションを変更する](#)
- [7.2.4 TrueCopy のリモートパスを追加する](#)
- [7.2.5 TrueCopy のリモートパスを削除する](#)
- [7.2.6 TrueCopy のリモート接続を削除する](#)

7.2.1 TrueCopy のフェンスレベルを変更する

[ペアオプション編集] 画面を利用すると、ペアごとにフェンスレベルを変更できます。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（リモートバックアップ管理）ロール
- ペア状態が COPY または PAIR であること。
- RAID Manager の場合は、`pairresync -f` コマンドを使用すること。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[リモートレプリケーション] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[リモートレプリケーション] を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] - [リモートレプリケーション] を選択します。
2. [TC ペア] タブでフェンスレベルを変更したいペアのチェックボックスを選択し、次のどちらかの方法で [ペアオプション編集] 画面を表示します。
 - [他のタスク] - [ペアオプション編集] をクリックします。
 - [アクション] メニューから [リモートレプリケーション] - [ペアオプション編集] を選択します。



メモ

複数のペアのチェックボックスを選択して [ペアオプション編集] 画面を表示した場合、画面上のリストではオプションの値が空白で表示されることがあります。リストから空白以外の値を選択すると、その値がそれぞれのペアに設定されます。

3. [プライマリボリュームフェンスレベル] で、フェンスレベルを選択します。
4. [完了] をクリックします。
5. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
6. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。
設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます。



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

7. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。
実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連参照

- [付録 B.14 ペアオプション編集ウィザード](#)

7.2.2 TrueCopy ペアを強制的に削除する

次の場合は、Storage Navigator の [ペア強制削除(TC ペア)] 画面を使用して、TrueCopy ペアを強制的に削除します。

- ペアが組まれていないボリュームであるにもかかわらず、ボリュームにペアの情報が残ってしまっていて、ほかのペアのボリュームとして使用できない。
- 通信エラーで副サイトのストレージシステムへ接続できない。
- ハードウェア障害が発生しておらず、負荷が低い状態にもかかわらず、ペア削除操作が失敗またはタイムアウトが発生した場合。

通信エラーで副サイトのストレージシステムへ接続できない場合は、副サイトのストレージシステムでもペアを強制的に削除してください。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（リモートバックアップ管理）ロール
- ペアが組まれていないボリュームであること。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[論理デバイス] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムの配下の [ボリューム] を右クリックし、[System GUI] を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - [ストレージシステム] ツリーから [論理デバイス] を選択します。
2. [LDEV] タブで強制削除したいボリュームのチェックボックスを選択します。
3. 次のどちらかの方法で、[ペア強制削除(TC ペア)] 画面を表示します。

- ・ [他のタスク] - [ペア強制削除(TC ペア)] をクリックします。
 - ・ [アクション] メニューから [リモートレプリケーション] - [ペア強制削除(TC ペア)] を選択します。
4. ペアの情報を削除したいボリュームが [選択した LDEV] テーブルに表示されていることを確認します。
 5. [タスク名] にタスク名を入力します。
 6. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。
設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます。



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

7. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。
実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連参照

- ・ [付録 B.19 \[ペア強制削除\(TC ペア\)\] 画面](#)

7.2.3 TrueCopy のリモート接続オプションを変更する

[リモート接続オプション編集] 画面で、次のオプション設定を変更できます。

- ・ 最小パス数
- ・ RIO MIH 時間（ローカルストレージシステムからリモートストレージシステムへデータコピーの要求があったスロットに対して、コピーが開始されてから完了するまでの待ち時間）
- ・ 往復応答時間（プライマリボリュームからセカンダリボリュームへデータをコピーするときの制限時間）

前提条件

- ・ 必要なロール：ストレージ管理者（リモートバックアップ管理）ロール
- ・ RAID Manager の場合は、`raidcom modify rcu` コマンドを使用すること。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[リモート接続] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - ・ [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[リモート接続] を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - ・ [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] - [リモート接続] を選択します。
2. [接続(To)] タブでオプションを変更したいリモート接続のチェックボックスを選択して、次のどちらかの方法で [リモート接続オプション編集] 画面を表示します。
 - ・ [リモート接続オプション編集] をクリックします。
 - ・ [アクション] メニューから [リモート接続] - [リモート接続オプション編集] を選択します。
3. 変更したいオプションのチェックボックスを選択します。

4. [最小パス数] を選択します。
 5. [RIO MIH 時間] を入力します。
 6. [往復応答時間] を入力します。
 7. [完了] をクリックします。
 8. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
 9. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。
- 設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます。



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後] にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

10. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。
- 実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連概念

- [5.2.1 往復応答時間とは](#)

関連参照

- [付録 B.17 リモート接続オプション編集ウィザード](#)

7.2.4 TrueCopy のリモートパスを追加する

必要に応じてローカルストレージシステムからリモートストレージシステムへのリモートパスを追加できます。最大 8 個のパスを設定できます。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（リモートバックアップ管理）ロール
- リモート接続を追加する際の、パス関連の前提条件を再確認してください。
- RAID Manager の場合は、`raidcom add rcu_path` コマンドまたは `raidcom add rcu_iscsi_port` コマンドを使用すること。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[リモート接続] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[リモート接続] を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] - [リモート接続] を選択します。
2. [接続(To)] タブでリモートパスを追加したいリモート接続のチェックボックスを選択し、次のどちらかの方法で、[リモートパス追加] 画面を表示します。
 - [他のタスク] - [リモートパス追加] をクリックします。
 - [アクション] メニューから [リモート接続] - [リモートパス追加] を選択します。
3. [選択タイプ] でポートタイプを選択します。
4. ローカルストレージシステムとリモートストレージシステムで使用するポートを選択します。

「選択タイプ」で「iSCSI」を選択したときは、リモートストレージシステムのポートの「IP アドレス」および「TCP ポート番号」を入力します。2 つ以上パスを追加する場合は、「パス追加」をクリックします。

5. 「完了」をクリックします。
6. 「設定確認」画面で設定内容を確認し、「タスク名」にタスク名を入力します。
7. 「適用」をクリックして設定をストレージシステムに適用します。
設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます



ヒント

ウィザードを閉じたあとに「タスク」画面を自動的に表示するには、ウィザードで「「適用」をクリックした後にタスク画面を表示」を選択して、「適用」をクリックします。

8. 「タスク」画面で、操作結果を確認します。
実行前であれば、「タスク」画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連タスク

- ・ [5.2 TrueCopy 操作のためにリモート接続を追加する](#)

関連参照

- ・ [付録 B.15 リモートパス追加ウィザード](#)

7.2.5 TrueCopy のリモートパスを削除する

ローカルストレージシステムからリモートストレージシステムへのリモートパスを削除できます。



注意

残りのパス数が、「リモート接続追加」画面の「最小パス数」で設定したパス数以上であることを確認してください。削除後のパス数が最小パス数を下回ると、リモートパスの削除操作はエラーとなります。

前提条件

- ・ 必要なロール：ストレージ管理者（リモートバックアップ管理）ロール
- ・ RAID Manager の場合は、`raidcom delete rcu_path` コマンドまたは `raidcom delete rcu_iscsi_port` コマンドを使用すること。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、「リモート接続」画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - ・ 「リソース」タブで「ストレージシステム」ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、「リモート接続」を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - ・ 「ストレージシステム」ツリーから「レプリケーション」 - 「リモート接続」を選択します。
2. 「接続(To)」タブでリモートパスを削除したいリモート接続のチェックボックスを選択し、次のどちらかの方法で、「リモートパス削除」画面を表示します。
 - ・ 「他のタスク」 - 「リモートパス削除」をクリックします。
 - ・ 「アクション」メニューから「リモート接続」 - 「リモートパス削除」を選択します。
3. 削除したいリモートパスの「削除」のチェックボックスを選択します。
リモートパスを削除すると最小パス数を下回る場合は、チェックボックスを選択できません。

4. [完了] をクリックします。
5. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
6. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。
設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

7. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。
実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連参照

- ・ [付録 B.16 リモートパス削除ウィザード](#)

7.2.6 TrueCopy のリモート接続を削除する

ローカルストレージシステムからリモートストレージシステムへのリモート接続を削除できます。リモート接続を削除すると、ローカルストレージシステムは選択したリモートストレージシステムへのすべてのリモートパスを削除します。1つのリモート接続を削除しても、その他のリモートストレージシステムとの間の TrueCopy 操作には影響しません。

リモート接続を削除しても、リモート接続を再設定して別の副サイトのストレージシステムを正サイトのストレージシステムに追加できます。また、リモート接続を削除し、正サイトのストレージシステムのホストチャネルを追加することもできます。

なお、リモート接続を削除したあとで、別のストレージシステムを登録してリモート接続を再設定できます。

前提条件

- ・ 必要なロール：ストレージ管理者（リモートバックアップ管理）ロール
- ・ ローカルストレージシステムとリモートストレージシステムとの間のすべての TrueCopy ペアが削除されていること。
- ・ RAID Manager の場合は、`raidcom delete rcu` コマンドを使用すること。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[リモート接続] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - ・ [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[リモート接続] を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - ・ [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] - [リモート接続] を選択します。
2. [接続(Tb)] タブで、削除したいリモート接続のチェックボックスを選択します。
複数のリモート接続を選択できます。
3. 次のどちらかの方法で、[リモート接続削除] 画面を表示します。
 - ・ [他のタスク] - [リモート接続削除] をクリックします。
 - ・ [アクション] メニューから [リモート接続] - [リモート接続削除] を選択します。

4. [選択したリモート接続] テーブルで、削除対象のリモート接続を確認します。
リモート接続のラジオボタンを選択して [詳細] をクリックすると、[リモート接続プロパティ参照] 画面が表示され、そのリモート接続の詳細を確認できます。
5. [タスク名] にタスク名を入力します。
6. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。
設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

7. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。
実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連参照

- [付録 B.6 \[リモート接続プロパティ参照\] 画面](#)
- [付録 B.18 \[リモート接続削除\] 画面](#)

7.3 TrueCopy 操作に関わるストレージシステムとネットワークデバイスの電源の管理

ユーザは、責任を持って TrueCopy 操作に関わるストレージシステムの電源をオンにしたりオフにしたりして、管理してください。ストレージシステムの電源を切りたい場合は、お問い合わせください。

関連概念

- [7.3.1 不測の事態によるストレージシステムの停止時の TrueCopy への影響](#)
- [7.3.2 計画的な正サイトのストレージシステムの停止時の TrueCopy への影響](#)

関連タスク

- [7.3.3 計画的に TrueCopy の副サイトのストレージシステムまたはリモート接続を停止する流れ](#)
- [7.3.4 計画的に TrueCopy の正サイトと副サイトのストレージシステムを停止する流れ](#)

7.3.1 不測の事態によるストレージシステムの停止時の TrueCopy への影響

電源オン／オフ時のシステム動作について次に示します。

- TrueCopy 操作が進行中に正サイトのストレージシステムが停電しても、TrueCopy ペアに影響はありません。
正サイトのストレージシステムの電源が復旧したら、正サイトのストレージシステムは対応する副サイトのストレージシステムと通信し、セカンダリボリュームのペア状態を確認します。プライマリボリュームへの I/O 操作を始める前に、TrueCopy の通信が完全に正常に戻ったこと（すべての副サイトのストレージシステムへのパスが正常であること）を確認してください。
TrueCopy の通信が正常に戻る前に正サイトのストレージシステムがプライマリボリュームに対する I/O 操作を受け入れると、正サイトのストレージシステムはペアを分割し、プライマリ

ボリュームの状態を **Suspend-by RCU** に変更します（正サイトのストレージシステムはセカンダリボリュームのペア状態を変更することはできません）。

- **TrueCopy** 動作の進行中に副サイトのストレージシステムの、またはリモート接続パスコンポーネントの電源が遮断されると、正サイトのストレージシステムは通信障害を検知し、影響を受けたすべてのペアを分割して、障害を報告する **SIM** を生成します。正サイトのストレージシステムはプライマリボリュームの状態を **Suspend-by RCU** に変更しますが、セカンダリボリュームの状態は変更できません。
- **TrueCopy** ペアが分割中に正サイトまたは副サイトのストレージシステムが停電し、バックアップ用のバッテリーが完全に放電してしまった場合、差分データは **SSD** に保存されます。万一このような事態が起こった場合、ペア再同期が実行されると正サイトのストレージシステムは差分トラックだけを副サイトのストレージシステムにコピーします。

7.3.2 計画的な正サイトのストレージシステムの停止時の TrueCopy への影響

計画的な正サイトのストレージシステムの停止は、**TrueCopy** には影響しません。

7.3.3 計画的に TrueCopy の副サイトのストレージシステムまたはリモート接続を停止する流れ

副サイトのストレージシステムまたはリモート接続コンポーネント（例：スイッチ、チャンネルエクステンダ）を計画的に停止するには、影響するすべての **TrueCopy** ペアを分割しておく必要があります。

操作手順

1. 機器の停止で影響を受けるすべての **TrueCopy** プライマリボリュームを識別します。このとき、プライマリボリュームごとに正サイトのストレージシステム、CU、および ID（ポート、ホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID、LUN）を確認してください。
 - a. 副サイトのストレージシステムを停止する場合は、停止する副サイトのストレージシステムのセカンダリボリュームとペアになっているすべてのプライマリボリュームを識別します。
 - b. リモート接続を停止する場合は、停止するパスまたはコンポーネントを使用している正サイトのストレージシステムのすべてのプライマリボリュームを識別します。
2. 影響を受けるプライマリボリュームを含む各正サイトのストレージシステムに接続し、影響するすべての **TrueCopy** ペアを分割します。ペア状態が変更されたことを、[リモートレプリケーション] 画面、[ペアプロパティ参照] 画面で（**RAID Manager** の場合は **pairedisplay** コマンドで）確認してください。
3. 計画的な副サイトのストレージシステムまたはリモート接続の停止を実行します。
4. 副サイトのストレージシステムの電源が完全に入り、操作を再開できるようになったら、各正サイトのストレージシステムですべての **TrueCopy** ペアを再同期します。ペア状態が変更されたことを確認してください。

7.3.4 計画的に TrueCopy の正サイトと副サイトのストレージシステムを停止する流れ

TrueCopy の正サイトと副サイトのストレージシステムの両方を停止する場合は、副サイトのストレージシステムより先に正サイトのストレージシステムの電源を切ります。また、電源を入れ直すときは、副サイトのストレージシステムの後に正サイトのストレージシステムの電源を入れます。

計画的に正サイトと副サイトのストレージシステムを停止する流れを次に示します。

操作手順

1. 計画的な正サイトのストレージシステムの停止を実行します。
計画的なストレージシステムの停止は、TrueCopy の動作には影響しません。TrueCopy の特別な操作は不要です。
2. 停止しようとしている副サイトのストレージシステムが未停止の正サイトのストレージシステムと接続されている場合、副サイトのストレージシステムを停止する前にそれらの TrueCopy ペアを分割してください。
3. 計画的な副サイトのストレージシステムの停止を実行します。
4. 副サイトのストレージシステムの電源を入れます。副サイトのストレージシステムが完全に再同期操作を再開できる状態であることを確認してから正サイトのストレージシステムの電源を入れてください。
5. 正サイトのストレージシステムの電源を入れ、再同期操作ができる状態であることを確認します。手順 2 でペアを分割した場合は、そのペアをすぐに再同期できます。

7.4 ペアを維持した DP-VOL の容量拡張

次に示すストレージシステム間またはストレージシステムに作成した global-active device ボリューム、TrueCopy ボリューム、Universal Replicator ボリューム、ShadowImage ボリューム、または Thin Image ボリュームのペアでは、各プログラムプロダクトのペアを維持したまま、ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

ストレージシステム	マイクロコードバージョン
VSP 5000 シリーズ	90-04-04-XX/XX 以降
VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900	88-06-02-XX/XX 以降
VSP E シリーズ	93-02-03-XX/XX 以降



メモ

VSP G1000, G1500 および VSP F1500 のマイクロコードバージョン 80-06-74-XX/XX 以降でサポートした、GAD のペアを維持した DP-VOL の容量拡張機能は、上記に示したストレージシステムの容量拡張機能と併用できません。

7.4.1 TrueCopy ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する

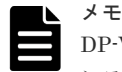
TrueCopy ペアのボリュームとして使用している DP-VOL の容量拡張手順を次に示します。

ここでは、TrueCopy ペア単体を容量拡張する場合の手順を説明しています。他のプログラムプロダクトと連携した構成で容量拡張をする場合は、「[7.4.2 プログラムプロダクトを連携した状態での DP-VOL の容量拡張](#)」を参照してください。

前提条件

- 拡張する仮想ボリュームが外部ボリュームではないこと
- 拡張する仮想ボリュームが LDEV フォーマット中ではないこと
- 拡張する仮想ボリュームに関連づけているプールが、次の状態のどれかであること
 - 正常
 - プールの縮小を実行中でない
- 「[7.4 ペアを維持した DP-VOL の容量拡張](#)」に記載されているストレージシステム上に作成されたボリュームであること

- ・ 容量拡張する分のページ割り当て容量に対して、十分な TrueCopy のライセンス容量をあらかじめ用意しておくこと



メモ

DP-VOL は、ボリューム容量のうち、割り当てられているページ容量だけが TrueCopy のライセンス容量としてカウントされます。

操作手順

1. TrueCopy ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方について、前提条件を満たしているか確認します。



メモ

TrueCopy ペアの片方のボリュームだけが容量拡張に成功し、もう片方のボリュームで容量拡張に失敗した場合、容量拡張後に実施する TrueCopy ペアの再同期操作が、容量不一致によって失敗します。TrueCopy ペアの再同期に失敗した場合、「[\(1\) TrueCopy ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順](#)」の実施が必要となります。

2. RAID Manager または Storage Navigator で、現在の差分データの管理方式の設定を確認します。

- ・ RAID Manager の場合

pairdisplay コマンドを使用して、TrueCopy ペアの詳細情報を表示します。

現在の差分データの管理方式がシェアドメモリ差分か、階層差分（ドライブによる差分）か確認します。

- シェアドメモリ差分の場合、一時的に階層差分にする必要があります。手順 3 に進んでください。
- 階層差分の場合、手順 4 に進んでください。

コマンド例：

pairdisplay の DM 列が差分データの管理方式を示します。

```
# pairdisplay -g oradb -fe -fcx
Group PairVol L/R Port# TID LU Seq# LDEV# P/S Status Fence %
P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W QM DM P
oradb dev1 L CL5-A-0 30 0 64568 301 P-VOL PAIR NEVER 100 303 - - -
1 - - - -/- - S N
oradb dev1 R CL5-A-0 30 2 64568 303 S-VOL PAIR NEVER 100 301 - - -
- - - - -/- - S N
oradb dev2 L CL5-A-0 30 1 64568 302 P-VOL PAIR NEVER 100 304 - - -
1 - - - -/- - D N
oradb dev2 R CL1-A-0 30 3 64568 304 S-VOL PAIR NEVER 100 302 - - -
- - - - -/- - D N
```

DM 列

S：シェアドメモリ差分

D：階層差分

- ・ Storage Navigator の場合

「システム詳細設定編集」画面で、システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定を確認します。

- システム詳細設定の No.5 および No.6 の両方が OFF の場合

シェアドメモリ差分へ切り替える設定となっているため、一時的に階層差分へ切り替える設定にする必要があります。手順 3 に進んでください。

- システム詳細設定の No.5 または No.6 のどちらか片方が ON、または両方が ON の場合階層差分へ切り替える設定となっているため、手順 4 に進んでください。

3. 次の手順で、データの差分管理方式を階層差分に変更します。

- a. RAID Manager の場合は、システムオプションモードを、Storage Navigator の場合は、システム詳細設定を次の手順で切り替えます。

- RAID Manager の場合

raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を ON、1199 を OFF に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode enable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode disable
```

- Storage Navigator の場合

[システム詳細設定編集] 画面で、システム詳細設定の No.5 を ON、No.6 を OFF に設定します。設定方法については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

- b. TrueCopy ペアを中断します。

- c. TrueCopy ペアを再同期します。

- d. RAID Manager で TrueCopy ペア詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、階層差分であることを確認します。

4. TrueCopy ペアを中断します。

5. TrueCopy ペアのセカンダリボリュームを容量拡張します。

- RAID Manager の場合

raidcom extend ldev コマンドに-request_id auto オプションを付けて非同期処理を指定します。

コマンド例：

LDEV#44:44 に対し 10GB 分容量拡張します。

```
raidcom extend ldev -ldev_id 0x4444 -capacity 10G -request_id auto -IH1
```

- Storage Navigator の場合

[V-VOL 容量拡張] 画面で、容量拡張します。

6. TrueCopy ペアのセカンダリボリュームの容量拡張が完了したことを確認します。

- RAID Manager の場合

raidcom get command_status コマンドで、raidcom extend ldev コマンドの処理の完了を確認します。その後、raidcom get ldev コマンドで、LDEV 容量が正しい値になっているか確認します。

コマンド例：

```
raidcom get command_status -IH1
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -fx -IH1
```

- Storage Navigator の場合
[ストレージシステム] ツリーから [論理デバイス] を選択して、[LDEV] タブを表示します。対象の LDEV 番号の容量が正しい値になっているか確認します。

- セカンダリボリュームと同様の手順で、TrueCopy ペアのプライマリボリュームを容量拡張します。



メモ

TrueCopy ペアのプライマリボリュームの容量拡張に失敗した場合は、「[\(1\) TrueCopy ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順](#)」を実施してください。

- セカンダリボリュームと同様の手順で、TrueCopy ペアのプライマリボリュームの容量拡張が完了したことを確認します。
- TrueCopy ペアを再同期します。



メモ

TrueCopy ペアの再同期に失敗した場合は、「[\(1\) TrueCopy ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順](#)」を実施してください。

- TrueCopy ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR に変わったことを確認します。
また、容量拡張中状態ではないことを確認します。

- RAID Manager の場合
pairedisplay の P 列が「N」となっていることを確認します。
コマンド例：

```
# pairedisplay -g oradb -fe -fcx
Group PairVol L/R Port# TID LU Seq# LDEV# P/S Status Fence %
P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W QM DM P
oradb dev1 L CL5-A-0 30 0 64568 301 P-VOL PAIR NEVER 100 303 - - -
1 - - - -/- - S N
oradb dev1 R CL5-A-0 30 2 64568 303 S-VOL PAIR NEVER 100 301 - - -
- - - - -/- - S N
oradb dev2 L CL5-A-0 30 1 64568 302 P-VOL PAIR NEVER 100 304 - - -
1 - - - -/- - D N
oradb dev2 R CL1-A-0 30 3 64568 304 S-VOL PAIR NEVER 100 302 - - -
- - - - -/- - D N
```

P 列

容量拡張中の状態を表します。

N：容量拡張状態ではありません。

E：容量拡張中です。TrueCopy ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量拡張操作を実施してからペアを再同期するまでの間この状態となります。
再同期完了後、「N」に遷移します。

- Storage Navigator の場合
[リモートレプリケーション] 画面で、[処理状態] を参照し、空白表示となっていることを確認します（容量拡張中は、[Expanding] が表示されます）。
- 手順 2 で、データの差分管理方式がシェアドメモリ差分だった場合、次の手順でシェアドメモリ差分に戻します。
 - RAID Manager の場合は、システムオプションモードを、Storage Navigator の場合は、システム詳細設定を次の手順で切り替えます。

- RAID Manager の場合

raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を ON に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode enable
```

- Storage Navigator の場合

[システム詳細設定編集] 画面で、システム詳細設定の No.5 を OFF、No.6 を OFF に設定します。設定方法については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

b. TrueCopy ペアを中断します。

c. TrueCopy ペアを再同期します。

d. RAID Manager で TrueCopy ペア詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、シェアドメモリ差分であることを確認します。

e. システムオプションモード 1198 と 1199 の設定を変更している場合は、RAID Manager で、元の設定に戻します。raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を OFF に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode disable
```

7.4.2 プログラムプロダクトを連携した状態での DP-VOL の容量拡張

ここでは、プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序を説明します。最初に基本的な考え方を説明し、次に具体的な操作手順を説明します。

- [\(1\) プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序の考え方](#)
- [\(2\) ローカルコピーの S-VOL にリモートコピーの P-VOL を連携する構成での容量拡張順序の考え方](#)
- [\(3\) リモートコピーの 3DC カスケード構成、3DC マルチターゲット構成、3DC デルタリシンク構成での拡張順序の考え方](#)
- [\(4\) 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件](#)
- [\(5\) TrueCopy ペアと Universal Replicator を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する](#)
- [\(6\) TrueCopy ペアと ShadowImage を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する](#)
- [\(7\) TrueCopy ペアと Thin Image を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する](#)

(1) プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序の考え方

TrueCopy ペアが次のプログラムプロダクトと連携している状態で、TrueCopy ペアおよび各プログラムプロダクトのペアが使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

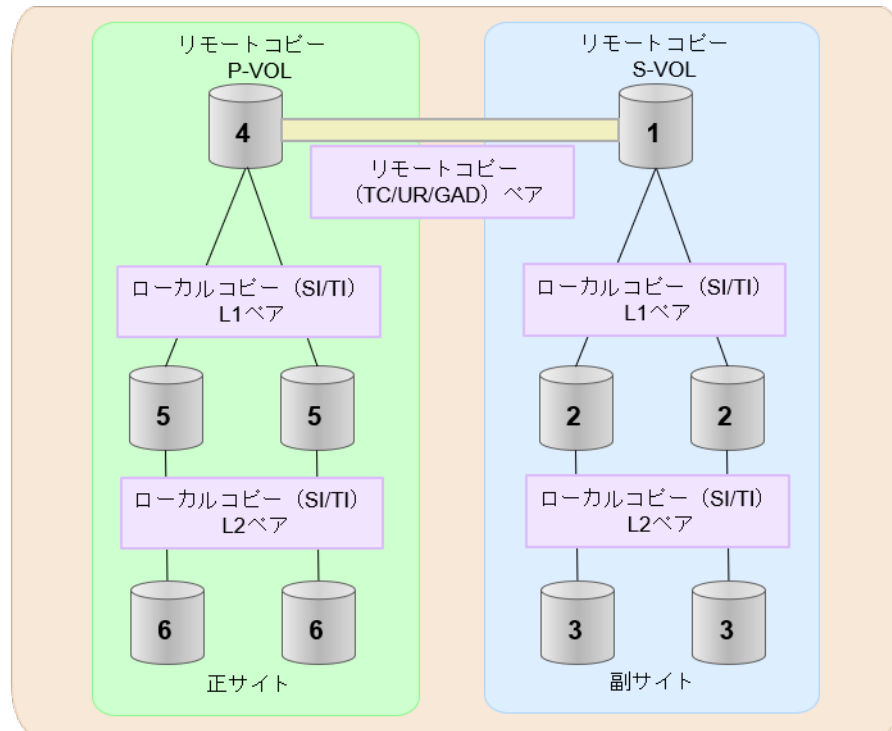
- Universal Replicator
- ShadowImage

- Thin Image

TrueCopy ペアが各プログラムプロダクトと連携した構成の場合、各 DP-VOL の拡張順序は、次の 2 つの拡張順序を合わせこんだ順序となります。

- TrueCopy ペアの 1 対 1 構成時の拡張順序
- 各プログラムプロダクトの 1 対 1 構成時の拡張順序

次にプログラムプロダクト連携を考慮した、DP-VOL の拡張順序の考え方を示します。



(凡例)

TC: TrueCopy
UR: Universal Replicator
GAD: global-active device
SI: Shadow Image
TI: Thin Image

1. リモートコピー (TrueCopy/Universal Replicator/GAD) が存在する場合
リモートコピーの末端となる S-VOL 側から拡張し、最後に P-VOL 側を拡張します。
具体的な拡張手順については、次の手順を参照してください。
 - 「[\(5\) TrueCopy ペアと Universal Replicator を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する](#)」
2. リモートコピー (TrueCopy/Universal Replicator/GAD) にローカルコピー (ShadowImage/Thin Image) が連携している場合
次に示すまとまりごとに拡張します。最初に、リモートコピーの S-VOL のまとまりを拡張し、次に、リモートコピーの P-VOL のまとまりを拡張します。
 - a. リモートコピーの S-VOL と、その S-VOL と連携しているローカルコピーのボリュームすべてのまとまり
 - b. リモートコピーの P-VOL と、その P-VOL と連携しているローカルコピーのボリュームすべてのまとまり
 まとまり内の拡張順序は、ローカルコピーの拡張順序に従います。
具体的な拡張手順については、次の手順を参照してください。

- ・「(6) TrueCopy ペアと ShadowImage を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する」
 - ・「(7) TrueCopy ペアと Thin Image を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する」
3. ローカルコピー (ShadowImage/Thin Image) の拡張順序は、上の階層から順に実施します。同一階層の場合は順不同です。

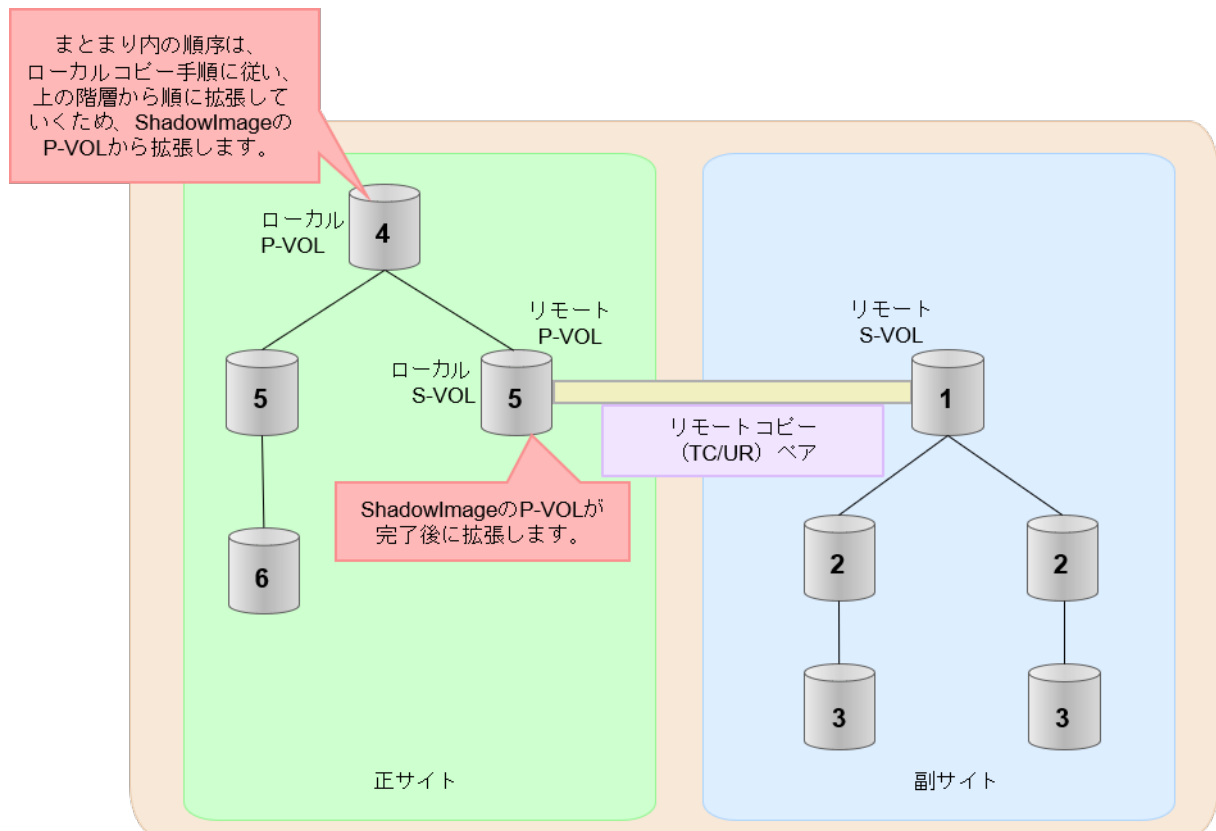
(2) ローカルコピーの S-VOL にリモートコピーの P-VOL を連携する構成での容量拡張順序の考え方

リモートコピーの P-VOL にローカルコピーの S-VOL が連携していた場合、次の順番で容量拡張します。

1. リモートコピーの S-VOL のまとまりを容量拡張します (図の「1」、「2」、「3」)。
2. リモートコピーの P-VOL のまとまりを容量拡張します (図の「4」、「5」、「6」)。

手順 2 では、ローカルコピーの拡張順序が優先され、上の階層から順に拡張するため、ローカルコピーの P-VOL を拡張してから、次にリモートコピーの P-VOL と連携しているローカルコピーの S-VOL を拡張します。

例えば、次の図のように TrueCopy または Universal Replicator の P-VOL に ShadowImage の S-VOL が連携している場合、ShadowImage の P-VOL (図中の「4」のボリューム) を先に拡張します。続いて、ShadowImage の S-VOL (=TrueCopy または Universal Replicator の P-VOL (図中の右側の「5」のボリューム))、ShadowImage の同じ階層のボリューム、ShadowImage の次の階層のボリューム...の順で拡張します。

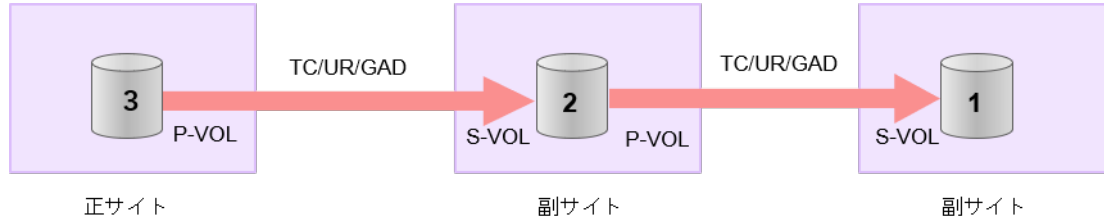


(凡例)
 リモート：リモートコピー
 ローカル：ローカルコピー
 TC: TrueCopy
 UR: Universal Replicator

(3) リモートコピーの 3DC カスケード構成、3DC マルチターゲット構成、3DC デルタリシンク構成での拡張順序の考え方

リモートコピーの 3DC カスケード構成、3DC マルチターゲット構成、3DC デルタリシンク構成の場合は、リモートコピーの末端となる S-VOL 側から拡張し、最後に P-VOL 側を拡張します。次の図は、その考えに基づいた順序を示しています。

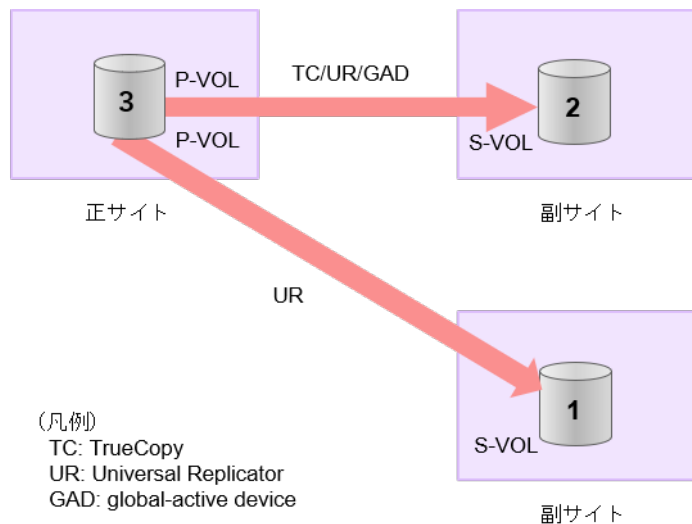
- 3DC カスケード構成の場合



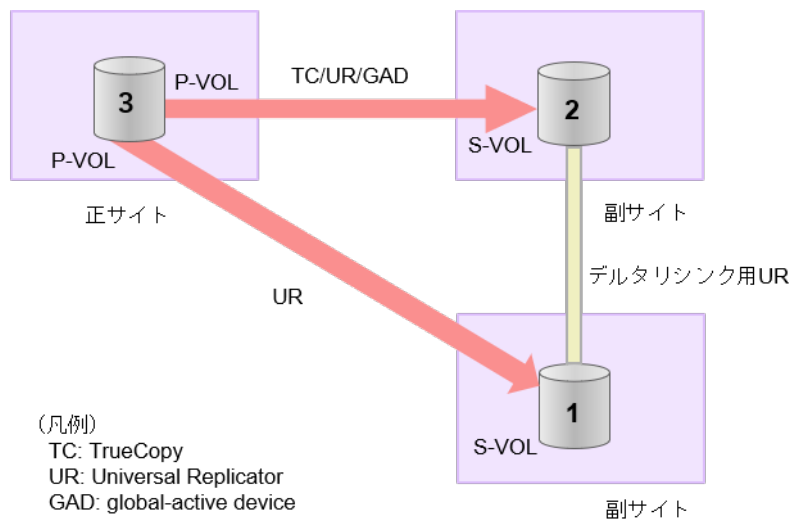
(凡例)

TC: TrueCopy
UR: Universal Replicator
GAD: global-active device

- 3DC マルチターゲット構成の場合



- 3DC デルタリシンク構成の場合



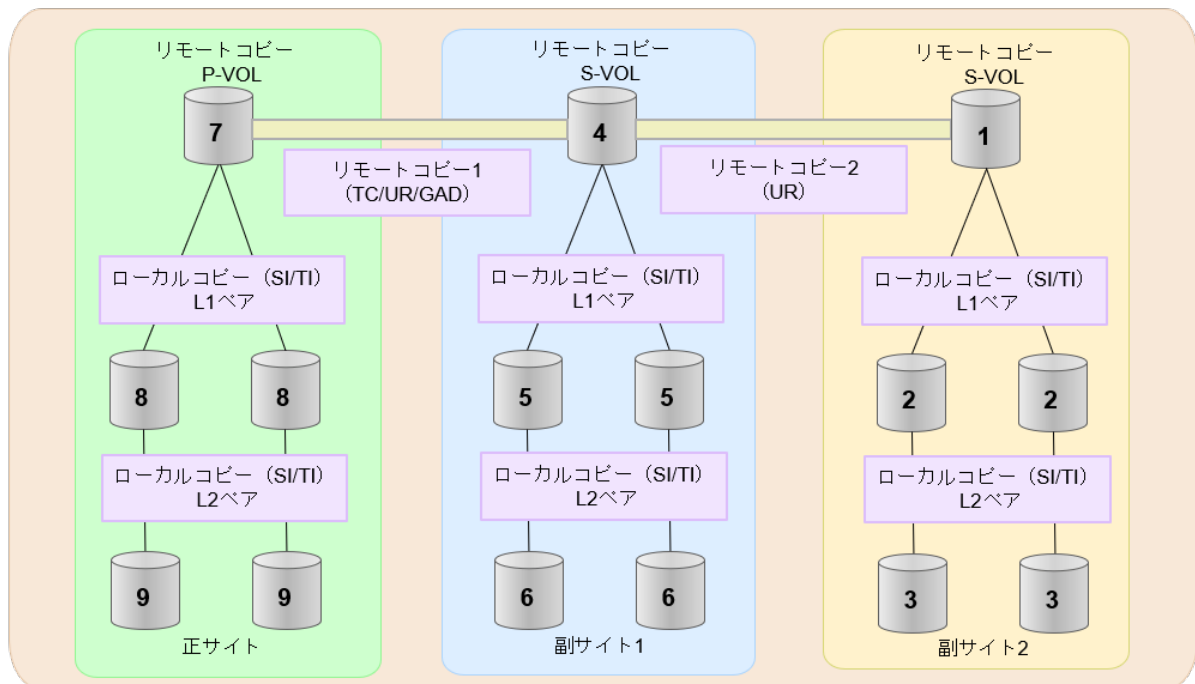
3DC カスケード構成にローカルコピー (ShadowImage/Thin Image) が連携している場合の拡張順序

また、リモートコピーの 3DC 構成とローカルコピー (ShadowImage/Thin Image) が連携している場合、次に示したまとまりごとに、前述の 3DC 構成で示した順番で拡張します。

- リモートコピーの S-VOL と、その S-VOL と連携しているローカルコピーのボリュームすべてのまとまり
- リモートコピーの P-VOL と、その P-VOL と連携しているローカルコピーのボリュームすべてのまとまり

まとまり内の順序については、ローカルコピーの拡張順に従います。

3DC マルチターゲット構成、および 3DC デルタリシンク構成の場合も、同じ考え方になります。



(凡例)
 TC: TrueCopy
 UR: Universal Replicator
 GAD: global-active device
 SI: Shadow Image
 TI: Thin Image

(4) 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件

容量拡張をする際の前提条件を次に示します。

容量拡張対象のボリュームすべてに対して、各プログラムプロダクト間で共通の前提条件、および拡張対象のプログラムプロダクト固有の前提条件をすべて満たすようにしてください。

各プログラムプロダクト間で共通の前提条件

- ・ 拡張する仮想ボリュームが外部ボリュームではないこと
- ・ 拡張する仮想ボリュームが LDEV フォーマット中ではないこと
- ・ 拡張する仮想ボリュームに関連づけているプールが、次の状態のどれかであること
 - 正常
 - プールの縮小を実行中でない
- ・ GAD、TrueCopy、または Universal Replicator の場合、容量拡張する分のページ割り当て容量に対して、拡張対象のプログラムプロダクトの十分なライセンス容量をあらかじめ用意しておくこと
- ・ 「[7.4 ペアを維持した DP-VOL の容量拡張](#)」に記載されているストレージシステム上に作成されたボリュームであること

ShadowImage 固有の前提条件

- ・ 拡張後に必要な次の資源数がシステム最大を超えないこと
 - 差分テーブル数
 - ペアテーブル数



メモ

DP-VOL が 4TB を超える場合、シェアドメモリではなく階層メモリという領域に差分テーブルを配置するため、シェアドメモリの差分テーブルを使用しません。このため、4TB を超える DP-VOL に拡張する場合は、差分テーブル数の計算は不要です。

1. 次の式を使用して、1 ペアあたりに必要な差分テーブル数を計算します。

容量拡張に必要な差分テーブル数 = 拡張後の容量で必要な差分テーブル数 - 拡張前の容量で必要な差分テーブル数

1 ペアあたりに必要な差分テーブル数 = $\uparrow (\text{ボリューム容量 KB} \div 256) \div 20,448 \uparrow$

$\uparrow$ で値が囲まれている場合は、その値の小数点以下を切り上げてください。

2. 1 ペアあたりに必要なペアテーブル数を計算します。

容量拡張に必要なペアテーブル数 = 拡張後の容量で必要なペアテーブル数 - 拡張前の容量で必要なペアテーブル数

1 ペアあたりに必要なペアテーブル数 = $\uparrow 1 \text{ ペアあたりに必要な差分テーブル数} \div 36 \uparrow$

$\uparrow$ で値が囲まれている場合は、その値の小数点以下を切り上げてください。

3. 次に示すテーブル数が、システム最大数を超えないことを確認します。

- ・ 現在のペアテーブル数と容量拡張に必要なペアテーブル数の合計
 - ・ 現在の差分テーブル数と容量拡張に必要な差分テーブル数の合計
- 差分テーブル数およびペアテーブル数は [ローカルレプリケーション] 画面から確認できます。

Thin Image 固有の前提条件

Thin Image (CAW/CoW) の場合：

- ・ クローン属性のペアが使用しているボリュームではないこと
- ・ 拡張後に必要な次の資源数がシステム最大を超えないこと
 - スナップショット管理可能推量
 - キャッシュ管理デバイス
 - 仮想ボリューム容量の最大予約量

Thin Image Advanced の場合：

- ・ 次の資源数がシステム最大を超えないこと
 - [プール] 画面の [設定可能推量]
 - キャッシュ管理デバイス数

必要な資源数の確認方法

1. Thin Image の容量拡張に必要なスナップショット管理可能推量

Thin Image のルートボリュームの容量を拡張する場合は、スナップショット管理可能推量が残っていることを確認してください。Thin Image のルートボリュームの容量拡張に必要なスナップショット管理可能推量デバイスの数は次の計算式で求められます。

ルートボリュームの容量拡張に必要なスナップショット管理可能推量 = 拡張後のルートボリューム容量で必要なスナップショット管理可能推量 - 拡張前のルートボリューム容量で必要なスナップショット管理可能推量

スナップショット管理可能推量 = (ルートボリューム容量 [TB] ÷ 2.6 [TB]) × 3,024 [GB] + (168GB × 2 (シェアドメモリ消費量))

ルートボリューム以外のボリュームの拡張ではスナップショット管理可能推量は消費されません。スナップショット管理可能推量は「ローカルレプリケーション」画面で確認できます。

2. Thin Image の容量拡張に必要なキャッシュ管理デバイス数

Thin Image のルートボリュームの容量拡張を行う場合は、キャッシュ管理デバイスが残っていることを確認してください。Thin Image のルートボリュームの容量拡張に最大必要となるキャッシュ管理デバイスの数は次の計算式で求められます

ルートボリュームの容量拡張に必要なキャッシュ管理デバイス数 = (↑拡張後のルートボリュームのサイズ (単位: TB) ÷ 2.6 (TB) ↑) - (↑拡張前のルートボリュームのサイズ (単位: TB) ÷ 2.6 (TB) ↑)

↑↑で値が囲まれている場合は、その値の小数点以下を切り上げてください。
ルートボリューム以外のボリュームの拡張ではキャッシュ管理デバイスは消費されません。

3. Thin Image の容量拡張に必要な、DP プールの仮想ボリューム容量最大予約量

Thin Image のルートボリュームの容量拡張を行う場合は、拡張後の容量が DP プールの仮想ボリューム容量の最大予約量を超過しないことを確認してください。Thin Image のルートボリュームの容量拡張で加算される仮想ボリューム容量は次の計算式で求められます。

ルートボリュームの容量拡張で加算される仮想ボリューム容量 = 拡張後のルートボリューム容量で計算した Thin Image ペア容量 - 拡張前のルートボリューム容量で計算した Thin Image ペア容量

Thin Image ペア容量 = $\Sigma \uparrow (\text{ルートボリューム容量 (MB)} \times \text{ペア数} \times 2 \div 42 \text{ (MB)}) \uparrow \times 42 \text{ (MB)} + \Sigma \uparrow (\text{ルートボリューム容量 (MB)} \times \text{ペア数} \times 2 \div 2,921,688 \text{ (MB)}) \uparrow \times 175,434 \text{ (MB)}$

注※

一部のペアを削除しても割り当てられたページは解放されません。このため、該当するスナップショットツリーに現在作成されているペア数ではなく、該当するスナップショットツリーに作成する Thin Image ペアの最大数を当てはめてください。

↑↑で値が囲まれている場合は、その値の小数点以下を切り上げてください。
ルートボリューム以外のボリュームの拡張では、Thin Image として DP プールの仮想ボリューム容量は追加されません。

(5) TrueCopy ペアと Universal Replicator を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する

TrueCopy ペアと Universal Replicator を併用している状態で、ペアボリュームで使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

Universal Replicator を併用している場合の操作手順については、『Universal Replicator ユーザガイド』を参照してください。

(6) TrueCopy ペアと ShadowImage を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する

TrueCopy ペアと ShadowImage を併用している状態で、ペアボリュームで使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

TrueCopy ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームそれぞれに、ShadowImage ペアを L1 ペア、L2 ペアを作成した構成を例とした容量拡張手順を次に示します。

次の操作手順内で行う、差分データ管理方式の確認、容量拡張、および容量拡張の状態確認の詳細手順については、「[7.4.1 TrueCopy ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する](#)」を参照してください。

操作手順

1. TrueCopy ペア、および TrueCopy ペアと連携している ShadowImage ペアの、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの各ボリュームについて、「[\(4\) 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件](#)」に記載されている前提条件を満たしているか確認します。
2. RAID Manager または Storage Navigator で、現在の差分データの管理方式の設定を確認します。
 - RAID Manager の場合
pairedisplay コマンドを使用して、TrueCopy ペアの詳細情報を表示します。
現在の差分データの管理方式がシェアドメモリ差分か、階層差分（ドライブによる差分）か確認します。
 - シェアドメモリ差分の場合、一時的に階層差分にする必要があります。手順 3 に進んでください。
 - 階層差分の場合、手順 4 に進んでください。
 - Storage Navigator の場合
[システム詳細設定編集] 画面で、システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定を確認します。
 - システム詳細設定の No.5 および No.6 の両方が OFF の場合
シェアドメモリ差分へ切り替える設定となっているため、一時的に階層差分へ切り替える設定にする必要があります。手順 3 に進んでください。
 - システム詳細設定の No.5 または No.6 のどちらか片方が ON、または両方が ON の場合
階層差分へ切り替える設定となっているため、手順 4 に進んでください。
3. 次の手順で、データの差分管理方式を階層差分に変更します。
 - a. RAID Manager の場合は、システムオプションモードを、Storage Navigator の場合は、システム詳細設定を次の手順で切り替えます。

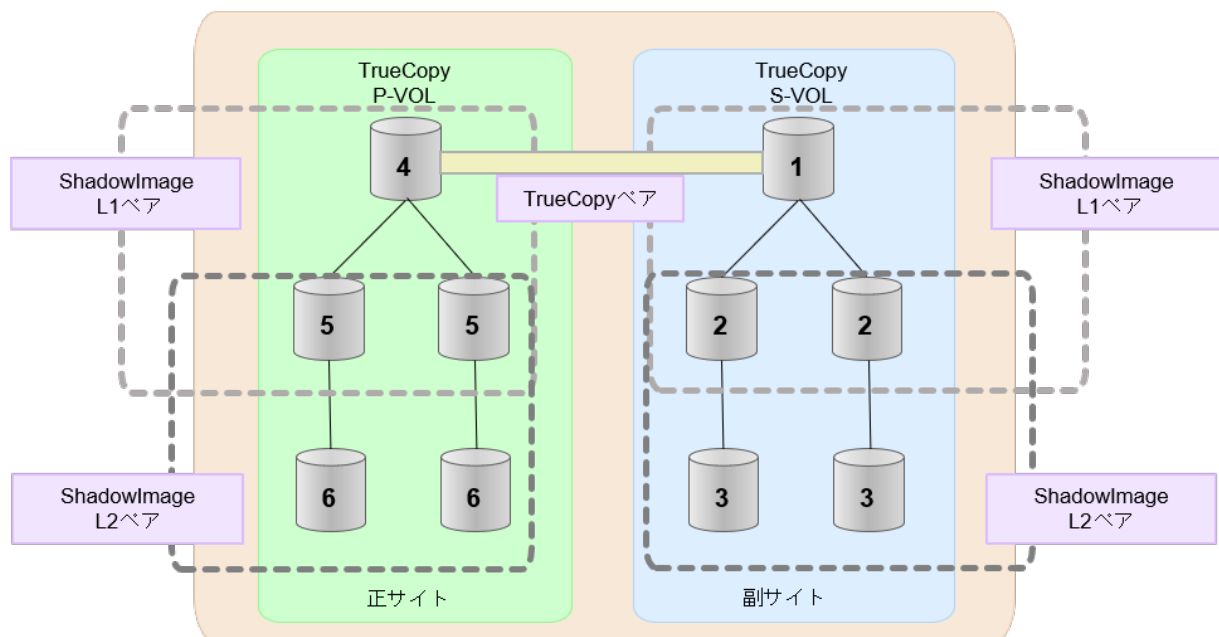
- RAID Manager の場合
raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を ON、1199 を OFF に設定します。
コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode enable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode disable
```

- Storage Navigator の場合

[システム詳細設定編集] 画面で、システム詳細設定の No.5 を ON、No.6 を OFF に設定します。設定方法については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

- b. TrueCopy ペアを中断します。
- c. TrueCopy ペアを再同期します。
- d. RAID Manager で TrueCopy ペア詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、階層差分であることを確認します。
4. TrueCopy ペアと ShadowImage ペアをすべて中断します。
5. ShadowImage ペアのペア状態を確認します。
PSUS または PSUE の状態の場合に、ShadowImage のペアボリュームを拡張できます。現在のペア状態を確認して、異なる状態の場合はペア操作を行い、PSUS または PSUE の状態に遷移したことを確認します。
6. 次の図で示した順序にしたがって、各ボリュームの容量拡張と容量拡張の完了確認を実施します。



メモ

1 番目のボリューム (TrueCopy の S-VOL) の容量を拡張した後に、次の操作に失敗した場合、[「\(1\) TrueCopy ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順」](#)を実施してください。

- ShadowImage ペアの DP-VOL の容量拡張
- TrueCopy ペアのプライマリボリュームの容量拡張
- TrueCopy ペアの再同期

7. TrueCopy ペアを再同期します。
8. TrueCopy ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR に変わったことを確認します。
また、TrueCopy ペアと ShadowImage ペアすべてについて容量拡張中状態ではないことを確認します。
容量拡張の処理状態は、次のように表示されます。

状態	RAID Manager	Storage Navigator
	pairedisplay の P 列表 示	〔リモートレプリケーション〕または〔ローカルレプリ ケーション〕画面の〔処理状態〕表示
容量拡張中ではない	N	空白表示
容量拡張中	E※	Expanding※

注※

TrueCopy ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量を拡張してからペアを再同期するまでの間この状態表示となります。再同期が完了後、容量拡張中ではない状態に遷移します。

ShadowImage ペアの場合、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量を拡張後も、しばらく（30 秒ほど）この状態となります。その後、容量拡張中ではない状態に遷移します。

9. 手順 2 で、データの差分管理方式がシェアドメモリ差分だった場合、次の手順でシェアドメモリ差分に戻します。

- a. RAID Manager の場合は、システムオプションモードを、Storage Navigator の場合は、システム詳細設定を次の手順で切り替えます。

- RAID Manager の場合

raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を ON に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode enable
```

- Storage Navigator の場合

〔システム詳細設定編集〕画面で、システム詳細設定の No.5 を OFF、No.6 を OFF に設定します。設定方法については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザーガイド』を参照してください。

- b. TrueCopy ペアを中断します。

- c. TrueCopy ペアを再同期します。

- d. RAID Manager で、TrueCopy ペアの詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、シェアドメモリ差分であることを確認します。

- e. システムオプションモード 1198 と 1199 の設定を変更している場合は、RAID Manager で、元の設定に戻します。raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を OFF に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode disable
```

(7) TrueCopy ペアと Thin Image を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する

TrueCopy ペアと Thin Image を併用している状態で、ペアボリュームで使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

TrueCopy ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームそれぞれに、Thin Image ペアを L1 ペア、L2 ペアを作成した構成を例とした容量拡張手順を次に示します。

次の操作手順内で行う、差分データ管理方式の確認、容量拡張、および容量拡張の状態確認の詳細手順については、「[7.4.1 TrueCopy ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する](#)」を参照してください。

操作手順

1. TrueCopy ペア、および TrueCopy ペアと連携している Thin Image ペアの、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの各ボリュームについて、「[\(4\) 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件](#)」に記載されている前提条件を満たしているか確認します。
2. RAID Manager または Storage Navigator で、現在の差分データの管理方式の設定を確認します。

- RAID Manager の場合

pairedisplay コマンドを使用して、TrueCopy ペアの詳細情報を表示します。

現在の差分データの管理方式がシェアドメモリ差分か、階層差分（ドライブによる差分）か確認します。

- シェアドメモリ差分の場合、一時的に階層差分にする必要があります。手順 3 に進んでください。
- 階層差分の場合、手順 4 に進んでください。

- Storage Navigator の場合

[システム詳細設定編集] 画面で、システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定を確認します。

- システム詳細設定の No.5 および No.6 の両方が OFF の場合
シェアドメモリ差分へ切り替える設定となっているため、一時的に階層差分へ切り替える設定にする必要があります。手順 3 に進んでください。
- システム詳細設定の No.5 または No.6 のどちらか片方が ON、または両方が ON の場合
階層差分へ切り替える設定となっているため、手順 4 に進んでください。

3. 次の手順で、データの差分管理方式を階層差分に変更します。

- a. RAID Manager の場合は、システムオプションモードを、Storage Navigator の場合は、システム詳細設定を次の手順で切り替えます。

- RAID Manager の場合

raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を ON、1199 を OFF に設定します。

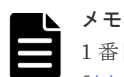
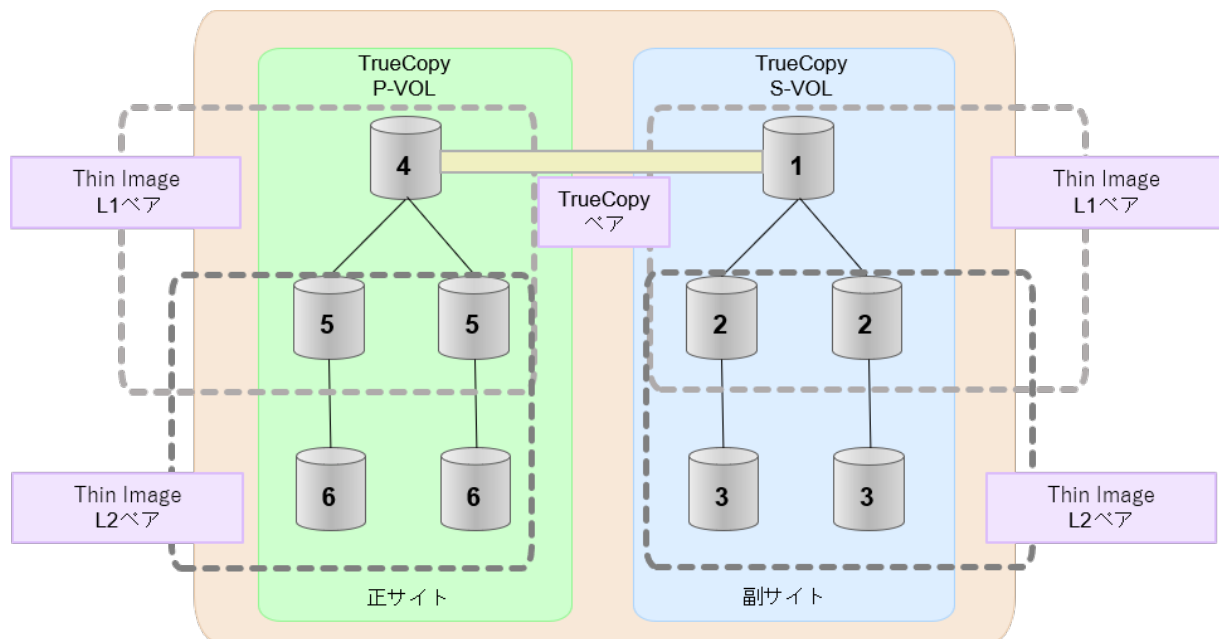
コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode enable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode disable
```

- Storage Navigator の場合

〔システム詳細設定編集〕画面で、システム詳細設定の No.5 を ON、No.6 を OFF に設定します。設定方法については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

- b. TrueCopy ペアを中断します。
- c. TrueCopy ペアを再同期します。
- d. RAID Manager で TrueCopy ペア詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、階層差分であることを確認します。
4. TrueCopy ペアを中断します。
5. Thin Image ペアのペア状態を確認します。
PAIR、PSUS または PSUE の状態の場合に、Thin Image のペアボリュームを拡張できます。現在のペア状態を確認して、異なる状態の場合はペア操作を行い、PAIR または PSUS の状態に遷移したことを確認します。
6. 次の図で示した順序にしたがって、各ボリュームの容量拡張と容量拡張の完了確認を実施します。



メモ

1 番目のボリューム（TrueCopy の S-VOL）の容量を拡張した後に、次の操作に失敗した場合、[「\(1\) TrueCopy ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順」](#)を実施してください。

- ・ Thin Image ペアの DP-VOL の容量拡張
- ・ TrueCopy ペアのプライマリボリュームの容量拡張
- ・ TrueCopy ペアの再同期

7. TrueCopy ペアを再同期します。
8. TrueCopy ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR に変わったことを確認します。
また、TrueCopy ペアと Thin Image ペアすべてについて容量拡張中状態ではないことを確認します。
容量拡張の処理状態は、次のように表示されます。

状態	RAID Manager	Storage Navigator
	pairedisplay または raidcom get snapshot の P 列表示	【リモートレプリケーション】または【TI ペア】 画面の【処理状態】表示
容量拡張中ではない	N	空白表示
容量拡張中	E※	Expanding※

注※

TrueCopy ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量を拡張してからペアを再同期するまでの間この状態表示となります。再同期が完了後、容量拡張中ではない状態に移移します。

Thin Image ペアの場合、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量を拡張後も、しばらく（30 秒ほど）この状態となります。その後、容量拡張中ではない状態に移移します。

9. 手順 2 で、データの差分管理方式がシェアドメモリ差分だった場合、次の手順でシェアドメモリ差分に戻します。

- a. RAID Manager の場合は、システムオプションモードを、Storage Navigator の場合は、システム詳細設定を次の手順で切り替えます。

• RAID Manager の場合

raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を ON に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode enable
```

• Storage Navigator の場合

【システム詳細設定編集】画面で、システム詳細設定の No.5 を OFF、No.6 を OFF に設定します。設定方法については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

- b. TrueCopy ペアを中断します。

- c. TrueCopy ペアを再同期します。

- d. RAID Manager で、TrueCopy ペアの詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、シェアドメモリ差分であることを確認します。

- e. システムオプションモード 1198 と 1199 の設定を変更している場合は、RAID Manager で、元の設定に戻します。raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を OFF に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode disable
```

7.4.3 DP-VOL 容量拡張時のトラブルシューティング

DP-VOL の容量拡張中にトラブルが起きた場合の対処方法について説明します。

関連概念

- ・ (1) [TrueCopy ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順](#)
- ・ (2) [TrueCopy ペアの片方のボリュームが容量拡張済みで障害が発生した場合のリカバリ](#)

(1) TrueCopy ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順

TrueCopy ペアの片方のボリュームだけが容量拡張に成功し、もう片方のボリュームで容量拡張に失敗した場合、容量拡張後に実施する TrueCopy ペアの再同期操作が、容量不一致によって失敗します。

また、TrueCopy ペアを Universal Replicator、ShadowImage、または Thin Image と併用している場合に、どれか 1 つのプログラムプロダクトのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量拡張が失敗した場合、ボリューム全体として容量拡張が完了していない状態となっています。

これらの状態となった場合の回復手順を次に示します。

回復手順

1. TrueCopy ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方について、[「7.4.1 TrueCopy ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する」](#)の前提条件を満たしているか確認します。
TrueCopy ペアを、Universal Replicator、ShadowImage、または Thin Image と併用している場合、併用しているすべてのプログラムプロダクトのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量拡張操作が必要になります。対象のボリュームすべてについて、[「\(4\) 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件」](#)に記載されている、容量拡張の前提条件を満たしているか確認します。
容量拡張の条件を満たせない場合、手順 4 に進んでください。
2. 容量拡張の条件を満たした状態で再度容量拡張操作を実施し、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を一致させます。例えば空き容量が不足している場合は、空き領域を確保してから、DP-VOL の容量を拡張します。
また、TrueCopy ペアを、Universal Replicator、ShadowImage、または Thin Image と併用している場合、再度併用しているすべてのプログラムプロダクトのボリュームの容量を拡張し、各プログラムプロダクトのペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を一致させます。
 - ・ 上記の操作で容量拡張が成功した場合、手順 3 に進んでください。
 - ・ 上記の操作で容量拡張に失敗した場合、手順 4 に進んでください。
3. TrueCopy ペアを再同期します。
TrueCopy ペアと Universal Replicator を併用している場合、Universal Replicator ペアを再同期します。
これで、回復が完了します。
4. TrueCopy ペアを削除し、SMPL の状態で容量拡張の操作をします。その後、TrueCopy ペアを再作成します。
容量の入力ミスなどで容量拡張前の状態に戻したい場合は、TrueCopy ペアを削除してから、正しい容量で LDEV を再作成します。その後、TrueCopy ペアを再作成します。
 - ・ TrueCopy ペアと Universal Replicator と併用している場合：

すべてのペアを削除し、SMPL の状態で容量拡張の操作をします。その後、構築時の手順で構成を元に戻します。

容量の入力ミスなどで容量拡張前の状態に戻したい場合は、すべてのペアを削除してから、正しい容量で LDEV を再作成します。その後、構築時の手順で構成を元に戻します。

- TrueCopy ペアと、ShadowImage または Thin Image を併用していて、ShadowImage ペアまたは Thin Image ペアの P-VOL と S-VOL の容量が不一致の場合：

ShadowImage ペアまたは Thin Image ペアに対しては、削除操作しかできません。容量拡張前の ShadowImage ペアまたは Thin Image ペアの S-VOL のデータを読み出すことは可能なため、容量拡張前のデータを使いたい場合は、データ読み出し完了後にすべてのペアを削除してください。SMPL の状態で容量拡張の操作をします。その後、構築時の手順で構成を元に戻します。

容量の入力ミスなどで容量拡張前の状態に戻したい場合は、すべてのペアを削除してから、正しい容量で LDEV を再作成します。その後、構築時の手順で構成を元に戻します。

(2) TrueCopy ペアの片方のボリュームが容量拡張済みで障害が発生した場合のリカバリ

TrueCopy ペアの片方のボリュームだけが容量拡張に成功し、もう片方のボリュームの容量を拡張する前に障害が発生した場合の回復手順について説明します。

まず、「[9 TrueCopy の災害リカバリ](#)」の回復手順に従い、障害部位を回復させます。

ただし、回復手順時の操作によっては、次に示す対応をしてください。

回復手順時の操作	対応
回復手順中に次の操作がある場合 • TrueCopy ペアの再同期操作	TrueCopy ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が不一致状態になっているため再同期操作は失敗します。 そのため、TrueCopy ペアの再同期操作の直前で、後述の「 障害回復追加手順 」を実施してください。
回復手順中に次の操作がある場合 • TrueCopy ペアの削除 • ボリュームの障害回復 • TrueCopy ペアの再作成	TrueCopy ペア再作成時、対象のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が不一致状態になっているためペア作成操作は失敗します。 そのため、TrueCopy ペアの作成操作の直前で、後述の「 障害回復追加手順 」をしてください。
回復手順中に次の操作がある場合 • TrueCopy ペアの削除 • ボリュームの削除 • ボリュームの作成 • TrueCopy ペアの再作成	TrueCopy ペア再作成時、対象のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が不一致状態になっているとペア作成操作は失敗します。 そのため、ボリュームの作成時、プライマリボリュームとセカンダリボリュームで容量を一致させてください。

障害回復追加手順

1. 容量拡張をしていないボリュームの容量を拡張してから、TrueCopy のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を一致させます。
また、TrueCopy ペアと他のプログラムプロダクトと併用している場合、併用しているすべてのプログラムプロダクトのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を拡張します。
ボリュームの拡張順序については、「[\(1\) プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序の考え方](#)」を参照してください。
2. 「[9 TrueCopy の災害リカバリ](#)」の回復手順に戻り、TrueCopy ペアの再同期操作、TrueCopy ペアの作成操作から再開します。

TrueCopy を使ったデータの移行

この章では、TrueCopy を使用したデータの移行について説明します。

- 8.1 TrueCopy を使用したデータの移行とは
- 8.2 TrueCopy を使用したデータを別ボリュームに移行する流れ

8.1 TrueCopy を使用したデータの移行とは

次のような理由でデータを移行したい場合、TrueCopy を使用すると 1 つのボリュームから別のボリュームにデータを移行できます。

- 新しいボリュームにデータをコピーする場合
- 他の動作（修復など）の都合でボリュームからデータを一時的に削除する場合
- ストレージシステムおよびシステムの性能向上を目的として、作業負荷のバランスをとるためにボリュームを再配置したり I/O 動作をストレージシステム内およびストレージシステム間にわたって均等に分散したりする場合

TrueCopy の形成コピー操作はプライマリボリュームの内容全体をセカンダリボリュームにコピーします。形成コピー操作が完了すると、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの内容が同じになります。その後、TrueCopy ペアは削除されます。

このため、ホストソフトウェアを使用しないで、ホストに影響を与えることなくデータの移行を完了できます。ホストベースのアプリケーションを自動化するには、TrueCopy 操作の RAID Manager とホストソフトウェアを統合して TrueCopy を使用したデータの移行を実施します。

8.2 TrueCopy を使用したデータを別ボリュームに移行する流れ

TrueCopy を使用して、データを 1 つのボリュームから別のボリュームに移行する流れは次のとおりです。

操作手順

1. 接続された全ホストから、セカンダリボリュームがオフラインになっていることを確認します。セカンダリボリュームは、データの移行先のボリュームです。プライマリボリューム（移行元）はオンラインのままでもかまいません。
2. 移行したいボリュームを含むストレージシステムでリモート接続を追加し、副サイトのストレージシステムを登録します。
3. [ペア作成] 画面（RAID Manager の場合は paircreate）を使って、TrueCopy ペアを作成します。
4. 形成コピー操作の進行状況とペアの状態を監視します。[リモートレプリケーション] 画面および [ペア一致率参照] 画面（RAID Manager の場合は pairdisplay）を表示し、必要に応じて更新します。形成コピー操作が完了して、状態が COPY から PAIR になるまで待ちます。ペアの状態が PAIR になると、プライマリボリュームとセカンダリボリュームは同じになります。
5. RAID Manager のコマンドを使用して移行する場合は、pairsplit コマンドで TrueCopy ペアを削除したあとに、paircreate コマンドの -f never オプションを指定して、TrueCopy ペアを逆方向に設定します。RAID Manager のコマンドおよびホストソフトウェアを使用しないで移行する場合は、次の流れでプライマリボリュームの使用を停止し、セカンダリボリュームに切り替えます。
 - a. プライマリボリュームを使用しているすべてのアプリケーションを停止させます。
 - b. プライマリボリュームに対する更新動作がすべて停止したら、正サイトのストレージシステムに接続します。TrueCopy ペアを削除します。
 - c. プライマリボリュームとセカンダリボリュームが同一ホストに接続されている場合は、プライマリボリュームをオフラインに変更してからセカンダリボリュームをオンラインに変更します。プライマリボリュームとセカンダリボリュームのボリュームラベルは同じなので、両ボリュームを同時に同一ホストに対してオンラインにすることはできません。
 - d. ボリュームの同期を保持したい場合は、[TC ペア作成] 画面の [形成コピータイプ] を [なし] に設定して、同じ TrueCopy ペアを逆方向に設定します。

- e. セカンダリボリュームでアプリケーションを開始します。オリジナルのプライマリボリュームが使用できるようになると、[ペア再同期] 画面を使って、ペアを再同期できます。

移行元のプライマリボリュームが一時的に更新コピー操作に使用できない場合、新規ペアを分割すれば、新しい正サイトのストレージシステムが更新データを差分管理します。

TrueCopy の災害リカバリ

この章では、災害リカバリのための TrueCopy の使用方法について説明します。

- 9.1 TrueCopy の災害リカバリの流れ
- 9.2 TrueCopy の副サイトへ操作を切り替える作業
- 9.3 TrueCopy のセカンダリボリュームデータが保証されているかどうかの判断方法
- 9.4 TrueCopy の正サイトに操作を戻す作業

9.1 TrueCopy の災害リカバリの流れ

災害リカバリの準備手順は次のとおりです。

操作手順

1. 災害リカバリのための重要なファイルやデータが入っているボリュームおよびボリュームグループを識別します。
2. 障害時にシステムが希望どおりに対応するよう、プライマリボリュームのフェンスレベルの設定を考慮して TrueCopy ペアを作成します。
3. 正サイトと副サイトのホスト間で情報を転送するよう、ホストフェイルオーバーソフトウェアをインストールし、設定します。
4. ファイルおよびデータベースのリカバリ手順を設定します。これらの手順は、コントロールユニット障害が原因でアクセスできなくなったボリュームを再同期するために事前に設定しておく必要があります。
5. 正サイトのホストが、RAID Manager または SNMP などを経由して正サイトのストレージシステムからセンス情報を受信できるようにします。ホストが副サイトのストレージシステムに接続している場合、副サイトのストレージシステムからもセンス情報を受信できるようにします。



メモ

RAID Manager を使用すると、TrueCopy ペアを削除することなく、災害リカバリを実施できます。RAID Manager からペアを削除せずに災害リカバリを実施する場合、副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムに対して、リモート接続を追加しておく必要があります。また、正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへのリモート接続のパスグループ ID と、副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへのリモート接続のパスグループ ID は同じに設定しておく必要があります。

リモートコピーおよび災害リカバリ手順は、性質上複雑です。センスレベルの設定およびリカバリ手順については、お問い合わせください。

9.1.1 TrueCopy のサイト間のセンス情報転送

エラーのため正サイトのストレージシステムが TrueCopy ペアを分割した場合、正サイトまたは副サイトのストレージシステムは、ユニットチェックの状況をセンス情報として、該当するホストに転送します。このセンス情報は、災害リカバリ中に使用され、セカンダリボリュームのデータが保証されているかどうかを判断します。

また、この情報は、ホストフェイルオーバーソフトウェアを経由して副サイトにも転送してください。

9.1.2 TrueCopy のサイト間のファイルおよびデータベース復旧手順

災害リカバリ時には、ファイルおよびデータベースのリカバリが必要です。ファイルおよびデータベースのリカバリ手順は、コントロールユニットの障害によってアクセスできなくなったボリュームの復旧と同じ手順で行ってください。

TrueCopy は、消失した更新データの検出、および回復のための手順は提供しません。消失した更新データを検出して、再作成するには、災害発生時に正サイトのストレージシステムで動作していたほかの現行情報（例えば、データベースログファイル）をチェックしてください。

データの検出および検索処理には時間が掛かるため、副サイトでアプリケーションが起動してから消失データの検出および検索が実行されるように災害リカバリを計画してください。

9.2 TrueCopy の副サイトへ操作を切り替える作業

正サイトで災害または障害が発生した場合、まず操作を副サイトに切り替えます。TrueCopy のセカンダリボリュームは、ペア状態およびペアごとに設定されたプライマリボリュームのフェンスレベル情報に基づいて個別に復旧されます。

関連タスク

- [9.2.1 TrueCopy ペアを削除してから副サイトへ操作を切り替える流れ](#)
- [9.2.2 TrueCopy ペアを削除しないで副サイトへ操作を切り替える流れ](#)

9.2.1 TrueCopy ペアを削除してから副サイトへ操作を切り替える流れ

ペアを削除してから副サイトに操作を切り替える流れを次に示します。

操作手順

1. セカンダリボリュームのそれぞれのペア状態とフェンスレベルを確認します。
2. セカンダリボリュームのペアの状態とそのペアのプライマリボリュームフェンスレベルの設定に基づいて、セカンダリボリュームのデータが保証されているかを判断します。
[TC ペア作成] 画面の [プライマリボリュームフェンスレベル] の設定が [なし] (RAID Manager の場合は、pairdisplay コマンドの出力結果で、Fence 欄が Never) の TrueCopy ペアの場合は、さらに分析してセカンダリボリュームのデータが保証されているかを判断します。次のどちらかの方法で、セカンダリボリュームのデータが保証されていることを確認できます。
 - ホストフェイルオーバを介して転送されたセンス情報を使用する
 - セカンダリボリュームのデータが保証されていることを確認できた他のファイル（データベースログファイルなど）と、セカンダリボリュームの内容を比較するセカンダリボリュームのデータが保証されているかことを確認できたファイルを使用して復旧してください。
3. 必要に応じて、ファイルを復旧します。
4. 各副サイトのストレージシステムに接続し、すべての TrueCopy ペアを削除します。
一度セカンダリボリュームが SMPL 状態になると、ほかの単一ボリュームと区別できなくなります。必要に応じて、ボリュームマネージャを使用してボリュームのラベルをセカンダリボリュームに変更してください。
5. ファイル回復手順を完了します。
6. セカンダリボリュームをオンラインにする前に、必要なファイルすべての復旧手順が完了していることを確認します。
7. この時点で、前のセカンダリボリュームがプライマリボリュームの代わりとなった副サイトで、重要なアプリケーションを開始できます。

9.2.2 TrueCopy ペアを削除しないで副サイトへ操作を切り替える流れ

ペアを削除しないで操作を副サイトへ操作を切り替える流れを次に示します。

操作手順

1. セカンダリボリュームのそれぞれのペア状態とフェンスレベルを確認します。
2. セカンダリボリュームのペアの状態とそのペアのプライマリボリュームフェンスレベルの設定に基づいて、セカンダリボリュームのデータが保証されているかを判断します。

[TC ペア作成] 画面の [プライマリボリュームフェンスレベル] の設定が [なし] の TrueCopy ペアの場合は、さらに分析してセカンダリボリュームのデータが保証されているかを判断します。次のどちらかの方法で、セカンダリボリュームのデータが保証されていることを確認できます。

- ・ ホストフェイルオーバを介して転送されたセンス情報を使用する
- ・ セカンダリボリュームのデータが保証されていることを確認できた他のファイル（データベースログファイルなど）と、セカンダリボリュームの内容を比較する

セカンダリボリュームのデータが保証されているかことを確認できたファイルを使用して復旧してください。

3. 必要に応じて、ファイルを復旧します。
4. セカンダリボリュームに対して RAID Manager から horctakeover または pairsplit -RS 操作を実施します。



注意

TrueCopy ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、この操作での TrueCopy ペアのスワップリシンクは、容量不一致によって失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

5. ファイル回復手順を完了します。
6. セカンダリボリュームをオンラインにする前に、必要なファイルすべての復旧手順が完了していることを確認します。
7. この時点で、前のセカンダリボリュームがプライマリボリュームの代わりとなった副サイトで、重要なアプリケーションを開始できます。

9.3 TrueCopy のセカンダリボリュームデータが保証されているかどうかの判断方法

セカンダリボリュームのペアの状態とそのペアのプライマリボリュームフェンスレベルの設定に基づいて、セカンダリボリュームのデータが保証されているかを判断する方法を次の表に示します。

セカンダリ ボリューム の状態	タイプ	フェンス レベル		セカンダリボリュームのデータが保証されているか
		Storage Navigator	RAID Manager	
SMPL	--	データ 状態 なし	data status never	セカンダリボリュームのデータは保証されていません。 このセカンダリボリュームは TrueCopy ペアに属していません。 このボリュームに TrueCopy ペアを設定した場合でも、このボリュームを不整合と見なす必要があります。
COPY	--	データ 状態 なし	data status never	セカンダリボリュームのデータは保証されていません。 このセカンダリボリュームは、まだプライマリボリュームから全トラックをコピーし終わっていないので、同期していません。セカンダリボリュームは初期化する（またはあとでプライマリボリュームからコピーする）必要があります。

セカンダリ ボリューム の状態	タイプ	フェンス レベル		セカンダリボリュームのデータが保証され ているか
		Storage Navigator	RAID Manager	
PAIR	--	データ 状態	data status	セカンダリボリュームのデータは保証されています。 このセカンダリボリュームはそのプライマリボリュームと同期しています。
		なし	never	分析が必要です。 このセカンダリボリュームのデータが保証されているかどうかを判断するにはさらに分析が必要です。
PSUE	Initial copy failed	データ 状態 なし	data status never	セカンダリボリュームのデータは保証されていません。 このセカンダリボリュームは、まだプライマリボリュームから全トラックをコピーし終わっていないので、同期していません。セカンダリボリュームは初期化する（またはあとでプライマリボリュームからコピーする）必要があります。
PSUS	Secondary Volume by operator	データ 状態 なし	data status never	注意が必要です。 ペアが分割されたあとで Write I/O が発生すると、このセカンダリボリュームは対応するプライマリボリュームと同期しません。いったんペアを削除し、[形成コピータイプ]で[全てコピー]を選択してペアを再作成してください。ただし、プライマリボリュームのデータが一切変更されなかったことが確かな場合は、[なし]を選択してペアを再作成できます。
PSUS および PSUE	上記 2 つ 以外	データ	data	セカンダリボリュームのデータは保証されています。 このセカンダリボリュームはそのプライマリボリュームと同期しています。
		状態 なし	status never	注意が必要です。 ペアが分割されたあとで Write I/O が発生すると、このセカンダリボリュームは対応するプライマリボリュームと同期しません。このセカンダリボリュームの整合性を回復し、必要に応じて更新します。[ペアプロパティ参照]画面の[最終更新時刻]に表示されている分割時刻から、このセカンダリボリュームが最後に更新された時刻を判断できます。

(凡例)

なし：コピーなし

データ：セカンダリボリュームデータ

状態：セカンダリボリューム状態

注

[TC ペア作成] 画面の [プライマリボリュームフェンスレベル] の設定が [なし] の TrueCopy ペアの場合は、さらに分析してセカンダリボリュームのデータが保証されているかを判断しま

す。次のどちらかの方法で、セカンダリボリュームのデータが保証されていることを確認できます。

- ・ ホストファイルオーバを介して転送されたセンス情報を使用する
- ・ セカンダリボリュームのデータが保証されていることを確認できた他のファイル（データベースログファイルなど）と、セカンダリボリュームの内容を比較する

これらのセカンダリボリュームデータが保証されていることを確認できたファイルを使用して復旧してください。

実際のデータ復旧には、データベースの操作ログ中にあるリカバリ用データを使用してください。

9.4 TrueCopy の正サイトに操作を戻す作業

アプリケーションが副サイトで動作を開始したら、正サイトをリストアして、正サイトに操作を戻します。

TrueCopy ペアを逆方向に設定したら、正サイトで通常の操作を再開する準備が整います。元の副サイトのストレージシステムとセカンダリボリューム（副サイト）が新たな正サイトのストレージシステムとプライマリボリュームに、元の正サイトのストレージシステムとプライマリボリューム（正サイト）が新たな副サイトのストレージシステムとセカンダリボリュームになります。

関連タスク

- ・ [9.4.1 TrueCopy ペアを削除してから正サイトに操作を戻す流れ](#)
- ・ [9.4.2 TrueCopy ペアを削除しないで正サイトに操作を戻す流れ](#)

9.4.1 TrueCopy ペアを削除してから正サイトに操作を戻す流れ

ペアを削除してから正サイトに操作を戻す流れを次に示します。

操作手順

1. 正サイトでホストを起動して、すべての TrueCopy コンポーネントが完全に動作できることを確認します。
2. 正サイトのストレージシステムにあるすべての TrueCopy ペアを削除します。
副サイトの旧セカンダリボリュームは、ペアが組まれていないボリュームであるため、Storage Navigator の [ペア強制削除(TC ペア)] 画面を使用してください。
3. 正サイトのストレージシステムで副サイトのストレージシステムの設定を削除します。各正サイトのストレージシステムに接続して、すべての副サイトのストレージシステムが削除されていることを確認してください。
4. 正サイトのストレージシステムおよび副サイトでバスとポートの設定を変更します。
 - ・ 同じスイッチを使用するには、動作モードを逆方向に設定します。
 - ・ 同じチャネルエクステンダを使用する場合は、操作モードを逆方向に変更します。正サイトのストレージシステムに接続されたボックス／ノードはチャネルモードに、そして、副サイトのストレージシステムに接続されたボックス／ノードはデバイスモードに設定します。
5. 副サイトで、TrueCopy 操作を逆方向に設定します。
6. 副サイトで TrueCopy ペアを逆方向に確立し、元のプライマリボリュームをセカンダリボリュームに同期させます。[形成コピータイプ] には必ず [全てコピー] を指定（RAID Manager の場合-nocopy オプションを指定しないで paircreate コマンドを実行）します。



注意

TrueCopy ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、この操作での TrueCopy ペアのスワップリシンクは、容量不一致によって失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

7. 副サイトのアプリケーションを停止し、副サイトで、プライマリボリューム（元のセカンダリボリューム）をオフラインに変えます。これは、TrueCopy ペアの同期を保ちます。
8. 正サイトのストレージシステム（元の副サイトのストレージシステム）ですべての TrueCopy ペアを分割し、保留中のデータをキャッシュからデステージします。次へ進む前に、ペアが分割されていることを確認します。エラーが発生したら、先へ進む前に解決します。



注意

TrueCopy ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、この操作での TrueCopy ペアのスワップリシンクは、容量不一致によって失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

9. 正サイトのストレージシステム（元の副サイトのストレージシステム）のすべての TrueCopy ペアを削除します。これには [ペア強制削除(TC ペア)] 画面を使用する必要はありません。
10. 正サイトのストレージシステムおよび副サイトでパスとポートの設定を変更します。
同じスイッチを使用するには、動作モードを元の方向に戻します。
同じチャネルエクステンダを使用する場合は、操作モードを元の方向に戻します。正サイトのストレージシステムに接続されたボックス／ノードは、チャネルモードに、副サイトのストレージシステムに接続されたボックス／ノードは、デバイスモードに設定してください。
11. 正サイトのストレージシステムでは、ペア作成の準備として構成タスクを実行します。
12. 正サイトのストレージシステムですべての TrueCopy ペアを元の方向に設定します。すべてのプライマリボリュームとセカンダリボリュームは同期しているので、[形成コピータイプ] に [なし] を設定 (RAID Manager の場合 -nocopy オプションを指定して paircreate コマンドを実行) できます。ボリュームが同期していないおそれが少しでもある場合は、[形成コピータイプ] は [全てコピー] にしてください。



注意

TrueCopy ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、この操作での TrueCopy ペアのスワップリシンクは、容量不一致によって失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

13. 正サイトのストレージシステムおよびプライマリボリュームをオンラインに変更し、正サイトでアプリケーションを開始します。

9.4.2 TrueCopy ペアを削除しないで正サイトに操作を戻す流れ

ペアを削除しないで正サイトに操作を戻す流れを次に示します。

操作手順

1. 正サイトでホストを起動して、すべての TrueCopy コンポーネントが完全に動作できることを確認します。
2. セカンダリボリュームに対して、RAID Manager から pairresync -swaps 操作を実施します。すでに逆方向に TrueCopy ペアが設定されていて、ペア状態が PAIR または COPY に遷移している場合は、pairresync -swaps の操作は不要です。



注意

TrueCopy ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、この操作での TrueCopy ペアのスワップリシンクは、容量不一致によって失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

3. 副サイトのアプリケーションを停止し、副サイトで、プライマリボリューム（元のセカンダリボリューム）をオフラインに変えます。これは、TrueCopy ペアの同期を保ちます。
 4. プライマリボリュームに対して、RAID Manager から horctakeover 操作を実施します。
-



注意

TrueCopy ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、この操作での TrueCopy ペアのスワップリシンクは、容量不一致によって失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

5. 正サイトのストレージシステムおよびプライマリボリュームをオンラインに変更し、正サイトでアプリケーションを開始します。

TrueCopy のトラブルシューティング

この章ではトラブルシューティングについて説明します。

- 10.1 TrueCopy のトラブルシューティング概要
- 10.2 Storage Navigator 操作時のエラーコードとメッセージ
- 10.3 RAID Manager 操作時のトラブルシューティング
- 10.4 TrueCopy ボリュームのピントラック回復手順
- 10.5 お問い合わせ先

10.1 TrueCopy のトラブルシューティング概要

一般的なトラブルシューティングには次のものがあります。

- TrueCopy 操作に関する SIM のトラブルシューティング
- TrueCopy の一般的なトラブルシューティング
- TrueCopy のリモートパスの状態に関するトラブルシューティング
- 分割された TrueCopy のペアのトラブルシューティング

関連概念

- [10.1.1 TrueCopy 操作に関する SIM のトラブルシューティング](#)
- [10.1.2 TrueCopy の一般的なトラブルシューティング](#)
- [10.1.3 TrueCopy のリモートパスの状態に関するトラブルシューティング](#)
- [10.1.4 分割された TrueCopy ペアのトラブルシューティング](#)

10.1.1 TrueCopy 操作に関する SIM のトラブルシューティング

本ストレージシステムは、ストレージシステムの保守が必要となる場合には、SIM を報告します。

SVP は TrueCopy 操作に関するすべての SIM を報告します。すべての SIM はストレージシステムの SVP に記録され、管理クライアントに報告されます。詳細は、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』または『システム管理者ガイド』を参照してください。

TrueCopy 操作中、正サイトおよび副サイトのストレージシステムは、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの状態が変わるたびに SIM を生成します (COPY から PAIR への通常の状態遷移も含みます)。

- 正サイトのストレージシステムが生成する SIM には、プライマリボリュームのデバイス ID (バイト 13) が含まれます。
- 副サイトのストレージシステムが生成する SIM には、セカンダリボリュームのデバイス ID (バイト 13) が含まれます。

ストレージシステム用に SNMP がインストールされている場合は、各 SIM は SNMP トラップを引き起こし、該当するホストに送信されます。SNMP 情報の詳細については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』または『SNMP Agent ユーザガイド』を参照してください。

SIM のリファレンスコードについては、『SIM リファレンス』または『システム管理者ガイド』を参照してください。

10.1.2 TrueCopy の一般的なトラブルシューティング

エラー／操作の内容	対策
管理クライアントが停止する、または TrueCopy 動作が適切に機能しない。	• 問題の原因が PC または Ethernet のハードウェアかプログラムプロダクトにないことを確認してから、PC を再起動してみてください。管理クライアントの再起動は、進行中の TrueCopy 操作には影響しません。 • TrueCopy の要件と制約事項 (LU タイプが同じこと、など) がすべて満たされているか確認します。

エラー／操作の内容	対策
	- 正サイトと副サイトのストレージシステムの電源がオンで、完全に機能が有効になっているか確認します（NVS、キャッシュ）。 - 入力したすべての値とパラメータをチェックして、管理クライアントに正しい情報（リモートストレージシステムのシリアル番号や ID、パスパラメータ、プライマリボリュームやセカンダリボリュームの ID など）を入力したか確認します。
ストレージシステムのコントロールパネルにある、イニシエータのチャンネル使用可 LED（Light-Emitting Diode）インジケータが消灯、または点滅している。	お問い合わせください。
ペアや、リモートストレージシステムへのパスの状態が正しく表示されていない。	正しい CU が選択されているかどうか確認してください。
TrueCopy エラーメッセージが管理クライアントに表示されている。	エラーを修正し、TrueCopy 操作を再実行してください。
リモートストレージシステムへのパスの状態が正常でない。	[リモート接続プロパティ参照] 画面（RAID Manager の場合は raidcom get rcu）のパス状態を確認し、 「10.1.3 TrueCopy のリモートパスの状態に関するトラブルシューティング」 を参照してください。
分割されたペアの状態が PSUE である。	「10.1.4 分割された TrueCopy ペアのトラブルシューティング」 を参照してください。
ペア作成またはペア再同期操作でタイムアウトエラーが発生した。	- ハードウェア障害によってタイムアウトが発生した場合は、SIM が生成されます。「10.5 お問い合わせ先」に示す問い合わせ先に連絡し、問題解決後に TrueCopy 操作を再実行してください。 - 大きな作業負荷：SIM が生成されない場合、5～6 分ほど待ってから作成または再同期したいペアの状態を確認してください。ペアの状態が正しく変わった場合は、失敗した操作がタイムアウトエラーメッセージが表示された後に完了したことを示します。ペアの状態が期待どおりに変わらなかった場合は、大きな作業負荷によって TrueCopy 操作の完了が妨げられていることが考えられます。大きな作業負荷とは、具体的には次のどれかの状態を指します。 - 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームが属する MP ユニット内のプロセッサの稼働率が 70%以上。 - 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームに対する更新 I/O の転送量が多い。 - 副サイトのストレージシステムで、セカンダリボリュームが属する MP ユニットの Write ペンディング率が 65%以上。 この場合、上記の状態を解消してから、TrueCopy 操作を再実行してください。 - 管理クライアントと SVP の間に通信エラーが発生した場合は、『Hitachi Device Manager・Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。
ペア作成またはペア再同期操作が失敗した。	正サイトまたは副サイトのストレージシステムでコントローラボードが閉塞しているかを確認してください。閉塞されたコントローラボードを回復させてから、再度操作してください。

エラー／操作の内容	対策
ペア作成またはペア再同期操作をしたが、次の状態から変化しない。 - ペア状態が COPY のまま - ペアの一致率が 0% のまま	- ハードウェア障害が発生した場合は、SIM が生成されます。 「10.5 お問い合わせ先」に示すお問い合わせ先に連絡してください。問題解決後に以下を実施してください。 〔形成コピータイプ〕で〔全てコピー〕を選択して、DP-VOL 同士でペアを作成している際に左記のエラーが発生した場合： ペアを削除してから、ペアを作成し直してください。 - 上記以外の場合： ペアをサスペンドしてから、再同期してください。 - 大きな作業負荷：ハードウェア障害が発生していない場合は、大きな作業負荷となっている、次のどれかの状態が原因となっている可能性があります。次のうちの該当する状態を解消してから、TrueCopy 操作を再実行してください。 - 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームが属する MP ユニット内のプロセッサの稼働率が 70% 以上。 - 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームに対する更新 I/O の転送量が多い。 - 副サイトのストレージシステムで、セカンダリボリュームが属する MP ユニットの Write ペンディング率が 65% 以上。 ハードウェア障害（SIM 生成）が発生しておらず、負荷も低い状態であるにも関わらず、状態の変化がない場合は、「10.5 お問い合わせ先」に示すお問い合わせ先に連絡してください。
ペア削除操作が失敗またはタイムアウトした。または、ペアが組まれていないボリュームであるにも関わらず、ボリュームにペアの情報が残っていて、他のペアのボリュームとして使用できない。	ペア削除操作が失敗、または、ペア削除後のペア状態確認でペアが残っている場合、次の手順を実施してください。 - 次に示す条件に従って、再度通常の削除操作を実施します。 - 正サイトと副サイトのストレージシステムの両方で、削除対象のペアが残っている場合は、正サイトのストレージシステムから、通常のペア削除を実施します。 - 正サイトまたは副サイトのストレージシステムのどちらかで、削除対象のペアが残っている場合は、ペアが残っている方のストレージシステムから、通常のペア削除を実施します。 - ペア状態を確認します。 - 正常にペア削除ができている場合、この手順は終了です。 - 通常削除が失敗、またはペア状態が残っている場合は、残っているペアに対して、「7.2.2 TrueCopy ペアを強制的に削除する」を参照して、強制ペア削除操作を実施します。
TrueCopy ボリュームに固定トラック (pinned track) がある。	「10.4 TrueCopy ボリュームのピントラック回復手順」を参照してください。
モニタリングスイッチが〔有効〕にも関わらずモニタリングデータが更新されない。	SVP の時刻設定が変更されたため、モニタリングデータが更新されていないおそれがあります。モニタリングスイッチをいったん〔無効〕にしてから、再度〔有効〕に設定してください。モニタリングスイッチについては、『Performance Manager ユーザガイド (Performance Monitor, Server Priority Manager, QoS)』を参照してください。

10.1.3 TrueCopy のリモートパスの状態に関するトラブルシューティング

RAID Manager で表示されるエラーコード	リモートパスの状態と説明	状態の説明	対策
NML_01	Normal 正常	このリモートパスは正しく設定されているので、TrueCopy コピーに使用できる。	リモートパスの状態は正常です。回復する必要はありません。
ERR_02	Initialization Failed 初期化エラー	次の不具合によって、リモートストレージシステムとの接続を初期化したときに、エラーが発生した。 - ローカルストレージシステムとリモートストレージシステム間の物理パスが接続されていない。 - ローカルストレージシステムとスイッチ間の接続がない。 - リモートパスとして未サポートのプロトコル、チャネルボード、またはポートスピードを使用している。	次の内容を確認し、正しくない場合は修正してください。 - ローカルストレージシステムのポートとリモートストレージシステムのポート間、またはローカルストレージシステムのポートとローカルストレージシステムのポートとローカルストレージシステムのポートのスイッチ間で、ケーブルが正しく接続されていること。 - リモートストレージシステムのシリアル番号とモデル、ローカルストレージシステムのポート番号、リモートストレージシステムのポート番号が正しいこと。 - ローカルストレージシステムのポートとリモートストレージシステムのポートのトポロジ（Fabric、FC-AL、Point-to-point）の設定が正しいこと。 - リモートパスとしてサポート済みのプロトコル、チャネルボード、またはポートスピードを使用すること。
ERR_03	Communication Time Out 通信タイムアウト	ローカルストレージシステムとリモートストレージシステムとの間の通信がタイムアウトになった。	次の内容を確認し、正しくない場合は修正してください。 - リモートストレージシステムの電源がオンであり、正常に利用できる（NVS とキャッシュがオンの状態である）こと。 - 次のネットワーク中継機器が正しく構成されていて、正しく利用できること。 - コネクタ - ケーブル - スイッチ（ゾーニング設定） - チャネルエクステンダ装置（チャネルエクステンダ装置接続時） - チャネルエクステンダ装置間に接続されている回線・装置（チャネルエクステンダ装置接続時）
ERR_05	Port Rejected 資源不足	ローカルストレージシステム、またはリモートストレージシステムの全資源が他の接続に使用されているので、ローカルストレージシステム、またはリモートストレージシステムはリモートパスを設定する接続制御機能を拒否した。	- 現在使用していないすべてのリモートパスを「リモートパス削除」画面（RAID Manager の場合は raidcom delete rcu_path）で削除してください。 - 現在使用していないすべてのリモートストレージシステムを、「リモート接続削除」画面（RAID Manager の場合は

RAID Manager で表示されるエラーコード	リモートパスの状態と説明	状態の説明	対策
			raidcom delete rcu) で削除してください。
ERR_06	Serial Number Mismatch シリアル番号の不一致	リモートストレージシステムのシリアル番号が指定したシリアル番号と一致しない。	次の内容を確認し、正しくない場合は修正してください。 - リモートストレージシステムのシリアル番号とモデル、ローカルストレージシステムのポート番号、リモートストレージシステムのポート番号が正しいこと。 - ローカルストレージシステムのポートとリモートストレージシステムのポートのトポロジ (Fabric、FC-AL、Point-to-point) が正しく設定されていること。 - 次のネットワーク中継機器が正しく構成されていて、正しく利用できること。 - コネクタ - ケーブル - スイッチ (ゾーニング設定) - チャネルエクステンダ装置 (チャネルエクステンダ装置接続時) - チャネルエクステンダ装置間に接続されている回線・装置 (チャネルエクステンダ装置接続時)
ERR_10	Invalid Port 無効ポート	指定したローカルストレージシステムのポートは次の状態である。 - 実装されていない。 - リモートパスが追加済みである。 - リモートパスとして未サポートのプロトコル、チャネルボード、またはポートスピードを使用している。	次の内容を確認し、正しくない場合は修正してください。 - 同じ設定のリモートパス (ローカルストレージシステムのポート番号とリモートストレージシステムのポート番号が同じ) が追加済みでないこと。 - ローカルストレージシステムのポートとリモートストレージシステムのポートのトポロジ (Fabric、FC-AL、Point-to-point) の設定が正しいこと。 - 次のネットワーク中継機器が正しく構成されていて、正しく利用できること。 - コネクタ - ケーブル - スイッチ (ゾーニング設定) - チャネルエクステンダ装置 (チャネルエクステンダ装置接続時) - チャネルエクステンダ装置間に接続されている回線・装置 (チャネルエクステンダ装置接続時) - リモートストレージシステムのシリアル番号、モデル、ローカルストレージシステムのポート番号、リモートストレージシステムのポート番号が正しいこと。

RAID Manager で表示されるエラーコード	リモートパスの状態と説明	状態の説明		対策
				リモートパスとしてサポート済みのプロトコル、チャネルボード、またはポートスピードを使用すること。
ERR_80	Pair-Port Number Mismatch リモートストレージシステムのポート番号不正	指定したリモートストレージシステムのポートがローカルストレージシステムと物理的に接続されていない。		次の内容を確認し、正しくない場合は修正してください。 - リモートストレージシステムのポート番号が正しいこと。 - ローカルストレージシステムのポートとリモートストレージシステムのポート間、またはリモートストレージシステムのポートとリモートストレージシステムのスイッチ間でケーブルが正しく接続されていること。 - ローカルストレージシステムのポートとリモートストレージシステムのポートのトポロジ（Fabric、FC-AL、Point-to-point）の設定が正しいこと。
ERR_82	Communication Failed 通信エラー	ローカルストレージシステムはリモートストレージシステムに正しく接続されているが、論理的な通信タイムアウトが発生した。		次の内容を確認し、正しくない場合は修正してください。 - リモートストレージシステムのポートとネットワーク中継機器が正しく設定されていること。 - 次のネットワーク中継機器が正しく構成されていて、正しく利用できること。 - コネクタ - ケーブル - スイッチ（ゾーニング設定） - チャネルエクステンダ装置（チャネルエクステンダ装置接続時） - チャネルエクステンダ装置間に接続されている回線・装置（チャネルエクステンダ装置接続時）
ERR_04	Path Blockade 論理閉塞	パス障害またはリンク障害が継続的に発生したため、閉塞した。	ローカルストレージシステムのポートが故障している。	ローカルストレージシステムのポートを修復してください。 修復後、状態が正常に戻らない場合は、リモートパスを回復させてください。※
			リモートストレージシステムのポートが故障している。	リモートストレージシステムのポートを修復してください。 修復後、状態が正常に戻らない場合は、リモートパスを回復させてください。※
		中継装置が故障している。		中継装置を修復してください。 修復後、状態が正常に戻らない場合は、リモートパスを回復させてください。※
		ケーブルが壊れている。		ケーブルを交換してください。 修復後、状態が正常に戻らない場合は、リモートパスを回復させてください。※
-	In Progress	次のうちどれかの処理を実行中である。		処理が終了するまで待ってください。

RAID Manager で表示されるエラーコード	リモートパスの状態と説明	状態の説明	対策
	処理中	- リモートパス作成 - リモートパス削除	
上記以外	Program Error プログラムエラー	プログラムエラーが検出された。	リモートパスを回復させてください。※

注※

次のどれかの方法でリモートパスを回復させます。

- Storage Navigator の [リモート接続削除] 画面でリモート接続を削除し、[リモート接続追加] 画面で再度リモート接続を登録する。
- Storage Navigator の [リモートパス削除] 画面でリモートパスを削除し、[リモートパス追加] 画面で再度リモートパスを作成する。
- RAID Manager の `raidcom delete rcu_path` コマンドでリモートパスを削除し、`raidcom add rcu_path` コマンドでリモートパスを再作成する。

この操作をしてもリモートパスが回復しない場合は、お問い合わせください。

10.1.4 分割された TrueCopy ペアのトラブルシューティング

ペア状態 (分割タイプ)	ペア位置	説明	回復手順
PSUE (by RCU)	プライマリ	正サイトのストレージシステムは、副サイトのストレージシステムでのエラー状態を検出したために、TrueCopy ペアを分割した。セカンダリボリュームの分割タイプは Secondary Volume Failure。	副サイトのストレージシステムまたはセカンダリボリュームでエラーを取り除いてください。エラーを取り除いたら、正サイトのストレージシステムからペアを再同期してください ([ペア再同期] 画面または <code>pairresync</code> コマンド)。 なお、セカンダリボリュームのエラーを取り除くためにセカンダリボリュームにアクセスしたい場合は、副サイトのストレージシステムからそのペアを削除してください ([ペア削除] 画面または <code>pairsplit -S</code> コマンド)。エラーを取り除いたあとで、[TC ペア作成] 画面 (RAID Manager の場合は <code>paircreate</code>) でペアを作成し直してください。
PSUE (Secondary Volume Failure)	プライマリ	正サイトのストレージシステムは副サイトのストレージシステムとの通信中にエラーを、または更新コピー中に I/O エラーを検出した。この場合、セカンダリボリュームの分割タイプは、Secondary Volume Failure。	[リモート接続] 画面 (RAID Manager の場合は <code>raidcom get rcu</code>) でパスの状態を確認し、パスでエラーが発生している場合は、エラーを取り除いてください。 副サイトのストレージシステムまたはセカンダリボリュームでエラーを取り除いてください。エラーを取り除いたら、正サイトのストレ

ペア状態 (分割タイプ)	ペア位置	説明	回復手順
			ージシステムからペアを再同期してください（[ペア再同期] 画面）。 セカンダリボリュームのエラーを取り除くためにセカンダリボリュームにアクセスしたい場合は、副サイトのストレージシステムからそのペアを削除してください（[ペア削除] 画面）。エラーを取り除いたあとで、[TC ペア作成] 画面でペアを作成し直してください。
PSUE (MCU IMPL)	プライマリ、セカンダリ	正サイトのストレージシステムは IMPL 手順中に、その不揮発メモリ内に有効な制御情報を見つけられなかった。このエラーは正サイトのストレージシステムが 48 時間以上電源が入らなかった場合にだけ発生する（例：電源障害やバックアップバッテリーの放電）。	そのペアを正サイトのストレージシステムから再同期してください（[ペア再同期] 画面）。ペアを再同期すると、正サイトのストレージシステムは形成コピーを実行します。
PSUE (Initial Copy Failed)	プライマリ、セカンダリ	形成コピー操作中に正サイトのストレージシステムがこのペアを分割した。セカンダリボリュームのデータはプライマリボリュームのデータと同期していない。	正サイトのストレージシステムからそのペアを削除してください（[ペア削除] 画面）。正サイトのストレージシステム、プライマリボリューム、副サイトのストレージシステム、およびセカンダリボリュームですべてのエラーを取り除いてください。[TC ペア作成] 画面を使って、形成コピーを再開してください。

（凡例）

プライマリ：プライマリボリューム

セカンダリ：セカンダリボリューム

10.2 Storage Navigator 操作時のエラーコードとメッセージ

TrueCopy 操作中にエラー状態が発生すると、TrueCopy はエラーメッセージを管理クライアントに表示します。エラーメッセージは、エラーの説明と 4 桁の TrueCopy コードを示します。

問い合わせのときには、エラーコードを報告してください。管理クライアントに表示されるエラーコードについては、『Storage Navigator メッセージガイド』を参照してください。

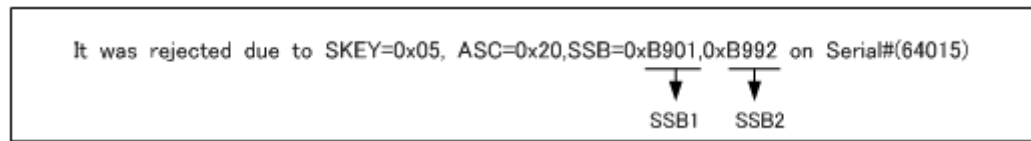
10.3 RAID Manager 操作時のトラブルシューティング

RAID Manager を使用した TrueCopy ペアの操作でエラーが発生した場合、RAID Manager の画面に出力されるログまたは RAID Manager の操作ログを参照してエラーの要因を特定できることがあります。RAID Manager の操作ログファイルは、デフォルトでは次のディレクトリに格納されます。

格納先ディレクトリ：/HORCM/log*/curlog/horcmlog_HOST/horcm.log

- ・ * : インスタンス番号
- ・ HOST : ホスト名

RAID Manager の画面に出力されたログの出力例を次に示します。



「SSB=」の後ろの英数字がエラーコードを示します。コンマ (,) の左側の英数字の下 4 桁を SSB1 (例 : B9E1)、右側の英数字の下 4 桁を SSB2 とします (例 : B901)。

エラーコードの意味を調査します。表に記載されていないエラーコードについては、お問い合わせください。

10.3.1 RAID Manager 操作時のエラーコードと内容

RAID Manager 操作時のエラーコードと内容 (SSB1 が 2E31/B901/B90A/B90B/B912/D004) を次の表に示します。

エラーコード (SSB2)	内容
4A96	TrueCopy ペア作成要求を受け付けましたが、指定したプライマリボリュームが属する CLPR とすでに登録されているコンシステンシーグループの CLPR が異なるためコマンドを拒否しました。
4BF0	リモート接続先として VSP One SDS Block を指定した際に、パスグループ ID を指定しない、または 0 を指定したため、コマンドを拒否しました。
4BF1	リモート接続先として VSP One SDS Block を指定した際に、iSCSI ポート以外のポートを指定したため、コマンドを拒否しました。
9100	ユーザ認証が実施されていないため、コマンドを実行できません。
B920	装置識別子が不正のため、TrueCopy ペアを作成できません。
B923	ペア作成またはペア再同期要求で、複数組のストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループ定義指示を受け付けましたが、この機能をサポートしているソフトウェアとサポートしていないソフトウェアが混在しているためコマンドを拒否しました。
B927	2DC 構成の TrueCopy ペアに対して次の操作はできません。 ・ スワップサスペンド ・ テイクオーバ
B928	ミラー ID が不正なため TrueCopy ペアを作成できません。
B929	ファームウェアを交換中のため TrueCopy ペア操作コマンドを拒否しました。
B92A	指定したボリュームがコマンドデバイスであるため、TrueCopy ペアを作成できません。
B934	TrueCopy プログラムプロダクトが未インストールのためペア作成できません。
B935	セカンダリボリューム隠蔽モードをサポートしていません。
B936	TrueCopy を操作するためのシェアドメモリが実装されていません。
B93B	指定したボリュームはプライマリボリュームです。セカンダリボリュームとして指定されているため、ペア削除が実行できません。
B941	指定したボリュームはセカンダリボリュームです。プライマリボリュームとして指定されているため、ペア削除が実行できません。
B945	ボリュームの状態が SMPL のためコマンドを拒否しました。

エラーコード (SSB2)	内容
B952	指定された LU が未定義です。DKC の構成が変更されたおそれがあります。RAID Manager を再起動してください。
B97B	ペアの状態が PSUS または PSUE のため、ペア操作ができません。
B97C	ボリュームの状態が SMPL のためコマンドを拒否しました。
B990	指定できるコンシステンシーグループ ID より大きい番号を指定したため、ペアを作成できません。なお、コンシステンシーグループ ID の指定を省略したにも関わらずエラーが発生した場合は、お問い合わせください。
B992 (SSB1 が B901)	DKC タイプが TrueCopy Asynchronous 未サポートのためペア作成できません。
B992 (SSB1 が B90A)	TrueCopy または Universal Replicator がインストールされていないため、コンシステンシーグループの情報を取得できません。
B994	セカンダリボリュームの状態が PSUS、または SSWS ではないため、Swap Resync 操作 (セカンダリボリュームをプライマリボリュームにスワップし、スワップ後のプライマリボリュームからセカンダリボリュームへ差分データを再同期する操作) ができません。
B998	副サイトのストレージシステムのパス設定が不正のため、TrueCopy ペアを作成できません。
B99B	TrueCopy 非同期は未サポートのため、ペア作成を拒否しました。
B9BD	RAID Manager 起動中に DKC の LDEV 構成が変更されたおそれがあります。RAID Manager を再起動してください。
B9C0	コマンドデバイスの資源がなくなりました。LUN Manager からコマンドデバイスを OFF にし、そのあと ON にしてください。
C162	ペア再同期要求を受け付けましたが、該当ペアが PSUS または PSUE ではないためコマンドを拒否しました。
C16B	ペア作成要求を受け付けましたが、セカンダリボリュームが使用できる状態にないためコマンドを拒否しました。
C184	ペア削除要求を受け付けましたが、セカンダリボリュームの状態変更が失敗したためコマンドを拒否しました。
C189	ペア削除要求を受け付けましたが、ペア状態が不正のためコマンドを拒否しました。
C18A	ペア削除要求を受け付けましたが、該当するボリュームが状態変更中または、グループ内に状態変更中のペアがあるためコマンドを拒否しました。
C194	セカンダリボリュームが状態遷移中のため、コピーペアを分割できません。
C195	ペア分割要求を受け付けましたが、指定したペアはすでに PSUS または PSUE 状態のためコマンドを拒否しました。
C198	グループ内に分割できるペアがありません。
C199	ペア分割要求を受け付けましたが、該当するボリュームが状態変更中または、グループ内に状態変更中のペアがあるためコマンドを拒否しました。
C1BE	DKC が電源オン処理中のため、TrueCopy ペアの状態遷移ができません。
C1D6	TrueCopy ペア以外のボリュームに TrueCopy のコマンドが発行されたため、コマンドを拒否しました。
C211	指定したボリュームはプライマリボリュームとして使用されているためコマンドを拒否しました。なお、指定したボリュームの状態が SMPL であるにも関わらずエラーが発生した場合は、Storage Navigator でエラーになったボリュームに対して、[ペア強制削除(TC ペア)] 画面を使用してください。そのあとで、再度操作してください。

エラーコード (SSB2)	内容
C212	指定したボリュームはセカンダリボリュームとして使用されているためコマンドを拒否しました。なお、指定したボリュームの状態が SMPL であるにも関わらずエラーが発生した場合は、 Storage Navigator でエラーになったボリュームに対して、[ペア強制削除(TC ペア)] 画面を使用してください。そのあとで、再度操作してください。
C214	副サイトのストレージシステムが登録されていないか、または登録されている副サイトのストレージシステムの情報が不正であるためコマンドを拒否しました。
C215	内部的な論理矛盾が発生したためコマンドを拒否しました。
C218	ペア状態が不正のためコマンドを拒否しました。
C21A	プライマリボリュームの状態が PSUS または PSUE ではないためコマンドを拒否しました。
C21C	副サイトのストレージシステムが登録されていないか、または登録されている副サイトのストレージシステムの情報が不正であるためコマンドを拒否しました。
C22A	プライマリボリューム以外に対してペア削除が実行されたためコマンドを拒否しました。
C22C	ボリュームの状態が SMPL のためコマンドを拒否しました。
C22D	指定したボリュームはプライマリボリューム以外であるためコマンドを拒否しました。
C22E	状態が PAIR ではないボリュームに -P オプション (プライマリボリュームの書き込み禁止) を指定した pairsplit コマンドが発行されたためコマンドを拒否しました。
C233	セカンダリボリュームの状態が SMPL であるためコマンドを拒否しました。
C234/C235/ C236/C237	内部的な論理矛盾が発生したためコマンドを拒否しました。
C238	指定したボリュームはプライマリボリューム以外であるためコマンドを拒否しました。
C239	状態が PSUS または PSUE ではないボリュームに対してペア再同期が実行されたためコマンドを拒否しました。
C23A	内部的な論理矛盾が発生したためコマンドを拒否しました。
C23B	ボリュームの状態が SMPL であるためコマンドを拒否しました。
C23C	ボリュームの状態が PAIR または COPY 以外であるためコマンドを拒否しました。
C23D	TrueCopy ボリュームに対して TrueCopy 非同期のコマンドを発行したためコマンドを拒否しました。
C267	コマンドデバイスに対してコマンドを発行したためペアを作成できません。
C271	指定したコンシステンシーグループ ID が不正であるためコマンドを拒否しました。
C28B	状態が SSWS ではないボリュームに対して horctakeover コマンドが発行されたためコマンドを拒否しました。
C28C	副サイトのストレージシステムが登録されていないか、または登録されている副サイトのストレージシステムの情報が不正であるためコマンドを拒否しました。
C28D	horctakeover コマンドを実行できるボリュームがありません。
C28E	内部的な論理矛盾が発生したためコマンドを拒否しました。
C297	指定したボリュームはセカンダリボリュームとして使用されているためコマンドを拒否しました。
C2A0	TrueCopy 以外の使用量がライセンス容量を超過しているためペアを作成できません。
C2A1	内部的な論理矛盾が発生したためコマンドを拒否しました。
C2A3	TrueCopy の使用量がライセンス容量を超過したためペア作成ができません。
C2B3	Dynamic Provisioning ボリュームが容量変更中のためコマンドを拒否しました。

エラーコード (SSB2)	内容
C2B4	内部的な論理矛盾が発生したためコマンドを拒否しました。
C2B5	TrueCopy プライマリボリュームが ShadowImage によって初期化中のため、ペアを作成できません。
C2B6	Dynamic Provisioning ボリュームがページを解放中のためコマンドを拒否しました。
C300	正サイトのストレージシステムに Remote Replication Extended プログラムプロダクトがインストールされていないため、Universal Replicator と連携するコピーペアを作成できません。
C301	副サイトのストレージシステムに Remote Replication Extended プログラムプロダクトがインストールされていないため、Universal Replicator と連携するコピーペアを作成できません。
C304	セカンダリボリュームが Dynamic Provisioning の仮想ボリュームのため、ペアを作成できません。
C305	ペア作成要求を受け付けましたが、副サイトのストレージシステムの TrueCopy の使用容量がライセンス容量を超過したためコマンドを拒否しました。関連するプログラムプロダクトも合わせて、ライセンス容量を確認してください。
C30D	副サイトのストレージシステムの該当するボリュームまたは同一グループ内に属する他のボリュームが SMPL、PSUS、または PSUE 状態に移行中です。数分後に再操作してください。
C312	プライマリボリュームが SMPL 状態ではありません。
C313	プライマリボリュームが PSUS または PSUE 状態ではありません。
C314	プライマリボリュームが SMPL 状態ではありません。
C315	プライマリボリュームに PIN データがあります。
C316	プライマリボリュームが障害支援によってドライブコピー中です。
C317	プライマリボリュームが SVP 要求によってドライブコピー中です。
C318	プライマリボリュームがコピータスク終了処理中です。
C319	プライマリボリュームがコレクションコピー中です。
C31A	プライマリボリュームがコレクションアクセス状態です。
C31B	TrueCopy ペア作成または再同期要求を受け付けましたが、指定したプライマリボリュームを構成する物理ボリュームが閉塞しているため、コマンドを拒否しました。
C31C	プライマリボリュームは閉塞しているためアクセスできません。 または、プライマリボリュームが属するプールに、正常な状態でないプールボリュームが含まれているため、ボリュームにアクセスできません。
C31D	プライマリボリュームはフォーマット中です。
C31E	プライマリボリュームは読み取り専用です。
C320	正サイトと副サイトのストレージシステム間のリモートパスの本数が 0 (未設定) です。
C321	正サイトと副サイトのストレージシステム間に設定が必要な最小パス数を満たしていません。
C322	正サイトのストレージシステムの DKC タイプが TrueCopy をサポートしていません。
C324	副サイトのストレージシステムのシーケンス番号が不正です。
C327	プライマリボリュームはリモートコピーできない状態のため、コピーペアを作成できません。
C328	プライマリボリュームとセカンダリボリュームのトラックフォーマットが一致しません。
C32A	セカンダリボリュームが Data Retention Utility によって保護されています。

エラーコード (SSB2)	内容
C32B	プライマリボリュームが Data Retention Utility によって保護されています。
C32C	セカンダリボリュームが Data Retention Utility によって保護されています。
C32D	セカンダリボリュームが Data Retention Utility によって保護されています。
C32E	ペア作成要求を受け付けましたが、指定した副サイトのストレージシステムは未サポート機種のためコマンドを拒否しました。
C32F	TrueCopy ボリュームのシリンダ数が、プライマリボリューム ≤ セカンダリボリュームではありません。
C330	TrueCopy ボリュームの容量が、プライマリボリュームとセカンダリボリュームとで異なるため、ペアを作成または再同期できません。
C332	セカンダリボリュームのキャッシュが無効になっています。
C335	セカンダリボリュームが TrueCopy 非同期のプライマリボリュームです。
C336	セカンダリボリュームに PIN データがあります。
C337	セカンダリボリュームがリザーブ状態です。
C338	次のどれかの理由のため、ペアを作成できません。 - セカンダリボリュームが、介入要求状態、保護状態、または使用不可状態である。 - セカンダリボリュームが、ShadowImage のセカンダリボリュームまたはリザーブボリューム、Volume Migration のリザーブボリューム、または Universal Replicator ペアのボリュームとして設定されている。
C339	セカンダリボリュームは使用できる状態にありません。
C33A	ペア作成要求を受け付けましたが、指定した副サイトのストレージシステムは TrueCopy 未サポート機種のためコマンドを拒否しました。
C33B	該当ボリュームは他のペアのセカンダリボリュームとして使用されているため、セカンダリボリュームに指定できません。
C33C	ペア作成要求を受け付けましたが、指定したセカンダリボリュームは未実装のためコマンドを拒否しました。
C33E	セカンダリボリュームが実装されていないか、または閉塞している (DEV NOT READY 状態) ためペアを作成できません。
C33F	該当ボリュームはすでに TrueCopy ペアが設定されているため、セカンダリボリュームに指定できません。
C35C	プライマリボリュームがアクセス不可です。
C370	パスに障害が発生したか、無効なパスを指定したため、設定が必要な最小パス数を満たしていません。
C371	セカンダリボリュームが Volume Migration コピー後処理中のため、数分後に再実行してください。
C372	プライマリボリュームが Volume Migration コピー後処理中のため、数分後に再実行してください。
C373	ペア作成要求を受け付けましたが、指定したセカンダリボリュームは ShadowImage のリザーブボリュームのためコマンドを拒否しました。
C379	パスに障害が発生したか、無効なパスを指定したため、設定が必要な最小パス数を満たしていません。
C37A	内部エラーが発生しました。
C37B	次のどれかの理由によって、操作は失敗しました。 セカンダリボリュームで入出力エラーが発生した。

エラーコード (SSB2)	内容
	- セカンダリボリュームが使用できる状態にない。 - この機能または構成は、ローカルストレージシステムの DKCMAIN バージョンではサポートされていない。 以下の対処方法を実施してください。 セカンダリボリュームが使用できる状態かどうかを確認してください。使用できる場合は、この機能または構成がローカルストレージシステムの DKCMAIN バージョンでサポートされているかどうかを確認してください。
C37E	セカンダリボリュームのキャッシュが無効になっています。
C380	正サイトのストレージシステムのキャッシュが片面閉塞に移行中です。
C381	正サイトのストレージシステムのキャッシュが回復移行中です。
C382	正サイトのストレージシステムのキャッシュが片面閉塞に移行中か、または片面回復に移行中です。
C388	ペア作成要求を受け付けましたが、指定したボリュームが使用できないエミュレーションタイプのため、コマンドを拒否しました。
C38B	副サイトのストレージシステムがすでに TrueCopy で使用中です。
C38D	セカンダリボリュームは使用できる状態にありません。
C38E	セカンダリボリュームが TrueCopy 未サポートのデバイスです。
C390	セカンダリボリュームが PSUS または PSUE 状態ではありません。
C391	セカンダリボリュームがコピー不可です。
C392	次の状態のボリュームは、セカンダリボリュームとして使用できません。 - すでに TrueCopy で使用されている。 - リザーブ状態にある。 - Universal Replicator で使用されている。
C393	セカンダリボリュームに PIN データがあります。
C395	TrueCopy ペア作成または再同期要求を受け付けましたが、指定したセカンダリボリュームが閉塞、セカンダリボリュームを構成する物理ボリュームが閉塞、またはコレクションアクセスなどのため、コマンドを拒否しました。 または、指定したセカンダリボリュームが属するプールに、正常な状態でないプールボリュームが含まれているため、コマンドを拒否しました。
C398	ペア作成要求を受け付けましたが、指定したボリュームが使用できないエミュレーションタイプのため、コマンドを拒否しました。
C39B	内部エラーが発生しました。
C39E	プライマリボリュームの容量が TrueCopy ペアを作成できるボリューム容量を超過したため、ペア作成ができません。
C39F	セカンダリボリュームの容量が TrueCopy ペアを作成できるボリューム容量を超過したため、ペア作成ができません。
C3A0	プライマリボリュームが TrueCopy 未サポートのデバイスです。
C3A8	プライマリボリュームとセカンダリボリュームのデバイスタイプの組み合わせが正しくありません。
C3AA	副サイトのストレージシステムのキャッシュが片面閉塞しています。
C3AB	副サイトのストレージシステムのキャッシュが片面閉塞しています。
C3AC	副サイトのストレージシステムのコントローラエミュレーションタイプは、TrueCopy をサポートしていません。

エラーコード (SSB2)	内容
C3AD	副サイトのストレージシステムの TrueCopy プログラムプロダクトの使用容量がライセンス容量を超過しました。
C3AE	副サイトのストレージシステムに TrueCopy プログラムプロダクトがインストールされていません。
C3AF	副サイトのストレージシステムの DKC タイプが TrueCopy 未サポートです。
C3B1	設定が必要な最小パス数を満たしていません。
C3B3	内部エラーが発生しました。
C3B5	プライマリボリュームとセカンダリボリュームの構成の組み合わせが不正です。
C3B6	TrueCopy プライマリボリュームが ShadowImage ペアのボリュームです。
C3B7	TrueCopy セカンダリボリュームが ShadowImage ペアのボリュームです。
C3B8	内部エラーが発生しました。
C3B9	指定したセカンダリボリュームの LUN が定義されていません。
C3BC	副サイトのストレージシステムに TrueCopy プログラムプロダクトがインストールされていません。
C3BE	TrueCopy プライマリボリュームには次のボリュームを指定できません。 • PSUS 状態以外の ShadowImage セカンダリボリューム • Reverse Copy 中の ShadowImage プライマリボリューム
C3BF	TrueCopy セカンダリボリュームには ShadowImage セカンダリボリューム、ShadowImage リザーブボリューム、および Reverse Copy 中の ShadowImage プライマリボリュームを指定できません。
C3C7	TrueCopy ペア作成要求を受け付けましたが、指定したボリュームは他の TrueCopy または Universal Replicator ですすでにペア作成されている（ジャーナルボリュームを含む）ためコマンドを拒否しました。
C3CA	セカンダリボリュームがリザーブされているか、副サイトのストレージシステム、セカンダリボリューム、または正サイトと副サイトのストレージシステム間のパスがビジー状態です。
C3CD	TrueCopy セカンダリボリュームが ShadowImage ペアボリュームです。
C3D2	副サイトのストレージシステムの DKC タイプが TrueCopy 未サポートです。
C3D4	プライマリボリュームは Volume Migration で使用中のため、ペアを作成できません。
C3D6	指定したセカンダリボリュームは接続ポートから認識できないデバイスのため使用できません。
C3D7	副サイトのストレージシステムのセカンダリボリュームの状態が不正です。
C3D8	指定したセカンダリボリュームはシステムディスクのため、ペアを作成できません。
C3D9	TrueCopy プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが次のどれかに該当する場合、ペアを操作できません。 • Dynamic Provisioning ボリュームであり、かつ ShadowImage ペア、Thin Image ペア、または Volume Migration のリザーブボリュームを使用したペアを組んでいる場合 • Dynamic Provisioning ボリュームであり、かつ容量拡張中またはページを解放中の場合 • プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が異なる場合 • ShadowImage によって初期化中の場合
C3DB	セカンダリボリュームの状態が PSUS または PSUE ではありません。
C4DE	正サイトと副サイトのストレージシステム間のリモートパスが有効でないため、ペアを作成できません。

エラーコード (SSB2)	内容
C4FC	副サイトのストレージシステムには、指定された操作に必要なシェアドメモリが実装されていません。
CB12	このコンシステンシーグループには TrueCopy および Universal Replicator を混在させられません。
CB19	horctakeover コマンドによるプライマリボリュームとセカンダリボリュームの反転に失敗したため、副サイトのストレージシステムのコンシステンシーグループを削除できません。
CB1A	horctakeover コマンドによるプライマリボリュームとセカンダリボリュームの反転に失敗したため、副サイトのストレージシステムのコンシステンシーグループ削除が異常終了しました。
CB1D	セカンダリボリュームにダミーボリュームを作成できません。
CB1F	副サイトのストレージシステムが TrueCopy 未サポートです。
CB20	機能ビット参照時に、システム情報参照関数が異常終了しました。
CB21	ペア再同期で全差分設定が異常終了しました。
CB23	内部エラーが発生しました。
CB5D	ペア作成要求を受け付けましたが、旧機種と接続しているため、指定したプライマリボリュームがサポート範囲外となりコマンドを拒否しました。
CB60	副サイトのストレージシステムに TrueCopy がインストールされていません。
CB66	次のどちらかの理由で差分ビットマップエリアを確保できないため、 TrueCopy ペアを作成または再同期できません。 - 副サイトのストレージシステムで、シェアドメモリの空き領域が不足している。 - セカンダリボリュームとして指定したボリュームの、Dynamic Provisioning のプールの空き容量が不足している。
CB67	副サイトのストレージシステムに増設シェアドメモリが実装されていません。
CB68	正サイトのストレージシステムでシェアドメモリの空き領域が不足して、差分ビットマップエリアを確保できないため、 TrueCopy ペアを作成または再同期できません。
CB69	同一のコンシステンシーグループ内で作成できるペア数を超えているため、ペアを作成できません。
CB6E	プライマリボリュームが他社機種のボリュームのためペアを作成できません。
CB71	プライマリボリュームが他社機種のマイグレーションボリュームのためペアを作成できません。
CB73	セカンダリボリュームが他社機種のマイグレーションボリュームのためペアを作成できません。
CB75	装置識別が正しくありません。
CB76	パスを装置単位で設定しているためペアを作成できません。
CB77	副サイトのストレージシステムで Data Retention Utility プログラムプロダクトの使用容量がライセンス容量を超過しています。
CB78	指定したセカンダリボリュームはコマンドデバイスとして定義されているためペアを作成できません。
CB7E	ペア作成要求を受け付けましたが、指定したセカンダリボリュームが属する CLPR とすでに登録されているコンシステンシーグループの CLPR が異なるためコマンドを拒否しました。
CB9E	ペア作成要求を受け付けましたが、副サイトのストレージシステムで次に示す要因でコマンドを拒否しました。 コンシステンシーグループ定義機能が未サポート

エラーコード (SSB2)	内容
	複数の正サイトと副サイトのストレージシステムで構成されるコンシステンシーグループ定義機能が未サポート
CBD7	ストレージシステムが内部処理中です。再度操作してください。
CBD8	指定したプライマリボリュームは、次のどちらかに該当するため、ペアを作成できません。 - Universal Replicator で使用しているジャーナルボリューム - サスペンド状態以外の Universal Replicator のセカンダリボリューム
CBDA	副サイトのストレージシステムで Data Retention Utility プログラムプロダクトの使用容量がライセンス容量を超えたため、ペアを作成できません。
CBDC	TrueCopy-Universal Replicator 連携時、TrueCopy ペア作成要求を受け付けましたが、Universal Replicator のミラー ID が 0 のためコマンドを拒否しました。
CBDD	TrueCopy-Universal Replicator のマルチターゲットを構成時、TrueCopy ペア作成要求を受け付けましたが、Universal Replicator ペアがコピー中のためコマンドを拒否しました。
CBDE	プライマリボリュームが、Thin Image で使用されているため、ペアの操作に失敗しました。
CBDF	セカンダリボリュームが、Thin Image で使用されているため、ペアの操作に失敗しました。
CBE0	プライマリボリュームが、Thin Image (CAW/CoW)の仮想ボリュームのため、ペアを作成できません。
CBE1	セカンダリボリュームが、Thin Image (CAW/CoW)の仮想ボリュームのため、ペアを作成できません。
CBE2	プライマリボリュームが Dynamic Provisioning または Thin Image (CAW/CoW)のプールボリュームのため、ペアを作成できません。
CBE3	セカンダリボリュームが Dynamic Provisioning または Thin Image (CAW/CoW)のプールボリュームのため、ペアを作成できません。
CBE7	1 つのストレージシステム内に 65,280 以上ペアを作成できません。
CBEB	指定したプライマリボリュームは Volume Shredder によってシュレッディング中のため、ペアを作成できません。
CBEC	指定したセカンダリボリュームは Volume Shredder によってシュレッディング中のため、ペアを作成できません。
CBED	TrueCopy ペア作成要求を受け付けましたが、次のどれかの理由でコマンドを拒否しました。 - 指定したセカンダリボリュームは Universal Replicator のセカンダリボリュームである - 指定したセカンダリボリュームは Universal Replicator のジャーナルボリュームである - 指定したセカンダリボリュームを使用して 2DC または 3DC 構成を作成しようとしたが、構成内に 2DC または 3DC 構成をサポートしていないストレージシステムが含まれている
CBEE	ペア作成要求を受け付けましたが、指定したプライマリボリュームは次に示す用途のどちらかで、すでにペアが作成されているためコマンドを拒否しました。 - Universal Replicator での差分リシンク用 3 つの Universal Replicator サイトによる、3DC マルチターゲット構成での正サイト用
CBF3	指定したプライマリボリュームが次のどちらかの状態であるため、ペア形成を拒否しました。 - オンラインでのデータ移行用にマッピングされた外部ボリュームである - データダイレクトマップ属性が有効に設定された外部ボリュームである
CBF7	指定したプライマリボリュームを使用して 2DC または 3DC 構成を作成しようとしたが、構成内に 2DC または 3DC 構成をサポートしていないストレージシステムが含まれているため、ペアを作成できません。

エラーコード (SSB2)	内容
CBF8	TrueCopy ペア作成要求を受け付けましたが、次のどちらかの原因でコマンドを拒否しました。 - 正サイトまたは副サイトのストレージシステムは、リモートストレージシステムとの接続をサポートしていないファームウェアバージョンである。 - 正サイトまたは副サイトのストレージシステムは、リモートストレージシステムとの接続をサポートしていない機種である。
CBFC	指定したコンシステンシーグループ ID はサポート範囲を超えているため、ペアを作成できません。
CBFF	正サイトと副サイトのストレージシステム間のリモートパスが有効でないため、ペアを作成できません。
FD01	セカンダリデータボリュームとして指定したボリュームは、仮想 LDEV ID が設定されていないため、ペアを作成できません。
FD02	プライマリデータボリュームとして指定したボリュームは、仮想 LDEV ID が設定されていないため、ペアを作成できません。
FD03	指定した仮想情報と副サイトのストレージシステムに登録されている仮想情報が不一致のため、ペアを作成できません。
FD04	指定した副サイトのストレージシステムは、global storage virtualization をサポートしていません。
FD05	指定した正サイトのストレージシステムは、global storage virtualization をサポートしていません。
FD07	プライマリボリュームとして指定したボリュームは、GAD ペアで使用しているボリュームのため、ペアを作成できません。
FD08	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは、GAD ペアで使用しているボリュームのため、ペアを作成できません。
FD09	プライマリボリュームとして指定したボリュームが GAD 予約ボリュームのため、ペアを作成できません。
FD0A	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが GAD 予約ボリュームのため、ペアを作成できません。
FD0B	指定したプライマリボリュームの内部処理に時間が掛かっています。しばらく時間が経ってから再度実行してください。
FD0C	次のどちらかの原因で差分ビットマップエリアを確保できないため、TrueCopy ペアを作成または再同期できません。 - 正サイトのストレージシステムで、シェアドメモリの空き領域が不足している。 - プライマリボリュームとして指定したボリュームの、Dynamic Provisioning のプールの空き容量が不足している。
FD0E	指定したセカンダリボリュームの内部処理に時間が掛かっています。しばらく時間が経ってから再度実行してください。
FD0F	指定したプライマリボリュームがデータダイレクトマップ属性が有効になっており、かつ R-DKC の 4TB を超える容量の外部ボリュームをマッピングする機能がサポートされていないため、ペアの形成を拒否しました。
FD10	TrueCopy ペアの操作に失敗しました。プライマリボリュームの T10 PI 属性の設定と、セカンダリボリュームの T10 PI 属性の設定が異なります。
FD21	プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームに指定した LDEV は、NVM サブシステムの Namespace として定義されているため、ペア操作が失敗しました。

エラーコード (SSB2)	内容
FD22	TrueCopy のプライマリボリュームとセカンダリボリュームについて、ホスト接続設定 (LUN パスまたは FC-NVMe の Namespace) が異なっているため、ペア形成が失敗しました。
FD23	TrueCopy のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームに FC-NVMe の Namespace が設定されているため、Universal Replicator ペアと連携する TrueCopy ペアの作成が失敗しました。 装置構成を見直して、次のどちらかの状態にしてから再操作してください。 - Namespace 定義されたボリュームで、TrueCopy ペアを作成したい場合、または 3DC 構成を作成したい場合は、ローカルストレージシステムと相手ストレージシステムの組み合わせがサポートされているか、また、ファームウェアバージョンがサポートされているか確認してください。 サポートされているストレージシステムの組み合わせ同士で接続し直し、サポートされているファームウェアバージョンにした状態で再度ペア操作をしてください。 - 誤って Namespace 定義をしている場合は、LUN パス定義同士に変更してから再度ペア操作をしてください。
FD25	TrueCopy のプライマリボリュームとセカンダリボリュームに、FC-NVMe の Namespace が設定されていますが、このストレージシステムの組み合わせは未サポート構成のため、ペア作成が失敗しました。 装置構成を見直して、次のどちらかの状態にしてから再操作してください。 - Namespace 定義されたボリュームで、TrueCopy ペアを作成したい場合、または 3DC 構成を作成したい場合は、ローカルストレージシステムと相手ストレージシステムの組み合わせがサポートされているか、また、ファームウェアバージョンがサポートされているか確認してください。 サポートされているストレージシステムの組み合わせ同士で接続し直し、サポートされているファームウェアバージョンにした状態で再度ペア操作をしてください。 - 誤って Namespace 定義をしている場合は、LUN パス定義同士に変更してから再度ペア操作をしてください。
FD26	TrueCopy ペアの操作に失敗しました。VSP One SDS Block のボリュームと、本ストレージシステムのボリュームで構成される UR ペアは、TrueCopy ペアと併用できません。

RAID Manager 操作時のエラーコードと内容 (SSB1 が B912) を次の表に示します。

エラーコード (SSB2)	内容
B96D	ボリュームの状態が SMPL であるためコマンドを拒否しました。

RAID Manager 操作時のエラーコードと内容 (SSB1 が B90B) を次の表に示します。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
B9E0	ペアの強制削除はサポートしていないため、コマンドを拒否しました。

10.4 TrueCopy ボリュームのピントラック回復手順

ピントラックを回復しながらペアのデータ整合性を全面的に確保するには、次の手順に従ってください。

操作手順

1. ピントラックのボリュームを含む TrueCopy ペアの正サイトのストレージシステムに接続します。
2. ピントラックのボリュームを含む TrueCopy ペアを削除します。
3. 通常の手順で、ピントラックからデータを回復します。
使用している OS のピントラック回復手順を使用するか、お問い合わせください。
4. [TC ペア作成] 画面を使って、ペアを再同期します。このとき、[形成コピータイプ] では [全てコピー] を選択してください。

10.5 お問い合わせ先

- 保守契約をされているお客様は、以下の連絡先にお問い合わせください。
日立サポートサービス：<http://www.hitachi-support.com/>
- 保守契約をされていないお客様は、担当営業窓口にお問い合わせください。

RAID Manager コマンドリファレンス

RAID Manager を使用するに当たっての参考情報を示します。

- [A.1 Storage Navigator のアクション名と RAID Manager コマンドの対応表](#)
- [A.2 RAID Manager のオプションのパラメータの設定範囲](#)

A.1 Storage Navigator のアクション名と RAID Manager コマンドの対応表

Storage Navigator のアクション名に対応する RAID Manager コマンドを次の表に示します。
RAID Manager コマンドの詳細については、『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

表 5 Storage Navigator のアクション名に対応する RAID Manager コマンド（構成操作）

アクション名	オプション	Storage Navigator からの操作	RAID Manager	
			コマンド名	対応するオプションなど
リモート接続追加	リモートストレージシステム	○※	raidcom add rcu	-rcu <serial#> <mcu#> <rcu#> <id>
	リモートパス	○※	raidcom add rcu	-cu_free <serial#> <id> <pid>
	RIO MIH 時間	○※	raidcom modify rcu	-rcu_option <mpth> <rto> <rtt>[fzd fze]
リモートレプリカオプション編集	コピータイプ	○	なし	
	最大形成コピー数	○	raidcom modify remote_replica_opt	-copy_activity
	パス閉塞監視	○	raidcom modify remote_replica_opt	なし

（凡例）

○：操作できる。

注※

VSP E590 または VSP E790 と、次のストレージシステムを相互に接続する構成では、VSP E590 および VSP E790 を除いて、Storage Navigator でリモートパス操作をできません。RAID Manager で操作してください。

- VSP G150, G350, G370, G700, G900 または VSP F350, F370, F700, F900（88-08-01-XX/XX 未満）
- VSP E990（93-04-01-XX/XX 未満）

次のストレージシステムを相互に接続する構成では、VSP 5000 シリーズの Storage Navigator からリモートパス操作ができません。RAID Manager を使用してください。

- VSP E1090 と VSP 5000 シリーズ

表 6 Storage Navigator のアクション名に対応する RAID Manager コマンド（コンシステンシーグループ操作）

アクション名	Storage Navigator からの操作	RAID Manager	
		コマンド名	対応するオプションなど
コンシステンシーグループを予約する	×	paircreate	-f[g] <fence>[CTG ID]
コンシステンシーグループにペアを追加	×	paircreate	-f[g] <fence>[CTG ID]
コンシステンシーグループ指定ペア分割（時刻指定なし）	×	pairsplit	-S※
コンシステンシーグループ単位でペア再同期	×	pairresync	-f[g] <fence>[CTG ID]
コンシステンシーグループ単位でペア削除	×	pairsplit	-S

（凡例）

×：操作できない。

注※

同時にペア解除したいボリュームは、あらかじめ同じコンシステンシーグループにしておく必要があります。

表 7 Storage Navigator のアクション名に対応する RAID Manager コマンド（ペア操作）

アクション名	オプション	Storage Navigator からの操作	RAID Manager	
			コマンド名	対応するオプションなど
TC ペア作成	コピータイプ	○※	paircreate	なし
	LU 選択	○※	paircreate	なし
	CTG ID	○※	paircreate	-f[g] <fence> [CTG ID]
	形成コピータイプ	○※	paircreate	[-nocopy]
	形成コピー優先度	○※	paircreate	なし
ペア分割	セカンダリボリューム書き込み	○	pairsplit	-rw
ペア再同期	なし	○	pairresync	なし
ペア削除	なし	○	pairsplit	-S

（凡例）

○：操作できる。

×：操作できない。

注※

FC-NVMe でホストに接続されているボリュームを使用する場合は、Storage Navigator でペア作成できません。RAID Manager で操作してください。

表 8 Storage Navigator のアクション名に対応する RAID Manager コマンド（状態表示操作）

アクション名	オプション	Storage Navigator からの操作	RAID Manager	
			コマンド名	対応するオプションなど
ペアプロパティ参照	なし	○	pairdisplay	-m <mode>
ペア一致率参照	なし	○	pairdisplay	-m <mode>
リモート接続プロパティ参照	なし	○	pairdisplay	-m <mode>

（凡例）

○：操作できる。

表 9 Storage Navigator のアクション名に対応する RAID Manager コマンド（ペアの保守操作）

アクション名	オプション	Storage Navigator からの操作	RAID Manager	
			コマンド名	対応するオプションなど
ペアオプション編集	なし	○	pairresync	なし
リモート接続オプション編集	RIO MIH 時間	○※	raidcom modify rcu	-rcu_option
リモートパス追加	なし	○※	raidcom add rcu_path	なし
リモートパス削除	なし	○※	raidcom delete rcu_path	なし
リモート接続削除	なし	○※	raidcom delete rcu	なし

（凡例）

○：操作できる。

注※

VSP E590 または VSP E790 と、次のストレージシステムを相互に接続する構成では、VSP E590 および VSP E790 を除いて、Storage Navigator でリモートパス操作をできません。RAID Manager で操作してください。

- VSP G150, G350, G370, G700, G900 または VSP F350, F370, F700, F900（88-08-01-XX/XX 未満）
- VSP E990（93-04-01-XX/XX 未満）

次のストレージシステムを相互に接続する構成では、VSP 5000 シリーズの Storage Navigator からリモートパス操作ができません。RAID Manager を使用してください。

- VSP E1090 と VSP 5000 シリーズ

A.2 RAID Manager のオプションのパラメータの設定範囲

RAID Manager のオプションのパラメータで設定できる範囲を次の表に示します。コマンドの詳細については『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

パラメータの内容	設定範囲
ミラー ID (MU#)	0
CTG ID	• VSP G150 の場合 : 0～31 • VSP G350、VSP F350、VSP G370、VSP F370、VSP G700、および VSP F700 の場合 : 0～127 • VSP G900 および VSP F900 の場合 : 0～255 • VSP E390、VSP E590、および VSP E790 の場合 : 0～127 • VSP E990 および VSP E1090 の場合 : 0～255
パスグループ ID	0～255

TrueCopy GUI リファレンス

ここでは、TrueCopy の操作に必要な画面について説明します。

- B.1 [レプリケーション] 画面
- B.2 [リモートレプリケーション] 画面
- B.3 [リモート接続] 画面
- B.4 [ペア一致率参照] 画面
- B.5 [ペアプロパティ参照] 画面
- B.6 [リモート接続プロパティ参照] 画面
- B.7 [操作履歴] 画面
- B.8 リモート接続追加ウィザード
- B.9 リモートレプリカオプション編集ウィザード
- B.10 ペア作成ウィザード
- B.11 ペア分割ウィザード
- B.12 ペア再同期ウィザード
- B.13 ペア削除ウィザード
- B.14 ペアオプション編集ウィザード
- B.15 リモートパス追加ウィザード
- B.16 リモートパス削除ウィザード
- B.17 リモート接続オプション編集ウィザード

- B.18 [リモート接続削除] 画面
- B.19 [ペア強制削除(TC ペア)] 画面

B.1 [レプリケーション] 画面

レプリケーション 最終更新日時: 2017/09/15 13:52

VSP Gx00 and VSP Fx00(S/N:402004) > レプリケーション

操作履歴参照

オプション編集

ローカルレプリケーション	ライセンス容量 (使用量/ライセンス容量)	リモートレプリケーション	ライセンス容量 (使用量/ライセンス容量)
SI	0.00 MB / 500.00 TB	TC	0.00 MB / 500.00 TB
TI	0.00 MB / 500.00 TB	UR	0.00 MB / 500.00 TB
		GAD	0.00 MB / 500.00 TB
レプリカLDEV数			128
差分テーブル数			0 (最大: 0)

レプリカLDEV

テーブル情報出力 合計: 128

全フィルタ

ON

OFF

カラム設定

オプション

1 / 1

LDEV ID	LDEV 名	容量	コピータイプ					
			SI-L1	SI-L2	TI	TC	UR	GAD
00:A0:00	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:01	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:02	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:03	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:04	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:05	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:06	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:07	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:08	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:09	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:0A	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:0B	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:0C	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:0D	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:0E	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:0F	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:10	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:11	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:12	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:13	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:14	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:15	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:16	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-
00:A0:17	TC-...	10.00 GB	-	-	-	プライマリ	-	-

- サマリ
- [レプリカ LDEV] タブ

サマリ

- ボタン

項目	説明
操作履歴参照 - ローカルレプリケーション	ローカルレプリケーションの [操作履歴] 画面が表示されます。
操作履歴参照 - リモートレプリケーション	リモートレプリケーションの [操作履歴] 画面が表示されます。
オプション編集 - ローカルレプリケーション	[ローカルレプリカオプション編集] 画面が表示されます。
オプション編集 - リモートレプリケーション	[リモートレプリカオプション編集] 画面が表示されます。

- テーブル

項目	説明
ライセンス容量	使用量とライセンス容量がプログラムプロダクトごとに表示されます。
レプリカ LDEV 数	レプリケーションで使用している LDEV の数が表示されます。
差分テーブル数	ローカルレプリケーションで使用中の差分テーブル数および最大数を表示します。 リモートレプリケーションで使用中の差分テーブル数は含まれません。 また、次に示す操作では、差分テーブルは使用されません。したがって、これらの操作を実行しても差分テーブル数は増減しません。 4TB を超える DP-VOL に対する ShadowImage のペア操作 - Thin Image のペア操作

【レプリカ LDEV】タブ

各ユーザにプライマリボリュームおよび/またはセカンダリボリュームが割り当てられているペアだけ表示されます。

- ボタン

項目	説明
テーブル情報出力	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

- テーブル

項目	説明
LDEV ID	LDEV ID が表示されます。LDEV ID をクリックすると、[LDEV プロパティ] 画面が表示されます。
LDEV 名	LDEV 名が表示されます。
容量	LDEV の容量が表示されます。
コピータイプ	LDEV が使用されているコピーとボリュームの種類が表示されます。 コピーの種類 [SI-L1] : ShadowImage の L1 ペア [SI-L2] : ShadowImage の L2 ペア [TI] : Thin Image ペア [TC] : TrueCopy ペア [UR] : Universal Replicator ペア [GAD] : global-active device ペア ボリュームの種類 [プライマリ] : プライマリボリューム [セカンダリ] : セカンダリボリューム ペアが設定されていない場合は、[-] が表示されます。
仮想ストレージマシン※	LDEV が属する仮想ストレージマシンに関する情報が表示されます。 [モデル/シリアル番号] : ボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 [LDEV ID] : ボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。仮想 LDEV ID が割り当てられていない場合は、空白が表示されます。 [デバイス名] : ボリュームの仮想デバイス名が表示されます。仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミ

項目	説明
	ュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 ・ [SSID]: ボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。

注※

この項目は、初期状態では表示されません。項目を表示する場合は、[カラム設定] 画面で設定を変更してください。[カラム設定] 画面の詳細については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

関連概念

- ・ [7.1.5 TrueCopy のライセンス容量を確認する](#)

B.2 [リモートレプリケーション] 画面

リモートレプリケーション

VSP E series(S/N:7000001) > レプリケーション > リモートレプリケーション

ペア数	TrueCopy	4
	Universal Replicator	4
	Global-Active Device	0
	合計	8
ミラー数		8

TCペア URペア ミラー GADペア GADコンシステンシーグループ

TCペア作成 ペア分割 ペア再同期 他のタスク

選択数: 0 / 4

ローカルホストシステム	リモートホストシステム
LDEV ID	モデル / シリアル番号
00:F0:00	VSP E series, VSP Fx00 and VSP Gx00 /
00:F0:01	VSP E series, VSP Fx00 and VSP Gx00 /
00:FE:FD	VSP E series, VSP Fx00 and VSP Gx00 /
00:FE:FF	VSP E series, VSP Fx00 and VSP Gx00 /

- ・ サマリ
- ・ [TC ペア] タブ
- ・ [UR ペア] タブ
- ・ [ミラー] タブ

- [GAD ペア] タブ
- [GAD コンシステンシーグループ] タブ

サマリ

項目	説明
ペア数	プログラムプロダクトごとペアの数が表示されます。 [合計] には、ペアの合計が表示されます。
ミラー数	ミラーの数が表示されます。

[TC ペア] タブ

各ユーザに、ローカルストレージシステムのボリュームが割り当てられているペアだけ表示されます。

- ボタン

項目	説明
TC ペア作成	[TC ペア作成] 画面が表示されます。
ペア分割	[ペア分割] 画面が表示されます。
ペア再同期	[ペア再同期] 画面が表示されます。
ペアー致率参照※	[ペアー致率参照] 画面が表示されます。
ペアプロパティ参照※	[ペアプロパティ参照] 画面が表示されます。
リモート接続プロパティ参照※	[リモート接続プロパティ参照] 画面が表示されます。 [ペア位置] が [プライマリ] の場合だけ、画面が表示されます。
ペアオプション編集※	[ペアオプション編集] 画面が表示されます。
ペア削除※	[ペア削除] 画面が表示されます。
テーブル情報出力※	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

注※

[他のタスク] をクリックすると表示されます。

- テーブル

項目	説明
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムのボリュームに関する情報が表示されます。 • [LDEV ID] : ボリュームの LDEV ID が表示されます。LDEV ID をクリックすると、[LDEV プロパティ] 画面が表示されます。 • [LDEV 名] : ボリュームの LDEV 名が表示されます。 • [ポート名] : ボリュームのポート名が表示されます。 • [ホストグループ名/iSCSI ターゲットエイリアス] : ボリュームのホストグループ名または iSCSI ターゲットエイリアスが表示されます。 • [iSCSI ターゲット名] : ボリュームの iSCSI ターゲット名が表示されます。 • [LUN ID] : ボリュームの LUN ID が表示されます。 FC-NVMe でホストに接続されたボリュームの場合は、[－] が表示されます。

項目	説明
	• [Namespace ID] ※2: ボリュームの Namespace ID が表示されます。ファイバチャネルまたは iSCSI でホストに接続されたボリュームの場合は、[ー] が表示されます。 • [ペア位置]: ボリュームが、ペアのプライマリボリュームかセカンダリボリュームであるかが表示されます。 • [プロビジョニングタイプ] ※1: ボリュームのプロビジョニングタイプが表示されます。 • [属性] ※1: LDEV の属性が表示されます。 • [容量] ※1: ボリュームの容量が表示されます。 • [CLPR] ※1: ボリュームの CLPR ID が表示されます。 • [暗号化] ※1: 暗号化の情報が表示されます。 ◦ [有効]: LDEV の属するパリティグループの暗号化設定が有効です。または、暗号化設定が有効なプールボリュームのプールに関連付けられた仮想ボリュームです。 ◦ [無効]: LDEV の属するパリティグループの暗号化設定が無効です。または、暗号化設定が無効なプールボリュームのプールに関連付けられた仮想ボリュームです。 ◦ [混在]: LDEV の属するプールに次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 • 暗号化が有効なボリューム • 暗号化が無効なボリューム • 外部ボリューム 注意: 混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ◦ [ー]: 外部ボリュームまたはマイグレーションボリュームです。Dynamic Provisioning の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。 • [容量削減] ※1: 容量削減機能の情報が表示されます。 ◦ [圧縮]: 圧縮機能を使用します。 ◦ [重複排除および圧縮]: 重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ◦ [無効]: 容量削減機能を使用しません。 • [圧縮アクセラレータ] ※1、※2: 圧縮アクセラレータの設定が表示されます。 ◦ [有効]: 圧縮アクセラレータの設定が有効です。 ◦ [無効]: 圧縮アクセラレータの設定が無効です。 ◦ [ー]: 圧縮アクセラレータが設定できない LDEV です。または、圧縮アクセラレータが設定できる LDEV で、容量削減が [無効] かつ、容量削減状態が [Disabled] の状態です。 • [T10 PI] ※1: ボリュームの T10 PI 属性の情報が表示されます。 ◦ [有効]: ボリュームの T10 PI 属性が有効になっています。 ◦ [無効]: ボリュームの T10 PI 属性が無効になっています。 • [仮想ストレージマシン] ※1: ボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 • [仮想 LDEV ID] ※1: ボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。仮想 LDEV ID が割り当てられていない場合は、空白が表示されます。 • [仮想デバイス名] ※1: ボリュームの仮想デバイス名が表示されます。

項目	説明
	仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 ・ [仮想 SSID] ※1: ボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。
状態	ペアの状態が表示されます。 Storage Navigator の画面では、ペア状態は「Storage Navigator でのペア状態/RAID Manager でのペア状態」という形式で表示されます。Storage Navigator でのペア状態と RAID Manager でのペア状態が同じ場合は、RAID Manager でのペア状態は表示されません。 TrueCopy のペア状態については、「7.1.2 TrueCopy ペア状態の定義」を参照してください。
処理状態※1	ペアの処理状態が表示されます。 ・ [Expanding]: TrueCopy のペアボリュームの容量を拡張中です。容量拡張中ではない場合、または Dynamic Provisioning の仮想ボリューム以外をペアボリュームとして使用している場合は、空白が表示されます。
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [モデル/シリアル番号]: リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [LDEV ID]: ボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [ポート名]: ボリュームのポート名が表示されます。ペア作成時に LDEV ID を特定するための情報であり、接続先でパス設定を変更してもこの情報は更新されません。 ・ [ホストグループ ID/iSCSI ターゲット ID]: ボリュームのホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID が表示されます。ペア作成時に LDEV ID を特定するための情報であり、接続先でパス設定を変更してもこの情報は更新されません。 ・ [LUN ID]: ボリュームの LUN ID が表示されます。ペア作成時に LDEV ID を特定するための情報であり、接続先でパス設定を変更してもこの情報は更新されません。 FC-NVMe でホストに接続されたボリュームの場合は、[－] が表示されます。 ・ [Namespace ID] ※2: ボリュームの Namespace ID が表示されます。ペア作成時に LDEV ID を特定するための情報であり、接続先でパス設定を変更しても、この情報は更新されません。 ファイバチャネルまたは iSCSI でホストに接続されたボリュームの場合は、[－] が表示されます。 ・ [仮想ストレージマシン] ※1: ボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [仮想 LDEV ID] ※1: ボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。
パスグループ ID	パスグループ ID が表示されます。
更新タイプ※1	更新タイプが表示されます。 ・ [同期]: コンシステンシーグループに割り当てられていない TrueCopy ペアです。

項目	説明
	・ [同期(CTG 指定)] : コンシステンシーグループを指定して作成した TrueCopy ペアです。
CTG ID※1	コンシステンシーグループ ID が表示されます。
CTG 利用※1	複数のローカルストレージシステムおよびリモートストレージシステムがコンシステンシーグループを共有しているかどうかが表示されます。 ・ [Single] : 1 組のストレージシステムで構成されているコンシステンシーグループです。 ・ [Multi] : 複数組のストレージシステムで構成されているコンシステンシーグループです。
フェンスレベル※1	フェンスレベルが表示されます。 フェンスレベルの詳細については、「6.4.1 TrueCopy のフェンスレベルとは」を参照してください。

注※1

この項目は、初期状態では表示されません。項目を表示する場合は、[カラム設定] 画面で設定を変更してください。[カラム設定] 画面の詳細については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

注※2

VSP E1090 のみ表示されます。

[UR ペア] タブ

リモートレプリケーション

最終更新日時: 2022/04/21 00:53

VSP E series(S/N:7000001) > レプリケーション > リモートレプリケーション

ペア数

TrueCopy
Universal Replicator
Global-Active Device
合計

4
4
0
8
8

ミラー数

8

TCペアURペアミラーGADペアGADコンシステンシーグループ

URペア作成

ペア分割

ペア再同期

他のタスク

遠征数: 0 / 4

全ページONOFF

全ページ選択

カラム設定

オプション

1 / 1

ローカルストレージシステム

リモートストレージシステム

LDEV ID

LDEV名

ポート名

ホストグループ名 / iSCSIターゲットエイリアス

iSCSIターゲット名

LUN ID

Hamerspace ID

ペア位置

ジャーナルID

ミラーID

状態

モデル / シリアル番号

☐

00:55:54

-

-

-

-

2048

セカンダリ

001

0

PAIR

VSP E series, VSP Fx00 and VSP

☐

00:55:55

-

-

-

-

2

プライマリ

000

0

PAIR

VSP E series, VSP Fx00 and VSP

☐

00:72:76

CL1-A

1A-G00 (00)

-

0

-

セカンダリ

001

0

PAIR

VSP E series, VSP Fx00 and VSP

☐

00:72:77

CL1-A

1A-G00 (00)

-

1

-

プライマリ

000

0

PAIR

VSP E series, VSP Fx00 and VSP

各ユーザに、ローカルストレージシステムのボリュームが割り当てられているペアだけ表示されます。

- ・ ボタン

項目	説明
UR ペア作成	[UR ペア作成] 画面が表示されます。
ペア分割	[ペア分割] 画面が表示されます。
ペア再同期	[ペア再同期] 画面が表示されます。
ペアー致率参照※	[ペアー致率参照] 画面が表示されます。
ペアプロパティ参照※	[ペアプロパティ参照] 画面が表示されます。
リモート接続プロパティ参照※	[リモート接続プロパティ参照] 画面が表示されます。 [ペア位置] が [プライマリ] の場合だけ、画面が表示されます。
ペアオプション編集※	[ペアオプション編集] 画面が表示されます。
ペア削除※	[ペア削除] 画面が表示されます。
ミラー分割※	[ミラー分割] 画面が表示されます。
ミラー再同期※	[ミラー再同期] 画面が表示されます。
ミラー削除※	[ミラー削除] 画面が表示されます。
テーブル情報出力※	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

注※

[他のタスク] をクリックすると表示されます。

- テーブル

項目	説明
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムのボリュームに関する情報が表示されます。 • [LDEV ID] : ボリュームの LDEV ID が表示されます。LDEV ID をクリックすると、[LDEV プロパティ] 画面が表示されます。 • [LDEV 名] : ボリュームの LDEV 名が表示されます。 • [ポート名] : ボリュームのポート名が表示されます。 • [ホストグループ名/iSCSI ターゲットエイリアス] : ボリュームのホストグループ名または iSCSI ターゲットエイリアスが表示されます。 • [iSCSI ターゲット名] : ボリュームの iSCSI ターゲット名が表示されます。 • [LUN ID] : ボリュームの LUN ID が表示されます。 FC-NVMe でホストに接続されたボリュームの場合、[－] が表示されます。 • [Namespace ID] ※2 : ボリュームの Namespace ID が表示されます。 ファイバチャネルまたは iSCSI でホストに接続されたボリュームの場合は、[－] が表示されます。 • [ペア位置] : ボリュームが、ペアのプライマリボリュームかセカンダリボリュームであるかが表示されます。 • [ジャーナル ID] : ジャーナル ID が表示されます。 • [ミラー ID] : ミラー ID が表示されます。 • [SLU ID] : SLU 属性の LDEV の場合は、SLU ID が表示されます。SLU 属性の LDEV でない場合は、[－] が表示されます。SLU ID が設定されていない場合は、[?] が表示されます。 • [プロビジョニングタイプ] ※1 : ボリュームのプロビジョニングタイプが表示されます。

項目	説明
	・ [属性] ※1: LDEV の属性が表示されます。 ・ [容量] ※1: ボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR] ※1: ボリュームの CLPR ID が表示されます。 ・ [暗号化] ※1: 暗号化の情報が表示されます。 ◦ [有効]: LDEV の属するパリティグループの暗号化設定が有効です。または、暗号化設定が有効なプールボリュームのプールに関連付けられた仮想ボリュームです。 ◦ [無効]: LDEV の属するパリティグループの暗号化設定が無効です。または、暗号化設定が無効なプールボリュームのプールに関連付けられた仮想ボリュームです。 ◦ [混在]: LDEV の属するプールに次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 ・ 暗号化が有効なボリューム ・ 暗号化が無効なボリューム ・ 外部ボリューム 注意: 混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ◦ [ー]: 外部ボリュームまたはマイグレーションボリュームです。Dynamic Provisioning の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。 ・ [ジャーナル暗号化] ※1: ジャーナルの暗号化状態が表示されます。 ◦ [有効]: 暗号化ボリュームで作成されたジャーナルです。 ◦ [無効]: 非暗号化ボリュームで作成されたジャーナルです。 ◦ [混在]: ジャーナルボリュームの属するプールに次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 ・ 暗号化が有効なボリューム ・ 暗号化が無効なボリューム ・ 外部ボリューム 注意: 混在している状態のジャーナルではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] のジャーナルを使用してください。 ◦ [ー]: ジャーナルボリュームが属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。 ・ [容量削減] ※1: 容量削減機能の情報が表示されます。 ◦ [圧縮]: 圧縮機能を使用します。 ◦ [重複排除および圧縮]: 重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ◦ [無効]: 容量削減機能を使用しません。 ・ [圧縮アクセラレータ] ※1、※2: 圧縮アクセラレータの設定が表示されます。 ◦ [有効]: 圧縮アクセラレータの設定が有効です。 ◦ [無効]: 圧縮アクセラレータの設定が無効です。 ◦ [ー]: 圧縮アクセラレータが設定できない LDEV です。または、圧縮アクセラレータが設定できる LDEV で、容量削減が [無効] かつ、容量削減状態が [Disabled] の状態です。 ・ [T10 PI] ※1: ボリュームの T10 PI 属性の情報が表示されます。 ◦ [有効]: ボリュームの T10 PI 属性が有効になっています。 ◦ [無効]: ボリュームの T10 PI 属性が無効になっています。

項目	説明
	・ [仮想ストレージマシン] ※¹: ボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [仮想 LDEV ID] ※¹: ボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。仮想 LDEV ID が割り当てられていない場合は、空白が表示されます。 ・ [仮想デバイス名] ※¹: ボリュームの仮想デバイス名が表示されます。仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 ・ [仮想 SSID] ※¹: ボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。
状態	ペアの状態が表示されます。ペアの状態については、『Universal Replicator ユーザガイド』を参照してください。
処理状態※ ¹	ペアの処理状態が表示されます。 ・ [Expanding]: Universal Replicator のペアボリュームの容量を拡張中です。 容量拡張中ではない場合、または Dynamic Provisioning の仮想ボリューム以外をペアボリュームとして使用している場合は、空白が表示されます。
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [モデル/シリアル番号]: リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [LDEV ID]: ボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [ポート名]: ボリュームのポート名が表示されます。ペア作成時に LDEV ID を特定するための情報であり、接続先でパス設定を変更してもこの情報は更新されません。 ・ [ホストグループ ID/iSCSI ターゲット ID] ※³: ボリュームのホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID が表示されます。ペア作成時に LDEV ID を特定するための情報であり、接続先でパス設定を変更してもこの情報は更新されません。 ・ [LUN ID] ※³: ボリュームの LUN ID が表示されます。ペア作成時に LDEV ID を特定するための情報であり、接続先でパス設定を変更してもこの情報は更新されません。 FC-NVMe でホストに接続されたボリュームの場合、[－] が表示されます。 ・ [Namespace ID] ※²: ボリュームの Namespace ID が表示されます。ペア作成時に LDEV ID を特定するための情報であり、接続先でパス設定を変更しても、この情報は更新されません。 ファイバチャネルまたは iSCSI でホストに接続されたボリュームの場合は、[－] が表示されます。 ・ [ジャーナル ID]: ジャーナル ID が表示されます。 ・ [仮想ストレージマシン] ※¹: ボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [仮想 LDEV ID] ※¹: ボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。
パスグループ ID	パスグループ ID が表示されます。
CTG ID※ ¹	コンシステンシーグループ ID が表示されます。

項目	説明
エラーレベル※1	エラーレベルが表示されます。

注※1

この項目は、初期状態では表示されません。項目を表示する場合は、[カラム設定] 画面で設定を変更してください。[カラム設定] 画面の詳細については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

注※2

VSP E1090 のみ表示されます。

注※3

VSP One SDS Block のボリュームと、本ストレージシステムのボリュームで構成される UR ペアの場合、リモートストレージシステムの [ホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID] と [LUN ID] には、VSP One SDS Block 内部の制御情報が表示されます。このため、VSP One SDS Block のボリューム情報を参照する場合は、VSP One SDS Block で、LDEV ID と同じボリュームナンバーのボリューム情報を表示してください。詳細は、VSP One SDS Block の『オペレーションガイド』を参照してください。

[ミラー] タブ

リモートレプリケーション

最終更新日時: 2015/12/11 14:15

VSP Gx00 and VSP Fx00(S/N:400001) > レプリケーション > リモートレプリケーション

ベア数

TrueCopy

0

ミラー数

Universal Replicator

6

Global-Active Device

0

合計

6

20

TCペア

URペア

ミラー

GADペア

GADコンシステンシーグループ

ミラー分割

ミラー再同期

URペア作成

他のタスク

全ページ選択

カラム設定

オプション

IC

1

/

1

→

←

ジャーナルID	ミラーID	属性	状態	リモートストレージシステム	バスグループID	データVOL数	データ容量	リモートコマンドデバイス	
				モデル / シリアル番号	ジャーナルID				
☐	000	0	マスタ	Active / ...	VSP Gx00 and VSP Fx00 / 400001	001	00	1	20.00 GB
☐	000	1	初期	Initial / ...	-	-	0	0.00 GB	-
☐	000	2	マスタ	Active / ...	VSP Gx00 and VSP Fx00 / 400001	001	00	1	0.00 GB
☐	000	3	初期	Initial / ...	-	-	0	0.00 GB	-
☐	001	0	リネア	Active / ...	VSP Gx00 and VSP Fx00 / 400001	000	00	1	20.00 GB
☐	001	1	初期	Initial / ...	-	-	0	0.00 GB	-
☐	001	2	リネア	Active / ...	VSP Gx00 and VSP Fx00 / 400001	000	00	1	0.00 GB
☐	001	3	初期	Initial / ...	-	-	0	0.00 GB	-
☐	002	0	初期	Initial / ...	-	-	0	0.00 GB	-
☐	002	1	マスタ	Active / ...	VSP Gx00 and VSP Fx00 / 400001	003	00	1	20.00 GB
☐	002	2	初期	Initial / ...	-	-	0	0.00 GB	-
☐	002	3	初期	Initial / ...	-	-	0	0.00 GB	-
☐	003	0	初期	Initial / ...	-	-	0	0.00 GB	-
☐	003	1	リネア	Active / ...	VSP Gx00 and VSP Fx00 / 400001	002	00	1	20.00 GB
☐	003	2	リネア	Hold / S...	VSP Gx00 and VSP Fx00 / 400001	004	00	1	20.00 GB
☐	003	3	初期	Initial / ...	-	-	0	0.00 GB	-
☐	004	0	初期	Initial / ...	-	-	0	0.00 GB	-
☐	004	1	初期	Initial / ...	-	-	0	0.00 GB	-
☐	004	2	マスタ	Hold / P...	VSP Gx00 and VSP Fx00 / 400001	003	00	1	20.00 GB
☐	004	3	初期	Initial / ...	-	-	0	0.00 GB	-

各ユーザに、すべてのジャーナルボリュームが割り当てられているミラーだけ表示されます。

- ボタン

項目	説明
ミラー分割	[ミラー分割] 画面が表示されます。
ミラー再同期	[ミラー再同期] 画面が表示されます。
UR ペア作成	[UR ペア作成] 画面が表示されます。
ミラーオプション編集※	[ミラーオプション編集] 画面が表示されます。
リモート接続プロパティ参照※	[リモート接続プロパティ参照] 画面が表示されます。 [属性] が [マスタ] の場合だけ、画面が表示されます。
ミラー削除※	[ミラー削除] 画面が表示されます。
リモートコマンドデバイス割り当て※	[リモートコマンドデバイス割り当て] 画面が表示されます。
リモートコマンドデバイス解除※	[リモートコマンドデバイス解除] 画面が表示されます。
テーブル情報出力※	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

注※

[他のタスク] をクリックすると表示されます。

- テーブル

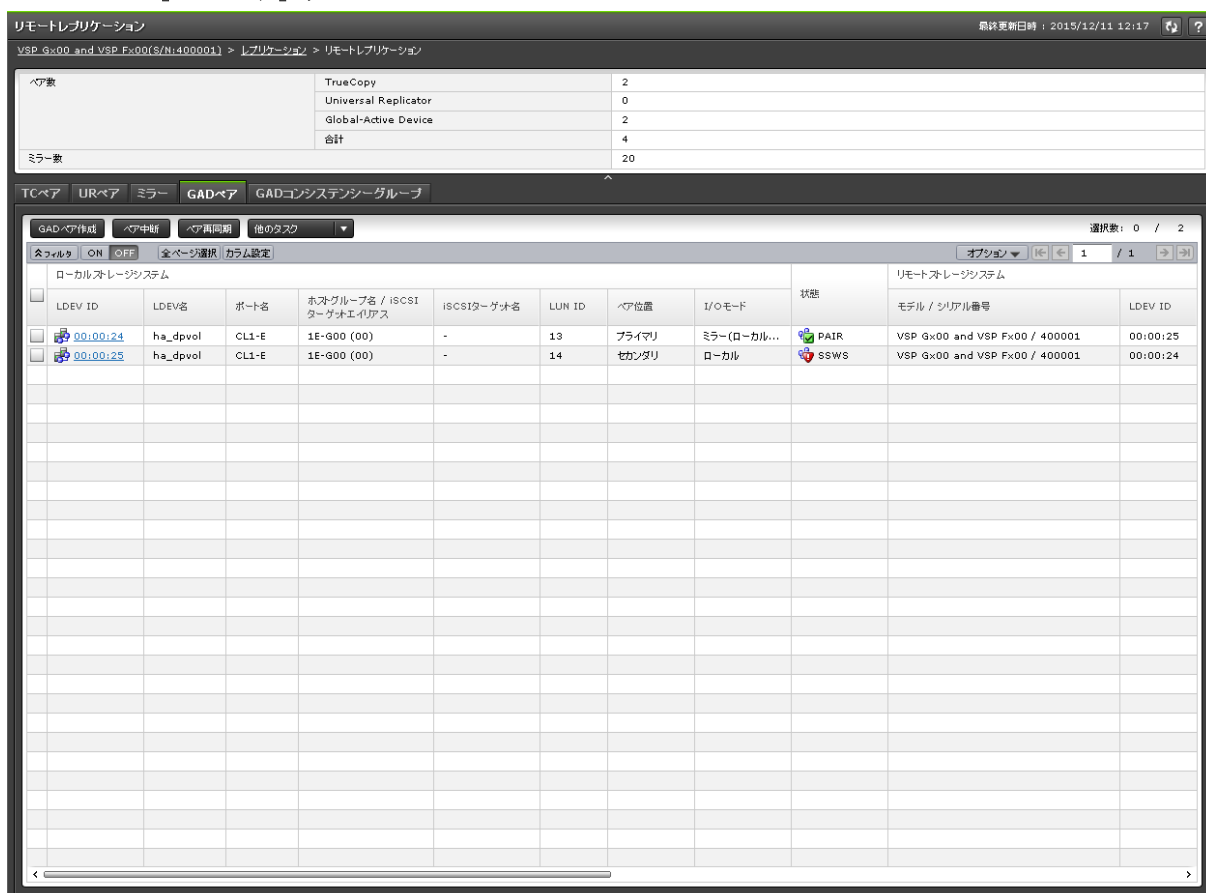
項目	説明
ジャーナル ID	ジャーナル ID が表示されます。ジャーナル ID をクリックすると、個別のジャーナル画面が表示されます。
ミラー ID	ミラー ID が表示されます。
属性	ジャーナルの属性が表示されます。
状態	ミラーの状態が表示されます。ミラーの状態については、『Universal Replicator ユーザガイド』を参照してください。
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのボリュームに関する情報が表示されます。 • [モデル/シリアル番号]: リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が表示されます。 • [ジャーナル ID]: ジャーナル ID が表示されます。
パスグループ ID	パスグループ ID が表示されます。
データ VOL 数	データボリューム数が表示されます。
データ容量	データ容量が表示されます。
リモートコマンドデバイス	ミラーにリモートコマンドデバイスが割り当てられているかどうかが表示されます。 • ミラーにリモートコマンドデバイスが割り当てられている場合、LDEV ID が表示されます。 • ミラーにリモートコマンドデバイスが割り当てられていない場合、この欄は空白です。 • ミラーにリモートコマンドデバイスを割り当てられない場合、[-] が表示されます。
CTG ID※	コンシステンシーグループ ID が表示されます。
CTG 利用※	複数のローカルストレージシステムおよびリモートストレージシステムがコンシステンシーグループを共有しているかどうかが表示されます。

項目	説明
	• [Single] : 1組のストレージシステムで構成されているコンシステンシーグループです。 • [Multi] : 複数組のストレージシステムで構成されているコンシステンシーグループです。
バス監視時間※	バス監視時間が表示されます。
バス監視時間の転送※	マスタジャーナルのバス監視時間を副ミラーに転送するかどうかが表示されます。転送すると、正ミラーと副ミラーでバス監視時間が一致します。 • [該当] : 副ミラーにバス監視時間を転送します。 • [非該当] : 副ミラーにバス監視時間を転送しません。
コピー速度※	ボリューム1個当たりの形成コピーの速度が表示されます。[低速]、[中速]または[高速]のどれかが表示されます。ジャーナルがリストアジャーナルの場合、[－]が表示されます。
転送速度※	データ転送時の回線速度が表示されます。単位はMbps（メガビット／秒）です。[256]、[100]、[10]、または[3]のどれかが表示されます。
デルタリシンク失敗※	デルタリシンク処理が実行できなかった場合の処理が表示されます。 • [全てコピー] : デルタリシンク処理が実行できなかった場合、プライマリボリュームのデータをすべてセカンダリボリュームにコピーします。 • [コピーなし] : デルタリシンク処理が実行できなかった場合、何も処理を実行しません。したがって、セカンダリボリュームも更新されません。

注※

この項目は、初期状態では表示されません。項目を表示する場合は、[カラム設定] 画面で設定を変更してください。[カラム設定] 画面の詳細については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

[GAD ペア] タブ



各ユーザに、ローカルストレージシステムのボリュームが割り当てられているペアだけ表示されます。

- ボタン

項目	説明
GAD ペア作成	[GAD ペア作成] 画面が表示されます。
ペア中断	[ペア中断] 画面が表示されます。
ペア再同期	[ペア再同期] 画面が表示されます。
ペア一致率参照※	[ペア一致率参照] 画面が表示されます。
ペアプロパティ参照※	[ペアプロパティ参照] 画面が表示されます。
リモート接続プロパティ参照※	[リモート接続プロパティ参照] 画面が表示されます。 [ペア位置] が [プライマリ] の場合だけ、画面が表示されます。
ペア削除※	[ペア削除] 画面が表示されます。
テーブル情報出力※	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

注※

[他のタスク] をクリックすると表示されます。

- テーブル

項目	説明
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムのボリュームに関する情報が表示されます。 • [LDEV ID] : ボリュームの LDEV ID が表示されます。LDEV ID をクリックすると、[LDEV プロパティ] 画面が表示されます。 • [LDEV 名] : ボリュームの LDEV 名が表示されます。 • [ポート名] : ボリュームのポート名が表示されます。 • [ホストグループ名/iSCSI ターゲットエイリアス] : ボリュームのホストグループ名または iSCSI ターゲットエイリアスが表示されます。 • [iSCSI ターゲット名] : ボリュームの iSCSI ターゲット名が表示されます。 • [LUN ID] : ボリュームの LUN ID が表示されます。 • [ペア位置] : ボリュームが、ペアのプライマリボリュームかセカンダリボリュームであるかが表示されます。 • [属性] ※1 : LDEV の属性が表示されます。 • [プロビジョニングタイプ] ※1 : ボリュームのプロビジョニングタイプが表示されます。 • [容量] ※1 : ボリュームの容量が表示されます。 • [CLPR] ※1 : ボリュームの CLPR ID が表示されます。 • [暗号化] ※1 : 暗号化の情報が表示されます。 ◦ [有効] : LDEV の属するパリティグループの暗号化設定が有効です。または、暗号化設定が有効なプールボリュームのプールに関連付けられた仮想ボリュームです。 ◦ [無効] : LDEV の属するパリティグループの暗号化設定が無効です。または、暗号化設定が無効なプールボリュームのプールに関連付けられた仮想ボリュームです。 ◦ [混在] : LDEV の属するプールに次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 • 暗号化が有効なボリューム • 暗号化が無効なボリューム • 外部ボリューム 注意 : 混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ◦ [ー] : 外部ボリュームです。 Dynamic Provisioning の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。 • [I/O モード] : ボリュームの I/O モードが表示されます。 • [ALUA モード] ※1 : ALUA モードの情報が表示されます。 • [容量削減] ※1 : 容量削減機能の情報が表示されます。 ◦ [圧縮] : 圧縮機能を使用します。 ◦ [重複排除および圧縮] : 重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ◦ [無効] : 容量削減機能を使用しません。 • [圧縮アクセラレータ] ※1、※2 : 圧縮アクセラレータの設定が表示されます。 ◦ [有効] : 圧縮アクセラレータの設定が有効です。 ◦ [無効] : 圧縮アクセラレータの設定が無効です。

項目	説明
	[-] : 圧縮アクセラレータが設定できない LDEV です。または、圧縮アクセラレータが設定できる LDEV で、容量削減が [無効] かつ、容量削減状態が [Disabled] の状態です。 [T10 PI] ※1 : ボリュームの T10 PI 属性の情報が表示されます。 [有効] : ボリュームの T10 PI 属性が有効になっています。 [無効] : ボリュームの T10 PI 属性が無効になっています。
状態	ペアの状態が表示されます。
処理状態※1	ペアの処理状態が表示されます。 [Expanding] : GAD のペアボリュームの容量を拡張中です。容量拡張中ではない場合、または Dynamic Provisioning の仮想ボリューム以外をペアボリュームとして使用している場合は、空白が表示されます。
障害要因※1	障害の要因が表示されます。 [障害要因] に表示される文言と説明については「[障害要因] に表示される文言と説明」を参照してください。
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのボリュームに関する情報が表示されます。 [モデル/シリアル番号] : リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が表示されます。 [LDEV ID] : ボリュームの LDEV ID が表示されます。 [ポート名] : ボリュームのポート名が表示されます。ペア作成時に LDEV ID を特定するための情報であり、接続先でパス設定を変更してもこの情報は更新されません。 [ホストグループ ID/iSCSI ターゲット ID] : ボリュームのホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID が表示されます。ペア作成時に LDEV ID を特定するための情報であり、接続先でパス設定を変更してもこの情報は更新されません。 [LUN ID] : ボリュームの LUN ID が表示されます。ペア作成時に LDEV ID を特定するための情報であり、接続先でパス設定を変更してもこの情報は更新されません。
パスグループ ID	パスグループ ID が表示されます。
ミラー ID	ミラー ID が表示されます。
Quorum ディスク	Quorum ディスクに関する情報が表示されます。 [ID] : Quorum ディスク ID が表示されます。 [LDEV ID] : Quorum ディスクの LDEV ID が表示されます。Quorum ディスクに LDEV が設定されていない場合は、ハイフン (-) が表示されます。
CTG ID	コンシステンシーグループ ID が表示されます。
Quorum ディスク閉塞時ペア動作モード	Quorum ディスクが閉塞したときのペア動作のモードが表示されます。 Quorum ディスクに LDEV が設定されていない場合は、ハイフン (-) が表示されます。 [ペア維持 (プライマリ/セカンダリ共にアクセス可)] : サーバからプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方へ接続できます。 [ペア維持 (プライマリアクセス可/セカンダリアクセス不可)] : サーバからプライマリボリュームへ接続できます。プライマリボリュームへ書き込まれたデータは、セカンダリボリュームに書き込まれます。 [ペア中断] : サーバからプライマリボリュームへ接続できます。プライマリボリュームへ書き込まれたデータは、セカンダリボリュームに書き込まれません。

項目	説明
仮想ストレージマシン	LDEV が属する仮想ストレージマシンに関する情報が表示されます。 ・ [モデル/シリアル番号]: ボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [LDEV ID]: ボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。仮想 LDEV ID が割り当てられていない場合は、空白が表示されます。 ・ [デバイス名]: ボリュームの仮想デバイス名が表示されます。仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 ・ [SSID]: ボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。

注※1

この項目は、初期状態では表示されません。項目を表示する場合は、[カラム設定] 画面で設定を変更してください。[カラム設定] 画面の詳細については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

注※2

VSP E1090 のみ表示されます。

【障害要因】に表示される文言	説明
ローカルボリューム障害	ローカルストレージシステムのボリュームで障害を検出しました。
リモートバス障害	リモートバスの障害を検出しました。
Quorum ディスク障害	Quorum ディスクの障害を検出しました。
内部エラー	内部エラーを検出しました。
障害なし	障害は検出していませんが、ローカルストレージシステムの電源をオンにしたときにペアがサスペンドしました。
リモートボリューム障害	リモートストレージシステムのボリュームで障害を検出しました。
リモート側不特定障害	リモートストレージシステム側で要因を特定できない障害を検出しました。
(空白)	障害を検出していません。

[GAD コンシステンシーグループ] タブ

リモートレプリケーション

VSP G400 and VSP F600(S/N:4000001) > レプリケーション > リモートレプリケーション

最終更新日時: 2015/12/02 19:33

ペア数	TrueCopy	2
	Universal Replicator	0
	Global-Active Device	2
	合計	4
ミラー数		20

TCペア URペア ミラー GADペア **GADコンシステンシーグループ**

コンシステンシーグループ中断 コンシステンシーグループ再同期 GADペア作成 テーブル情報出力

選択数: 0 / 64

フィルタ ON OFF 全ページ選択 カラム設定 オプション

CTG ID	利用	状態	Quorumディスク ID	ミラーID	ペア位置	I/Oモード	仮想ストレージマシン	ペア数
000	使用中	PAIR	00	0	プライマリ	ミラー(ローカルRead)	VSP G400/G600 and VSP F400/F600 / 400001	
001	使用中	SSWS	00	0	セカンダリ	ローカル	VSP G400/G600 and VSP F400/F600 / 400001	
002	空き							
003	空き							
004	空き							
005	空き							
006	空き							
007	空き							
008	空き							
009	空き							
00A	空き							
00B	空き							
00C	空き							
00D	空き							
00E	空き							
00F	空き							
010	空き							
011	空き							
012	空き							
013	空き							
014	空き							
015	空き							
016	空き							
017	空き							

- ボタン

項目	説明
コンシステンシーグループ中断	[コンシステンシーグループ中断] 画面が表示されます。
コンシステンシーグループ再同期	[コンシステンシーグループ再同期] 画面が表示されます。
GAD ペア作成	[GAD ペア作成] 画面が表示されます。
テーブル情報出力	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

- テーブル

項目	説明
CTG ID	コンシステンシーグループ ID が表示されます。
利用	コンシステンシーグループが使用されているかどうかが表示されます。[使用中] または [空き] が表示されます。
状態	コンシステンシーグループの状態が表示されます。各状態の説明は、『global-active device ユーザガイド』を参照してください。
Quorum ディスク	Quorum ディスクに関する情報が表示されます。 [ID] : Quorum ディスク ID が表示されます。 [LDEV ID] : Quorum ディスクの LDEV ID が表示されます。Quorum ディスクに LDEV が設定されていない場合は、ハイフン (-) が表示されます。
ミラー ID	ミラー ID が表示されます。

項目	説明
ペア位置	コンシステンシーグループに登録されている GAD ペアのボリュームが、プライマリボリュームかセカンダリボリュームであるかが表示されます。
I/O モード	コンシステンシーグループに登録されている GAD ペアのボリュームの I/O モードが表示されます。
仮想ストレージマシン	仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。
ペア数	コンシステンシーグループに登録されているペア数が表示されます。

画面項目については、『Universal Replicator ユーザガイド』または『global-active device ユーザガイド』も参照してください。

関連タスク

- (1) [TrueCopy ペアの状態を確認する](#)
- [7.1.6 TrueCopy ペアの情報を出力する](#)

B.3 「リモート接続」画面

リモート接続

VSP_Gx00 and VSP_Fx00(S/N:400001) > レプリケーション > リモート接続

最終更新日時: 2015/12/02 19:33

ポート状態参照

ローカルストレージシステム

リモートストレージシステム: 1

接続 (To)

1

接続 (From)

1

Quorumディスク: 1

接続 (To) 接続 (From) Quorumディスク

リモート接続追加 リモート接続オプション編集 リモート接続プロパティ参照 他のタスク

選択数: 0 / 1

全フィルタ ON OFF 全ページ選択 カラム設定 オプション 1 / 1

リモートストレージシステム	バスグループ ID	状態	リモートバス数
VSP Gx00 and VSP Fx00 / 400001	00	Normal	1

- サマリ
- [接続(To)] タブ
- [接続(From)] タブ
- [Quorum ディスク] タブ

サマリ

- ボタン

項目	説明
ポート状態参照	[ポート状態] 画面が表示されます。

- テーブル

項目	説明
接続(To)	ローカルストレージシステムからリモートストレージシステムへの接続数が表示されます。
リモートストレージシステム	ローカルストレージシステムの接続しているストレージシステムの数が表示されます。数値をクリックすると、リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が、バルーンダイアログで表示されます。
接続(From)	リモートストレージシステムからローカルストレージシステムへの接続数が表示されます。 接続数として表示されるのは、TrueCopy ペアで使用されているリモート接続の数だけです。
Quorum ディスク	Quorum ディスクの数が表示されます。

【接続(To)】 タブ

リモートストレージシステム (RCU) の情報が表示されます。

- ボタン

項目	説明
リモート接続追加	[リモート接続追加] 画面が表示されます。
リモート接続オプション編集	[リモート接続オプション編集] 画面が表示されます。
リモート接続プロパティ参照	[リモート接続プロパティ参照] 画面が表示されます。
リモートパス追加※	[リモートパス追加] 画面が表示されます。
リモートパス削除※	[リモートパス削除] 画面が表示されます。
リモート接続削除※	[リモート接続削除] 画面が表示されます。
テーブル情報出力※	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

注※

[他のタスク] をクリックすると表示されます。

- テーブル

項目	説明
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が表示されます。
パスグループ ID	パスグループ ID が表示されます。
状態	リモート接続の状態が表示されます。 [Normal] : リモート接続内のすべてのリモートパスが正常です。

項目	説明
	・ [Failed] : リモート接続内のすべてのリモートパスが異常です。 ・ [Warning] : リモート接続内の一部のリモートパスが異常です。
リモートパス数	リモートパス数が表示されます。
最小パス数※	最小パス数が表示されます。
RIO MIH 時間(秒)※	RIO MIH 時間(秒)が表示されます。
往復応答時間(ミリ秒)※	往復応答時間(ミリ秒)が表示されます。

注※

この項目は、初期状態では表示されません。項目を表示する場合は、[コラム設定] 画面で設定を変更してください。[コラム設定] 画面の詳細については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

[接続(From)] タブ

TrueCopy ペアの S-VOL が形成されている場合だけ、ローカルストレージシステム (MCU) の情報が表示されます。

- ・ ボタン

項目	説明
テーブル情報出力	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

- ・ テーブル

項目	説明
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が表示されます。
バスグループ ID	バスグループ ID が表示されます。

【Quorum ディスク】タブ

リモート接続

VSP Gx00 and VSP Fx00(S/N:400001) > レプリケーション > リモート接続

最終更新日時: 2015/12/02 19:33

ポート状態参照

ローカルストレージシステム

リモートストレージシステム: 1

接続 (To)

接続 (From)

Quorumディスク: 1

接続 (To) 接続 (From) Quorumディスク

Quorumディスク追加 Quorumディスク削除 テーブル情報出力

選択数: 0 / 1

Quorumディスク ID	LDEV ID	LDEV名	状態	CLPR	容量	リモートストレージシステム
00	00:00:23	exvol	Normal	0:CLPR0	20.00 GB	VSP Gx00 and VSP Fx00 / 400001

各ユーザーに割り当てられている Quorum ディスクだけ表示されます。

- ボタン

項目	説明
Quorum ディスク追加	【Quorum ディスク追加】画面が表示されます。
Quorum ディスク削除	【Quorum ディスク削除】画面が表示されます。
Quorum ディスク編集	【Quorum ディスク編集】画面が表示されます。
テーブル情報出力	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

- テーブル

項目	説明
Quorum ディスク ID	Quorum ディスク ID が表示されます。
Quorum ディスク	Quorum ディスクに関する情報が表示されます。 • [LDEV ID]: ボリュームの LDEV ID が表示されます。LDEV ID をクリックすると、[LDEV プロパティ] 画面が表示されます。Quorum ディスクに LDEV が設定されていない場合は、ハイフン (-) が表示されます。 • [LDEV 名]: ボリュームの LDEV 名が表示されます。Quorum ディスクに LDEV が設定されていない場合は、ハイフン (-) が表示されます。 • [状態]: ボリュームの状態が表示されます。 ◦  [Normal]: 正常です。 ◦  [Blocked]: 閉塞しています。閉塞状態のボリュームには、ホストからアクセスできません。 ◦  [Warning]: ボリュームに問題が発生しています。 ◦  [Formatting]: フォーマット中です。 ◦  [Preparing Quick Format]: クイックフォーマットの準備中です。 ◦  [Quick Formatting]: クイックフォーマットを実行中です。 ◦  [Correction Access]: アクセス属性を修正中です。 ◦  [Copying]: ボリュームのデータをコピーしている状態です。 ◦  [Read Only]: 読み取り専用の状態です。Read Only 状態のボリュームには、データの書き込みはできません。 ◦  [Shredding]: シュレッディング操作を実行中です。 ◦  [-]: 上記以外の状態です。 • [CLPR]: ボリュームの CLPR ID が表示されます。Quorum ディスクに LDEV が設定されていない場合は、ハイフン (-) が表示されます。 • [容量]: ボリュームの容量が表示されます。Quorum ディスクに LDEV が設定されていない場合は、ハイフン (-) が表示されます。
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が表示されます。
Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間	Quorum ディスクが閉塞したあと、または Quorum ディスクに LDEV が設定されていない場合は、リモートパスの切断を検知してから、セカンダリボリュームのペア状態が PSUE(Block)に変わるまでの時間が表示されます。

関連タスク

- [7.1.8 TrueCopy のリモート接続とパスの状態を確認する](#)
- [7.1.9 TrueCopy のリモート接続とパスの状態の詳細を確認する](#)

B.4 [ペア一致率参照] 画面

[illegible]

【ペア】 テーブル

- ・ テーブル

項目	説明
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムのボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : ボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名] : ボリュームの LDEV 名が表示されます。 ・ [ペア位置] : ボリュームが、ペアのプライマリボリュームかセカンダリボリュームであるかが表示されます。 ・ [CLPR] : ボリュームの CLPR ID が表示されます。 ・ [仮想ストレージマシン] : ボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [仮想 LDEV ID] : ボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。 ・ [仮想デバイス名] : ボリュームの仮想デバイス名が表示されます。 仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 ・ [仮想 SSID] : ボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。 ・ [TC] : TrueCopy ペア
状態	ペアの状態が表示されます。 各ペアの状態については「7.1.2 TrueCopy ペア状態の定義」を参照してください。

項目	説明
一致率(%)	プライマリボリュームとセカンダリボリュームのデータの一致率が割合 (%) で表示されます。 - 形成コピーの処理が進行しているときには、形成コピーの進捗率が表示されます。 - ペアが分割されているときには、プライマリボリュームとセカンダリボリュームのデータの一致率が表示されます。 - ペアのボリュームが処理待ち (キューイング) のときには、「(Queuing)」と表示されます。 ローカルストレージシステムのボリュームがプライマリボリュームのときには、ペア状態に関わらず割合 (%) が表示されます。ローカルストレージシステムのボリュームがセカンダリボリュームの場合は、ペア状態が COPY 以外のときにだけ割合 (%) が表示されます。
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのボリュームに関する情報が表示されます。 [モデル/シリアル番号]: リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が表示されます。 [LDEV ID]: ボリュームの LDEV ID が表示されます。 [仮想ストレージマシン]: ボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 [仮想 LDEV ID]: ボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。
パスグループ ID	パスグループ ID が表示されます。

- ボタン

項目	説明
更新	[ペア] テーブルの情報を更新します。

関連タスク

- [7.1.3 TrueCopy ペアの一致率を確認する](#)

B.5 [ペアプロパティ参照] 画面

ペアプロパティ参照

TC Copy

ローカルストレージシステム

00:00:69()
パス数: 1
Basic
8.00 GB
VSP F370 / 403003, 0:CLPR0

リモートストレージシステム

00:00:6A
CL1-A / 00 / 116
8.00 GB
VSP Gx00 and VSP Fx00 / 403003

ペア: PAIR
パスグループ: 02

ペア詳細	
状態	PAIR
処理状態	
更新タイプ	同期
CTG ID	-
CTG利用	-
フェンスレベル	なし
セカンダリボリューム書き込み	拒否
コピー速度	15トラック
形成コピー優先度	32
ペア作成時刻	2017/08/07 18:06:32
最終更新時刻	2017/08/07 18:08:13
ペアコピー時間	000:01:41
ローカルストレージシステム	仮想ストレージマシン 仮想LDEV ID 仮想デバイス名 仮想SSID
リモートストレージシステム	仮想ストレージマシン 仮想LDEV ID

1 / 1

戻る 次へ 閉じる ?

[ペアプロパティ]

項目	説明
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムに関する情報が表示されます。 [LDEV ID (LDEV 名)]: ローカルストレージシステムのボリュームの LDEV ID と LDEV 名が表示されます。 LDEV 名が長く「...」で省略されている場合は、LDEV 名にカーソルを当てると LDEV 名がツールチップで表示されます。 [パス数]: パス数が表示されます。 リンクをクリックすると、パスリストが表示されます。 [プロビジョニングタイプ,暗号化,T10 PI]: ローカルストレージシステムのボリュームのプロビジョニングタイプ、暗号化の状態、および T10 PI 属性が表示されます。 暗号化の状態は、暗号化が [有効] または [混在] の場合だけ表示されます。T10 PI 属性の情報は、T10 PI 属性が有効の場合だけ表示されます。「...」で省略されている場合は、「...」にカーソルを当てると省略された内容がツールチップで表示されます。 [属性,容量]: ローカルストレージシステムのボリュームの属性および容量が表示されます。属性がない場合は、容量だけ表示されます。 [モデル/シリアル番号,CLPR ID:CLPR 名]: ローカルストレージシステムのモデル、シリアル番号、CLPR ID および CLPR 名が表示されます。

項目	説明
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。
状態	ペア状態が表示されます。
パスグループ	ペアのパスグループ ID が表示されます。 プライマリボリュームがローカルストレージシステムにある場合、パスグループ ID をクリックするとリモートパスのリストが表示されます。
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムに関する情報が表示されます。 • [LDEV ID]: リモートストレージシステムのボリュームの LDEV ID が表示されます。 • [ポート名/ホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID/LUN ID]: リモートストレージシステムのボリュームのポート名、ホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID、LUN ID が表示されます。 ペア作成時に LDEV ID を特定するための情報であり、接続先でパス設定を変更してもこの情報は更新されません。 • [容量]: リモートストレージシステムのボリュームの容量が表示されます。 • [モデル/シリアル番号]: リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が表示されます。

【ペア詳細】 テーブル

項目	説明
状態	ペア状態が表示されます。
処理状態	ペアの処理状態が表示されます。 • [Expanding]: TrueCopy のペアボリュームの容量を拡張中です。 容量拡張中ではない場合、または Dynamic Provisioning の仮想ボリューム以外をペアボリュームとして使用している場合は、空白が表示されます。
更新タイプ	更新タイプが表示されます。 • [同期]: コンシステンシーグループに割り当てられていない TrueCopy ペアです。 • [同期(CTG 指定)]: コンシステンシーグループを指定して作成した TrueCopy ペアです。
CTG ID	コンシステンシーグループ ID が表示されます。
CTG 利用	複数組のストレージシステムがコンシステンシーグループを共有しているかどうかが表示されます。 • [Single]: 1 組のストレージシステムで構成されているコンシステンシーグループです。 • [Multi]: 複数組のストレージシステムで構成されているコンシステンシーグループです。
フェンスレベル	フェンスレベルが表示されます。 • [なし]: プライマリへの Write 操作をローカルストレージシステムが拒否しません。 • [セカンダリボリュームデータ]: プライマリへのデータの Write 操作をローカルストレージシステムが拒否します。 • [セカンダリボリューム状態]: ペア状態の変更をローカルストレージシステムが拒否します。
セカンダリボリューム書き込み	セカンダリボリュームに書き込みできるかどうかが表示されます。 • [許可]: セカンダリボリュームに書き込みできます。

項目	説明
	・ [拒否]: セカンダリボリュームに書き込みできません。ペアが分割されている場合にだけ「許可」になります。なお、該当ボリュームがセカンダリボリュームで、かつ書き込み操作ができる場合、ホストから書き込み操作を受け付けたかどうか也表示されます。その場合、すでにホストから書き込み操作を受け付けたときは「許可(受領済み)」、まだ受け付けていないときは「許可(未受領)」と表示されます。
コピー速度	コピー速度が表示されます。
形成コピー優先度	ペアプロパティ参照操作の優先順位（スケジューリング順位）が 1～256 の 10 進数で表示されます。
ペア作成時刻	ペア作成時刻が表示されます。
最終更新時刻	最終更新時刻が表示されます。
ペアコピー時間	ペアコピー時間が表示されます。
ローカルストレージシステム	LDEV が属する仮想ストレージマシンに関する情報が表示されます。 ・ [仮想ストレージマシン]: ボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [仮想 LDEV ID]: ボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。 ・ [仮想デバイス名]: ボリュームの仮想デバイス名が表示されます。仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 ・ [仮想 SSID]: ボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。
リモートストレージシステム	LDEV が属する仮想ストレージマシンに関する情報が表示されます。 ・ [仮想ストレージマシン]: ボリュームの仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [仮想 LDEV ID]: ボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。

[ページ数（現在/選択数）]

項目	説明
ページ数（現在/選択数）	「現在のペア情報/選択したペアの数」が表示されます。

関連概念

- ・ [7.1.1 TrueCopy ペアの確認とは](#)

B.6 [リモート接続プロパティ参照] 画面

リモート接続プロパティ参照

リモート接続プロパティ

リモートストレージシステム

VSP Gx00 and VSP Fx00 / 400031

バスグループID

00

チャネルタイプ

iSCSI

状態

Normal

最小バス数

TC/GAD

1

UR

1

RIO MIH 時間

15 秒

往復応答時間

1 ミリ秒

登録時刻

2016/12/06 09:54:18

最終更新時刻

2016/12/06 11:00:01

リモートバス数

2

リモートバス

フィルタ

ON

OFF

オプション

1

/ 1

ローカル

リモート

状態

ポート名

ポートタイプ

仮想ポートID

ポート名

IPアドレス

TCPポート番号

状態

CL3-B

iSCSI

0

CL4-B

192.168.0.113

3260

Normal

CL2-B

iSCSI

-

CL1-B

192.168.0.104

3260

Normal

合計: 2

〔リモート接続プロパティ〕 テーブル

項目	説明
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が表示されます。
パスグループ ID	パスグループの ID が表示されます。
チャネルタイプ	チャネルタイプが表示されます。 ・ [Fibre] : リモート接続内のすべてのリモートパスのポートタイプが Fibre です。 ・ [iSCSI] : リモート接続内のすべてのリモートパスのポートタイプが iSCSI です。 ・ [混在] : リモート接続内に、ポートタイプが Fibre のリモートパスと、iSCSI のリモートパスが混在しています。
状態	リモート接続の状態が表示されます。 ・ [Normal] : リモート接続内のすべてのリモートパスが正常です。 ・ [Failed] : リモート接続内のすべてのリモートパスが異常です。

項目	説明
	・ [Warning] : リモート接続内の一部のリモートパスが異常です。
最小パス数	・ [TC/GAD] : TrueCopy および GAD の最小パス数が表示されます。 ・ [UR] : Universal Replicator の最小パス数が表示されます。
RIO MIH 時間	RIO MIH 時間が表示されます。
往復応答時間	往復応答時間が表示されます。
登録時刻	登録時刻が表示されます。
最終更新時刻	最終更新時刻が表示されます。
リモートパス数	リモートパス数が表示されます。

【リモートパス】 テーブル

項目	説明
ローカル	ローカルストレージシステムのポートに関する情報が表示されます。 ・ [ポート名] : ポート名が表示されます。 ・ [ポートタイプ] : ポートタイプが表示されます。 ◦ [Fibre] : ファイバチャネルポートです。 ◦ [iSCSI] : iSCSI ポートです。 ・ [仮想ポート ID] : [ポートタイプ] が [iSCSI] のときに、仮想ポート ID が表示されます。
リモート	リモートストレージシステムのポートに関する情報が表示されます。 ・ [ポート名] : ポート名が表示されます。 ・ [IP アドレス] : [ポートタイプ] が [iSCSI] のときに、ポートの IP アドレスが表示されます。 ・ [TCP ポート番号] : [ポートタイプ] が [iSCSI] のときに、ポートの TCP ポート番号が表示されます。
状態	リモートパスの状態が表示されます。各状態の説明は、「10.1.3 TrueCopy のリモートパスの状態に関するトラブルシューティング」を参照してください。

関連タスク

- ・ [7.1.8 TrueCopy のリモート接続とパスの状態を確認する](#)
- ・ [7.1.9 TrueCopy のリモート接続とパスの状態の詳細を確認する](#)
- ・ [7.2.6 TrueCopy のリモート接続を削除する](#)

B.7 [操作履歴] 画面

[illegible]

情報設定エリア

項目	説明
コピータイプ	コピータイプを選択します。 • [TC] • [UR] • [GAD]

【操作履歴】 テーブル（[TC] を選択した場合）

- ・ テーブル

項目	説明
日時	操作の日時が表示されます。
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムのボリュームの情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : ボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [プロビジョニングタイプ] : ボリュームのプロビジョニングタイプが表示されます。

項目	説明
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのボリュームの情報が表示されます。 • [LDEV ID]: ボリュームの LDEV ID が表示されます。 • [プロビジョニングタイプ]: ボリュームのプロビジョニングタイプが表示されます。
説明	操作の説明が表示されます。 各操作の説明については、「 (1) TrueCopy 操作で [操作履歴] 画面の [説明] に表示される文言 」を参照してください。
コピー時間	コピー時間が表示されます。 [説明] が「Pair Add Complete」または「Pair Resync. Complete」以外の場合には「-」が表示されます。
開始時刻	操作の開始時刻が表示されます。 [説明] が「Pair Add Complete」または「Pair Resync. Complete」以外の場合には「-」が表示されます。

- ボタン

項目	説明
テーブル情報出力	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

【操作履歴】テーブル（[UR] を選択した場合）

- テーブル

項目	説明
日時	操作の日時が表示されます。
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムのボリュームの情報が表示されます。 • [LDEV ID]: ボリュームの LDEV ID が表示されます。 • [プロビジョニングタイプ]: ボリュームのプロビジョニングタイプが表示されます。 • [ジャーナル ID]: ジャーナル ID が表示されます。 • [ミラー ID]: ミラー ID が表示されます。
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのボリュームの情報が表示されます。 • [LDEV ID]: ボリュームの LDEV ID が表示されます。 • [プロビジョニングタイプ]: ボリュームのプロビジョニングタイプが表示されます。
説明	操作の説明が表示されます。 各操作の説明については、各プログラムプロダクトのマニュアルを参照してください。
コピー時間	コピー時間が表示されます。 [説明] が下記以外の場合は、「-」が表示されます。 • Paircreate Complete • Pairresync Complete

- ボタン

項目	説明
テーブル情報出力	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

「操作履歴」テーブル（「GAD」を選択した場合）

- テーブル

項目	説明
日時	操作の日時が表示されます。
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムのボリュームの情報が表示されます。 • [LDEV ID]：ボリュームの LDEV ID が表示されます。 • [ペア位置]：ボリュームがプライマリボリュームかセカンダリボリュームかが表示されます。 • [プロビジョニングタイプ]：ボリュームのプロビジョニングタイプが表示されます。
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのボリュームの情報が表示されます。 • [モデル/シリアル番号]：リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が表示されます。 • [LDEV ID]：ボリュームの LDEV ID が表示されます。 • [プロビジョニングタイプ]：ボリュームのプロビジョニングタイプが表示されます。
ミラー ID	ミラー ID が表示されます。
Quorum ディスク ID	Quorum ディスク ID が表示されます。
CTG ID	コンシステンシーグループ ID が表示されます。
仮想ストレージマシン	仮想ストレージマシンのボリュームの情報が表示されます。 • [モデル/シリアル番号]：仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 • [LDEV ID]：ボリュームの LDEV ID が表示されます。
説明コード	説明コードが表示されます。
説明	操作の説明が表示されます。
コピー時間	コピー時間が表示されます。 [説明] が「Copy Complete.」以外の場合には「-」が表示されます。

- ボタン

項目	説明
テーブル情報出力	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

関連概念

- (1) TrueCopy 操作で「操作履歴」画面の「説明」に表示される文言

関連タスク

- 7.1.4 TrueCopy ペアの操作履歴を確認する

B.8 リモート接続追加ウィザード

関連タスク

- 5.2 TrueCopy 操作のためにリモート接続を追加する

B.8.1 [リモート接続追加] 画面

- ・ [選択タイプ] で [Fibre] を選択したとき

The screenshot shows the 'Remote Connection Addition' window. The 'Local Storage System' section on the left lists 'モデル: VSP E1090H' and 'シリアル番号: 700021'. The 'Remote Storage System' section on the right lists 'モデル: VSP One SDS Block, VSP One B20, VSP E series, VSP Fx00 and VSP Gx00 (18)' and 'シリアル番号: (200001-999999)'. In the 'Remote Bus' section, 'バスグループID' is set to '00' and '最小バス数' is set to '1'. The '選択タイプ' (Selection Type) is set to 'Fibre'. Below this, there are two rows of 'ポート名' (Port Name) and 'ポート' (Port) fields, each with a dropdown arrow. A '+ バス追加' (Add Bus) button is located at the bottom right of the 'Remote Bus' section. At the bottom of the window, there are buttons for '戻る' (Back), '次へ' (Next), '完了' (Finish), 'キャンセル' (Cancel), and a help icon.

- ・ [選択タイプ] で [iSCSI] を選択したとき

The screenshot shows the 'Remote Connection Addition' window with the '選択タイプ' (Selection Type) set to 'iSCSI'. The 'Local Storage System' and 'Remote Storage System' sections are identical to the previous screenshot. In the 'Remote Bus' section, the '選択タイプ' is now 'iSCSI'. Below this, there are two rows of 'ポート名' (Port Name), '仮想ポートID' (Virtual Port ID), 'ポート' (Port), 'IPアドレス' (IP Address), and 'TCPポート番号' (TCP Port Number) fields. Each row has a dropdown arrow for 'ポート名' and '仮想ポートID', and a dropdown arrow for 'ポート'. The 'IPアドレス' field has a dropdown arrow set to 'IPv4'. The 'TCPポート番号' field has a dropdown arrow. A '+ バス追加' (Add Bus) button is located at the bottom right of the 'Remote Bus' section. At the bottom of the window, there are buttons for '戻る' (Back), '次へ' (Next), '完了' (Finish), 'キャンセル' (Cancel), and a help icon.

[ローカルストレージシステム]

項目	説明
モデル	ローカルストレージシステムのモデルが表示されます。
シリアル番号	ローカルストレージシステムのシリアル番号が表示されます。

[リモートストレージシステム]

項目	説明
モデル	リモートストレージシステムのモデルを指定します。 - VSP One SDS Block, VSP One B20, VSP E series, VSP Fx00 and VSP Gx00 (18) ※¹ - VSP One B20, VSP E series, VSP Fx00 and VSP Gx00 (18) ※² メモ：VSP E590 または VSP E790 と、次のストレージシステムを相互に接続する構成では、VSP E590 および VSP E790 を除いて、Storage Navigator でリモートパス操作をできません。RAID Manager で操作してください。 - VSP G150, G350, G370, G700, G900 または VSP F350, F370, F700, F900 (88-08-01-XX/XX 未満) - VSP E990 (93-04-01-XX/XX 未満) - HUS VM (19) - VSP G1000/G1500 and VSP F1500 (7) - VSP 5000 シリーズ (8) ※³、※⁴ 注※1 ローカルストレージシステムのモデルが、VSP E1090 の場合に画面上に表示されます。 注※2 ローカルストレージシステムのモデルが、VSP E390, VSP E590, VSP E790, VSP E990 および VSP G/F シリーズの場合に画面上に表示されます。 注※3 DKCMAIN プログラムバージョンが 88-08-01-XX/XX または 93-04-01-XX/XX 未満では、VSP 5000 シリーズの場合、画面上に機種名称は表示されません。8 を入力してください。 注※4 VSP E1090 と VSP 5000 シリーズを接続する構成では、VSP 5000 シリーズの Storage Navigator からリモートパス操作ができません。RAID Manager を使用してください。 上記以外の数値を指定した場合は、将来サポートされる予定のストレージシステムと見なされます。この場合、[リモート接続] 画面では、モデルには指定した数値を括弧で囲んだ形式（「(255)」など）で表示されます。
シリアル番号	リモートストレージシステムのシリアル番号を 10 進数で入力します。 - VSP One SDS Block : 200001～299999 メモ：ローカルストレージシステムのモデルが VSP E1090 の場合のみ。 - VSP E990, VSP Gx00 モデルおよび VSP Fx00 モデル : 400001～499999 - VSP E390, VSP E590, および VSP E790 : 600001～699999 - VSP E1090 : 700001～799999 - VSP One B20 : 800001～899999

項目	説明
	• HUS VM : 200001～265535 • VSP G1000、VSP G1500、VSP F1500、または VSP 5000 シリーズ : 1～99999 • 将来サポートされる予定のストレージシステム : 0～999999 メモ : 仮想ストレージマシン内のボリュームを使用するときも、ストレージシステムのシリアル番号を指定してください。仮想ストレージマシンのシリアル番号は指定できません。

[リモートパス]

項目	説明
パスグループ ID	パスグループ ID を 00～FF の間から選択します。登録できるパスグループ ID の数は 1 台のストレージシステムにつき 64 個までです。 VSP One SDS Block とのリモート接続を追加する場合は 01～FF を指定してください。
最小パス数	ローカルストレージシステムに接続した各リモートストレージシステムに必要な最小パス数を 1～8 の間で選択します。デフォルトは 1 です。 Universal Replicator の場合は、入力した数に関わらず、最小パス数は 1 です。
選択タイプ	ポートタイプを選択します。 • [Fibre] : ファイバチャネルポートです。 • [iSCSI] : iSCSI ポートです。
ポート名 (ローカルストレージシステム)	ローカルストレージシステムのポート名を選択します。
仮想ポート ID (ローカルストレージシステム)	ローカルストレージシステムの仮想ポート ID を表示します。 [選択タイプ] で [iSCSI] を選択したときだけ、表示されます。
ポート名 (リモートストレージシステム)	リモートストレージシステムのポート名を選択します。 最小パス数より有効なパス数が多い場合、[-] ボタンが表示されます。[-] ボタンをクリックすると、ローカルストレージシステムとリモートストレージシステムのポートのテキストボックスが削除されます。
IP アドレス	リモートストレージシステムのポートの IP 種別 ([IPv4] または [IPv6]) を選択して、IP アドレスを入力します。 [選択タイプ] で [iSCSI] を選択したときだけ表示されます。
TCP ポート番号	リモートストレージシステムのポートの TCP ポート番号を入力します。 [選択タイプ] で [iSCSI] を選択したときだけ表示されます。
パス追加	ボタンをクリックすると、パスが追加されます。最大で 8 つ追加できます。

[オプション]

項目	説明
RIO MIH 時間	RIO MIH 時間を 10～100 の間で入力します。 デフォルトは 15 です。
往復応答時間	往復応答時間を 1～500 の間で入力します。 デフォルトは 1 です。 指定した時間は、TrueCopy ペアおよび GAD ペアを使用するときだけに有効です。

B.8.2 「設定確認」画面

リモート接続追加

1. リモート接続追加 > 2. 確認

タスク名を入力してください。リストの設定を確認し、「適用」をクリックするとタスクがタスクキュー(実行待ちタスク)に追加されます。

タスク名:

170222-AddRemoteConnection

(最大32文字)

選択したリモート接続

リモートストレージシステム	パスグループ ID	リモートパス数	最小パス数	RIO MIH 時間 (秒)	往復応答時間 (ミリ秒)
VSP Gx00 and VSP Fx00 / 400001	00	2	1	15	1

選択したリモートパス

ローカル			リモート		
ポート名	ポートタイプ	仮想ポートID	ポート名	IPアドレス	TCPポート番号
CL1-B	iSCSI	0	CL1-A	10.202.185.64	220
CL3-B	iSCSI	0	CL3-A	10.202.185.65	221

合計: 2

☒ 「適用」をクリックした後にタスク画面を表示

戻る

次へ

適用

キャンセル

?

【選択したリモート接続】テーブル

項目	説明
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が表示されます。
パスグループ ID	パスグループの ID が表示されます。
リモートパス数	リモートパスの数が表示されます。
最小パス数	最小パス数が表示されます。
RIO MIH 時間(秒)	RIO MIH 時間が表示されます。
往復応答時間(ミリ秒)	往復応答時間が表示されます。

【選択したリモートパス】テーブル

項目	説明
ローカル	ローカルストレージシステムのポートに関する情報が表示されます。 [ポート名]: ポート名が表示されます。 [ポートタイプ]: ポートタイプが表示されます。 [Fibre]: ファイバチャネルポートです。 [iSCSI]: iSCSI ポートです。 [仮想ポート ID]: [ポートタイプ] が [iSCSI] のときに、仮想ポート ID が表示されます。
リモート	リモートストレージシステムのポートに関する情報が表示されます。 [ポート名]: ポート名が表示されます。 [IP アドレス]: [ポートタイプ] が [iSCSI] のときに、ポートの IP アドレスが表示されます。 [TCP ポート番号]: [ポートタイプ] が [iSCSI] のときに、ポートの TCP ポート番号が表示されます。

B.9 リモートレプリカオプション編集ウィザード

関連タスク

- 5.3 リモートレプリカオプションを変更する

B.9.1 [リモートレプリカオプション編集] 画面

リモートレプリカオプション編集

1. リモートレプリカオプション編集 > 2. 確認

このウィザードでプロパティを変更できます。新しい値を入力し、「完了」をクリックして内容を確認・終了してください。

コピータイプ: TC

ストレージシステムオプション:

最大形成コピー数: 1 (1-512)

バス開塞監視: 2 秒 (2-45)

バス開塞SIM監視: 2 秒 (2-100)

CUオプション:

最大形成コピー数: ☒ 有効 ☐ 無効

CU	最大形成コピー数
☒ 00	0
☐ 01	0
☐ 02	0
☐ 03	0
☐ 04	0
☐ 05	0
☐ 06	0

CUオプション/変更

選択数: 1 / 16

戻る 次へ 完了 キャンセル ?

情報設定エリア

項目	説明
コピータイプ	コピータイプを選択します。 [TC] [UR] [GAD]
最大形成コピー数	最大形成コピー数を、1～512 の間で入力します。デフォルトは 64 です。 [コピータイプ] で [GAD] を選択したときだけ、表示されます。

[ストレージシステムオプション]

[コピータイプ] で [GAD] を選択したときは、表示されません。

項目	説明
最大形成コピー数	最大形成コピー数を入力します。デフォルトは 64 です。

項目	説明
	TrueCopy ペアの場合は、1～512 の間で入力します。Universal Replicator ペアの場合は、1～128 の間で入力します。
パス閉塞監視	パス閉塞監視を 2～45 の間で入力します。デフォルトは 40 です。 TrueCopy ペアの場合だけ表示されます。 注意：global-active device および Universal Replicator でパスの閉塞を監視する場合、[コピータイプ] で [TC] を選択して、パス閉塞監視を 2～45 の間で入力してください。
パス閉塞 SIM 監視	パス閉塞 SIM 監視を 2～100 の間で入力します。デフォルトは 70 です。 TrueCopy ペアの場合だけ表示されます。 注意：global-active device および Universal Replicator でパスの閉塞によって報告される SIM を監視する場合、[コピータイプ] で [TC] を選択して、パス閉塞 SIM 監視を 2～100 の間で入力してください。

[CU オプション]

[コピータイプ] で [TC] を選択したときだけ、表示されます。

項目	説明
最大形成コピー数	最大形成コピー数を有効にするか選択します。デフォルトは [無効] です。 ・ [有効] ・ [無効]

[CU] テーブル

- ・ テーブル

項目	説明
CU	CU 番号が表示されます。
最大形成コピー数	最大形成コピー数が表示されます。デフォルトは 4 です。 表の上の [最大形成コピー数] で [無効] を選択した場合は、[－] が表示されます。 TrueCopy ペアの場合だけ表示されます。

- ・ ボタン

項目	説明
CU オプション変更	[CU オプション変更] 画面が表示されます。 表の上の [最大形成コピー数] で [無効] を選択した場合は、このボタンを選択できません。

B.9.2 [CU オプション変更] 画面

情報設定エリア

項目	説明
最大形成コピー数	最大形成コピー数を 1～16 の間で入力します。 TrueCopy ペアで、[リモートレプリカオプション編集] 画面の [CU オプション] の [最大形成コピー数] で [有効] を指定した場合に指定できます。

B.9.3 [設定確認] 画面

[TC ストレージシステムオプション] テーブル

[コピータイプ] で [TC] を選択したときに表示されます。

項目	説明
最大形成コピー数	最大形成コピー数が表示されます。
パス閉塞監視（秒）	パス閉塞監視が表示されます。
パス閉塞 SIM 監視（秒）	パス閉塞 SIM 監視が表示されます。

【UR ストレージシステムオプション】 テーブル

【コピータイプ】 で【UR】を選択したときに表示されます。

項目	説明
最大形成コピー数	最大形成コピー数が表示されます。

【GAD ストレージシステムオプション】 テーブル

【コピータイプ】 で【GAD】を選択したときに表示されます。

項目	説明
最大形成コピー数	最大形成コピー数が表示されます。

【CU オプション】 テーブル

【コピータイプ】 で【TC】を選択したときだけ、表示されます。

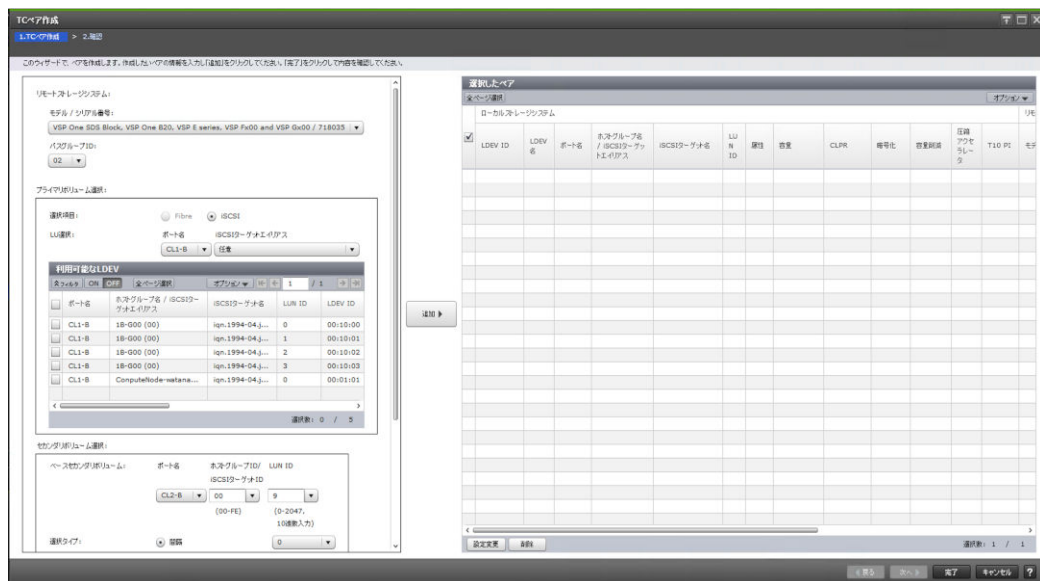
項目	説明
CU	CU 番号が表示されます。
最大形成コピー数	最大形成コピー数が表示されます。

B.10 ペア作成ウィザード

関連タスク

- ・ [6.4.2 TrueCopy ペアを作成する](#)

B.10.1 [TC ペア作成] 画面または [UR ペア作成] 画面



項目	説明
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムを選択します。 ・ [モデル/シリアル番号] : モデルとシリアル番号を選択します。 ・ [パスグループ ID] : パスグループの ID を選択します。

[プライマリボリューム選択]

項目	説明
UR ペアのボリュームを使用	Universal Replicator ペアで使用中のボリュームを使用するか選択します。 ・ [該当] : Universal Replicator ペアで使用中のボリュームを使用してペアを作成します。 ・ [非該当] : Universal Replicator ペアで使用中のボリュームを使用しないでペアを作成します。 Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。
選択項目	ローカルストレージシステムのポートを選択します。 ・ [Fibre] : Fibre ポートの LU を指定する場合に選択します。 ・ [iSCSI] : iSCSI ポートの LU を指定する場合に選択します。 Fibre ポートまたは iSCSI ポートの LU のどちらかだけある場合、自動でポートが選択されます。
LU 選択	ローカルストレージシステムの LU を選択します。 ・ [ポート名] : ポート名を選択します。 ・ [ホストグループ名] : ホストグループ名を選択します。[任意] を選択すると、[利用可能な LDEV] テーブルには指定ポート内のすべての LUN が表示されます。 [ポート名] で Fibre ポートを選択したときに表示されます。 ・ [iSCSI ターゲットエイリアス] : iSCSI ターゲットエイリアスを選択します。[任意] を選択すると、[利用可能な LDEV] テーブルには指定ポート内のすべての LUN が表示されます。

項目	説明
	[ポート名] で iSCSI ポートを選択したときに表示されます。

【利用可能な LDEV】 テーブル

TrueCopy ペアの場合だけ表示されます。

項目	説明
ポート名	ポート名が表示されます。
ホストグループ名/ iSCSI ターゲットエイ リアス	ホストグループ名または iSCSI ターゲットエイリアスが表示されます。
iSCSI ターゲット名	iSCSI ターゲット名が表示されます。
LUN ID	LUN ID が表示されます。
LDEV ID	LDEV ID が表示されます。
LDEV 名	LDEV 名が表示されます。
プロビジョニングタ イプ	プロビジョニングタイプが表示されます。
属性	ボリュームの属性が表示されます。 ・ [ALU] : ALU 属性が設定されています。 ・ [SLU] : SLU 属性が設定されています。 ・ [データダイレクトマップ] : データダイレクトマップ属性が設定されています。 ・ [ー] : 属性は設定されていません。 TrueCopy ペアの場合だけ表示されます。
容量	ボリュームの容量が表示されます。
CLPR	CLPR ID が表示されます。
暗号化	暗号化の情報が表示されます。 ・ [有効] : LDEV の属するパリティグループの暗号化設定が有効です。または、暗号化設定が有効なプールボリュームのプールに関連付けられた仮想ボリュームです。 ・ [無効] : LDEV の属するパリティグループの暗号化設定が無効です。または、暗号化設定が無効なプールボリュームのプールに関連付けられた仮想ボリュームです。 ・ [混在] : LDEV の属するプールに次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 ◦ 暗号化が有効なボリューム ◦ 暗号化が無効なボリューム ◦ 外部ボリューム 注意:混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ・ [ー] : 外部ボリュームです。 Dynamic Provisioning の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。
容量削減	容量削減機能の情報が表示されます。 ・ [圧縮] : 圧縮機能を使用します。

項目	説明
	・ [重複排除および圧縮]：重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ・ [無効]：容量削減機能を使用しません。
圧縮アクセラレータ※	圧縮アクセラレータの設定が表示されます。 ・ [有効]：圧縮アクセラレータの設定が有効です。 ・ [無効]：圧縮アクセラレータの設定が無効です。 ・ [－]：圧縮アクセラレータが設定できない LDEV です。または、圧縮アクセラレータが設定できる LDEV で、容量削減が [無効] かつ、容量削減状態が [Disabled] の状態です。
T10 PI	ボリュームの T10 PI 属性の情報が表示されます。 ・ [有効]：ボリュームの T10 PI 属性が有効になっています。 ・ [無効]：ボリュームの T10 PI 属性が無効になっています。

注※

VSP E1090 のみ表示されます。

[利用可能なプライマリボリューム] テーブル

Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。

項目	説明
ポート名	ポート名が表示されます。
ホストグループ名/ iSCSI ターゲットエイリアス	ホストグループ名または iSCSI ターゲットエイリアスが表示されます。
iSCSI ターゲット名	iSCSI ターゲット名が表示されます。
LUN ID	LUN ID が表示されます。
LDEV ID	LDEV ID が表示されます。
LDEV 名	LDEV 名が表示されます。
ペア位置	ボリュームが、ペアのプライマリボリュームかセカンダリボリュームであるかが表示されます。ペアを組んでいないボリュームの場合、空白が表示されます。
ジャーナル ID	ジャーナル ID が表示されます。ペアを組んでいないボリュームの場合、空白が表示されます。
ミラー ID	ミラー ID が表示されます。ペアを組んでいないボリュームの場合、空白が表示されます。
プロビジョニングタイプ	プロビジョニングタイプが表示されます。
属性	ボリュームの属性が表示されます。 ・ [ALU]：ALU 属性が設定されています。 ・ [SLU]：SLU 属性が設定されています。 ・ [データダイレクトマップ]：データダイレクトマップ属性が設定されています。 ・ [－]：属性は設定されていません。
容量	ボリュームの容量が表示されます。
CLPR	CLPR ID が表示されます。
暗号化	暗号化の情報が表示されます。

項目	説明
	・ [有効] : LDEV の属するパリティグループの暗号化設定が有効です。または、暗号化設定が有効なプールボリュームのプールに関連付けられた仮想ボリュームです。 ・ [無効] : LDEV の属するパリティグループの暗号化設定が無効です。または、暗号化設定が無効なプールボリュームのプールに関連付けられた仮想ボリュームです。 ・ [混在] : LDEV の属するプールに次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 ◦ 暗号化が有効なボリューム ◦ 暗号化が無効なボリューム ◦ 外部ボリューム 注意 : 混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ・ [ー] : 外部ボリュームまたはマイグレーションボリュームです。 Dynamic Provisioning の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。
容量削減	容量削減機能の情報が表示されます。 ・ [圧縮] : 圧縮機能を使用します。 ・ [重複排除および圧縮] : 重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ・ [無効] : 容量削減機能を使用しません。
圧縮アクセラレータ※	圧縮アクセラレータの設定が表示されます。 ・ [有効] : 圧縮アクセラレータの設定が有効です。 ・ [無効] : 圧縮アクセラレータの設定が無効です。 ・ [ー] : 圧縮アクセラレータが設定できない LDEV です。または、圧縮アクセラレータが設定できる LDEV で、容量削減が [無効] かつ、容量削減状態が [Disabled] の状態です。
ペアボリューム	ペアボリュームの情報が表示されます。ペアで使用していないボリュームの場合、空白が表示されます。 ・ [モデル/シリアル番号] : モデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [LDEV ID] : LDEV ID が表示されます。 ・ [ポート名] : ボリュームのポート名が表示されます。 ・ [ホストグループ ID/iSCSI ターゲット ID] : ボリュームのホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID が表示されます。 ・ [LUN ID] : ボリュームの LUN ID が表示されます。

注※

VSP E1090 のみ表示されます。

[セカンダリボリューム選択]

項目	説明
ベースセカンダリボリューム	ベースセカンダリボリュームに関する情報を指定します。 ・ [ポート名] : ポート名を選択します。 ・ [ホストグループ ID/iSCSI ターゲット ID] : ホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID を選択します。

項目	説明
	・ [LUN ID] : LUN ID を選択します。
選択タイプ	選択タイプを選択します。デフォルトは [間隔] です。 ・ [間隔] : セカンダリボリュームを割り当てる間隔を選択します。 ・ [プライマリボリューム相対] : 隣接しているプライマリボリューム 2 つの LUN の差を計算し、その結果を基にセカンダリボリュームの LUN を決めます。例えば、3 つのプライマリボリュームの LUN がそれぞれ 01、05、06 だとします。この場合、[ベースセカンダリボリューム] の [LUN] に 02 を指定すると、3 つのセカンダリボリュームの LUN は、それぞれ 02、06、07 になります。

[ミラー選択]

Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。

項目	説明
マスタジャーナル	プライマリボリューム割り当てるマスタジャーナルを選択します。登録済み (リストアジャーナルを除く) のジャーナル ID が表示されます。
ミラー ID	ボリュームペアに割り当てるミラー ID を選択します。
リストアジャーナル	セカンダリボリュームに割り当てるリストアジャーナルを選択します。すべてのジャーナル ID(000~0FF)が表示されます。
現在のマスタジャーナルミラー数	マスタジャーナルに登録されているミラーの数が表示されます。
マスタジャーナルミラー合計数	次の数値の合計が表示されます。 ・ マスタジャーナルに登録されているミラーの数 ・ [UR ペア作成] 画面で追加するミラーの数 ・ [選択したペア] テーブルに表示されているボリュームのミラーの数
CTG ID	コンシステンシーグループを選択します。 ストレージシステムに登録済みのコンシステンシーグループおよび [選択したペア] テーブルに表示されているコンシステンシーグループにはアスタリスク (*) が付きます。

[オプション]

項目	説明
プライマリボリュームフェンスレベル	フェンスレベルを選択します。デフォルトは [なし] です。 ・ [なし] : ペアを分割しても、プライマリボリュームに書き込めます。 ・ [セカンダリボリュームデータ] : 更新コピーが失敗したときに、プライマリボリュームに書き込めなくなります。 ・ [セカンダリボリューム状態] : ローカルストレージシステムがセカンダリボリュームのペアの状態を PSUE に変更できない場合にだけ、プライマリボリュームに書き込めなくなります。 TrueCopy ペアの場合だけ表示されます。
形成コピータイプ	ペア作成操作のタイプを選択します。デフォルトは [全てコピー] です。 ・ [全てコピー] : ペアを作成し、プライマリボリュームからセカンダリボリュームヘデータをコピーします。 ・ [なし] : ペアを作成しますが、プライマリボリュームからセカンダリボリュームヘデータは一切コピーしません。[なし] を選択する場合は、プライマリボリュームとセカンダリボリュームが等しいことを確認してください。

項目	説明
	・ [デルタ] : ペアを作成しても、形成コピーは実行されません。作成したペアは、デルタリシンク用のペアとして、HOLD または HOLDING 状態になります。Universal Replicator ペアの場合だけ選択できます。
コピー速度	1 回のリモート I/O でコピーする最大トラック数を入力します。指定できる範囲は 1~4 です。デフォルトは 15 です。 ・ 1 は低速で、ホスト I/O への影響軽減に使用されます。 ・ 2~3 は中間的速度です。 ・ 4 は高速です。ホスト I/O 性能が低下するおそれがあります。 注意 : 5~15 を入力した場合、4 として設定されます。 TrueCopy ペアまたは GAD ペアの場合だけ表示されます。
形成コピー優先度	ペア作成操作の優先順位を 1~256 の 10 進数で入力します。デフォルトは 32 です。GAD ペアの場合は、表示されません。
エラーレベル	障害発生時のペア分割の範囲を選択します。デフォルトは [ミラー] です。 ・ [ミラー] : このペアに障害が発生すると、このペアと同じミラー内のペアがすべて分割されます。 ・ [LU] : このペアに障害が発生すると、このペアだけが分割されます。 Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。

【追加】 ボタン

左のエリアで指定したペアを、[選択したペア] テーブルに追加します。

【選択したペア】 テーブル

- ・ テーブル

項目	説明
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムのボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名] : LDEV 名が表示されます。 ・ [ポート名] : ボリュームのポート名が表示されます。 ・ [ホストグループ名/iSCSI ターゲットエイリアス] : ボリュームのホストグループ名または iSCSI ターゲットエイリアスが表示されます。 ・ [iSCSI ターゲット名] : ボリュームの iSCSI ターゲット名が表示されます。 ・ [LUN ID] : ボリュームの LUN ID が表示されます。 ・ [ペア位置] : ボリュームが、ペアのプライマリボリュームかセカンダリボリュームであるかが表示されます。 Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。 ・ [属性] : ボリュームの属性が表示されます。 ◦ [ALU] : ALU 属性が設定されています。 ◦ [SLU] : SLU 属性が設定されています。 ◦ [データダイレクトマップ] : データダイレクトマップ属性が設定されています。 ◦ [ー] : 属性は設定されていません。 ・ [ジャーナル ID] : ボリュームのジャーナル ID が表示されます。 Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。 ・ [ミラー ID] : ボリュームのミラー ID が表示されます。

項目	説明
	Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。 • [容量]：ボリュームの容量が表示されます。 • [CLPR]：ボリュームの CLPR ID が表示されます。 • [暗号化]：暗号化の情報が表示されます。 ◦ [有効]：LDEV の属するパリティグループの暗号化設定が有効です。または、暗号化設定が有効なプールボリュームのプールに関連付けられた仮想ボリュームです。 ◦ [無効]：LDEV の属するパリティグループの暗号化設定が無効です。または、暗号化設定が無効なプールボリュームのプールに関連付けられた仮想ボリュームです。 ◦ [混在]：LDEV の属するプールに次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 • 暗号化が有効なボリューム • 暗号化が無効なボリューム • 外部ボリューム 注意：混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ◦ [－]：外部ボリュームです。 Dynamic Provisioning の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。 • [ジャーナル暗号化]：ジャーナルの暗号化状態が表示されます。 ◦ [有効]：暗号化ボリュームで作成されたジャーナルです。 ◦ [無効]：非暗号化ボリュームで作成されたジャーナルです。 ◦ [混在]：ジャーナルボリュームの属するプールに次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 • 暗号化が有効なボリューム • 暗号化が無効なボリューム • 外部ボリューム 注意：混在している状態のジャーナルではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] のジャーナルを使用してください。 ◦ [－]：ジャーナルボリュームが属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しているプールです。 Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。 • [容量削減]：容量削減機能の情報が表示されます。 ◦ [圧縮]：圧縮機能を使用します。 ◦ [重複排除および圧縮]：重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ◦ [無効]：容量削減機能を使用しません。 • [圧縮アクセラレータ] ※：圧縮アクセラレータの設定が表示されます。 ◦ [有効]：圧縮アクセラレータの設定が有効です。 ◦ [無効]：圧縮アクセラレータの設定が無効です。 ◦ [－]：圧縮アクセラレータが設定できない LDEV です。または、圧縮アクセラレータが設定できる LDEV で、容量削減が [無効] かつ、容量削減状態が [Disabled] の状態です。 • [T10 PI]：ボリュームの T10 PI 属性の情報が表示されます。 ◦ [有効]：ボリュームの T10 PI 属性が有効になっています。 ◦ [無効]：ボリュームの T10 PI 属性が無効になっています。

項目	説明
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムに関する情報が表示されます。 ・ [モデル/シリアル番号] : モデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [ポート名] : ポート名が表示されます。 ・ [ホストグループ ID/iSCSI ターゲット ID] : ホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID が表示されます。 ・ [LUN ID] : LUN ID が表示されます。 ・ [ジャーナル ID] : ボリュームのジャーナル ID が表示されます。 Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。
バスグループ ID	バスグループ ID が表示されます。
フェンスレベル	フェンスレベルが表示されます。 TrueCopy ペアの場合だけ表示されます。
CTG ID	コンシステンシーグループ ID が表示されます。 Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。
形成コピータイプ	ペア作成操作のタイプが表示されます。
コピー速度	1 回のリモート I/O でコピーする最大トラック数が表示されます。 TrueCopy ペアの場合だけ表示されます。
形成コピー優先度	ペア作成操作の優先順位が 1～256 の 10 進数で表示されます。
エラーレベル	障害発生時のペア分割の範囲が表示されます。 Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。

注※

VSP E1090 のみ表示されます。

- ・ ボタン

項目	説明
設定変更	〔設定変更〕画面が表示されます。
削除	指定したペアを〔選択したペア〕テーブルから削除します。

B.10.2 〔設定変更〕画面

設定変更

このウィザードで1つ又はそれ以上のプロパティを編集できます。編集したいプロパティのチェックボックスをチェックし、新しい値を入力してください。

☒ ベースカンダリボリューム:

ポート名: CL1-A

ホストグループID/iSCSIターゲットID: 00

LUN ID: 0

(00-FE) (0-2047, 10進数入力)

間隔: 0

☐ プライマリボリュームフェンスレベル:

☐ 形成コピータイプ: 全てコピー

☐ コピー速度: 15

☐ 形成コピー優先度: 32

(1-15) (1-256)

OK キャンセル ?

情報設定エリア

項目	説明
ベースセカンダリボリューム	ベースセカンダリボリュームの設定を変更するときにチェックボックスを選択します。 ・ [ポート名] : ポート名を選択します。 ・ [ホストグループ ID/iSCSI ターゲット ID] : ホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID を選択します。 ・ [LUN ID] : LUN ID を選択します。 ・ [間隔] : 間隔を選択します。
プライマリボリュームフェンスレベル	フェンスレベルを選択します。 ・ [なし] : ペアを分割しても、プライマリボリュームに書き込みます。 ・ [セカンダリボリュームデータ] : 更新コピーが失敗したときに、プライマリボリュームに書き込みなくなります。 ・ [セカンダリボリューム状態] : ローカルストレージシステムがセカンダリボリュームのペアの状態を PSUE に変更できない場合にだけ、プライマリボリュームに書き込みなくなります。 TrueCopy ペアの場合だけ表示されます。
形成コピータイプ	ペア作成操作のタイプを選択します。 ・ [全てコピー] : ペアを作成し、プライマリボリュームからセカンダリボリュームヘデータをコピーします。 ・ [なし] : ペアを作成しますが、プライマリボリュームからセカンダリボリュームヘデータは一切コピーしません。[なし] を選択する場合は、プライマリボリュームとセカンダリボリュームが等しいことを確認してください。 ・ [デルタ] : ペアを作成しても、形成コピーは実行されません。作成したペアは、デルタリシンク用のペアとして、HOLD または HOLDING 状態になります。 Universal Replicator ペアの場合だけ選択できます。
コピー速度	1 回のリモート I/O でコピーする最大トラック数を入力します。指定できる範囲は 1～4 です。デフォルトは 15 です。 ・ 1 は低速で、ホスト I/O への影響軽減に使用されます。 ・ 2～3 は中間的速度です。 ・ 4 は高速です。ホスト I/O 性能が低下するおそれがあります。 注意 : 5～15 を入力した場合、4 として設定されます。 TrueCopy ペアまたは GAD ペアの場合だけ表示されます。
ALUA モード	ALUA モードを有効にするか選択します。 ・ [有効] : LDEV は ALUA で使用する。 ・ [無効] : LDEV は ALUA で使用しない。 GAD ペアの場合だけ表示されます。
形成コピー優先度	ペア作成操作の優先順位を 1～256 の 10 進数で入力します。 GAD ペアの場合は、表示されません。
エラーレベル	障害発生時のペア分割の範囲を選択します。 ・ [LU] : このペアに障害が発生すると、このペアだけが分割されます。 ・ [ミラー] : このペアに障害が発生すると、このペアと同じミラー内のペアがすべて分割されます。 Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。

B.10.3 [設定確認] 画面

[illegible]

〔選択したペア〕 テーブル

項目	説明
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムに関する情報が表示されます。 • [LDEV ID] : LDEV ID が表示されます。 • [LDEV 名] : LDEV 名が表示されます。 • [ポート名] : ボリュームのポート名が表示されます。 • [ホストグループ名/iSCSI ターゲットエイリアス] : ボリュームのホストグループ名または iSCSI ターゲットエイリアスが表示されます。 • [iSCSI ターゲット名] : ボリュームの iSCSI ターゲット名が表示されます。 • [LUN ID] : ボリュームの LUN ID が表示されます。 • [ペア位置] : ボリュームが、ペアのプライマリボリュームかセカンダリボリュームであるかが表示されます。 Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。 • [ジャーナル ID] : ボリュームのジャーナル ID が表示されます。 Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。 • [ミラー ID] : ボリュームのミラー ID が表示されます。 Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。 • [属性] : LDEV の属性が表示されます。 ◦ [－] : 属性が設定されていない LDEV です。 • [容量] : ボリュームの容量が表示されます。 • [CLPR] : ボリュームの CLPR ID が表示されます。 • [暗号化] : 暗号化の情報が表示されます。 ◦ [有効] : LDEV の属するパリティグループの暗号化設定が有効です。または、暗号化設定が有効なプールボリュームのプールに関連付けられた仮想ボリュームです。

項目	説明
	◦ [無効]: LDEV の属するパリティグループの暗号化設定が無効です。または、暗号化設定が無効なプールボリュームのプールに関連付けられた仮想ボリュームです。 ◦ [混在]: LDEV の属するプールに次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 ・暗号化が有効なボリューム ・暗号化が無効なボリューム ・外部ボリューム 注意: 混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ◦ [-]: 外部ボリュームです。 Dynamic Provisioning の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。 • [ジャーナル暗号化]: ジャーナルの暗号化状態が表示されます。 ◦ [有効]: 暗号化ボリュームで作成されたジャーナルです。 ◦ [無効]: 非暗号化ボリュームで作成されたジャーナルです。 ◦ [混在]: ジャーナルボリュームの属するプールに次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 ・暗号化が有効なボリューム ・暗号化が無効なボリューム ・外部ボリューム 注意: 混在している状態のジャーナルではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] のジャーナルを使用してください。 ◦ [-]: ジャーナルボリュームが属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しているプールです。 Universal Replicator ペアの場合だけ表示されます。 • [容量削減]: 容量削減機能の情報が表示されます。 ◦ [圧縮]: 圧縮機能を使用します。 ◦ [重複排除および圧縮]: 重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ◦ [無効]: 容量削減機能を使用しません。 • [圧縮アクセラレータ] ※: 圧縮アクセラレータの設定が表示されます。 ◦ [有効]: 圧縮アクセラレータの設定が有効です。 ◦ [無効]: 圧縮アクセラレータの設定が無効です。 ◦ [-]: 圧縮アクセラレータが設定できない LDEV です。または、圧縮アクセラレータが設定できる LDEV で、容量削減が [無効] かつ、容量削減状態が [Disabled] の状態です。 • [T10 PI]: ボリュームの T10 PI 属性の情報が表示されます。 ◦ [有効]: ボリュームの T10 PI 属性が有効になっています。 ◦ [無効]: ボリュームの T10 PI 属性が無効になっています。
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムに関する情報が表示されます。 • [モデル/シリアル番号]: モデルとシリアル番号が表示されます。 • [ポート名]: ポート名が表示されます。 • [ホストグループ ID/iSCSI ターゲット ID]: ホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID が表示されます。 • [LUN ID]: LUN ID が表示されます。 • [ジャーナル ID]: ボリュームのジャーナル ID が表示されます。

「選択したペア」テーブル

項目	説明
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムのボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名] : LDEV 名が表示されます。 ・ [ペア位置] : ボリュームがプライマリボリュームかセカンダリボリュームかが表示されます。 ・ [属性] : LDEV の属性が表示されます。 ・ [容量] : ボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR] : ボリュームの CLPR ID が表示されます。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。
状態	ペア状態が表示されます。
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムに関する情報が表示されます。 ・ [モデル/シリアル番号] : モデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [LDEV ID] : ボリュームの LDEV ID が表示されます。
パスグループ ID	パスグループ ID が表示されます。
CTG ID	コンシステンシーグループ ID が表示されます。
CTG 利用	複数組のストレージシステムがコンシステンシーグループを共有しているかどうかが表示されます。 ・ [Single] : 1 組のストレージシステムで構成されているコンシステンシーグループです。 ・ [Multi] : 複数組のストレージシステムで構成されているコンシステンシーグループです。
フェンスレベル	フェンスレベルが表示されます。

情報設定エリア

項目	説明
セカンダリボリューム書き込み	セカンダリボリュームへの書き込みを有効にするかどうかを選択します。デフォルトは [無効] です。 選択したボリュームがプライマリボリュームの場合にだけ有効です。セカンダリボリュームの場合は、指定した内容に関わらず [無効] が適用されます。 ・ [有効] : ローカルストレージシステムから分割された該当ペアのセカンダリボリュームは、Read や Write の I/O を受信できます。[有効] を選択し、ペアをあとで再同期させたい場合は、確実にプライマリボリュームとセカンダリボリュームの差分ビットマップがローカルストレージシステムに反映されるよう、[プライマリボリューム書き込み] で [プライマリボリュームフェンスレベルによる] を選択してください。 ・ [無効] : ローカルストレージシステムから分割された該当ペアのセカンダリボリュームは、Read や Write の I/O を受信できません。
プライマリボリューム書き込み	プライマリボリュームへの書き込みを有効にするかどうかを選択します。デフォルトは [プライマリボリュームフェンスレベルによる] です。 選択したボリュームがプライマリボリュームの場合にだけ有効です。セカンダリボリュームの場合は、指定した内容に関わらず [プライマリボリュームフェンスレベルによる] が適用されます。 ・ [プライマリボリュームフェンスレベルによる] : フェンスレベルの設定値に従って、プライマリボリュームへの書き込みを有効にするかどうかを選択します。

項目	説明
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムのボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名] : LDEV 名が表示されます。 ・ [属性] : LDEV の属性が表示されます。 ・ [容量] : ボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR] : ボリュームの CLPR ID が表示されます。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。
状態	ペア状態が表示されます。
コピー優先度	ペア再同期操作の優先順位が表示されます。
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムに関する情報が表示されます。 ・ [モデル/シリアル番号] : モデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [LDEV ID] : ボリュームの LDEV ID が表示されます。
バスグループ ID	バスグループ ID が表示されます。
CTG ID	コンシステンシーグループ ID が表示されます。
CTG 利用	複数組のストレージシステムがコンシステンシーグループを共有しているかどうかが表示されます。 ・ [Single] : 1 組のストレージシステムで構成されているコンシステンシーグループです。 ・ [Multi] : 複数組のストレージシステムで構成されているコンシステンシーグループです。

- ・ スピンボックス

項目	説明
コピー優先度	コピー優先度を変更したいペアを選択し、優先度を 1～256 から指定します。[変更] をクリックすると、[選択したペア] テーブルに反映されます。

情報設定エリア

項目	説明
プライマリボリュームフェンスレベル	フェンスレベルを選択します。デフォルトは [なし] です。 ・ [なし] : ペアを分割しても、プライマリボリュームに書き込めます。 ・ [セカンダリボリュームデータ] : 更新コピーが失敗したときに、プライマリボリュームに書き込めなくなります。 ・ [セカンダリボリューム状態] : ローカルストレージシステムがセカンダリボリュームのペアの状態を PSUE に変更できない場合にだけ、プライマリボリュームに書き込めなくなります。
コピー速度	1 回のリモート I/O でコピーする最大トラック数を入力します。指定できる範囲は 1～4 です。デフォルトは 15 です。 ・ 1 は低速で、ホスト I/O への影響軽減に使用されます。 ・ 2～3 は中間的速度です。 ・ 4 は高速です。ホスト I/O 性能が低下するおそれがあります。 注意 : 5～15 を入力した場合、4 として設定されます。

B.12.2 [設定確認] 画面

[illegible]

〔選択したペア〕 テーブル

項目	説明
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムのボリュームに関する情報が表示されます。 • [LDEV ID] : LDEV ID が表示されます。 • [LDEV 名] : LDEV 名が表示されます。 • [属性] : LDEV の属性が表示されます。 • [容量] : ボリュームの容量が表示されます。 • [CLPR] : ボリュームの CLPR ID が表示されます。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。
状態	ペア状態が表示されます。
フェンスレベル	フェンスレベルが表示されます。
コピー速度	1 回のリモート I/O でコピーする最大トラック数が表示されます。
コピー優先度	再同期操作の優先順位が表示されます。
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムに関する情報が表示されます。 • [モデル/シリアル番号] : モデルとシリアル番号が表示されます。 • [LDEV ID] : ボリュームの LDEV ID が表示されます。
パスグループ ID	パスグループ ID が表示されます。
CTG ID	コンシステンシーグループ ID が表示されます。
CTG 利用	複数組のストレージシステムがコンシステンシーグループを共有しているかどうかが表示されます。 • [Single] : 1 組のストレージシステムで構成されているコンシステンシーグループです。

項目	説明
	[Multi]：複数組のストレージシステムで構成されているコンシステンシーグループです。

B.13 ペア削除ウィザード

関連概念

- 6.7 TrueCopy ペアの削除

B.13.1 [ペア削除] 画面

[選択したペア] テーブル

項目	説明
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムに関する情報が表示されます。 [LDEV ID]：ボリュームの LDEV ID が表示されます。 [LDEV 名]：ボリュームの LDEV 名が表示されます。 [ペア位置]：ボリュームがプライマリボリュームかセカンダリボリュームかが表示されます。 [属性]：LDEV の属性が表示されます。 [容量]：ボリュームの容量が表示されます。 [CLPR]：ボリュームの CLPR ID が表示されます。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。
状態	ペア状態が表示されます。

[選択したペア] テーブル

項目	説明
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムに関する情報が表示されます。 • [LDEV ID] : ボリュームの LDEV ID が表示されます。 • [LDEV 名] : ボリュームの LDEV 名が表示されます。 • [ペア位置] : ボリュームがプライマリボリュームかセカンダリボリュームかが表示されます。 • [属性] : LDEV の属性が表示されます。 • [容量] : ボリュームの容量が表示されます。 • [CLPR] : ボリュームの CLPR ID が表示されます。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。
状態	ペア状態が表示されます。
削除モード	削除モードが表示されます。
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムに関する情報が表示されます。 • [モデル/シリアル番号] : モデルとシリアル番号が表示されます。 • [LDEV ID] : ボリュームの LDEV ID が表示されます。
パスグループ ID	パスグループ ID が表示されます。
CTG ID	コンシステンシーグループ ID が表示されます。
CTG 利用	複数組のストレージシステムがコンシステンシーグループを共有しているかどうかが表示されます。 • [Single] : 1 組のストレージシステムで構成されているコンシステンシーグループです。 • [Multi] : 複数組のストレージシステムで構成されているコンシステンシーグループです。
フェンスレベル	フェンスレベルが表示されます。

B.14 ペアオプション編集ウィザード

B.14.1 [ペアオプション編集] 画面

ペアオプション編集

1. ペアオプション編集 > 2. 確認

このウィザードで、選択したペアのプライマリボリュームフェンスレベルを変更できます。
新しい値を選択した後、「完了」をクリックして内容を確認・終了してください。

プライマリボリュームフェンスレベル:

なし

戻る

次へ

完了

キャンセル

?

情報設定エリア

項目	説明
プライマリボリュームフェンスレベル	フェンスレベルを選択します。デフォルトは、選択したペアに設定されている値です。 ・ [なし] : ペアを分割しても、プライマリボリュームに書き込めます。 ・ [セカンダリボリュームデータ] : 更新コピーが失敗したときに、プライマリボリュームに書き込めなくなります。 ・ [セカンダリボリューム状態] : ローカルストレージシステムがセカンダリボリュームのペアの状態を PSUE に変更できない場合にだけ、プライマリボリュームに書き込めなくなります。

B.14.2 「設定確認」画面

ペアオプション編集

1. ペアオプション編集 > 2. 確認

タスク名を入力してください。
リストの設定を確認し、「適用」をクリックするとタスクがタスクキュー（実行待ちタスク）に追加されます。

タスク名: 150526-EditPairOptions
(最大32文字)

選択したペア							フェール
ローカルストレージシステム							コピータイプ
LDEV ID	LDEV名	ペア位置	属性	容量	CLPR		
00:00:14		プライマリ	-	1.00 GB	0:CLPR...	TC	セカ

合計: 1

☐ 「適用」をクリックした時にタスク画面を表示

戻る 次へ 適用 キャンセル ?

「選択したペア」テーブル

項目	説明
ローカルストレージシステム	ローカルストレージシステムに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : ボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名] : ボリュームの LDEV 名が表示されます。 ・ [ペア位置] : ボリュームがプライマリボリュームかセカンダリボリュームかが表示されます。 ・ [属性] : LDEV の属性が表示されます。 ・ [容量] : ボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR] : ボリュームの CLPR ID が表示されます。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。
フェンスレベル	フェンスレベルが表示されます。
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムに関する情報が表示されます。 ・ [モデル/シリアル番号] : モデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [LDEV ID] : ボリュームの LDEV ID が表示されます。
パスグループ ID	パスグループ ID が表示されます。 TrueCopy ペアの場合だけ表示されます。

B.15 リモートパス追加ウィザード

関連タスク

- ・ [7.2.4 TrueCopy のリモートパスを追加する](#)

B.15.1 「リモートパス追加」画面

- ・ 「選択タイプ」で「Fibre」を選択したとき

The screenshot shows the 'Remote Path Addition' wizard at step 2, 'Confirmation'. The interface is divided into two main sections: 'Local Storage System' and 'Remote Storage System'. The 'Local Storage System' section displays 'モデル: VSP F370' and 'シリアル番号: 403003'. The 'Remote Storage System' section displays 'モデル: VSP Gx00 and VSP Fx00 (18)' and 'シリアル番号: 403003'. Below these sections is a 'Remote Path' configuration area. It includes fields for 'パスグループID: 02', '最小パス数: 1', and '合計パス数: 2'. The '選択タイプ' (Selection Type) is set to 'Fibre' (radio button selected). Underneath, there are two 'ポート名' (Port Name) dropdown menus, both showing 'CLS-A'. A '+ パス追加' (Add Path) button is located at the bottom of the configuration area. The bottom of the window features navigation buttons: '戻る' (Back), '次へ' (Next), '完了' (Finish), 'キャンセル' (Cancel), and a help icon.

- ・ 「選択タイプ」で「iSCSI」を選択したとき

The screenshot shows the 'Remote Path Addition' wizard at step 2, 'Confirmation', with the 'iSCSI' selection type chosen. The 'Local Storage System' and 'Remote Storage System' information remains the same as in the previous screenshot. In the 'Remote Path' configuration area, the '選択タイプ' is now 'iSCSI' (radio button selected). The 'ポート名' dropdown menu shows '仮想ポートID' (Virtual Port ID). To the right, there are additional fields for 'IPアドレス' (IP Address) and 'TCPポート番号' (TCP Port Number), with a dropdown menu set to 'IPv4'. The '+ パス追加' button is still present. The bottom navigation bar is identical to the previous screenshot.

[ローカルストレージシステム]

項目	説明
モデル	ローカルストレージシステムのモデルが表示されます。
シリアル番号	ローカルストレージシステムのシリアル番号が表示されます。

[リモートストレージシステム]

項目	説明
モデル	リモートストレージシステムのモデルが表示されます。
シリアル番号	リモートストレージシステムのシリアル番号が表示されます。

[リモートパス]

項目	説明
パスグループ ID	パスグループの ID が表示されます。
最小パス数	最小パス数が表示されます。
合計パス数	合計パス数が表示されます。 リモート接続に登録済みのパス数と追加するパス数（空行を含む）の合計が表示されます。
選択タイプ	ポートタイプを選択します。デフォルトは [Fibre] です。 • [Fibre] : ファイバチャネルポートです。 • [iSCSI] : iSCSI ポートです。
ポート名 (ローカルストレージシステム)	ローカルストレージシステムのポート名を選択します。
仮想ポート ID (ローカルストレージシステム)	ローカルストレージシステムの仮想ポート ID を表示します。 [選択タイプ] で [iSCSI] を選択したときだけ、表示されます。
ポート名 (リモートストレージシステム)	リモートストレージシステムのポート名を選択します。 最小パス数より有効なパス数が多い場合、[-] ボタンが表示されます。[-] ボタンをクリックすると、ローカルストレージシステムとリモートストレージシステムのポートのテキストボックスが削除されます。
IP アドレス	リモートストレージシステムのポートの IP 種別 ([IPv4] または [IPv6]) を選択して、IP アドレスを入力します。 [選択タイプ] で [iSCSI] を選択したときだけ表示されます。
TCP ポート番号	リモートストレージシステムのポートの TCP ポート番号を入力します。 [選択タイプ] で [iSCSI] を選択したときだけ表示されます。
パス追加	ボタンをクリックすると、パスが追加されます。最大で 8 つ追加できます。

B.15.2 [設定確認] 画面

[illegible]

〔選択したリモート接続〕 テーブル

項目	説明
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が表示されます。
パスグループ ID	パスグループの ID が表示されます。
チャンネルタイプ	リモート接続のチャンネルタイプが表示されます。 ・ [Fibre] : リモート接続内のすべてのリモートパスのポートタイプが Fibre です。 ・ [iSCSI] : リモート接続内のすべてのリモートパスのポートタイプが iSCSI です。 ・ [混在] : リモート接続内に、ポートタイプが Fibre のリモートパスと、iSCSI のリモートパスが混在しています。
リモートパス数	リモートパスの数が表示されます。 既存のパス数に追加するパス数を足した値が表示されます。
最小パス数	最小パス数が表示されます。

〔選択したリモートパス〕 テーブル

項目	説明
ローカル	ローカルストレージシステムのポートに関する情報が表示されます。 ・ [ポート名] : ポート名が表示されます。 ・ [ポートタイプ] : ポートタイプが表示されます。 ◦ [Fibre] : ファイバチャネルポートです。 ◦ [iSCSI] : iSCSI ポートです。

項目	説明
	・ [仮想ポート ID] : [ポートタイプ] が [iSCSI] のときに、仮想ポート ID が表示されます。
リモート	リモートストレージシステムのポートに関する情報が表示されます。 ・ [ポート名] : ポート名が表示されます。 ・ [IP アドレス] : [ポートタイプ] が [iSCSI] のときに、リモートストレージシステムのポートの IP アドレスが表示されます。 ・ [TCP ポート番号] : [ポートタイプ] が [iSCSI] のときに、リモートストレージシステムのポートの TCP ポート番号が表示されます。

B.16 リモートパス削除ウィザード

関連タスク

- ・ [7.2.5 TrueCopy のリモートパスを削除する](#)

B.16.1 [リモートパス削除] 画面

- ・ [選択タイプ] で [Fibre] を選択したとき

リモートパス削除

1. リモートパス削除 > 2. 確認

このウィザードで、リモートパスを削除します。「前へ」のチェックボックスを選択してください。「完了」をクリックして内容を確認・終了してください。

ローカルストレージシステム

モデル: VSP F370
シリアル番号: 403003

リモートストレージシステム

モデル: VSP Gx00 and VSP Fx00 (18)
シリアル番号: 403003

リモートパス

バスグループID: 02
最小パス数: 1
合計パス数: 2

選択タイプ: ☒ Fibre ☐ iSCSI

ポート名	ポート名	
CL1-A	CL3-A	☐ 削除
CL5-A	CL6-A	☐ 削除

戻る 次へ 完了 キャンセル ?

- ・ [選択タイプ] で [iSCSI] を選択したとき

[ローカルストレージシステム]

項目	説明
モデル	ローカルストレージシステムのモデルが表示されます。
シリアル番号	ローカルストレージシステムのシリアル番号が表示されます。

[リモートストレージシステム]

項目	説明
モデル	リモートストレージシステムのモデルが表示されます。
シリアル番号	リモートストレージシステムのシリアル番号が表示されます。

[リモートバス]

項目	説明
バスグループ ID	バスグループの ID が表示されます。
最小パス数	最小パス数が表示されます。
合計パス数	合計パス数が表示されます。
選択タイプ	ポートタイプを選択します。 ・ [Fibre] : ファイバチャネルポートです。 ・ [iSCSI] : iSCSI ポートです。
ポート名 (ローカルストレージシステム)	ローカルストレージシステムのポート名が表示されます。 追加済みのパス情報が表示されます。
仮想ポート ID	ローカルストレージシステムの仮想ポート ID を表示します。

項目	説明
リモートパス数	リモートパスの数が表示されます。 既存のパス数から削除するパス数を引いた値が表示されます。
最小パス数	最小パス数が表示されます。

〔選択したリモートパス〕 テーブル

項目	説明
ローカル	ローカルストレージシステムのポートに関する情報が表示されます。 〔ポート名〕：ポート名が表示されます。 〔ポートタイプ〕：ポートタイプが表示されます。 〔Fibre〕：ファイバチャネルポートです。 〔iSCSI〕：iSCSI ポートです。 〔仮想ポート ID〕：〔ポートタイプ〕が〔iSCSI〕のときに、仮想ポート ID が表示されます。
リモート	リモートストレージシステムのポートに関する情報が表示されます。 〔ポート名〕：ポート名が表示されます。 〔IP アドレス〕：〔ポートタイプ〕が〔iSCSI〕のときに、接続先ポートの IP アドレスが表示されます。 〔TCP ポート番号〕：〔ポートタイプ〕が〔iSCSI〕のときに、接続先ポートの TCP ポート番号が表示されます。

B.17 リモート接続オプション編集ウィザード

関連タスク

- 7.2.3 TrueCopy のリモート接続オプションを変更する

B.17.1 〔リモート接続オプション編集〕 画面

リモート接続オプション編集

1. リモート接続オプション編集 > 2. 確認

このウィザードでプロパティを変更できます。
変更したいプロパティのチェックボックスをチェックし、新しい値を入力してください。

☒ 最小パス数: 1 (URは1固定)

☐ RIO MIH 時間: 15 秒 (10-100)

☐ 往復応答時間: 1 ミリ秒 (1-500、TC/GADは有効)

戻る 次へ 完了 キャンセル ?

情報設定エリア

項目	説明
最小パス数	チェックボックスを選択し、最小パス数を選択します。 Universal Replicator の場合は、入力した数に関わらず、最小パス数は 1 です。
RIO MIH 時間	チェックボックスを選択し、RIO MIH 時間を 10～100 の間で入力します。デフォルトは 15 です。
往復応答時間	チェックボックスを選択し、往復応答時間を 1～500 の間で入力します。デフォルトは 1 です。 指定した時間は、TrueCopy および GAD を使用するときだけに有効です。

B.17.2 「設定確認」画面

リモート接続オプション編集

1. リモート接続オプション編集
2. 確認

タスク名を入力してください。
リストの設定を確認し、「適用」をクリックするとタスクがタスクキュー（実行待ちタスク）に追加されます。

タスク名: (最大32文字)

選択したリモート接続						
リモートストレージシステム	パスグループ ID	リモートパス数	最小パス数	RIO MIH 時間 (秒)	往復応答時間 (ミリ秒)	
VSP Gx00 and VSP Fx00 / 400001	00	1	1	15	1	

☐ 「適用」をクリックした時にタスク画面を表示

「選択したリモート接続」テーブル

項目	説明
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が表示されます。
パスグループ ID	パスグループの ID が表示されます。
リモートパス数	リモートパスの数が表示されます。
最小パス数	最小パス数が表示されます。
RIO MIH 時間(秒)	RIO MIH 時間が表示されます。
往復応答時間(ミリ秒)	往復応答時間が表示されます。

B.18 [リモート接続削除] 画面

リモート接続削除

1. 確認

選択したリモート接続を削除します。操作を続けますか？

タスク名:
(最大32文字)

選択したリモート接続					
	リモートストレージシステム	バスグループ ID	チャネルタイプ	状態	リモートバス数
☒	VSP Gx00 and VSP Fx00 / 400001	00	Fibre	Normal	2
☐					
☐					
☐					
☐					
☐					
☐					
☐					
☐					
☐					

詳細 合計: 1

☒ 「適用」をクリックした後にタスク画面を表示

[選択したリモート接続] テーブル

- ・ テーブル

項目	説明
リモートストレージシステム	リモートストレージシステムのモデルとシリアル番号が表示されます。
パスグループ ID	パスグループの ID が表示されます。
チャネルタイプ	リモート接続のチャネルタイプが表示されます。 ・ [Fibre] : リモート接続内のすべてのリモートパスのポートタイプが Fibre です。 ・ [iSCSI] : リモート接続内のすべてのリモートパスのポートタイプが iSCSI です。 ・ [混在] : リモート接続内に、ポートタイプが Fibre のリモートパスと、iSCSI のリモートパスが混在しています。
状態	パスの状態が表示されます。
リモートパス数	リモートパスの数が表示されます。

- ・ ボタン

項目	説明
詳細	[リモート接続プロパティ参照] 画面が表示されます。

関連タスク

- 7.2.6 TrueCopy のリモート接続を削除する

B.19 [ペア強制削除(TC ペア)] 画面

ペア強制削除(TCペア)

1.確認

⚠ 選択したLDEVのペアを強制的に削除します。操作を続けますか？

タスク名: 141028-ForceDeletePairs(TCPairs)
(最大32文字)

選択したLDEV			
LDEV ID	LDEV名	容量	CLPR
00:00:01	Basic	10.00 GB	0:CLPR0

合計: 1

☐ 「適用」をクリックした時にタスク画面を表示

戻る 次へ 適用 キャンセル ?

[選択した LDEV] テーブル

項目	説明
LDEV ID	LDEV ID が表示されます。
LDEV 名	LDEV 名が表示されます。
容量	容量が表示されます。
CLPR	CLPR ID が表示されます。

関連タスク

- 7.2.2 TrueCopy ペアを強制的に削除する



このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

- [C.1 操作対象リソースについて](#)
- [C.2 このマニュアルでの表記](#)
- [C.3 このマニュアルで使用している略語](#)
- [C.4 KB（キロバイト）などの単位表記について](#)

C.1 操作対象リソースについて

Storage Navigator のメイン画面には、ログインしているユーザ自身に割り当てられているリソースだけが表示されます。ただし、割り当てられているリソースの管理に必要とされる関連のリソースも表示される場合があります。

また、このマニュアルで説明している機能を使用するときには、各操作対象のリソースが特定の条件を満たしている必要があります。

各操作対象のリソースの条件については『システム構築ガイド』を参照してください。

C.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルで使用している表記を次の表に示します。

表記	製品名
DP	Dynamic Provisioning
GAD	global-active device
HUS VM	Unified Storage VM
SI	ShadowImage
Storage Navigator	Hitachi Device Manager - Storage Navigator
TC	TrueCopy
UR	Universal Replicator
Virtual Storage Platform F350, F370, F700, F900	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 - Virtual Storage Platform F350 - Virtual Storage Platform F370 - Virtual Storage Platform F700 - Virtual Storage Platform F900
Virtual Storage Platform F400, F600, F800	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 - Virtual Storage Platform F400 - Virtual Storage Platform F600 - Virtual Storage Platform F800
Virtual Storage Platform G100, G200, G400, G600, G800	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 - Virtual Storage Platform G100 - Virtual Storage Platform G200 - Virtual Storage Platform G400 - Virtual Storage Platform G600 - Virtual Storage Platform G800
Virtual Storage Platform G150, G350, G370, G700, G900	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 - Virtual Storage Platform G150 - Virtual Storage Platform G350 - Virtual Storage Platform G370 - Virtual Storage Platform G700 - Virtual Storage Platform G900

表記	製品名
VSP	Hitachi Virtual Storage Platform
VSP F400	Virtual Storage Platform F400
VSP F600	Virtual Storage Platform F600
VSP F800	Virtual Storage Platform F800
VSP F350	Virtual Storage Platform F350
VSP F370	Virtual Storage Platform F370
VSP F700	Virtual Storage Platform F700
VSP F900	Virtual Storage Platform F900
VSP Fx00	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 - Virtual Storage Platform F350 - Virtual Storage Platform F370 - Virtual Storage Platform F700 - Virtual Storage Platform F900 - Virtual Storage Platform F400 - Virtual Storage Platform F600 - Virtual Storage Platform F800
VSP E390	Virtual Storage Platform E390
VSP E590	Virtual Storage Platform E590
VSP E790	Virtual Storage Platform E790
VSP E990	Virtual Storage Platform E990
VSP E1090	Virtual Storage Platform E1090
VSP E390H	Virtual Storage Platform E390H
VSP E590H	Virtual Storage Platform E590H
VSP E790H	Virtual Storage Platform E790H
VSP E1090H	Virtual Storage Platform E1090H
VSP E シリーズ	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 - Virtual Storage Platform E390 - Virtual Storage Platform E590 - Virtual Storage Platform E790 - Virtual Storage Platform E990 - Virtual Storage Platform E1090 - Virtual Storage Platform E390H - Virtual Storage Platform E590H - Virtual Storage Platform E790H - Virtual Storage Platform E1090H
VSP F1500	Virtual Storage Platform F1500
VSP 5100	Virtual Storage Platform 5100
VSP 5500	Virtual Storage Platform 5500
VSP G100	Virtual Storage Platform G100
VSP G200	Virtual Storage Platform G200
VSP G400	Virtual Storage Platform G400

表記	製品名
VSP G600	Virtual Storage Platform G600
VSP G800	Virtual Storage Platform G800
VSP G130	Virtual Storage Platform G130
VSP G150	Virtual Storage Platform G150
VSP G350	Virtual Storage Platform G350
VSP G370	Virtual Storage Platform G370
VSP G700	Virtual Storage Platform G700
VSP G900	Virtual Storage Platform G900
VSP Gx00	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 - Virtual Storage Platform G150 - Virtual Storage Platform G350 - Virtual Storage Platform G370 - Virtual Storage Platform G700 - Virtual Storage Platform G900 - Virtual Storage Platform G100 - Virtual Storage Platform G200 - Virtual Storage Platform G400 - Virtual Storage Platform G600 - Virtual Storage Platform G800
VSP G1000	Virtual Storage Platform G1000
VSP G1500	Virtual Storage Platform G1500
VSP One B23	Virtual Storage Platform One Block 23
VSP One B26	Virtual Storage Platform One Block 26
VSP One B28	Virtual Storage Platform One Block 28
VSP One B20	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 - Virtual Storage Platform One Block 23 - Virtual Storage Platform One Block 26 - Virtual Storage Platform One Block 28
VSP One SDS Block	Hitachi Virtual Storage Platform One SDS Block

C.3 このマニュアルで使用している略語

このマニュアルで使用している略語を次の表に示します。

略語	フルスペル
bps	Bit Per Second
CLPR	Cache Logical Partition
FC	Fibre Channel
Gbps	Gigabit per second
GUI	Graphical User Interface
I/O	Input/Output

略語	フルスペル
ID	IDentifier
IMPL	Initial MicroProgram Load
IOPS	Input Output Per Second
iSCSI	Internet Small Computer System Interface
LDEV	Logical DEvice
LDKC	Logical DKC
LU	Logical Unit
LUN	Logical Unit Number
MB/s	MegaByte per second
MCU	Main Control Unit
NVS	Non-Volatile Storage
OS	Operating System
RCU	Remote Control Unit
RIO MIH	Remote I/O Missing Interrupt Handler
SIM	Service Information Message
SM	Shared Memory
SNMP	Simple Network Management Protocol
SSD	Solid-State Drive
SVP	SuperVisor PC
TSV	Tab Separated Values

C.4 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）は1,024バイト、1MB（メガバイト）は1,024KB、1GB（ギガバイト）は1,024MB、1TB（テラバイト）は1,024GB、1PB（ペタバイト）は1,024TBです。

1block（ブロック）は512バイトです。



用語解説

(英字)

ALU

(Administrative Logical Unit)

SCSI アーキテクチャモデルである Conglomerate LUN structure に使われる LU です。

Conglomerate LUN structure では、ホストからのアクセスはすべて ALU を介して行われ、ALU はバインドされた SLU に I/O を振り分けるゲートウェイとなります。

ホストは、ALU と ALU にバインドされた SLU を SCSI コマンドで指定して、I/O を発行します。

vSphere では、Protocol Endpoint (PE) と呼ばれます。

ALUA

(Asymmetric Logical Unit Access)

SCSI の非対称論理ユニットアクセス機能です。

ストレージ同士、またはサーバとストレージシステムを複数の冗長パスで接続している構成の場合に、どのパスを優先して使用するかをストレージシステムに定義して、I/O を発行できます。優先して使用するパスに障害が発生した場合は、他のパスに切り替わります。

CHB

(Channel Board)

詳しくは「チャンネルボード」を参照してください。

CLPR

(Cache Logical Partition)

キャッシュメモリを論理的に分割すると作成されるパーティション (区画) です。

CM

(Cache Memory (キャッシュメモリ))

詳しくは「キャッシュ」を参照してください。

CSV

(Comma Separate Values)

データベースソフトや表計算ソフトのデータをファイルとして保存するフォーマットの 1 つで、主にアプリケーション間のファイルのやり取りに使われます。それぞれの値はコンマで区切られています。

CTG

(Consistency Group)

詳しくは「コンシステンシーグループ」を参照してください。

CU

(Control Unit (コントロールユニット))
主に磁気ディスク制御装置を指します。

CV

(Customized Volume)
任意のサイズが設定された可変ボリュームです。

DKC

(Disk Controller)
ストレージシステムを制御するコントローラが備わっているシャーシ (筐体) です。

DP-VOL

詳しくは「仮想ボリューム」を参照してください。

ECC

(Error Check and Correct)
ハードウェアで発生したデータの誤りを検出し、訂正することです。

ExG

(External Group)
外部ボリュームを任意にグループ分けしたものです。詳しくは「外部ボリュームグループ」を参照してください。

External MF

詳しくは「マイグレーションボリューム」を参照してください。

FC-NVMe

Fibre Channel ネットワーク越しにホストとストレージ間で、NVMe-oF 通信プロトコルによる通信をするための NVMe over Fabrics 技術のひとつです。

FM

(Flash Memory (フラッシュメモリ))
詳しくは「フラッシュメモリ」を参照してください。

FMD

(Flash Module Drive)
ストレージシステムにオプションの記憶媒体として搭載される大容量フラッシュモジュールです。SSD よりも大容量のドライブです。FMD を利用するには専用のドライブボックスが必要になります。FMD と専用のドライブボックスをあわせて HAF (Hitachi Accelerated Flash) と呼びます。

GID

(Group ID)
ホストグループを作成するときに付けられる 2 桁の 16 進数の識別番号です。

HBA

(Host Bus Adapter)
詳しくは「ホストバスアダプタ」を参照してください。

HCS

(Hitachi Command Suite)
ストレージ管理ソフトウェアです。

HDEV

(Host Device)
ホストに提供されるボリュームです。

I/O モード

global-active device ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームが、それぞれに持つ I/O の動作です。

I/O レート

ドライブへの入出力アクセスが 1 秒間に何回行われたかを示す数値です。単位は IOPS (I/Os per second) です。

In-Band 方式

RAID Manager のコマンド実行方式の 1 つです。コマンドを実行すると、クライアントまたはサーバから、ストレージシステムのコマンドデバイスにコマンドが転送されます。

Initiator

属性が RCU Target のポートと接続するポートを持つ属性です。

LCU

(Logical Control Unit)
主に磁気ディスク制御装置を指します。

LDEV

(Logical Device (論理デバイス))
RAID 技術では冗長性を高めるため、複数のドライブに分散してデータを保存します。この複数のドライブにまたがったデータ保存領域を論理デバイスまたは LDEV と呼びます。ストレージ内の LDEV は、LDKC 番号、CU 番号、LDEV 番号の組み合わせで区別します。LDEV に任意の名前を付けることもできます。
このマニュアルでは、LDEV (論理デバイス) を論理ボリュームまたはボリュームと呼ぶことがあります。

LDEV 名

LDEV 作成時に、LDEV に付けるニックネームです。あとから LDEV 名の変更もできます。

LDKC

(Logical Disk Controller)
複数の CU を管理するグループです。各 CU は 256 個の LDEV を管理しています。

LUN

(Logical Unit Number)
論理ユニット番号です。オープンシステム用のボリュームに割り当てられたアドレスです。オープンシステム用のボリューム自体を指すこともあります。

LUN セキュリティ

LUN に設定するセキュリティです。LUN セキュリティを有効にすると、あらかじめ決めておいたホストだけがボリュームにアクセスできるようになります。

LUN パス、LU パス

オープンシステム用ホストとオープンシステム用ボリュームの間を結ぶデータ入出力経路です。

LUSE ボリューム

オープンシステム用のボリュームが複数連結して構成されている、1つの大きな拡張ボリュームのことです。ボリュームを拡張することで、ポート当たりのボリューム数が制限されているホストからもアクセスできるようになります。

MP ユニット

データ入出力を処理するプロセッサを含んだユニットです。データ入出力に関連するリソース (LDEV、外部ボリューム、ジャーナル) ごとに特定の MP ユニットの割り当てると、性能をチューニングできます。特定の MP ユニットの割り当ての方法と、ストレージシステムが自動的に選択した MP ユニットの割り当ての方法があります。MP ユニットに対して自動割り当ての設定を無効にすると、その MP ユニットがストレージシステムによって自動的にリソースに割り当てられることはないため、特定のリソース専用の MP ユニットとして使用できます。

MU

(Mirror Unit)

1つのプライマリボリュームと1つのセカンダリボリュームに関連づける情報です。

Namespace

複数 LBA 範囲をまとめた、論理ボリュームの空間のことです。

Namespace Globally Unique Identifier

Namespace を識別するための、グローバルユニーク性を保証する 16Byte の識別情報です。SCSI LU での NAA Format6 で表現される、WWN に類似する情報です。

Namespace ID

NVM サブシステム上に作成された Namespace を、NVM サブシステムの中でユニークに識別するための識別番号です。

NGUID

(Namespace Globally Unique Identifier)

詳しくは、「Namespace Globally Unique Identifier」を参照してください。

NQN

(NVMe Qualified Name)

NVMe-oF 通信プロトコルで、NVMe ホストまたは NVM サブシステムを特定するためのグローバルユニークな識別子です。

NSID

(Namespace ID)

Namespace を特定するための、4Byte の識別情報です。

NVM

(Non-Volatile Memory)

不揮発性メモリです。

NVM サブシステムポート

ホストとコントローラが、NVMe I/O をするための Fabric に接続する通信ポートです。

NVMe

(Non-Volatile Memory Express)

PCI Express を利用した SSD の接続インタフェース、通信プロトコルです。

NVMe over Fabrics

NVMe-oF 通信プロトコルによる通信を、様々な種類のネットワークファブリックに拡張する NVMe のプロトコルです。

NVMe コントローラ

NVMe ホストからのコマンド要求を処理する、物理的または論理的な制御デバイスです。

NVM サブシステム

NVM のデータストレージ機能を提供する制御システムです。

Out-of-Band 方式

RAID Manager のコマンド実行方式の 1 つです。コマンドを実行すると、クライアントまたはサーバから LAN 経由で SVP/GUM/RAID Manager サーバの中にある仮想コマンドデバイスにコマンドが転送されます。仮想コマンドデバイスからストレージシステムに指示を出し、ストレージシステムで処理が実行されます。

PCB

(Printed Circuit Board)

プリント基盤です。このマニュアルでは、チャネルボードやディスクボードなどのボードを指しています。

PCIe チャネルボード

VSP G800、VSP G900、VSP F800、VSP F900、VSP E990、および VSP E1090 の DKC に搭載され、チャネルボードボックスと DKC を接続する役割を持ちます。

Quorum ディスク

バスやストレージシステムに障害が発生したときに、global-active device ペアのどちらのボリュームでサーバからの I/O を継続するのかを決定するために使われます。外部ストレージシステムに設置します。

RAID

(Redundant Array of Independent Disks)

独立したディスクを冗長的に配列して管理する技術です。

RAID Manager

コマンドインタフェースでストレージシステムを操作するためのプログラムです。

RCU Target

属性が Initiator のポートと接続するポートを持つ属性です。

Read Hit 率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。ホストがディスクから読み出そうとしていたデータが、どのくらいの頻度でキャッシュメモリに存在していたかを示します。単位はパーセントです。Read Hit 率が高くなるほど、ディスクとキャッシュメモリ間のデータ転送の回数が少なくなるため、処理速度は高くなります。

Real Time OS

RISC プロセッサを制御する基本 OS で、主に、メインタスクや通信タスクのタスクスイッチを制御します。

SIM

(Service Information Message)

ストレージシステムのコントローラがエラーやサービス要求を検出したときに生成されるメッセージです。

SLU

(Subsidiary Logical Unit)

SCSI アーキテクチャモデルである Conglomerate LUN structure に使われる LU です。

SLU は実データを格納した LU であり、DP-VOL またはスナップショットデータ（あるいはスナップショットデータに割り当てられた仮想ボリューム）を SLU として使用できます。

ホストから SLU へのアクセスは、すべて ALU を介して行われます。

vSphere では、Virtual Volume (VVol) と呼ばれます。

SM

(Shared Memory)

詳しくは「シェアドメモリ」を参照してください。

SSL

(Secure Sockets Layer)

インターネット上でデータを安全に転送するためのプロトコルであり、Netscape

Communications 社によって最初に開発されました。SSL が有効になっている 2 つのピア（装置）は、秘密鍵と公開鍵を利用して安全な通信セッションを確立します。どちらのピア（装置）も、ランダムに生成された対称キーを利用して、転送されたデータを暗号化します。

SVP

(SuperVisor PC)

ストレージシステムを管理・運用するためのコンピュータです。SVP にインストールされている Storage Navigator からストレージシステムの設定や参照ができます。

T10 PI

(T10 Protection Information)

SCSI で定義された保証コード基準の一つです。T10 PI では、512 バイトごとに 8 バイトの保護情報 (PI) を追加して、データの検証に使用します。T10 PI にアプリケーションおよび OS を含めたデータ保護を実現する DIX (Data Integrity Extension) を組み合わせることで、アプリケーションからディスクドライブまでのデータ保護を実現します。

Target

ホストと接続するポートが持つ属性です。

UUID

(User Definable LUN ID)

ホストから論理ボリュームを識別するために、ストレージシステム側で設定する任意の ID です。

VDEV

(Virtual Device)

パリティグループ内にある論理ボリュームのグループです。VDEV 内に任意のサイズのボリューム (CV) を作成することもできます。

VLAN

(Virtual LAN)

スイッチの内部で複数のネットワークに分割する機能です (IEEE802.1Q 規定)。

VOLSER

(Volume Serial Number)

個々のボリュームを識別するために割り当てられる番号です。VSN とも呼びます。LDEV 番号や LUN とは無関係です。

VSN

(Volume Serial Number)

個々のボリュームを識別するために割り当てられる番号です。VOLSER とも呼びます。

Write Hit 率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。ホストがディスクへ書き込もうとしていたデータが、どのくらいの頻度でキャッシュメモリに存在していたかを示します。単位はパーセントです。Write Hit 率が高くなるほど、ディスクとキャッシュメモリ間のデータ転送の回数が少なくなるため、処理速度は高くなります。

WWN

(World Wide Name)

ホストバスアダプタの ID です。ストレージ装置を識別するためのもので、実体は 16 桁の 16 進数です。

(ア行)

アクセス属性

ボリュームが読み書き可能になっているか (Read/Write)、読み取り専用になっているか (Read Only)、それとも読み書き禁止になっているか (Protect) どうかを示す属性です。

アクセスパス

ストレージシステム内の、データとコマンドの転送経路です。

エミュレーション

あるハードウェアまたはソフトウェアのシステムが、ほかのハードウェアまたはソフトウェアのシステムと同じ動作をすること (または同等に見えるようにすること) です。一般的には、過去に蓄積されたソフトウェアの資産を役立てるためにエミュレーションの技術が使われます。

(カ行)

外部ストレージシステム

本ストレージシステムに接続されているストレージシステムです。

外部パス

本ストレージシステムと外部ストレージシステムを接続するパスです。外部パスは、外部ボリュームを内部ボリュームとしてマッピングしたときに設定します。複数の外部パスを設定することで、障害やオンラインの保守作業にも対応できます。

外部ボリューム

本ストレージシステムのボリュームとしてマッピングされた、外部ストレージシステム内のボリュームです。

外部ボリュームグループ

マッピングされた外部ボリュームのグループです。外部ボリュームをマッピングするときに、ユーザが外部ボリュームを任意の外部ボリュームグループに登録します。

外部ボリュームグループは、外部ボリュームを管理しやすくするためのグループで、パリティ情報は含みませんが、管理上はパリティグループと同じように取り扱います。

鍵管理サーバ

暗号化鍵を管理するサーバです。本ストレージシステムでは、暗号化鍵を管理するための規格である KMIP (Key Management Interoperability Protocol) に準じた鍵管理サーバに暗号化鍵をバックアップでき、また、鍵管理サーバにバックアップした暗号化鍵から暗号化鍵をリストアできます。

書き込み待ち率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。キャッシュメモリに占める書き込み待ちデータの割合を示します。

鍵ペア

秘密鍵と公開鍵の組み合わせです。この 2 つの暗号化鍵は、数学的關係に基づいて決められます。

仮想ボリューム

実体を持たない、仮想的なボリュームです。Dynamic Provisioning、Dynamic Tiering、または active flash で使用する仮想ボリュームを DP-VOL と呼びます。

監査ログ

ストレージシステムに対して行われた操作や、受け取ったコマンドの記録です。Syslog サーバへの転送設定をすると、監査ログは常時 Syslog サーバへ転送され、Syslog サーバから監査ログを取得・参照できます。

管理クライアント

Storage Navigator を操作するためのコンピュータです。

キャッシュ

チャンネルとドライブの間にあるメモリです。中間バッファとしての役割があります。キャッシュメモリとも呼ばれます。

共用メモリ

詳しくは「シェアドメモリ」を参照してください。

形成コピー

ホスト I/O プロセスとは別に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを同期させるプロセスです。

更新コピー

形成コピー（または初期コピー）が完了したあとで、プライマリボリュームの更新内容をセカンダリボリュームにコピーして、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの同期を保持するコピー処理です。

コピー系プログラムプロダクト

このストレージシステムに備わっているプログラムのうち、データをコピーするものを指します。ストレージシステム内のボリューム間でコピーするローカルコピーと、異なるストレージシステム間でコピーするリモートコピーがあります。

コマンドデバイス

ホストから **RAID Manager** コマンドを実行するために、ストレージシステムに設定する論理デバイスです。コマンドデバイスは、ホストから **RAID Manager** コマンドを受け取り、実行対象の論理デバイスに転送します。

RAID Manager 用のコマンドデバイスは **Storage Navigator** から設定します。

コマンドデバイスセキュリティ

コマンドデバイスに適用されるセキュリティです。

コンシステンシーグループ

コピー系プログラムプロダクトで作成したペアの集まりです。コンシステンシーグループ ID を指定すれば、コンシステンシーグループに属するすべてのペアに対して、データの整合性を保ちながら、特定の操作を同時に実行できます。

(サ行)

サーバ証明書

サーバと鍵ペアを結び付けるものです。サーバ証明書によって、サーバは自分がサーバであることをクライアントに証明します。これによってサーバとクライアントは **SSL** を利用して通信できるようになります。サーバ証明書には、自己署名付きの証明書と署名付きの信頼できる証明書の 2 つの種類があります。

サブ画面

Java 実行環境 (**JRE**) で動作する画面で、メイン画面のメニューを選択して起動します。

サブシステム NQN

NVM サブシステムに定義された **NQN** です。

NQN の詳細については、「**NQN**」を参照してください。

差分テーブル

コピー系プログラムプロダクトおよび **Volume Migration** で共有するリソースです。**Volume Migration** 以外のプログラムプロダクトでは、ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのデータに差分があるかどうかを管理するために使用します。**Volume Migration** では、ボリュームの移動中に、ソースボリュームとターゲットボリュームの差分を管理するために使用します。

シェアドメモリ

キャッシュ上に論理的に存在するメモリです。共用メモリとも呼びます。ストレージシステムの共通情報や、キャッシュの管理情報 (ディレクトリ) などを記憶します。これらの情報を基に、ストレージシステムは排他制御を行います。また、差分テーブルの情報もシェアドメモリで管理されており、コピーペアを作成する場合にシェアドメモリを利用します。

自己署名付きの証明書

自分自身で自分用の証明書を生成します。この場合、証明の対象は証明書の発行者と同じになります。ファイアウォールに守られた内部 **LAN** 上でクライアントとサーバ間の通信が行われている場合は、この証明書でも十分なセキュリティを確保できるかもしれません。

システムプール VOL

プールを構成するプール VOL のうち、1 つのプール VOL がシステムプール VOL として定義されます。システムプール VOL は、プールを作成したとき、またはシステムプール VOL を削除したときに、優先順位に従って自動的に設定されます。なお、システムプール VOL で使用可能な容量は、管理領域の容量を差し引いた容量になります。管理領域とは、プールを使用するプログラムプロダクトの制御情報を格納する領域です。

システムプールボリューム

プールを構成するプールボリュームのうち、1 つのプールボリュームがシステムプールボリュームとして定義されます。システムプールボリュームは、プールを作成したとき、またはシステムプールボリュームを削除したときに、優先順位に従って自動的に設定されます。なお、システムプールボリュームで使用可能な容量は、管理領域の容量を差し引いた容量になります。管理領域とは、プールを使用するプログラムプロダクトの制御情報を格納する領域です。

ジャーナルボリューム

Universal Replicator の用語で、プライマリボリュームからセカンダリボリュームにコピーするデータを一時的に格納しておくためのボリュームのことです。ジャーナルボリュームには、プライマリボリュームと関連づけられているマスタジャーナルボリューム、およびセカンダリボリュームと関連づけられているリストアジャーナルボリュームとがあります。

シュレディング

ダミーデータを繰り返し上書きすることで、ボリューム内のデータを消去する処理です。

冗長パス

チャネルプロセッサの故障などによって LUN パスが利用できなくなったときに、その LUN パスに代わってホスト I/O を引き継ぐ LUN パスです。交替パスとも言います。

初期コピー

新規にコピーペアを作成すると、初期コピーが開始されます。初期コピーでは、プライマリボリュームのデータがすべて相手のセカンダリボリュームにコピーされます。初期コピー中も、ホストサーバからプライマリボリュームに対する Read/Write などの I/O 操作は続行できます。

署名付きの信頼できる証明書

証明書発行要求を生成したあとで、信頼できる CA 局に送付して署名してもらいます。CA 局の例としては VeriSign 社があります。

シリアル番号

ストレージシステムに一意に付けられたシリアル番号（装置製番）です。

スナップショットグループ

Thin Image で作成した複数のペアの集まりです。複数のペアに対して同じ操作を実行できます。

スナップショットデータ

Thin Image (CAW/CoW) では、更新直前のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームのデータを指します。Thin Image (CAW/CoW) では、ペア分割状態のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームを更新すると、更新される部分の更新前データだけが、スナップショットデータとしてプールにコピーされます。

Thin Image Advanced では、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの更新後データを指します。Thin Image Advanced では、ペア分割状態のプライマリボリュームまたはセカ

ンダリボリュームを更新すると、更新される部分の更新後データだけが、スナップショットデータとしてプールに格納されます。

正 VOL、正ボリューム

詳しくは「プライマリボリューム」を参照してください。

正サイト

通常時に、業務（アプリケーション）を実行するサイトを指します。

セカンダリボリューム

ペアとして設定された 2 つのボリュームのうち、コピー先のボリュームを指します。なお、プライマリボリュームとペアを組んでいるボリュームをセカンダリボリュームと呼びますが、Thin Image では、セカンダリボリューム（仮想ボリューム）ではなく、プールにデータが格納されます。

センス情報

エラーの検出によってペアがサスペンドされた場合に、正サイトまたは副サイトのストレージシステムが、適切なホストに送信する情報です。ユニットチェックの状況が含まれ、災害復旧に使用されます。

ソースボリューム

Volume Migration の用語で、別のパリティグループへと移動するボリュームを指します。

(タ行)

ターゲットボリューム

Volume Migration の用語で、ボリュームの移動先となる領域を指します。

ダンプツール

SVP 上で使用するツール（ダンプ採取用バッチファイル）です。障害が発生した場合は、SVP に障害解析用のダンプファイルをダウンロードできます。

チャンネルボード

ストレージシステムに内蔵されているアダプタの一種で、ホストコマンドを処理してデータ転送を制御します。

チャンネルボードボックス

VSP G800、VSP G900、VSP F800、VSP F900、VSP E990、および VSP E1090 の DKC に接続されるチャンネルボードの搭載数を拡張する筐体です。

重複排除用システムデータボリューム（データストア）

容量削減の設定が [重複排除および圧縮] の仮想ボリュームが関連づけられているプール内で、重複データを格納するためのボリュームです。

重複排除用システムデータボリューム（フィンガープリント）

容量削減の設定が [重複排除および圧縮] の仮想ボリュームが関連づけられているプール内で、重複排除データの制御情報を格納するためのボリュームです。

ディスクボード

ストレージシステムに内蔵されているアダプタの一種で、キャッシュとドライブの間のデータ転送を制御します。

データ削減共有ボリューム

データ削減共有ボリュームは、Adaptive Data Reduction の容量削減機能を使用して作成する仮想ボリュームです。Thin Image Advanced ペアのボリュームとして使用できます。データ削減共有ボリュームは、Redirect-on-Write のスナップショット機能を管理するための制御データ（メタデータ）を持つボリュームです。

デジタル証明書

詳しくは「サーバ証明書」を参照してください。

転送レート

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。1 秒間にディスクへ転送されたデータの大きさを示します。

同期コピー

ホストからプライマリボリュームに書き込みがあった場合に、リアルタイムにセカンダリボリュームにデータを反映する方式のコピーです。ボリューム単位のリアルタイムデータバックアップができます。優先度の高いデータのバックアップ、複写、および移動業務に適しています。

トポロジ

デバイスの接続形態です。Fabric、FC-AL、および Point-to-point の 3 種類があります。

ドライブボックス

各種ドライブを搭載するためのシャーシ（筐体）です。

(ナ行)

内部ボリューム

本ストレージシステムが管理するボリュームを指します。

(ハ行)

パリティグループ

同じ容量を持ち、1 つのデータグループとして扱われる一連のドライブを指します。パリティグループには、ユーザデータとパリティ情報の両方が格納されているため、そのグループ内の 1 つまたは複数のドライブが利用できない場合にも、ユーザデータにはアクセスできます。場合によっては、パリティグループを RAID グループ、ECC グループ、またはディスクアレイグループと呼ぶことがあります。

非対称アクセス

global-active device でのクロスパス構成など、サーバとストレージシステムを複数の冗長パスで接続している場合で、ALUA が有効のときに、優先して I/O を受け付けるパスを定義する方法です。

非同期コピー

ホストから書き込み要求があった場合に、プライマリボリュームへの書き込み処理とは非同期に、セカンダリボリュームにデータを反映する方式のコピーです。複数のボリュームや複数のストレージシステムにわたる大量のデータに対して、災害リカバリを可能にします。

ピントラック

(pinned track)

物理ドライブ障害などによって読み込みや書き込みができないトラックです。固定トラックとも呼びます。

ファイバチャネル

光ケーブルまたは銅線ケーブルによるシリアル伝送です。ファイバチャネルで接続された RAID のディスクは、ホストからは SCSI のディスクとして認識されます。

ファイバチャネルアダプタ

(Fibre Channel Adapter)

ファイバチャネルを制御します。

プール

プールボリューム（プール VOL）を登録する領域です。Dynamic Provisioning、Dynamic Tiering、active flash、および Thin Image がプールを使用します。

プールボリューム、プール VOL

プールに登録されているボリュームです。Dynamic Provisioning、Dynamic Tiering、および active flash ではプールボリュームに通常のデータを格納し、Thin Image ではスナップショットデータをプールボリュームに格納します。

副 VOL、副ボリューム

詳しくは「セカンダリボリューム」を参照してください。

副サイト

主に障害時に、業務（アプリケーション）を正サイトから切り替えて実行するサイトを指します。

プライマリボリューム

ペアとして設定された 2 つのボリュームのうち、コピー元のボリュームを指します。

フラッシュメモリ

各プロセッサに搭載され、ソフトウェアを格納している不揮発性のメモリです。

分散パリティグループ

複数のパリティグループを連結させた集合体です。分散パリティグループを利用すると、ボリュームが複数のドライブにわたるようになるので、データのアクセス（特にシーケンシャルアクセス）にかかる時間が短縮されます。

ペアテーブル

ペアまたは移動プランを管理するための制御情報を格納するテーブルです。

ページ

DP の領域を管理する単位です。1 ページは 42MB です。

ポートモード

ストレージシステムのチャネルボードのポート上で動作する、通信プロトコルを選択するモードです。ポートの動作モードとも言います。

ホスト-Namespace パス

日立ストレージシステムで、Namespace セキュリティを使用する際に、ホスト NQN ごとに各 Namespace へのアクセス可否を決定するための設定です。

Namespace パスとも呼びます。

ホスト NQN

NVMe ホストに定義された NQN です。
NQN の詳細については、「NQN」を参照してください。

ホストグループ

ストレージシステムの同じポートに接続し、同じプラットフォーム上で稼働しているホストの集まりのことです。あるホストからストレージシステムに接続するには、ホストをホストグループに登録し、ホストグループを LDEV に結び付けます。この結び付ける操作のことを、LUN パスを追加するとも呼びます。

ホストグループ 0 (ゼロ)

「00」という番号が付いているホストグループを指します。

ホストバスアダプタ

オープンシステム用ホストに内蔵されているアダプタで、ホストとストレージシステムを接続するポートの役割を果たします。それぞれのホストバスアダプタには、16 桁の 16 進数による ID が付いています。ホストバスアダプタに付いている ID を WWN (Worldwide Name) と呼びます。

ホストモード

オープンシステム用ホストのプラットフォーム（通常は OS）を示すモードです。

(マ行)

マイグレーションボリューム

HUS VM などの異なる機種種のストレージシステムからデータを移行させる場合に使用するボリュームです。

マッピング

本ストレージシステムから外部ボリュームを操作するために必要な管理番号を、外部ボリュームに割り当てることです。

メイン画面

Storage Navigator にログイン後、最初に表示される画面です。

(ラ行)

リザーブボリューム

ShadowImage のセカンダリボリュームに使用するために確保されているボリューム、または Volume Migration の移動プランの移動先として確保されているボリュームを指します。

リソースグループ

ストレージシステムのリソースを割り当てたグループを指します。リソースグループに割り当てられるリソースは、LDEV 番号、パリティグループ、外部ボリューム、ポートおよびホストグループ番号です。

リモートコマンドデバイス

外部ストレージシステムのコマンドデバイスを、本ストレージシステムの内部ボリュームとしてマッピングしたものです。リモートコマンドデバイスに対して RAID Manager コマンドを発行すると、外部ストレージシステムのコマンドデバイスに RAID Manager コマンドを発行でき、外部ストレージシステムのペアなどを操作できます。

リモートストレージシステム

ローカルストレージシステムと接続しているストレージシステムを指します。

リモートパス

リモートコピー実行時に、遠隔地にあるストレージシステム同士を接続するパスです。

レスポンスタイム

モニタリング期間内での平均の応答時間。あるいは、エクスポートツールまたはエクスポートツール 2 で指定した期間内でのサンプリング期間ごとの平均の応答時間。単位は、各モニタリング項目によって異なります。

ローカルストレージシステム

管理クライアントを接続しているストレージシステムを指します。

索引

C

Communication Failed 171
Communication Time Out 169
COPY 32, 117

H

horctakeover コマンド 85, 87

I

IMPL 119
In Progress 171
Initialization Failed 169
Invalid Port 170

L

LED 167

P

PAIR 32, 117
Pair-Port Number Mismatch 171
Path Blockade 171
Port Rejected 169
Program Error 172
PSUE 32
PSUS 32

R

RAID Manager 30

S

Serial Number Mismatch 170
SIM 166
SIM 報告 166

SMPL 32
SSUS 118
SSWS 119
Storage Navigator 29

V

VLL 48

W

Write 作業負荷 47

あ

アクセス属性 93
Protect 93
Read Only 93
Read/Write 93
副 VOL 拒否 93

え

エラー報告通信 (ERC) 30

お

往復応答時間 99

き

キャッシュメモリ 42
シェアドメモリ 42

け

形成コピー 30
実行順序 52

優先度 52
形成コピー応答時間 100

こ

更新コピー 31
コンシステンシーグループ 29, 64

さ

災害リカバリ 158
最大ペア数 50, 51
差分データ 49

し

システムオプションモード 43
システム詳細設定 46
シリンダ数 50

す

スイッチ 58
ストレージシステムの停止
計画的 131
不測の事態 130

せ

正サイトのストレージシステムの停止
計画的 131
セカンダリボリューム 26
セカンダリボリューム状態（フェンスレベル） 106
セカンダリボリュームデータ（フェンスレベル） 105
接続形態 57
センス情報の転送 158

そ

操作履歴を確認 120

ち

チャンネルエクステンダ 59

て

データ移行 154
電源管理 130

と

トラブルシューティング 166

な

なし（フェンスレベル） 106

ひ

ビットマップエリア 50
ピントラック 184

ふ

ファイバチャネル 56
フェイルオーバー 71
フェイルオーバーソフトウェア 158
フェンスレベル 105
副サイトのストレージシステムの停止
計画的 131
プライマリボリューム 26
分割タイプ 119

へ

ペア 28
ペア状態 31, 117
ペア状態の確認 116
ペアの一致率の確認 120
ペアの強制削除 125
ペアの再同期 110
ペアの削除 112
ペアの作成 105
ペアの分割 108

ほ

ホストフェイルオーバーソフトウェア 71
ホストモードオプション 51 57, 58

よ

要件
TrueCopy 34
コンシステンシーグループ 68
ペアボリューム 47

ら

ライセンス容量の確認 122

り

- リモート接続オプションの変更 126
- リモート接続とパスの状態の確認 123
- リモート接続とパスの状態の詳細を確認 123
- リモート接続の削除 129
- リモート接続の追加 96
- リモートパスの削除 128
- リモートパスの追加 127
- リモートレプリカオプションの変更 101

ろ

- 論理ブロック数 50

